

**令和2年度（2020年度）  
健康福祉に関する意識調査  
報告書**

**令和2年（2020年）9月  
中野区**



## はじめに

区は「健康福祉都市なかの」の実現に向け、住まい、健康づくり、予防、見守り、介護、生活支援、医療等が一体的に提供される「すべての区民を対象とする地域包括ケアシステム」の構築を目指しています。

今般、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が発出されている状況ではありましたが、「令和2年度（2020年度）健康福祉に関する意識調査」を令和2年5月に実施いたしました。

本調査は毎年実施しており、区民の方々に健康福祉への関心や意見をお聞きするとともに、区の実践が区民の意向に沿ったものになっているか、また、区民の求める水準にどの程度達しているかなどを把握することを目的としています。健康福祉に関する区の事業や施策の見直し・改善に反映させるなど、活用を図っていきたいと考えております。

最後になりましたが、調査にご協力いただいた区民の皆様に対しまして、ここに厚くお礼申し上げます。

令和2年（2020年）9月  
中野区健康福祉部



# 目次

I 調査の概要	1
1. 調査の目的	3
2. 調査の内容	3
3. 調査の設計	3
4. 回収状況	3
5. 報告書を読む際の留意点	3
II 調査対象者の属性	5
1. 性別	7
2. 年齢	7
3. 職業	8
4. 世帯構成	9
5. 18歳未満の子どもの有無（2世代世帯、3世代世帯、その他世帯のうち）	10
6. 日常的に家族の介護をしているか	11
7. 住居形態	12
8. 居住年数	13
9. 居住地域	14
10. 母集団と調査回答者の推移	18
III 調査結果の分析	19
1. 地域活動について	21
1.1. 地域の活動への参加	21
1.2. 近所とのつきあいの程度	23
1.3. 近隣同士の見守り・支えあい活動の必要性	27
1.3.1. 必要だと思う見守り・支えあい活動	29
1.3.2. 見守り・支えあい活動の実施状況	30
1.3.3. 見守り・支えあい活動をしていない理由	32
1.3.4. 見守り・支えあい活動に参加するためのきっかけ	33
1.3.5. 地域の子どもに対する見守り・支えあい活動の有無	34
1.4. 地域における住民同士の交流の場の有無	35
1.5. 街で困っている人の手助けをしたことの有無	37
1.5.1. 手助けをした人	39
1.5.2. 行った手助け	40
1.6. 障害のある人とない人が共に地域社会で暮らしていくために重要な行政施策	42
1.7. 民生委員の活動の認知度	45
1.8. 高齢者会館の利用状況	47

1. 8. 1. 高齢者会館を利用していない理由	49
2. 医療・健康について	51
2. 1. 健康感	51
2. 2. 健康増進のための運動習慣	53
2. 2. 1. 運動・スポーツを続けている期間	55
2. 2. 2. 運動・スポーツを行う場所	57
2. 2. 3. 運動・スポーツを行わない理由	60
2. 3. この1年間にスタジアム等で実際にスポーツを観戦したか	63
2. 4. 区のスポーツ施策や区立のスポーツ施設に望むこと	65
2. 5. 東京オリンピック・パラリンピックを通じて期待する効果	70
2. 6. パラリンピックや障害者スポーツを理解し広めるために区が重点的に行うべきこと	72
2. 7. スポーツ・ボランティア活動として関心のある内容	73
2. 8. 食生活で心がけていること	74
2. 9. 適正体重の維持や減塩などに気をつけた食生活を実践しているか	76
2. 10. 健康診断の受診頻度	78
2. 10. 1. 健康診断の受診場所	81
2. 10. 2. 健康診断結果の活用方法	84
2. 10. 3. 健康診断を受けなかった理由	86
2. 11. かかりつけの診療所の有無	88
2. 11. 1. かかりつけの診療所からのアドバイス	90
2. 12. 歯科健診の受診状況	92
2. 12. 1. どこで歯科健診を受けているか	93
2. 12. 2. 歯科健診を受診しなかった理由	94
2. 13. かかりつけの歯科診療所の有無	95
2. 13. 1. かかりつけの歯科診療所での受診内容	97
2. 14. かかりつけの薬局の有無	98
2. 15. 地域の救急医療体制が整っているか	100
2. 16. 医療・介護サービスや見守り環境の状況	102
2. 17. 長期療養が必要になった場合の生活	104
2. 17. 1. 長期療養の際、入院・入所したい理由	107
2. 18. 「摂食・えん下障害」の認知度	111
2. 19. 自身や家族がうつ病になった際の相談先	113
2. 20. 自殺対策は自分自身に関わることと思うか	115
2. 21. 今後必要な自殺対策	117
2. 22. 感染症の予防で心がけていること	120
2. 23. 加工食品等の栄養成分表示を参考にしているか	122

2. 24. 食中毒に関する認識	124
2. 25. 喫煙の状況	126
2. 25. 1. 今後禁煙したいか	127
3. 制度等について	128
3. 1. 「障害者差別解消法」についての認知度	128
3. 1. 1. 「障害者差別解消法」の認知方法	130
3. 2. 障害者差別の解消について、中野区が特に力を入れるべきこと	132
3. 3. ヘルプマークの認知度	134
3. 4. 介護保険制度の利用の仕方についての認知度	135
3. 5. 認知症についての理解度	137
3. 6. 「成年後見制度」の認知度	139
4. 相談窓口について	141
4. 1. 健康福祉の相談窓口の身近さ	141
4. 2. 犯罪被害者に対する相談窓口の認知度	143
5. その他	145
5. 1. 健康福祉行政全体への意見・要望（自由回答）	145
IV 調査票と単純集計	149





# I 調査の概要



## 1. 調査の目的

健康福祉に係わる関心や健康福祉サービスに対する意見などを把握し、区の事業や施策の達成状況の確認や、見直し・改善を図る指標として活用するため、20歳以上の区民を対象としたアンケート調査を実施した。

## 2. 調査の内容

- (1) 調査対象者の属性
- (2) 地域活動について
- (3) 医療・健康について
- (4) 制度等について
- (5) 相談窓口について
- (6) その他

## 3. 調査の設計

- ・調査対象：満20歳以上の区民（基準日：令和2年4月1日時点 296,535人）
- ・調査地域：中野区全域
- ・調査標本数：3,000人
- ・抽出方法：無作為抽出
- ・調査方法：郵送による配布・回収
- ・調査期間：令和2年5月8日～5月29日
- ・調査機関：株式会社アイアールエス

## 4. 回収状況

標本数	有効回収数	回収率
3,000	1,379	46.0%

## 5. 報告書を読む際の留意点

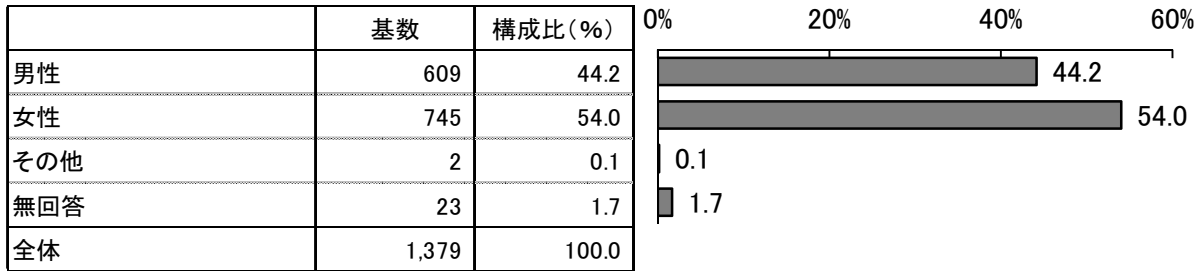
- 調査結果の比率は、その質問の回答者数を基数として、小数第2位を四捨五入して算出している。なお、単数回答形式の場合、四捨五入の関係で合計が100%にならない場合がある。
- 複数回答形式の場合、回答比率の合計は通常100%を超える。
- アンケート選択肢の語句が長い場合、本文や表・グラフ中では省略した表現を用いていることがある。
- グラフ中の「n」とは、その質問への回答者数を表す。
- クロス集計の表の中で、上段の数値は回答者数（単位：人）を、下段の数値は割合（単位：%）を表す。
- 年齢とのクロス集計において、90歳以上については母数が少ないため、統計学的に有意のものとは言えないが、参考として数値を明示している場合がある。
- 分析軸に使用した属性項目は、無回答を除いてあるため、各属性の件数の合計が全体件数と一致しないことがある。
- 本調査は、令和2年5月8日～5月29日に実施したが、令和2年4月7日～5月25日は、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の期間であった。このため、調査項目によっては、感染予防の実施や不要不急の外出自粛等の影響が調査結果に表れていると考えられる。



## Ⅱ 調査対象者の属性



## 1. 性別

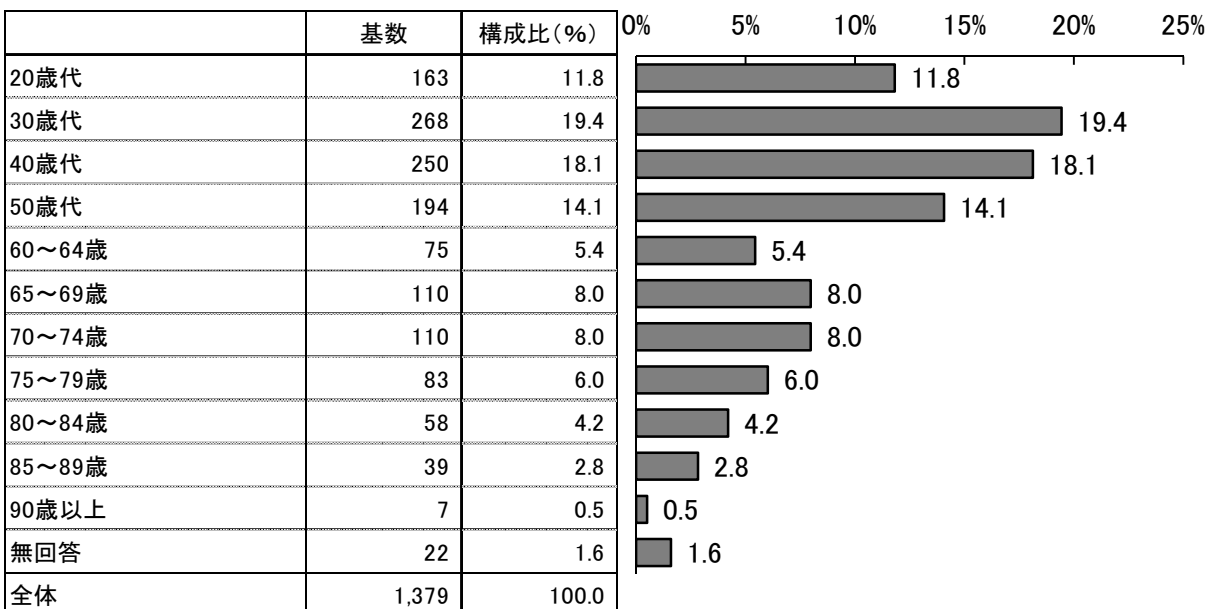


### ■年代別

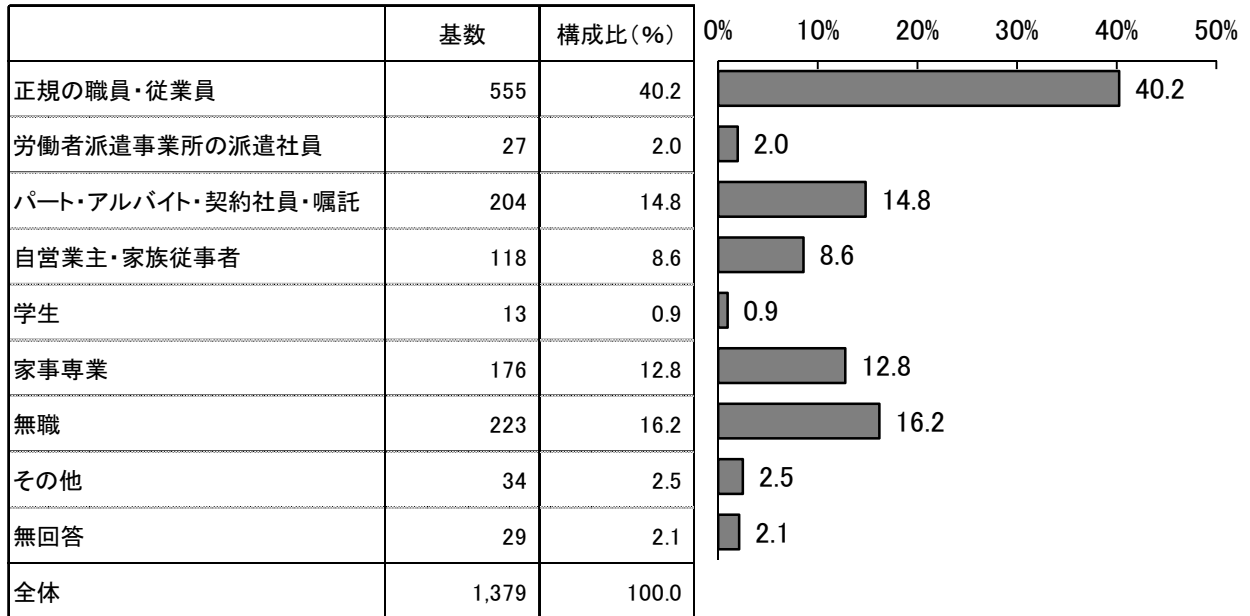
上段:人、下段:%

	n	男性	女性	その他	無回答
全体	1,379	609	745	2	23
	100.0	44.2	54.0	0.1	1.7
20歳代	163	76	86	1	—
	100.0	46.6	52.8	0.6	—
30歳代	268	124	144	—	—
	100.0	46.3	53.7	—	—
40歳代	250	122	127	1	—
	100.0	48.8	50.8	0.4	—
50歳代	194	93	101	—	—
	100.0	47.9	52.1	—	—
60～64歳	75	35	40	—	—
	100.0	46.7	53.3	—	—
65～69歳	110	41	69	—	—
	100.0	37.3	62.7	—	—
70～74歳	110	47	63	—	—
	100.0	42.7	57.3	—	—
75～79歳	83	32	51	—	—
	100.0	38.6	61.4	—	—
80～84歳	58	23	34	—	1
	100.0	39.7	58.6	—	1.7
85～89歳	39	13	26	—	—
	100.0	33.3	66.7	—	—
90歳以上	7	3	4	—	—
	100.0	42.9	57.1	—	—

## 2. 年齢



### 3. 職業



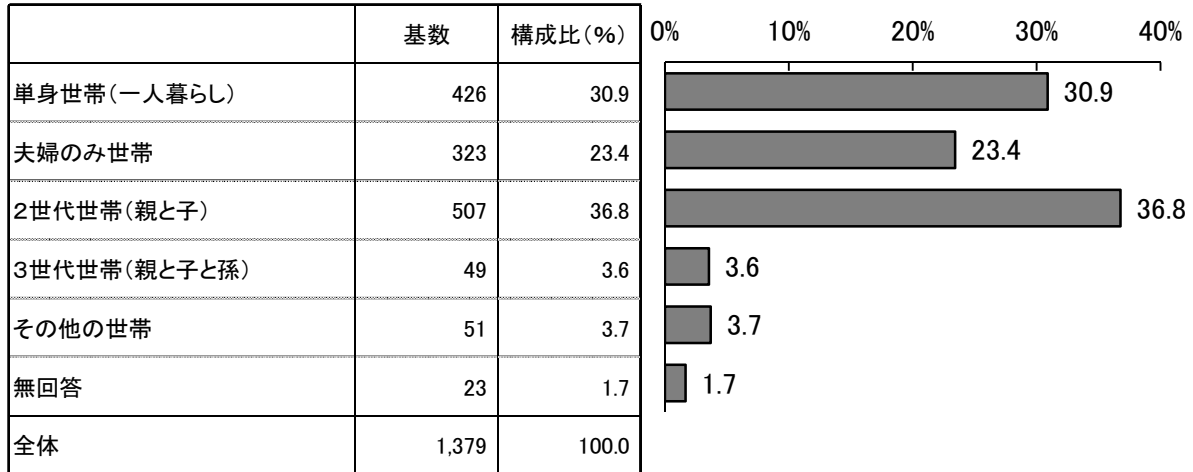
#### ■年代別

上段:人、下段:%

	n	正規の職員・従業員	労働者派遣事業所の派遣社員	パート・アルバイト・契約社員・嘱託	自営業主・家族従事者	学生	家事専業	無職	その他	無回答
全体	1,379	555	27	204	118	13	176	223	34	29
	100.0	40.2	2.0	14.8	8.6	0.9	12.8	16.2	2.5	2.1
20歳代	163	120	2	20	2	11	2	4	2	—
	100.0	73.6	1.2	12.3	1.2	6.7	1.2	2.5	1.2	—
30歳代	268	171	7	36	14	2	19	15	4	—
	100.0	63.8	2.6	13.4	5.2	0.7	7.1	5.6	1.5	—
40歳代	250	134	7	46	21	—	27	11	4	—
	100.0	53.6	2.8	18.4	8.4	—	10.8	4.4	1.6	—
50歳代	194	93	6	41	29	—	13	10	2	—
	100.0	47.9	3.1	21.1	14.9	—	6.7	5.2	1.0	—
60～64歳	75	15	3	19	10	—	14	11	3	—
	100.0	20.0	4.0	25.3	13.3	—	18.7	14.7	4.0	—
65～69歳	110	10	—	23	12	—	29	30	6	—
	100.0	9.1	—	20.9	10.9	—	26.4	27.3	5.5	—
70～74歳	110	7	1	12	13	—	23	47	6	1
	100.0	6.4	0.9	10.9	11.8	—	20.9	42.7	5.5	0.9
75～79歳	83	4	—	5	9	—	24	36	1	4
	100.0	4.8	—	6.0	10.8	—	28.9	43.4	1.2	4.8
80～84歳	58	—	1	2	6	—	11	36	—	2
	100.0	—	1.7	3.4	10.3	—	19.0	62.1	—	3.4
85～89歳	39	1	—	—	2	—	11	19	6	—
	100.0	2.6	—	—	5.1	—	28.2	48.7	15.4	—
90歳以上	7	—	—	—	—	—	3	4	—	—
	100.0	—	—	—	—	—	42.9	57.1	—	—



#### 4. 世帯構成



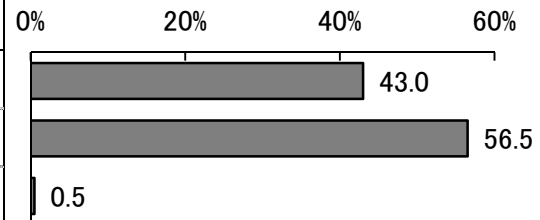
#### ■年代別

上段:人、下段:%

	n	単身世帯 (一人暮らし)	夫婦のみ世帯	2世代世帯 (親と子)	3世代世帯 (親と子と孫)	その他の世帯	無回答
全体	1379	426	323	507	49	51	23
	100.0	30.9	23.4	36.8	3.6	3.7	1.7
20歳代	163	90	20	41	4	8	—
	100.0	55.2	12.3	25.2	2.5	4.9	—
30歳代	268	103	59	92	5	9	—
	100.0	38.4	22.0	34.3	1.9	3.4	—
40歳代	250	53	50	135	6	6	—
	100.0	21.2	20.0	54.0	2.4	2.4	—
50歳代	194	47	39	96	7	5	—
	100.0	24.2	20.1	49.5	3.6	2.6	—
60～64歳	75	19	23	26	4	3	—
	100.0	25.3	30.7	34.7	5.3	4.0	—
65～69歳	110	32	33	33	6	6	—
	100.0	29.1	30.0	30.0	5.5	5.5	—
70～74歳	110	32	35	28	8	7	—
	100.0	29.1	31.8	25.5	7.3	6.4	—
75～79歳	83	13	33	30	3	3	1
	100.0	15.7	39.8	36.1	3.6	3.6	1.2
80～84歳	58	18	23	13	2	2	—
	100.0	31.0	39.7	22.4	3.4	3.4	—
85～89歳	39	17	6	10	4	2	—
	100.0	43.6	15.4	25.6	10.3	5.1	—
90歳以上	7	2	2	3	—	—	—
	100.0	28.6	28.6	42.9	—	—	—

5. 18歳未満の子どもの有無（2世代世帯、3世代世帯、その他世帯のうち）

	基数	構成比(%)
いる	261	43.0
いない	343	56.5
無回答	3	0.5
全体	607	100.0



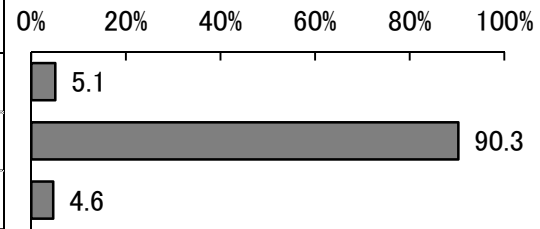
■年代別

上段：人、下段：%

	n	いる	いない	無回答
全体	607	261	343	3
	100.0	43.0	56.5	0.5
20歳代	53	9	44	—
	100.0	17.0	83.0	—
30歳代	106	76	30	—
	100.0	71.7	28.3	—
40歳代	147	113	34	—
	100.0	76.9	23.1	—
50歳代	108	39	68	1
	100.0	36.1	63.0	0.9
60～64歳	33	2	31	—
	100.0	6.1	93.9	—
65～69歳	45	7	37	1
	100.0	15.6	82.2	2.2
70～74歳	43	9	34	—
	100.0	20.9	79.1	—
75～79歳	36	2	34	—
	100.0	5.6	94.4	—
80～84歳	17	1	16	—
	100.0	5.9	94.1	—
85～89歳	16	2	13	1
	100.0	12.5	81.3	6.3
90歳以上	3	1	2	—
	100.0	33.3	66.7	—

## 6. 日常的に家族の介護をしているか

	基数	構成比(%)
はい	70	5.1
いいえ	1,245	90.3
無回答	64	4.6
全体	1,379	100.0



### ■年代別

上段：人、下段：%

	n	はい	いいえ	無回答
全体	1,379	70	1,245	64
	100.0	5.1	90.3	4.6
20歳代	163	1	158	4
	100.0	0.6	96.9	2.5
30歳代	268	2	259	7
	100.0	0.7	96.6	2.6
40歳代	250	6	235	9
	100.0	2.4	94.0	3.6
50歳代	194	16	173	5
	100.0	8.2	89.2	2.6
60～64歳	75	8	66	1
	100.0	10.7	88.0	1.3
65～69歳	110	10	97	3
	100.0	9.1	88.2	2.7
70～74歳	110	9	99	2
	100.0	8.2	90.0	1.8
75～79歳	83	5	74	4
	100.0	6.0	89.2	4.8
80～84歳	58	9	47	2
	100.0	15.5	81.0	3.4
85～89歳	39	4	31	4
	100.0	10.3	79.5	10.3
90歳以上	7	—	6	1
	100.0	—	85.7	14.3

## 7. 住居形態

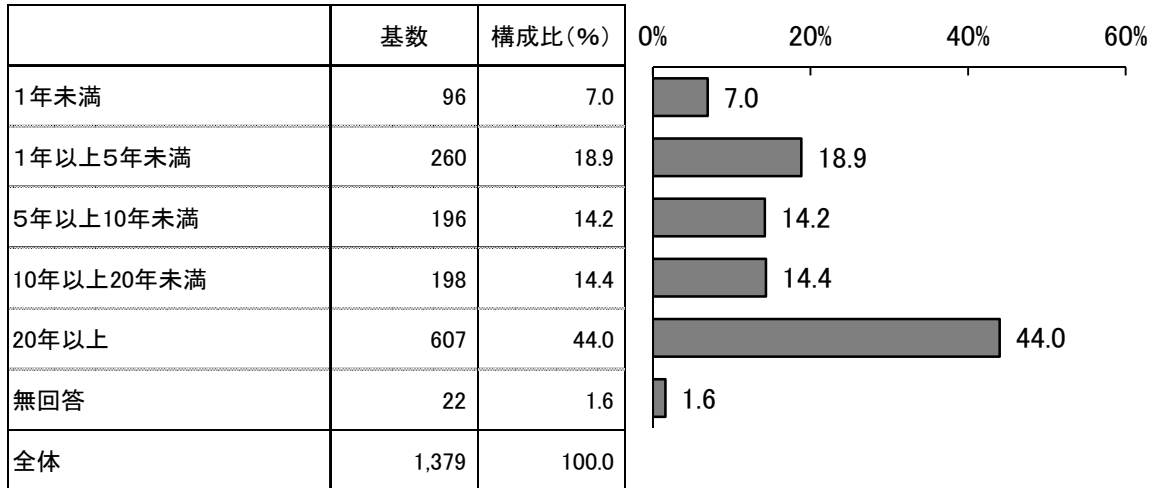
	基数	構成比(%)	0%	10%	20%	30%	40%	
持ち家(一戸建て)	502	36.4						36.4
持ち家(分譲マンション等の集合住宅)	253	18.3						18.3
公営の賃貸住宅(都営・区営住宅、公社等)	50	3.6						3.6
民営の賃貸住宅	475	34.4						34.4
社宅、社員寮、公務員住宅	43	3.1						3.1
その他	33	2.4						2.4
無回答	23	1.7						1.7
全体	1,379	100.0						

### ■年代別

上段：人、下段：%

	n	(一戸建て)	(持ち家 等(分譲 マンション の集合住宅))	(都営・区 営住宅 公社等)	民営 の賃貸 住宅	社宅、 社員寮、 公務員 住宅	その他	無 回答
全体	1,379	502	253	50	475	43	33	23
	100.0	36.4	18.3	3.6	34.4	3.1	2.4	1.7
20歳代	163	23	9	8	106	15	2	—
	100.0	14.1	5.5	4.9	65.0	9.2	1.2	—
30歳代	268	36	36	9	160	18	9	—
	100.0	13.4	13.4	3.4	59.7	6.7	3.4	—
40歳代	250	88	56	4	93	5	4	—
	100.0	35.2	22.4	1.6	37.2	2.0	1.6	—
50歳代	194	82	52	5	44	4	7	—
	100.0	42.3	26.8	2.6	22.7	2.1	3.6	—
60～64歳	75	44	15	—	12	1	3	—
	100.0	58.7	20.0	—	16.0	1.3	4.0	—
65～69歳	110	64	19	2	22	—	3	—
	100.0	58.2	17.3	1.8	20.0	—	2.7	—
70～74歳	110	57	29	7	16	—	1	—
	100.0	51.8	26.4	6.4	14.5	—	0.9	—
75～79歳	83	43	18	8	11	—	3	—
	100.0	51.8	21.7	9.6	13.3	—	3.6	—
80～84歳	58	34	15	2	6	—	—	1
	100.0	58.6	25.9	3.4	10.3	—	—	1.7
85～89歳	39	26	3	5	4	—	1	—
	100.0	66.7	7.7	12.8	10.3	—	2.6	—
90歳以上	7	5	1	—	1	—	—	—
	100.0	71.4	14.3	—	14.3	—	—	—

### 8. 居住年数

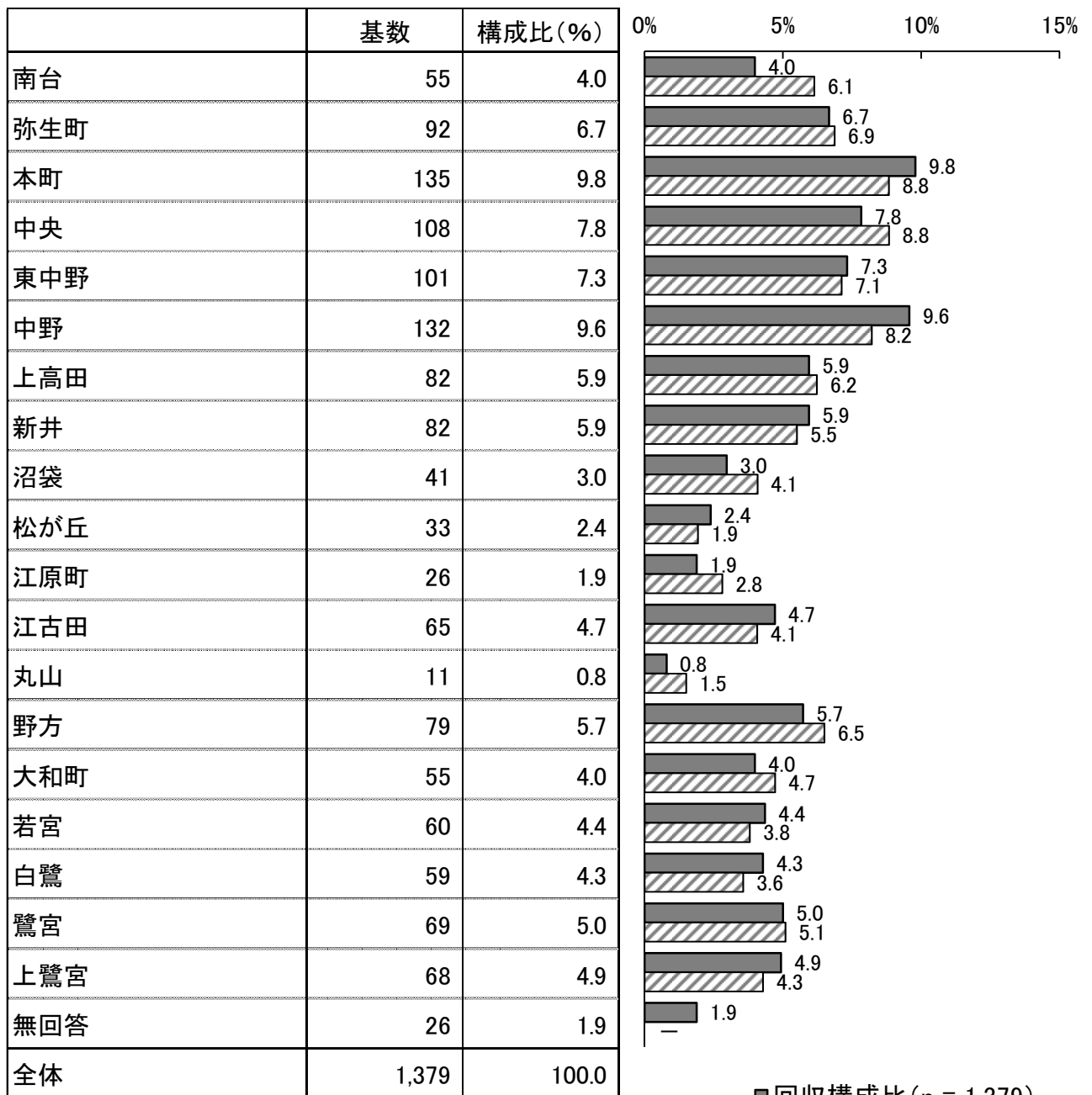


#### ■年代別

上段:人、下段:%

	n	1年未満	1年以上5年未満	5年以上10年未満	10年以上20年未満	20年以上	無回答
全体	1,379	96	260	196	198	607	22
	100.0	7.0	18.9	14.2	14.4	44.0	1.6
20歳代	163	41	75	17	9	21	—
	100.0	25.2	46.0	10.4	5.5	12.9	—
30歳代	268	37	111	71	22	27	—
	100.0	13.8	41.4	26.5	8.2	10.1	—
40歳代	250	11	33	66	70	70	—
	100.0	4.4	13.2	26.4	28.0	28.0	—
50歳代	194	6	23	21	45	99	—
	100.0	3.1	11.9	10.8	23.2	51.0	—
60～64歳	75	1	2	9	9	54	—
	100.0	1.3	2.7	12.0	12.0	72.0	—
65～69歳	110	—	4	6	11	89	—
	100.0	—	3.6	5.5	10.0	80.9	—
70～74歳	110	—	5	2	15	88	—
	100.0	—	4.5	1.8	13.6	80.0	—
75～79歳	83	—	2	2	11	68	—
	100.0	—	2.4	2.4	13.3	81.9	—
80～84歳	58	—	3	1	1	53	—
	100.0	—	5.2	1.7	1.7	91.4	—
85～89歳	39	—	2	—	5	32	—
	100.0	—	5.1	—	12.8	82.1	—
90歳以上	7	—	—	1	—	6	—
	100.0	—	—	14.3	—	85.7	—

9. 居住地域



■回収構成比(n = 1,379)  
 □人口構成比(n = 336,942)

(中野区町丁別人口 令和2年(2020年)5月1日現在)  
 ※人口構成比には20歳未満の人口も含むため、対象者の割合とは異なる。

■年代別

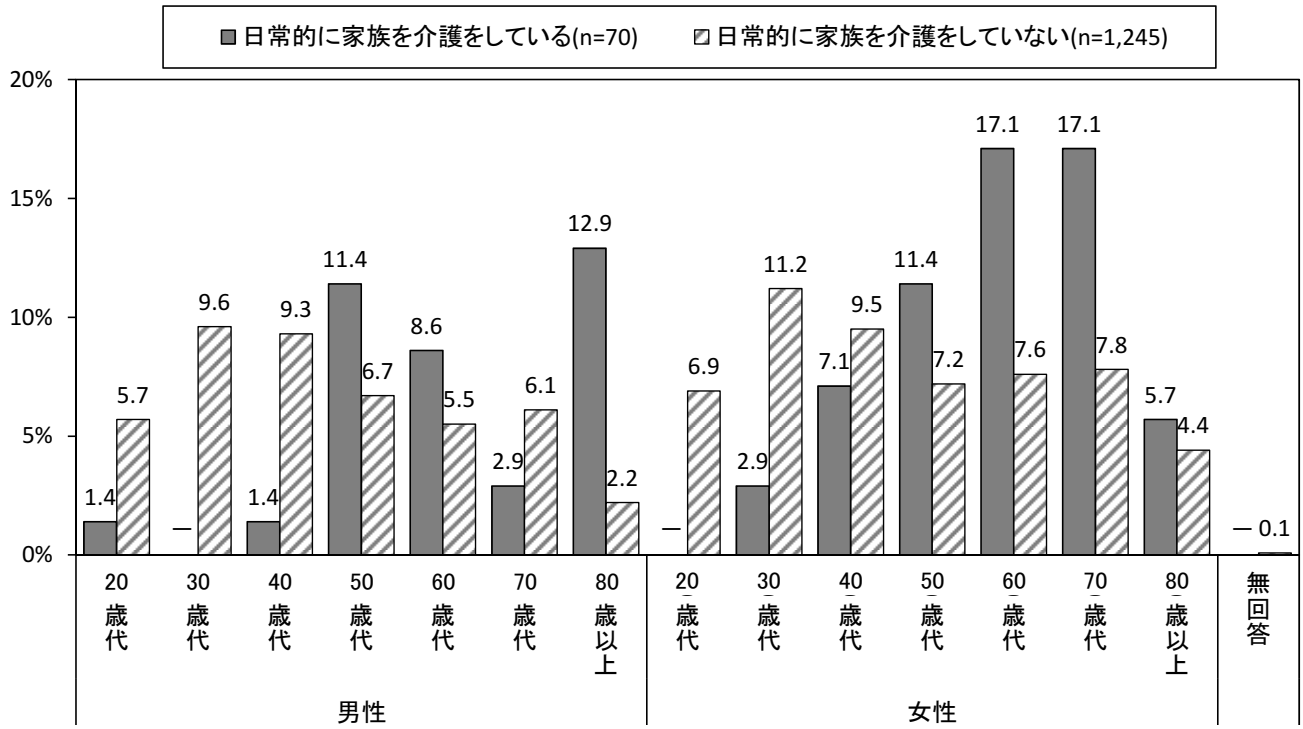
上段：人、下段：%

	n	南台	弥生町	本町	中央	東中野	中野	上高田	新井	沼袋	松が丘
全体	1,379	55	92	135	108	101	132	82	82	41	33
	100.0	4.0	6.7	9.8	7.8	7.3	9.6	5.9	5.9	3.0	2.4
20歳代	163	11	10	13	9	13	21	9	7	3	4
	100.0	6.7	6.1	8.0	5.5	8.0	12.9	5.5	4.3	1.8	2.5
30歳代	268	10	13	39	22	29	26	17	19	9	3
	100.0	3.7	4.9	14.6	8.2	10.8	9.7	6.3	7.1	3.4	1.1
40歳代	250	10	20	22	23	14	15	18	17	10	8
	100.0	4.0	8.0	8.8	9.2	5.6	6.0	7.2	6.8	4.0	3.2
50歳代	194	6	14	15	19	13	23	9	10	3	4
	100.0	3.1	7.2	7.7	9.8	6.7	11.9	4.6	5.2	1.5	2.1
60～64歳	75	1	5	9	4	7	8	5	1	—	1
	100.0	1.3	6.7	12.0	5.3	9.3	10.7	6.7	1.3	—	1.3
65～69歳	110	6	8	13	5	7	9	10	10	4	3
	100.0	5.5	7.3	11.8	4.5	6.4	8.2	9.1	9.1	3.6	2.7
70～74歳	110	4	6	10	8	8	8	4	10	8	3
	100.0	3.6	5.5	9.1	7.3	7.3	7.3	3.6	9.1	7.3	2.7
75～79歳	83	1	7	11	9	5	12	2	5	—	—
	100.0	1.2	8.4	13.3	10.8	6.0	14.5	2.4	6.0	—	—
80～84歳	58	2	3	3	6	3	7	5	3	2	5
	100.0	3.4	5.2	5.2	10.3	5.2	12.1	8.6	5.2	3.4	8.6
85～89歳	39	3	4	—	3	1	3	2	—	2	2
	100.0	7.7	10.3	—	7.7	2.6	7.7	5.1	—	5.1	5.1
90歳以上	7	1	2	—	—	1	—	1	—	—	—
	100.0	14.3	28.6	—	—	14.3	—	14.3	—	—	—

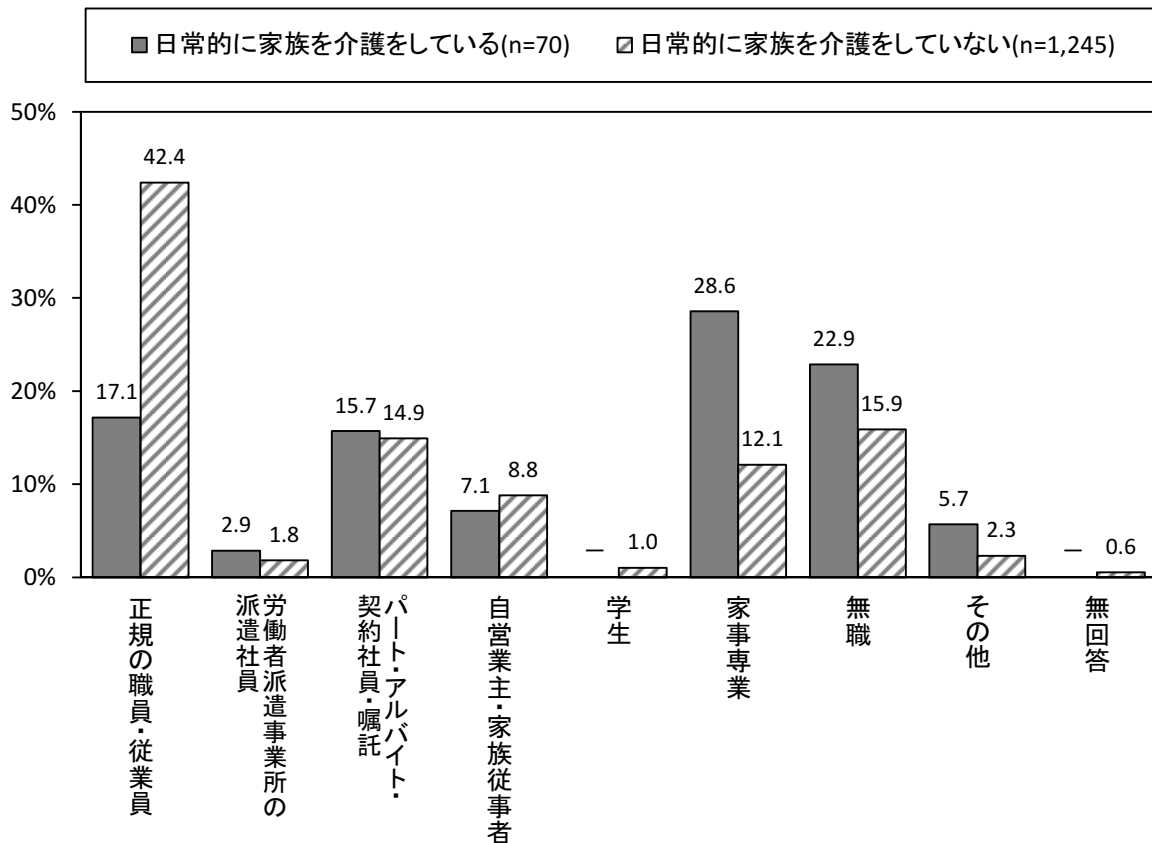
	n	江原町	江古田	丸山	野方	大和町	若宮	白鷺	鷺宮	上鷺宮	無回答
全体	1,379	26	65	11	79	55	60	59	69	68	26
	100.0	1.9	4.7	0.8	5.7	4.0	4.4	4.3	5.0	4.9	1.9
20歳代	163	1	8	2	15	6	10	4	8	9	—
	100.0	0.6	4.9	1.2	9.2	3.7	6.1	2.5	4.9	5.5	—
30歳代	268	3	13	1	13	11	3	8	15	13	1
	100.0	1.1	4.9	0.4	4.9	4.1	1.1	3.0	5.6	4.9	0.4
40歳代	250	6	16	1	15	8	12	6	12	16	1
	100.0	2.4	6.4	0.4	6.0	3.2	4.8	2.4	4.8	6.4	0.4
50歳代	194	3	8	3	9	10	11	9	12	13	—
	100.0	1.5	4.1	1.5	4.6	5.2	5.7	4.6	6.2	6.7	—
60～64歳	75	2	3	2	2	7	5	2	4	7	—
	100.0	2.7	4.0	2.7	2.7	9.3	6.7	2.7	5.3	9.3	—
65～69歳	110	5	4	1	2	3	1	8	6	4	1
	100.0	4.5	3.6	0.9	1.8	2.7	0.9	7.3	5.5	3.6	0.9
70～74歳	110	3	6	1	8	5	7	6	3	2	—
	100.0	2.7	5.5	0.9	7.3	4.5	6.4	5.5	2.7	1.8	—
75～79歳	83	1	2	—	3	4	7	6	5	2	1
	100.0	1.2	2.4	—	3.6	4.8	8.4	7.2	6.0	2.4	1.2
80～84歳	58	1	2	—	5	1	3	7	—	—	—
	100.0	1.7	3.4	—	8.6	1.7	5.2	12.1	—	—	—
85～89歳	39	1	2	—	7	—	1	3	3	2	—
	100.0	2.6	5.1	—	17.9	—	2.6	7.7	7.7	5.1	—
90歳以上	7	—	1	—	—	—	—	—	1	—	—
	100.0	—	14.3	—	—	—	—	—	14.3	—	—

【日常的な家族の介護の有無別】対象者の属性

■ 【介護の有無別】性別・年齢

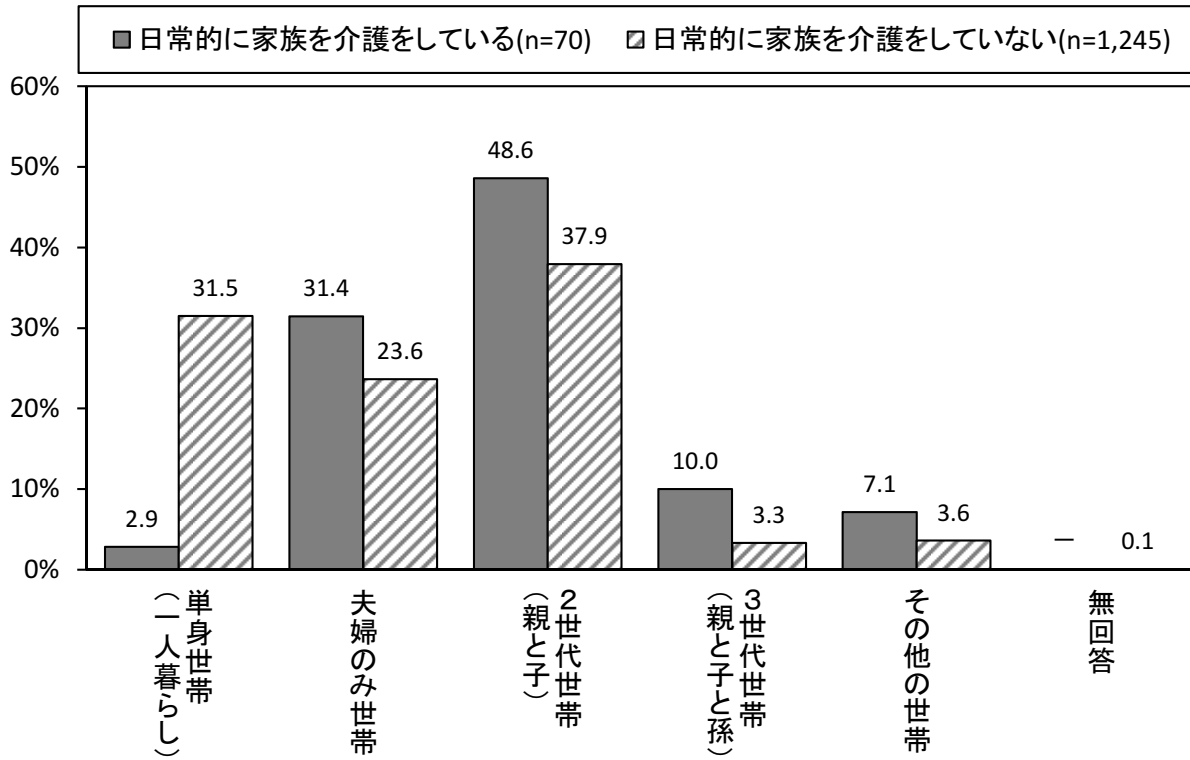


■ 【介護の有無別】職業

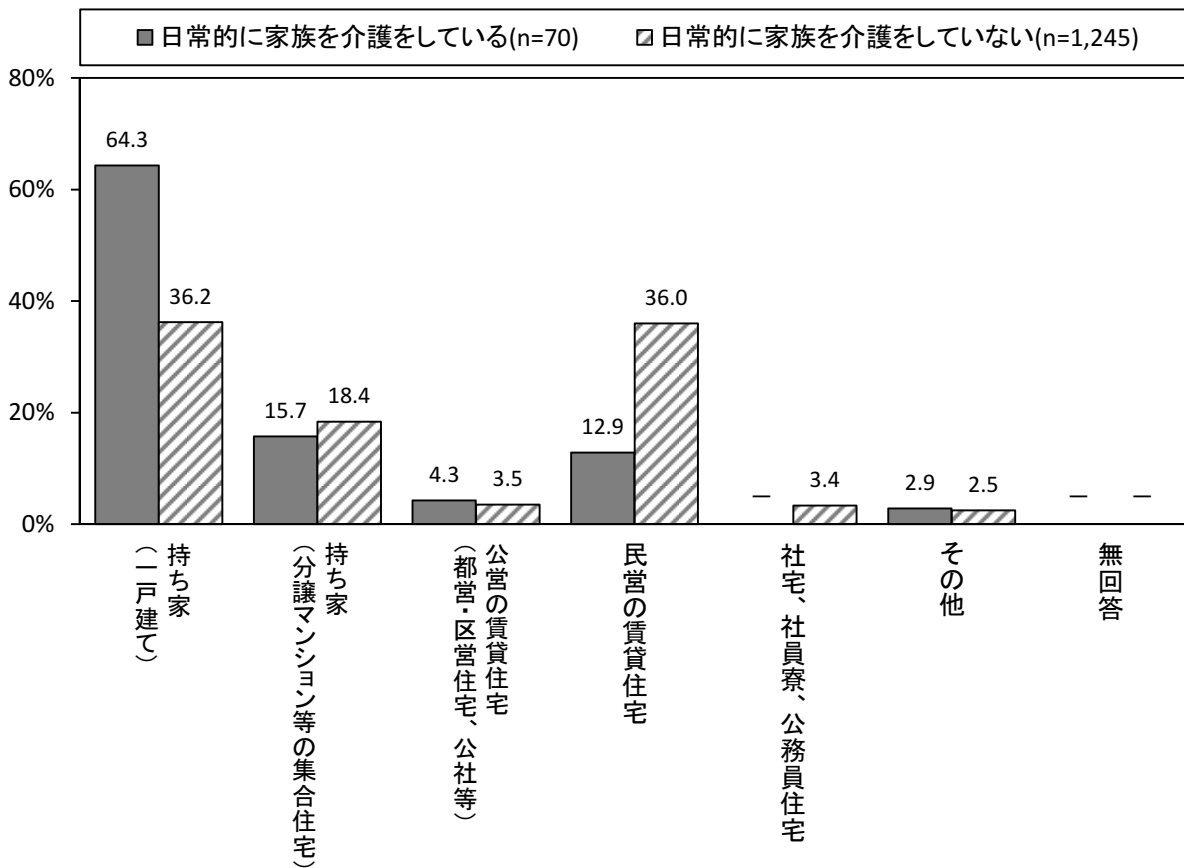




■【介護の有無別】世帯構成

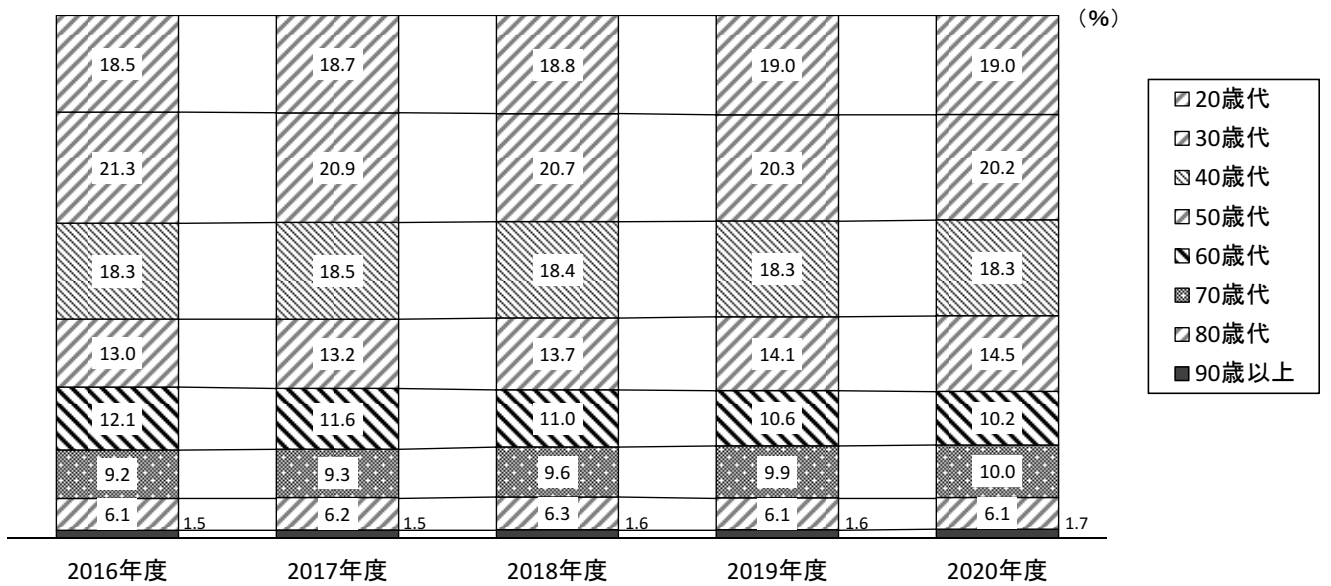


■【介護の有無別】住居形態

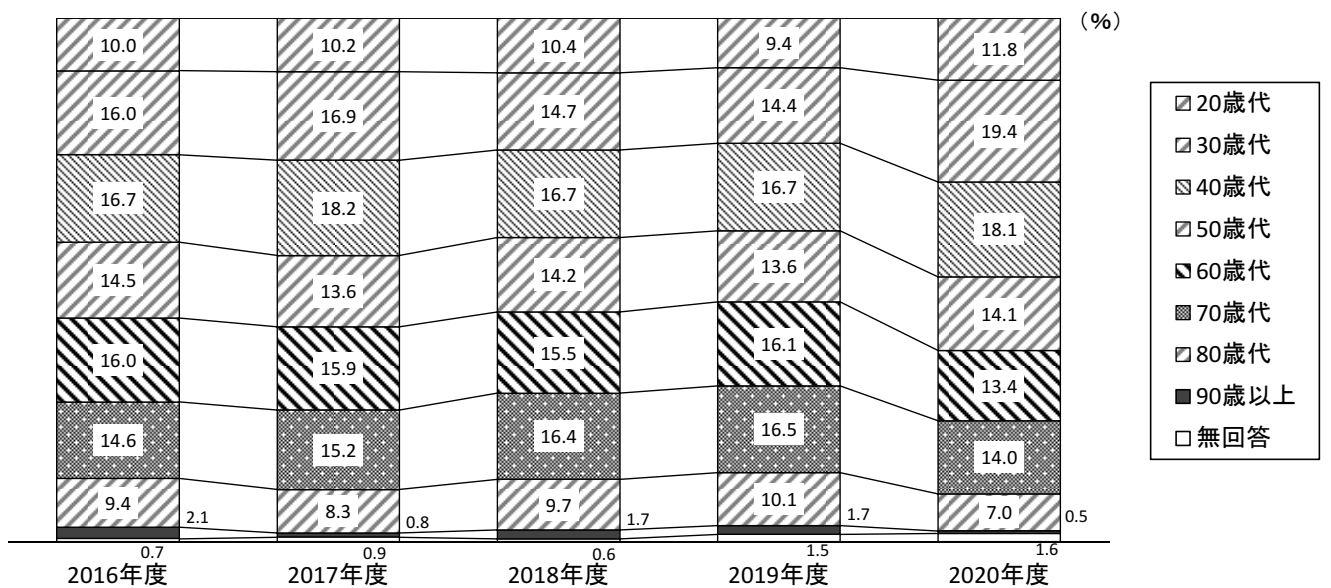


## 10. 母集団と調査回答者の推移

### ■ 【年代別】母集団



### ■ 【年代別】回答者



### Ⅲ 調査結果の分析



# 1. 地域活動について

## 1.1. 地域の活動への参加

### ◆参加している地域活動の中で、最も高いのは「町内会・自治会の活動」

問1. あなたは、どのような内容の地域の活動に参加していますか。(あてはまるものすべてに○)

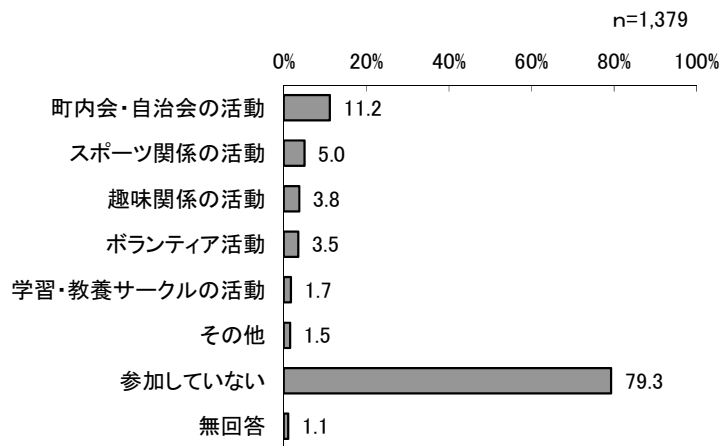


図 1-1 参加している地域活動

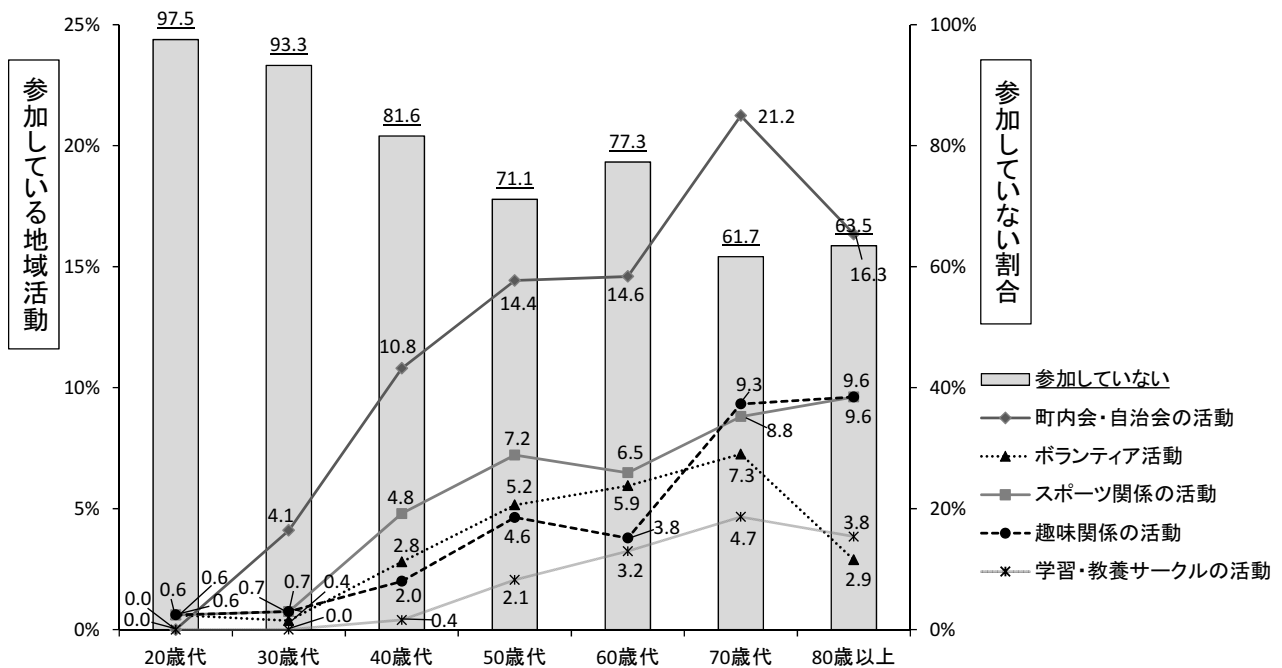


図 1-2 【年代別】参加している地域活動

地域活動への参加状況は、「参加していない」(79.3%)が最も高くなっている。年代別にみると、若い年代ほど「参加していない」の割合が高い傾向となっている。参加している地域の活動としては「町内会・自治会の活動」が70歳代で約2割と他の年代と比較して高くなっている。

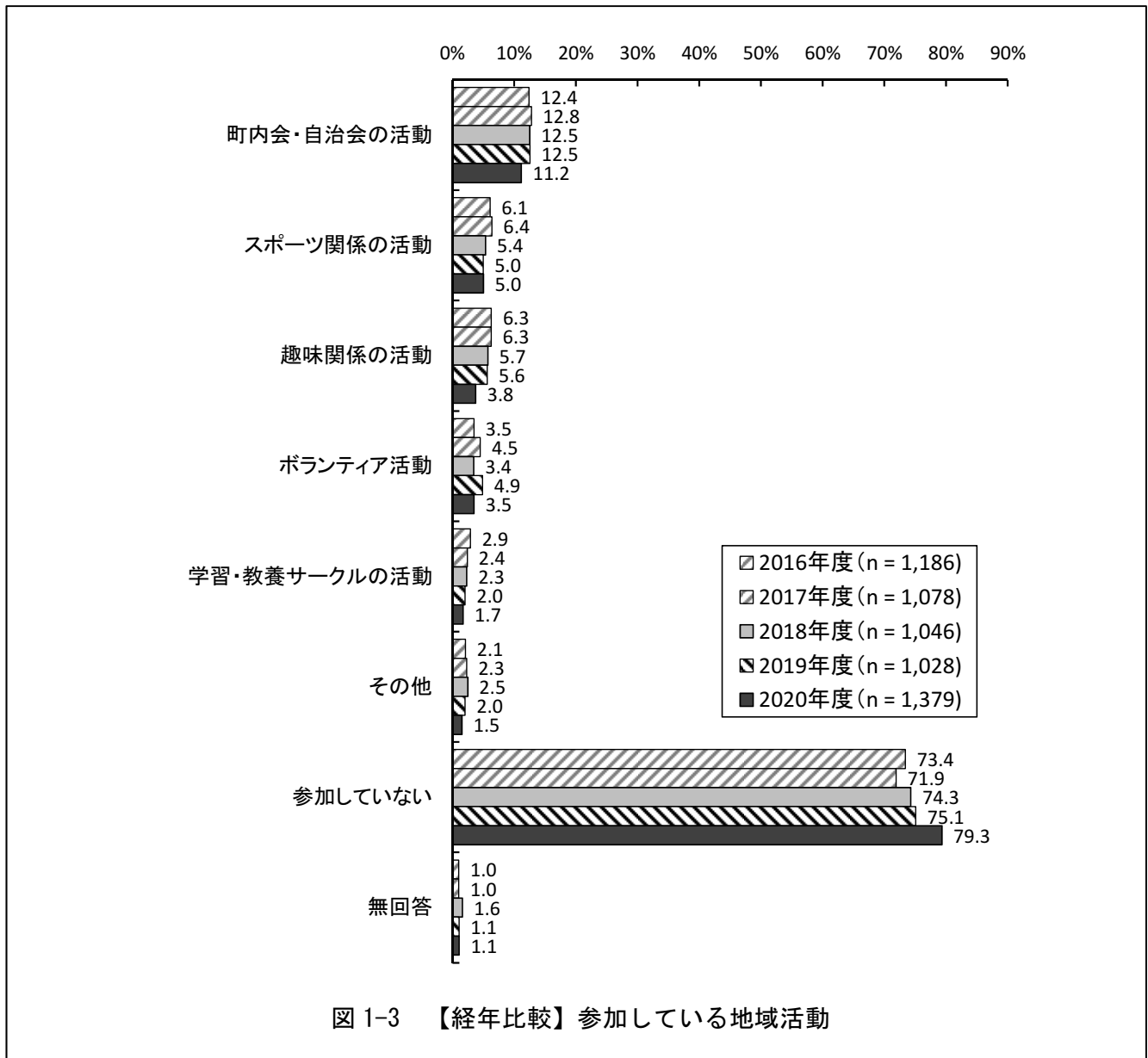
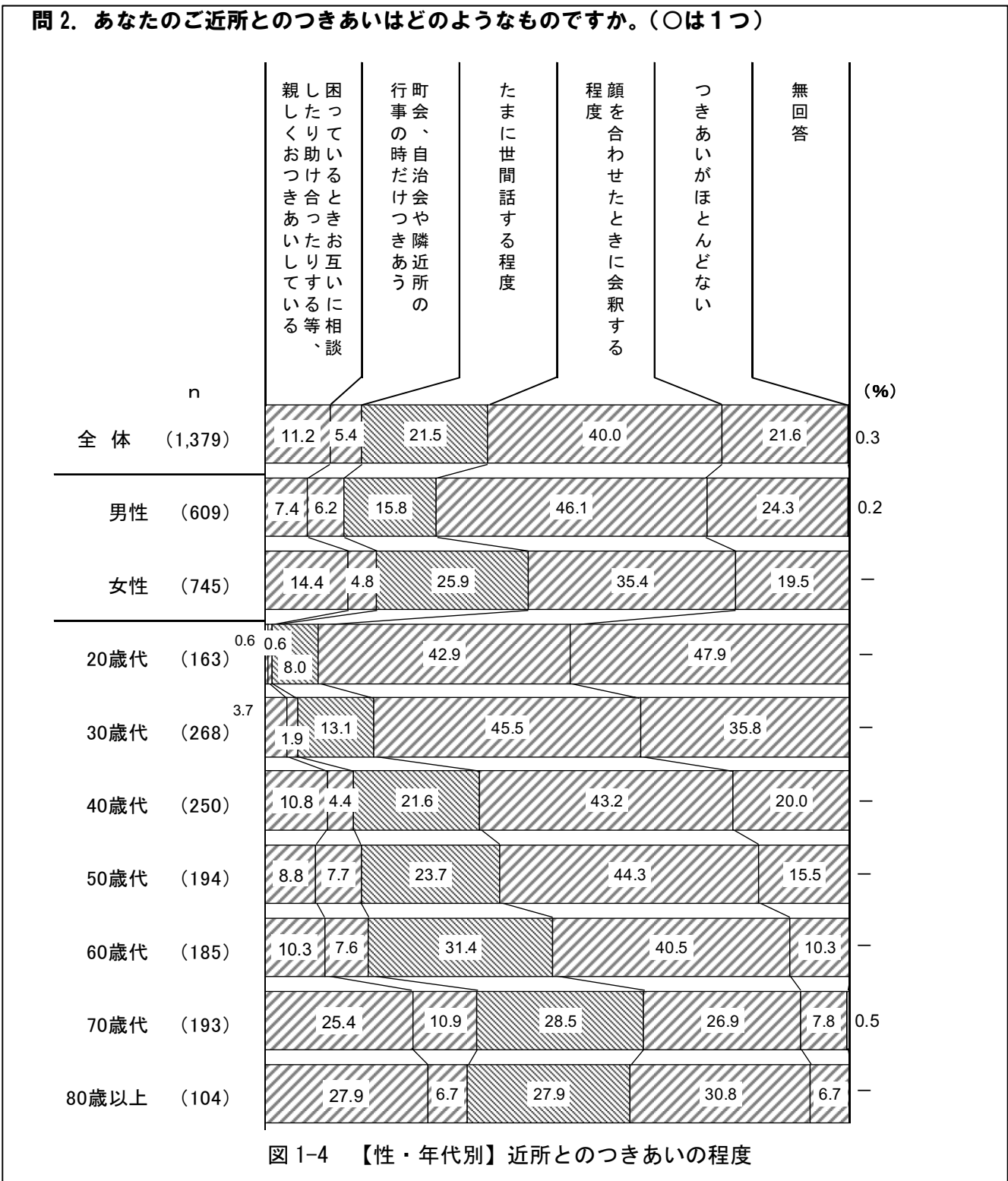


図 1-3 【経年比較】参加している地域活動

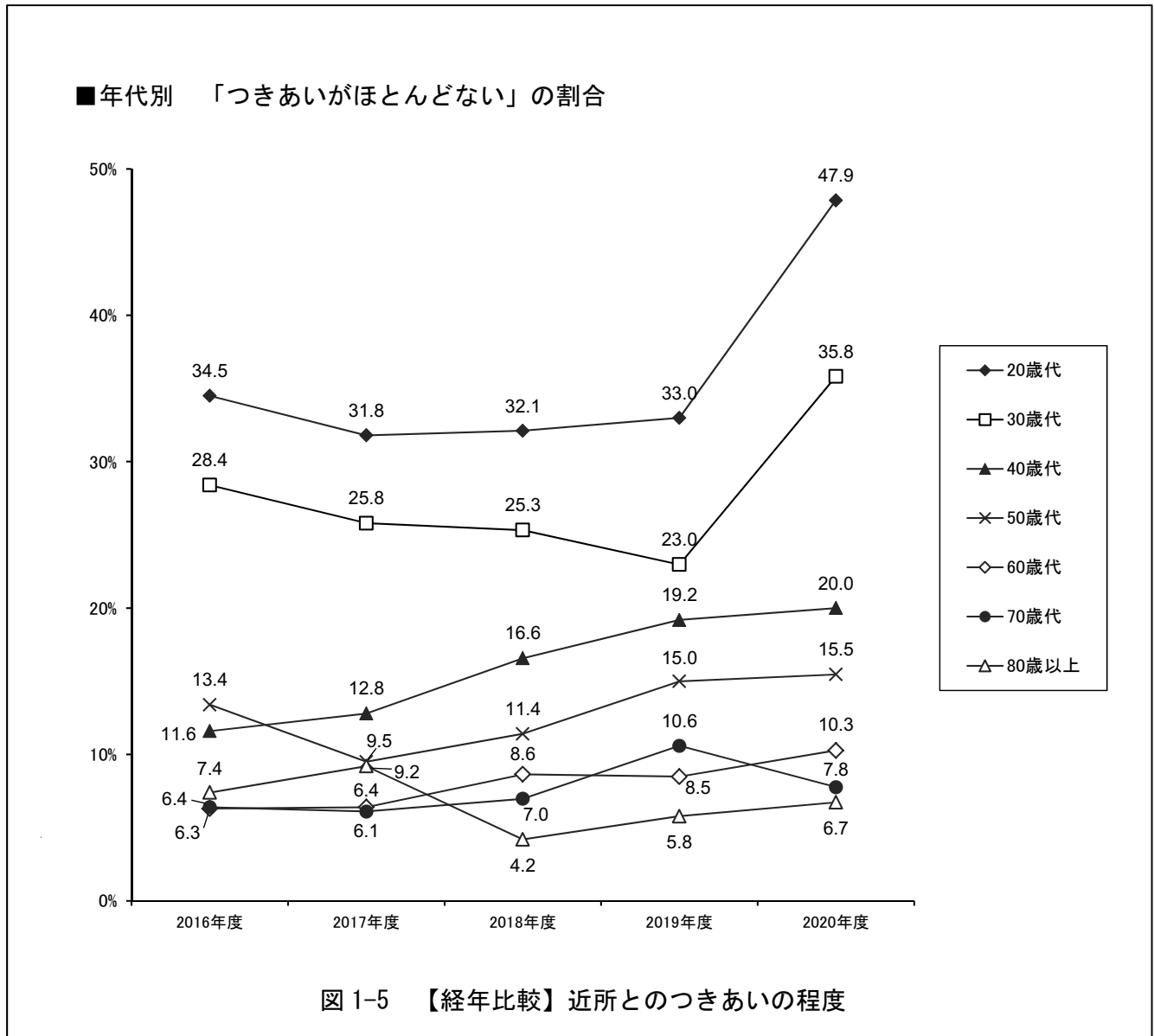
経年で比較すると、大きな差異はみられないが、「参加していない」の割合は増加傾向にある。

1.2. 近所とのつきあいの程度

◆親しくおつきあいしている割合は70歳代以上で2割台半ばを超える

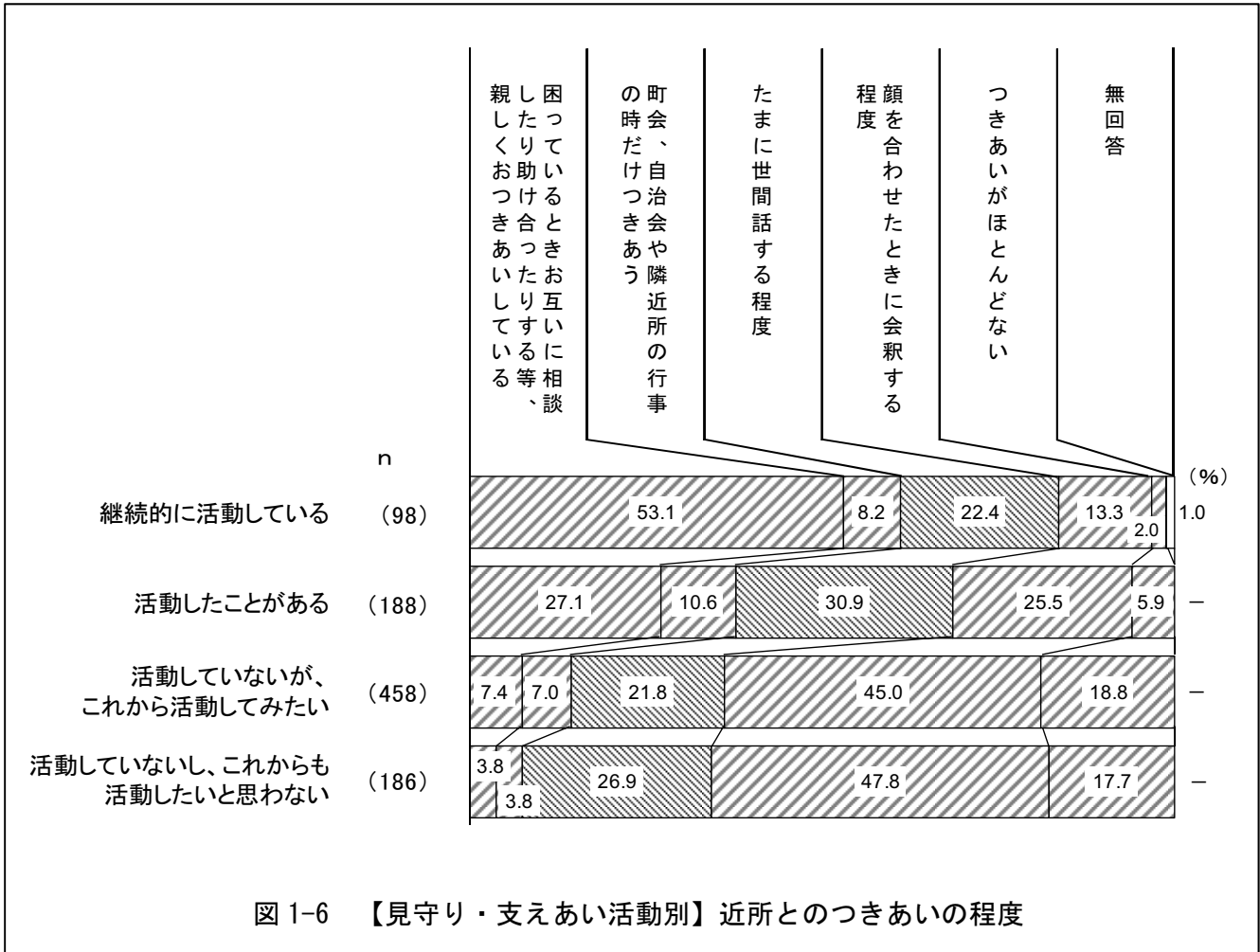


ご近所とのつきあいの程度としては、「顔を合わせたときに会釈する程度」(40.0%)が最も高くなっている。性別にみると、「困っているときお互いに相談したり助け合ったりする等、親しくおつきあいしている」は、女性(14.4%)が男性(7.4%)を7ポイント上回っている。年代別にみると、「困っているときお互いに相談したり助け合ったりする等、親しくおつきあいしている」の割合は、70歳代以上で2割台半ばを超えて高くなっている。



経年で比較すると、いずれの年度も「つきあいがほとんどない」の割合が 20 歳代で最も高くなっており、次いで 30 歳代の割合が高くなっている。





見守り・支えあい活動別にみると、「困っているときお互いに相談したり助け合ったりする等、親しくおつきあいしている」の割合は、継続的に活動している人や活動したことがある人で高くなっており、継続的に活動している人で5割台前半、活動したことがある人で2割台後半となっている。

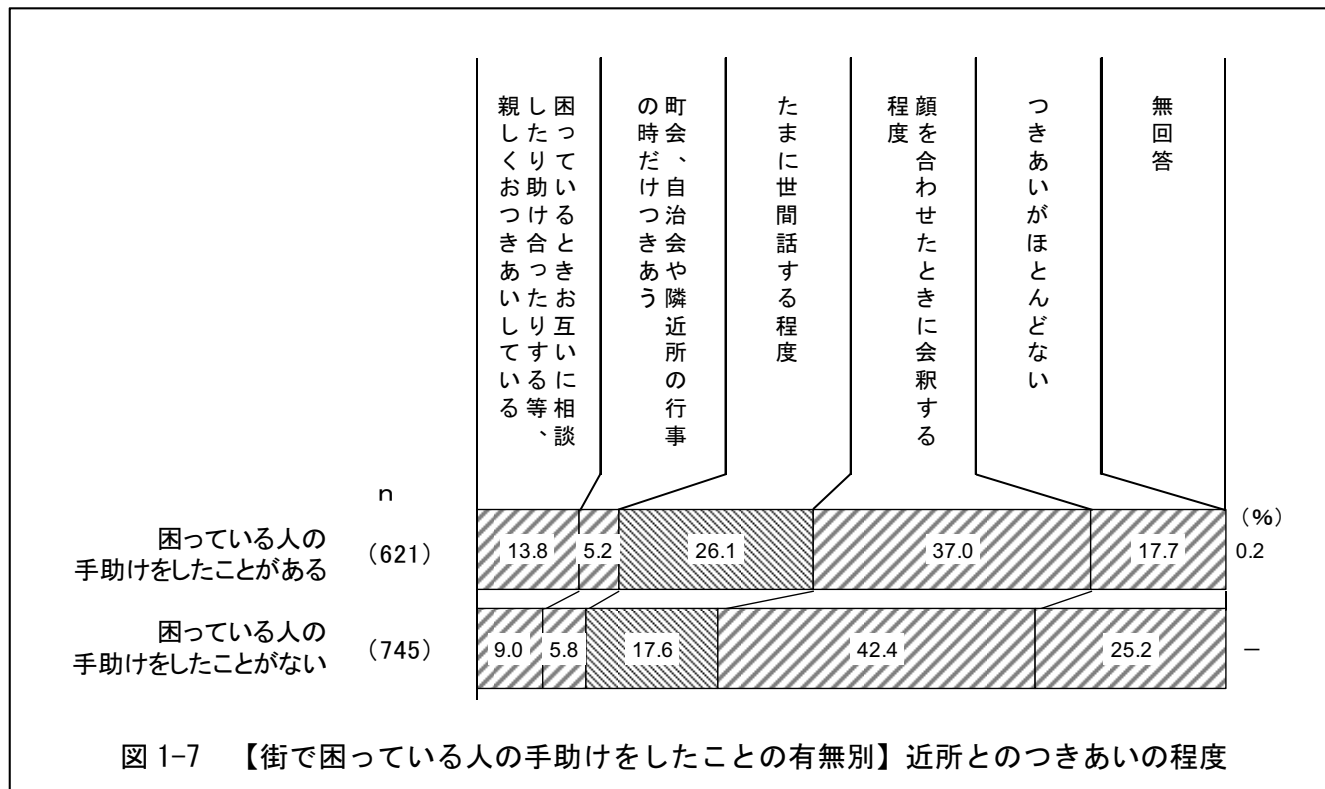


図 1-7 【街で困っている人の手助けをしたことの有無別】近所とのつきあいの程度

街で困っている人の手助けをしたことの有無別にみると、「困っているときお互いに相談したり助け合ったりする等、親しくおつきあいしている」、「たまに世間話する程度」は、困っている人の手助けをしたことがある人の方が割合が高くなっている。一方、「つきあいがほとんどない」と「顔を合わせたときに会釈する程度」は、困っている人の手助けをしたことがない人の方が割合が高くなっている。

1.3. 近隣同士の見守り・支えあい活動の必要性

◆近隣同士の見守り・支えあい活動は「必要だと思う」が6割台後半

問3. あなたは、地域で生活していくうえで近隣同士の見守り・支えあい活動が必要だと思いますか。(○は1つ)

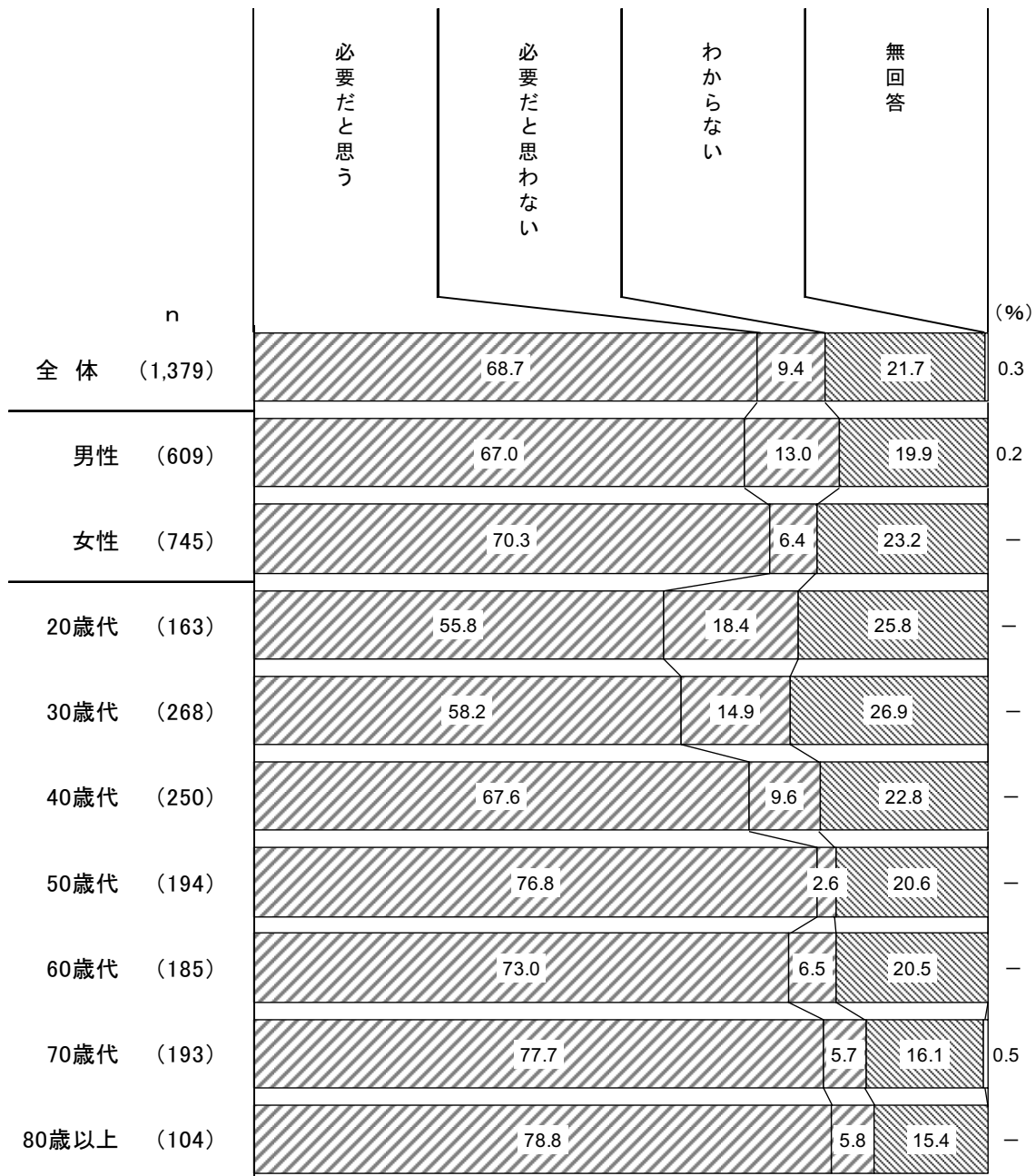


図 1-8 【性・年代別】近隣同士の見守り・支えあい活動の必要性

近隣同士の見守り・支えあい活動は、「必要だと思う」が68.7%で最も高くなっている。年代別にみると、「必要だと思う」が20歳～30歳代で5割台と他の年代と比較して低くなっている。

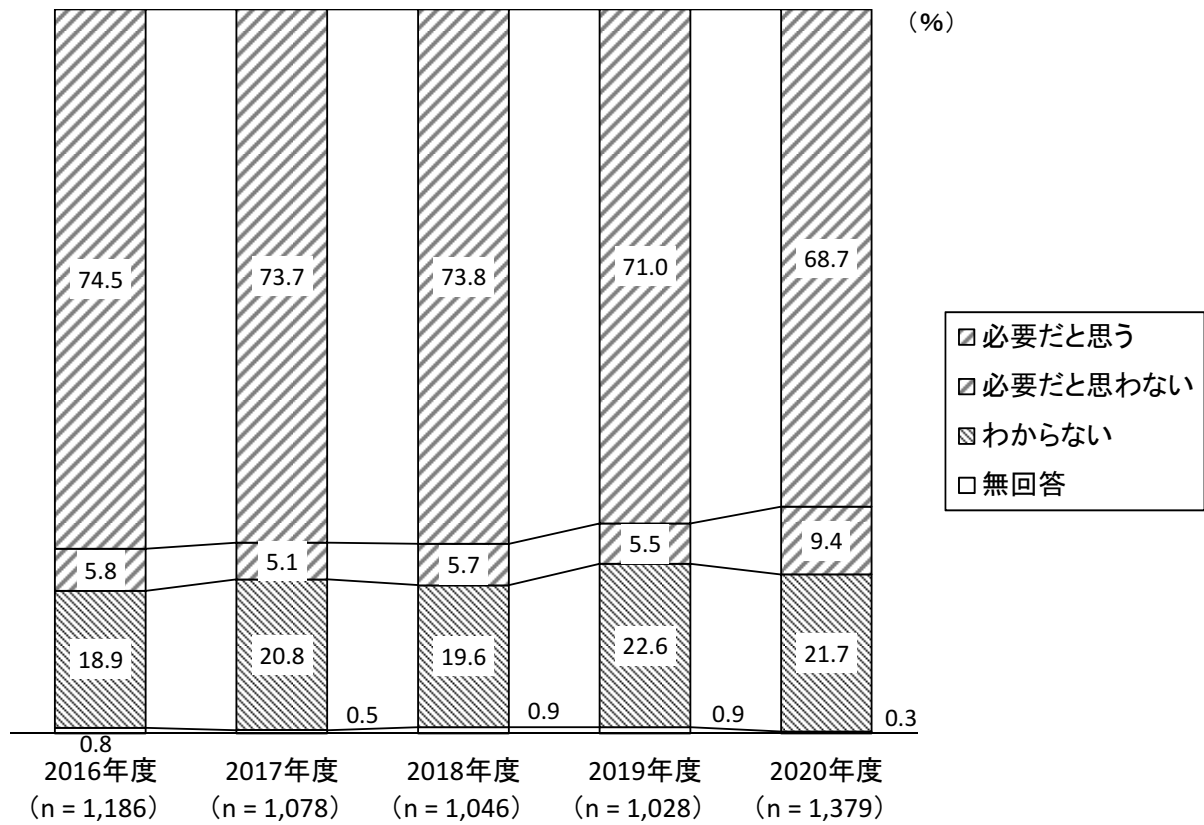
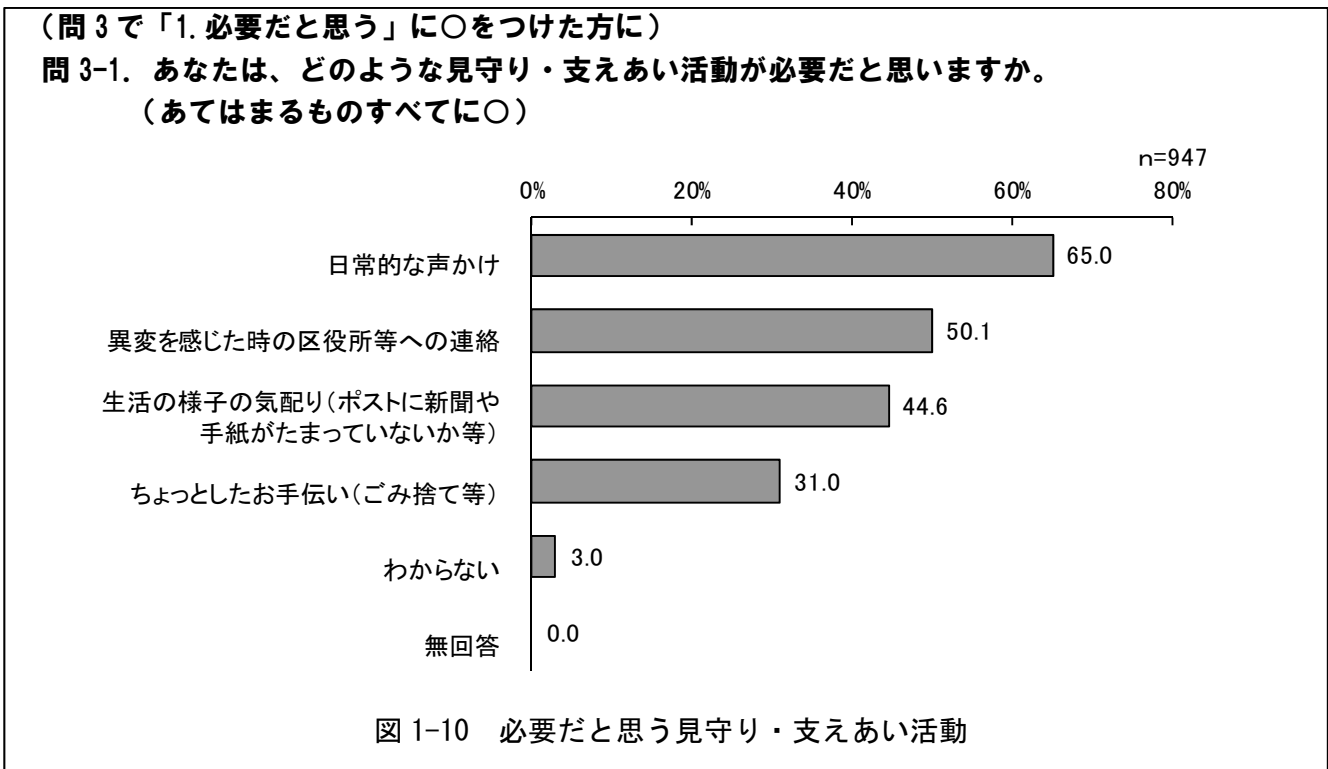


図 1-9 【経年比較】近隣同士の見守り・支えあい活動の必要性

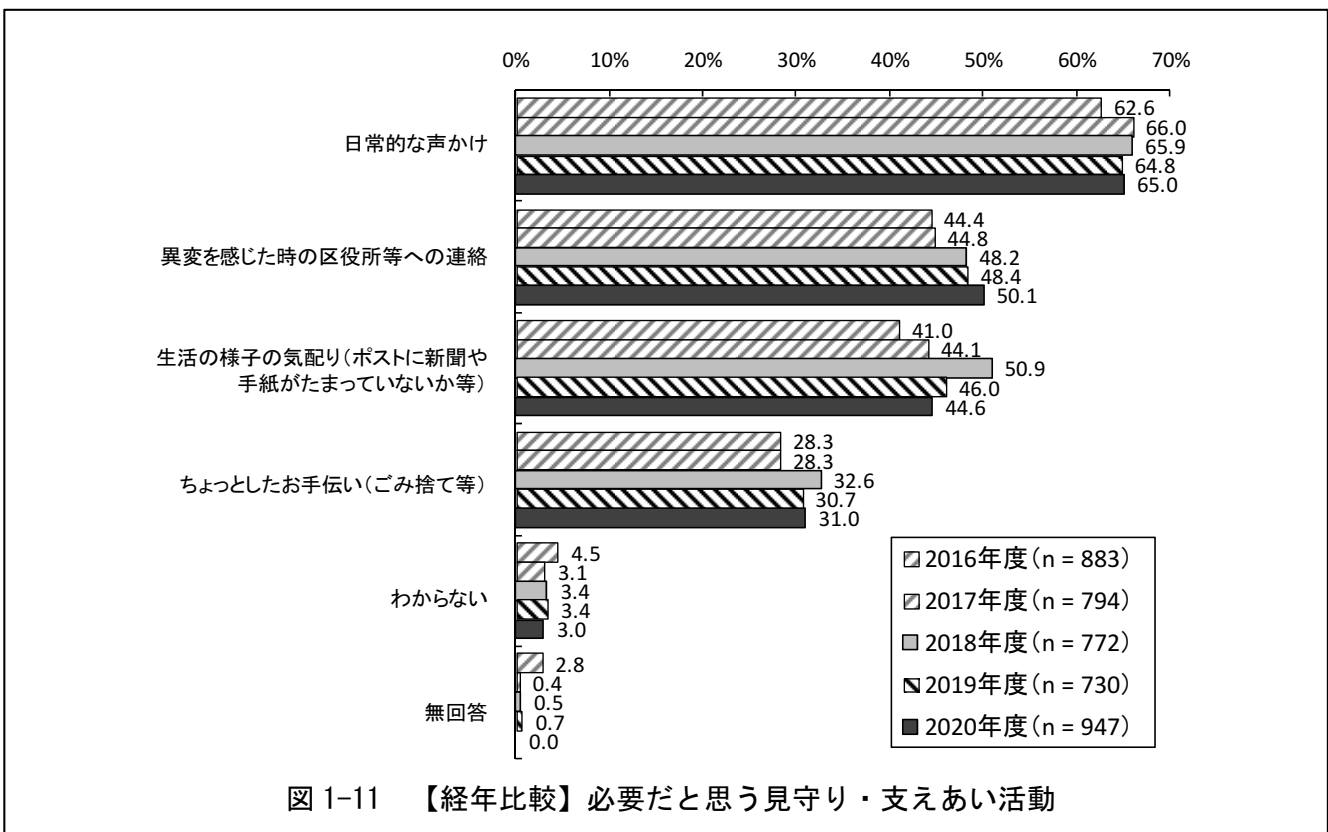
経年で比較すると、「必要だと思う」が減少傾向にある。

1.3.1. 必要だと思う見守り・支えあい活動

◆必要だと思う見守り・支えあい活動は「日常的な声かけ」が6割台半ば



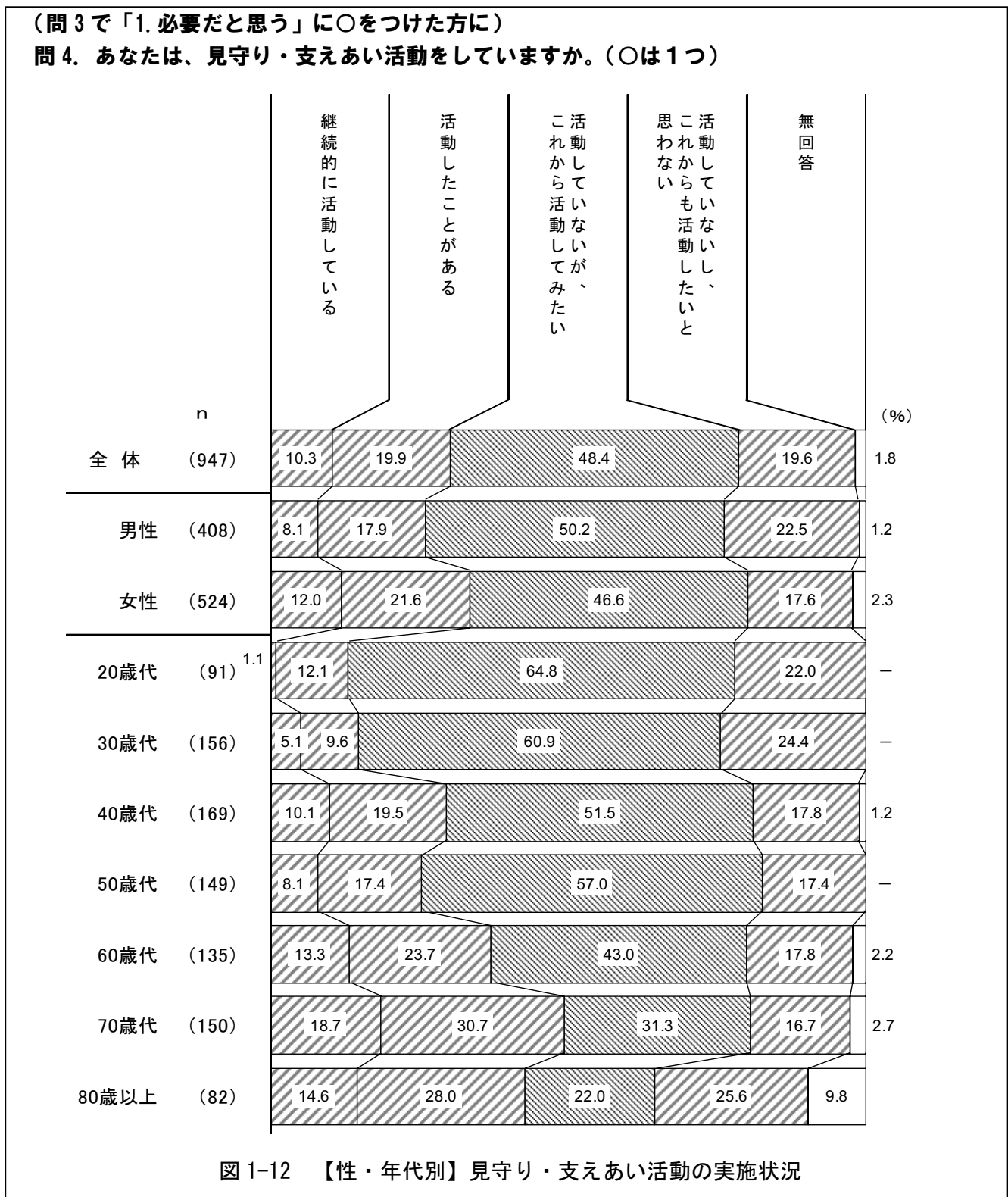
近隣同士の見守り・支えあい活動が必要だと思う方に、どのような見守り・支えあい活動が必要だと思うか聞いたところ、「日常的な声かけ」が65.0%と最も高くなっている。



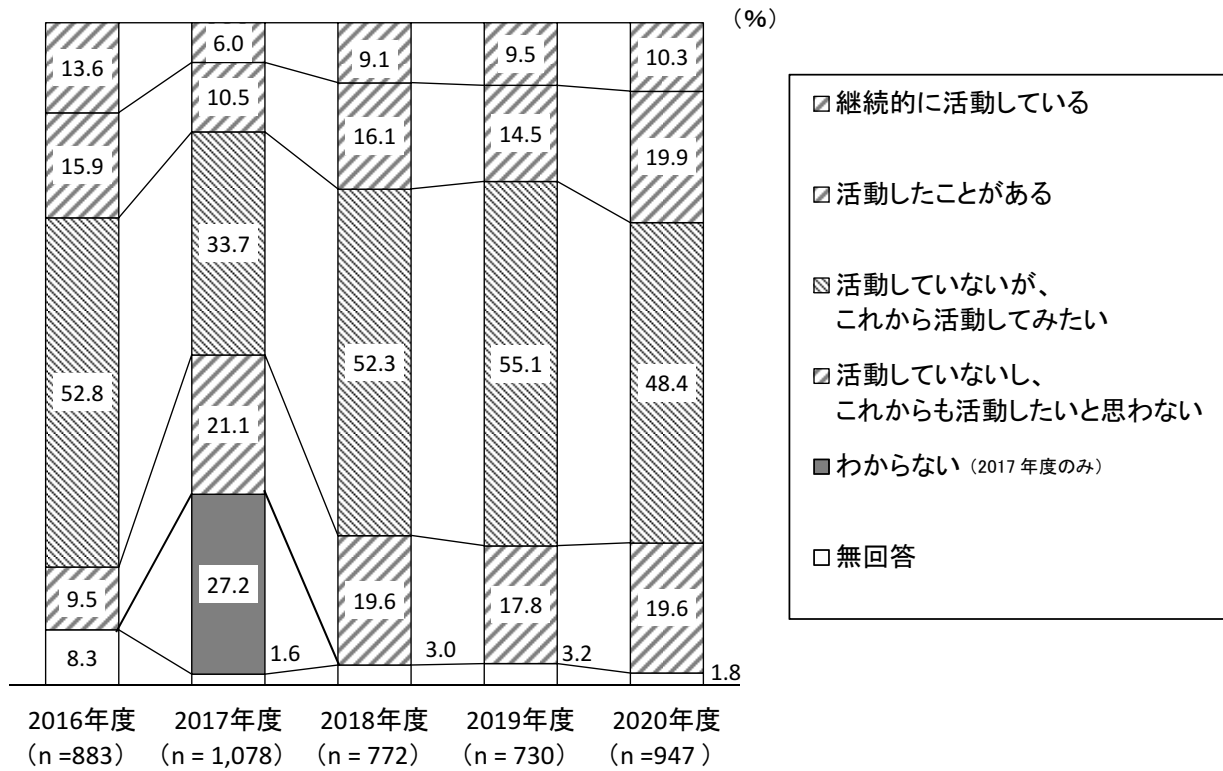
経年で比較すると、「日常的な声かけ」の割合が最も高いことに変化はない。

1.3.2. 見守り・支えあい活動の実施状況

◆見守り・支えあい活動を「これからしてみたい」人が4割台後半



見守り・支えあい活動の実施状況は、「活動していないが、これから活動してみたい」(48.4%)が最も高くなっている。性別にみると、女性の方が「継続的に活動している」と「活動したことがある」の割合が高くなっている。年代別にみると、20歳～70歳代までで「活動していないが、これから活動してみたい」の割合が最も高くなっている。



※2017年度は「全員の方」を調査対象としており、また、「わからない」の選択肢を設定していた。

図 1-13 【経年比較】見守り・支えあい活動の実施状況

経年で比較すると、2020年度は前年度と比較して、「継続的に活動している」、「活動したことがある」の割合が増加している。

1.3.3. 見守り・支えあい活動をしていない理由

◆見守り・支えあい活動をしていない理由は、「時間的な問題」が4割台半ば

(問4で「3. 活動していないが、これから活動してみたい」に○をつけた方に)

問4-1. 活動をしていない理由はなんですか。(○は1つ)

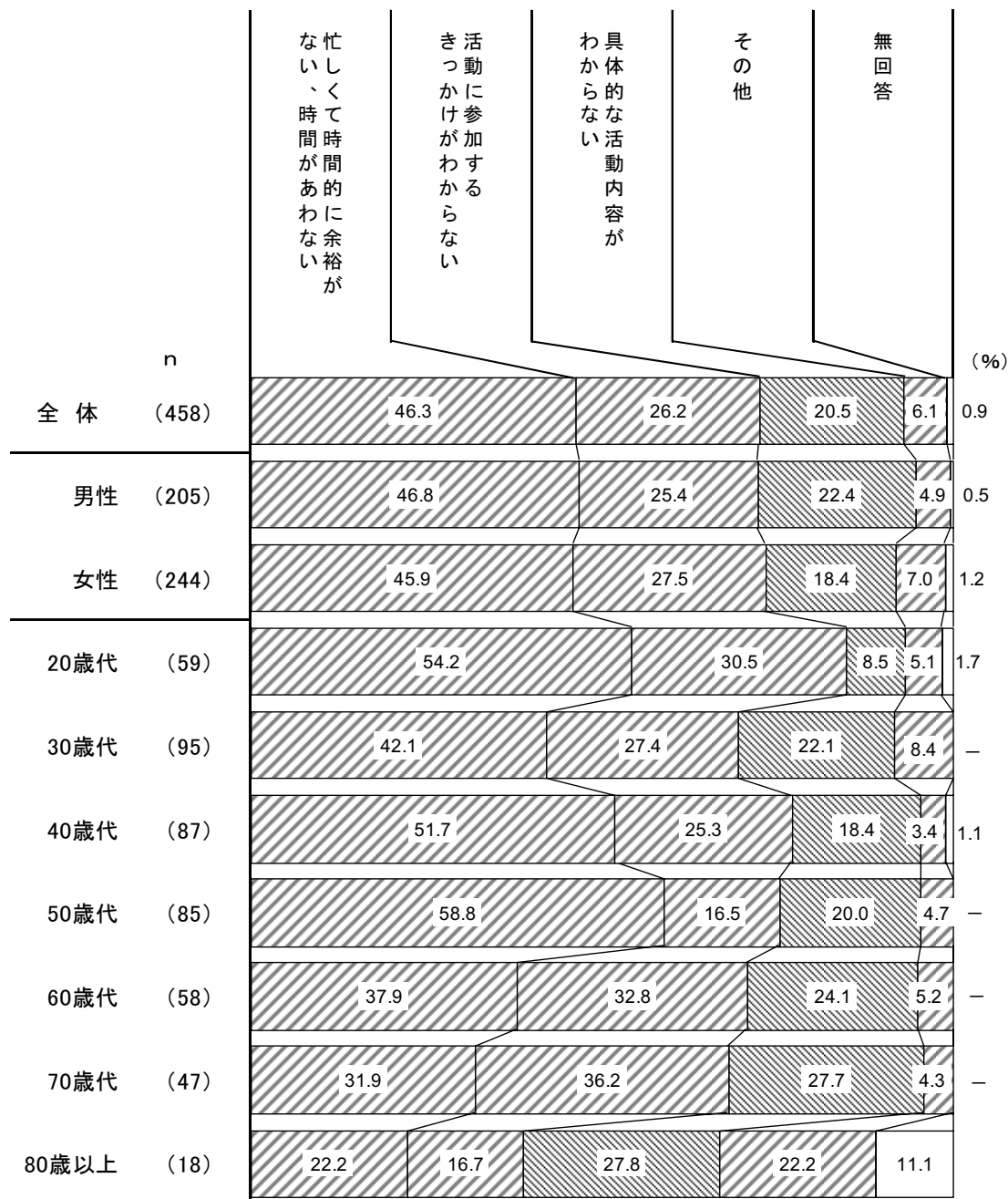


図1-14 【性・年代別】見守り・支えあい活動をしていない理由

見守り・支えあい活動をこれからしてみたい方に、活動をしていない理由を聞いたところ、「忙しくて時間的に余裕がない、時間があわない」(46.3%)が最も高くなっている。年代別にみると、50歳代で「忙しくて時間的に余裕がない、時間があわない」の割合が5割台後半と高くなっている。



1.3.4. 見守り・支えあい活動に参加するためのきっかけ

◆見守り・支えあい活動に参加するためのきっかけは、「情報誌やホームページ」が6割台半ば

(問 4-1 で「2. 活動に参加するきっかけがわからない」「3. 具体的な活動内容がわからない」に○をつけた方に)

問 4-2. どのようなきっかけや情報があれば活動に参加しようと思いますか。  
(あてはまるものすべてに○)

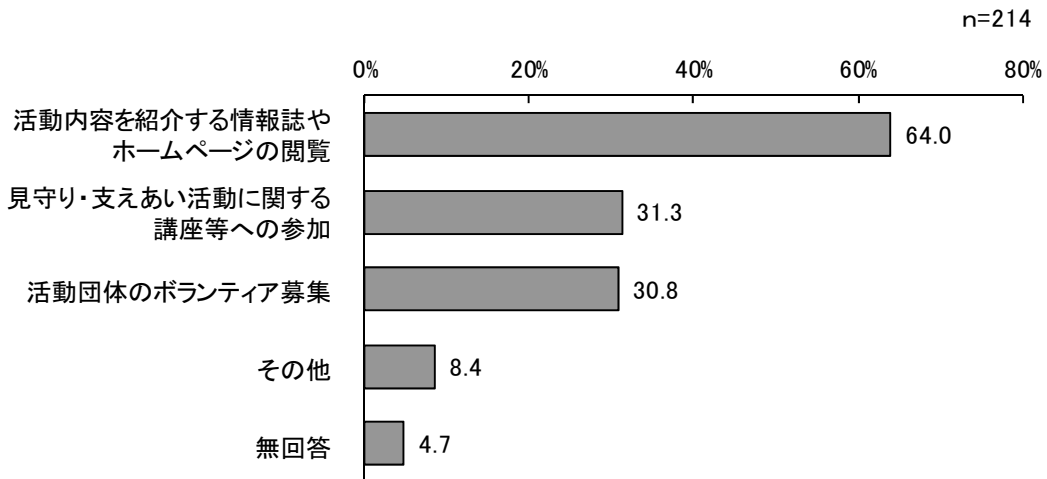


図 1-15 活動に参加するためのきっかけ

見守り・支えあい活動に参加するきっかけや活動内容が分からない方に、どのようなきっかけや情報があれば活動に参加しようと思うか聞いたところ、「活動内容を紹介する情報誌やホームページの閲覧」が64.0%と最も高くなっている。

表 1-1 【性・年代別】活動に参加するためのきっかけ

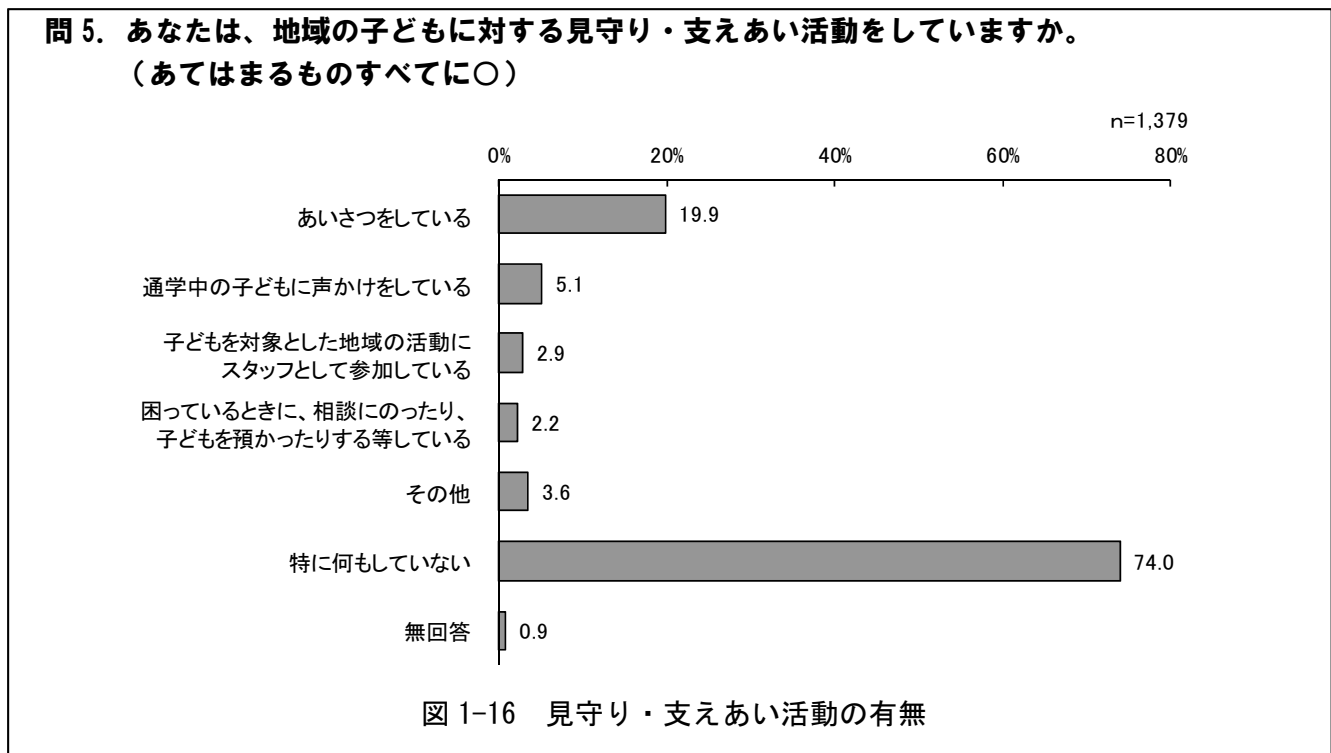
単位: %

区分	有効回答数 (件)	講座等への参加	見守り・支えあい	情報誌やホームページの閲覧	ボランティア募集	その他	無回答
全体	214	31.3	64.0	30.8	8.4	4.7	
男性	98	28.6	61.2	30.6	11.2	3.1	
女性	112	34.8	66.1	32.1	5.4	6.3	
20歳代	23	13.0	65.2	52.2	8.7	—	
30歳代	47	36.2	63.8	36.2	12.8	—	
40歳代	38	28.9	68.4	34.2	7.9	2.6	
50歳代	31	45.2	61.3	35.5	6.5	6.5	
60歳代	33	30.3	75.8	24.2	3.0	6.1	
70歳代	30	36.7	46.7	16.7	6.7	10.0	
80歳以上	8	12.5	62.5	—	12.5	25.0	

年代別にみると、いずれの年代でも「活動内容を紹介する情報誌やホームページの閲覧」の割合が高くなっている。

1.3.5. 地域の子どもに対する見守り・支えあい活動の有無

◆子どもに対する見守り・支えあい活動を「特に何もしていない」が7割台半ば



地域の子どもに対する見守り・支えあい活動の有無は、「特に何もしていない」が74.0%と最も高く、次いで「あいさつをしている」(19.9%)となっている。

表 1-2 【性・年代別】見守り・支えあい活動の有無

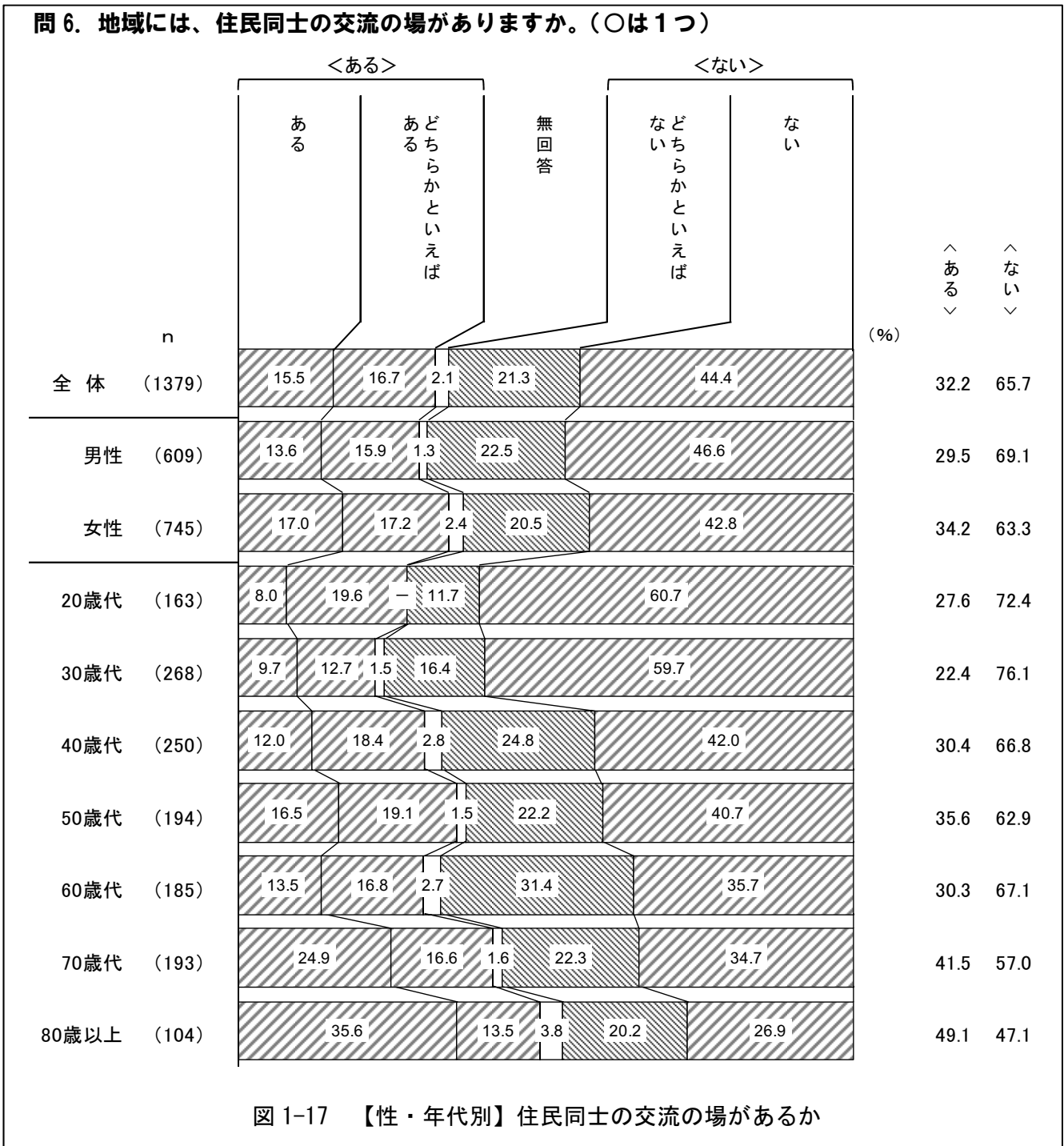
単位: %

区分	有効回答数(件)	困っているときに、相談にのったり、子どもを預かったりする等している	子どもを対象とした地域活動にスタッフとして参加している	通学中の子どもに声かけをしている	あいさつをしている	その他	特に何もしていない	無回答
全体	1,379	2.2	2.9	5.1	19.9	3.6	74.0	0.9
男性	609	1.6	2.5	2.6	15.8	2.6	78.5	0.7
女性	745	2.6	3.1	7.1	22.6	4.2	71.5	0.7
20歳代	163	—	—	—	4.9	—	95.1	—
30歳代	268	2.2	0.7	1.5	11.2	3.4	86.2	—
40歳代	250	5.2	4.0	5.2	22.8	4.0	69.6	—
50歳代	194	1.0	4.6	3.6	18.6	3.6	74.7	—
60歳代	185	2.7	4.3	5.4	21.6	2.7	73.5	0.5
70歳代	193	1.6	3.6	13.0	31.1	5.7	56.5	2.1
80歳以上	104	—	1.9	9.6	31.7	4.8	61.5	3.8

性別にみると、「特に何もしていない」は男性(78.5%)が女性(71.5%)を7ポイント上回っている。年代別にみると、いずれの年代でも「特に何もしていない」の割合が最も高く、また、若い年代ほどその割合が高い傾向がみられる。

1.4. 地域における住民同士の交流の場の有無

◆住民同士の交流の場が<ない>が6割台半ば



地域における住民同士の交流の場の有無は、「どちらかといえぱない」(21.3%)と「ない」(44.4%)を合わせた<ない>が6割台半ばであるのに対し、「ある」(15.5%)と「どちらかといえぱある」(16.7%)を合わせた<ある>は3割前半となっている。年代別にみると、80歳以上を除いて<ない>が<ある>を上回っている。

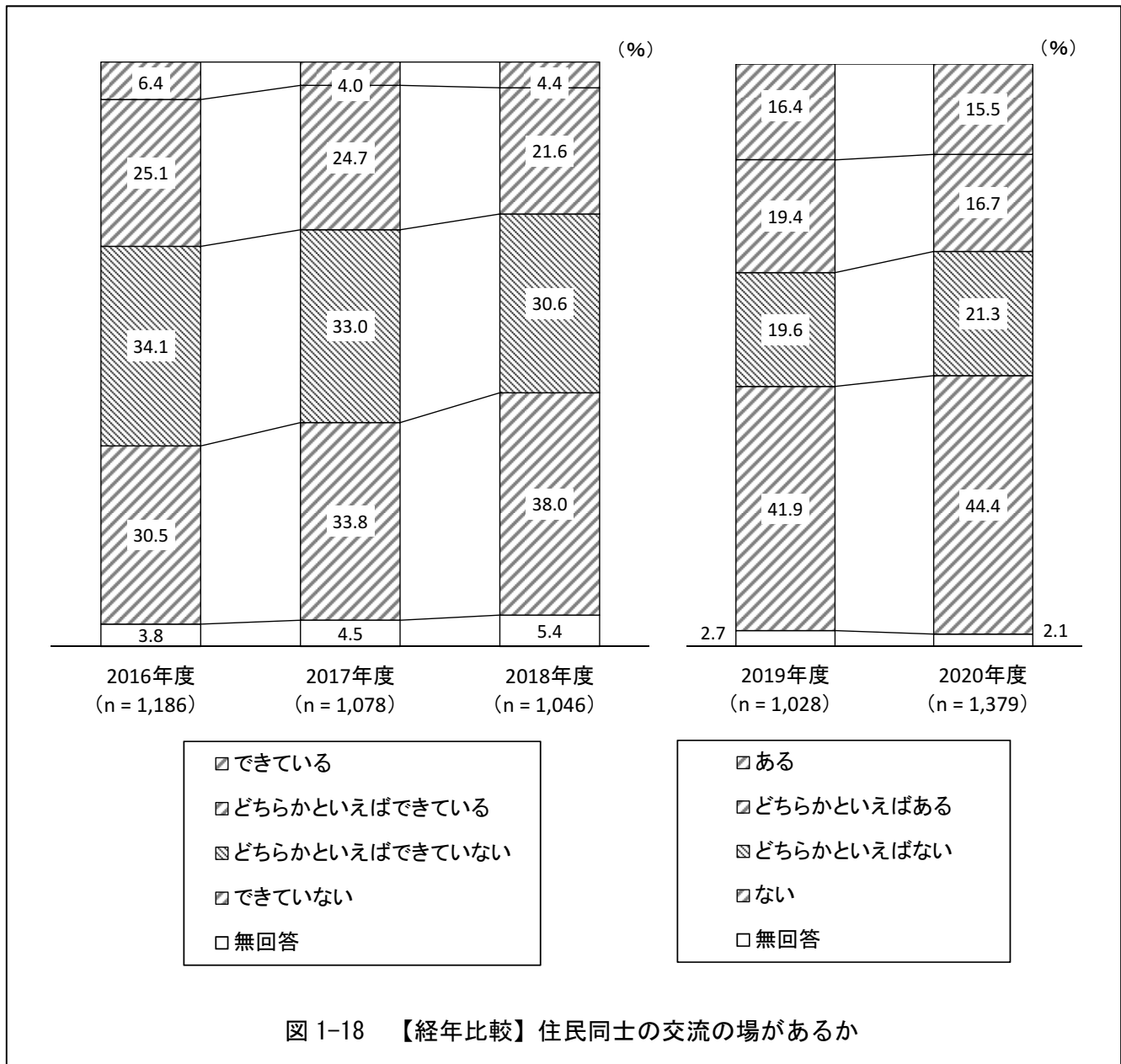


図 1-18 【経年比較】住民同士の交流の場があるか

2018 年度までは「交流する『場づくり』ができていないか」について調査しているため、参考として 2016 年度から 2018 年度までの結果を掲載する。2020 年度は前年度と比較して、「ある」(15.5%) と「どちらかといえばある」(16.7%) が減少している。

1.5. 街で困っている人の手助けをしたことの有無

◆街で困っている人の手助けをしたことが「ある」が4割台半ば

問7. あなたは、最近1年間に、街で困っている人の手助けをしたことがありますか。  
(〇は1つ)

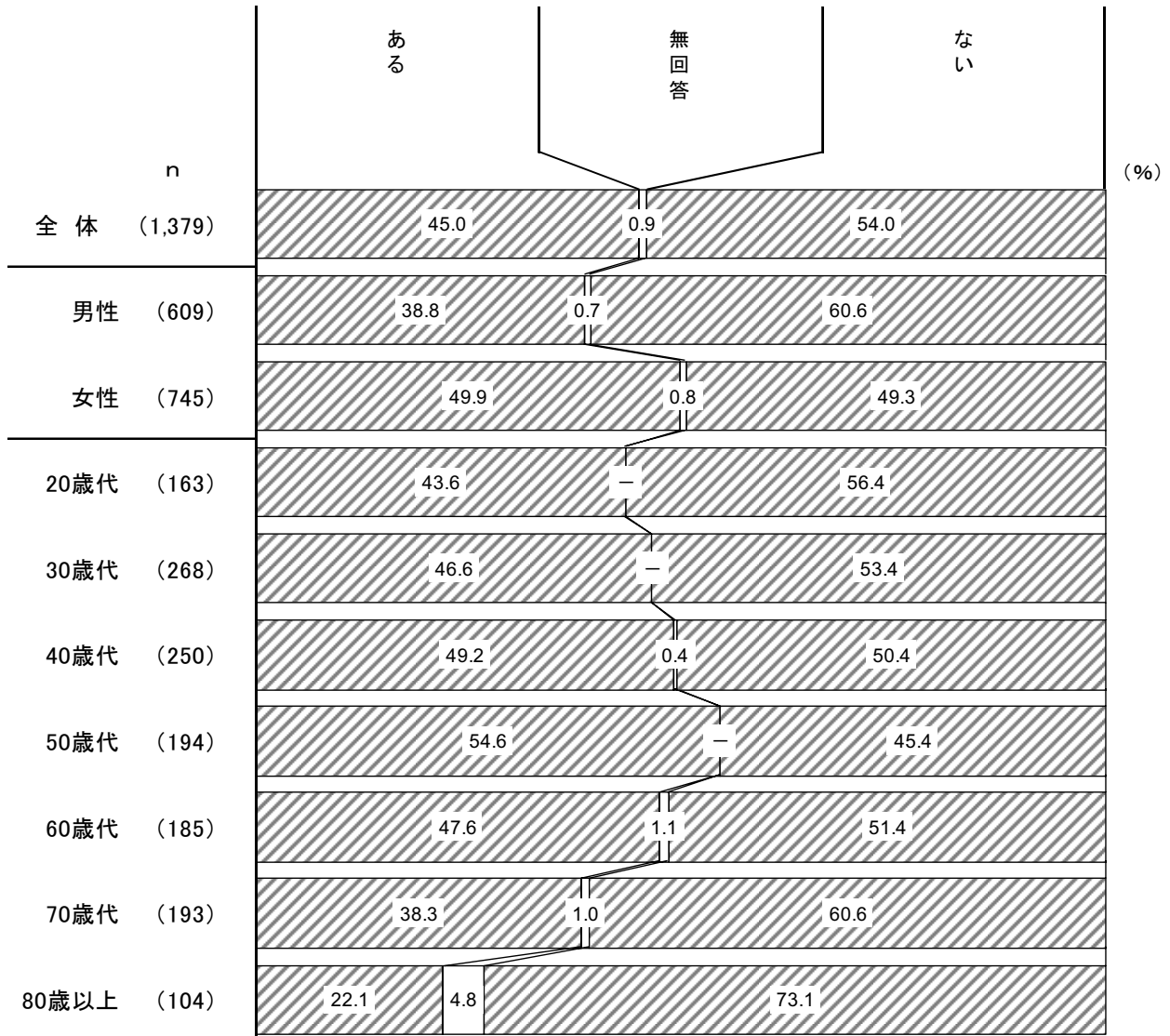
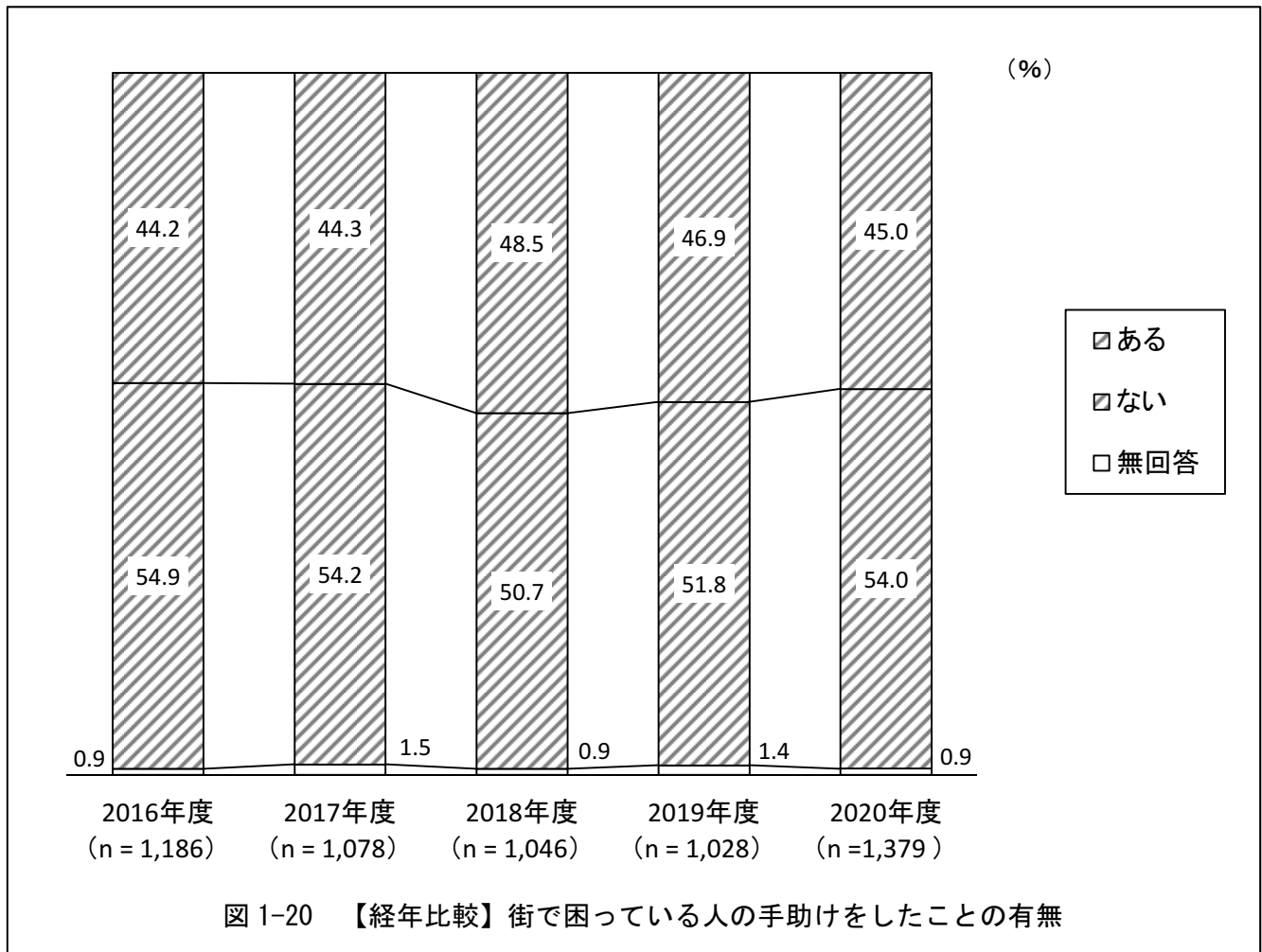


図1-19 【性・年代別】街で困っている人の手助けをしたことの有無

最近1年間に街で困っている人の手助けをしたことの有無は、「ある」が45.0%、「ない」が54.0%となっている。性別にみると、「ある」は女性(49.9%)が男性(38.8%)を約11ポイント上回っている。年代別にみると、50歳代のみ「ある」が「ない」を上回っている。



経年で比較すると、大きな差異はみられない。

1.5.1. 手助けをした人

◆手助けをした人は「高齢者」が約7割

(問7で「1. ある」に○をつけた方に)

問7-1. あなたが手助けをしたのはどのような人ですか。(あてはまるものすべてに○)

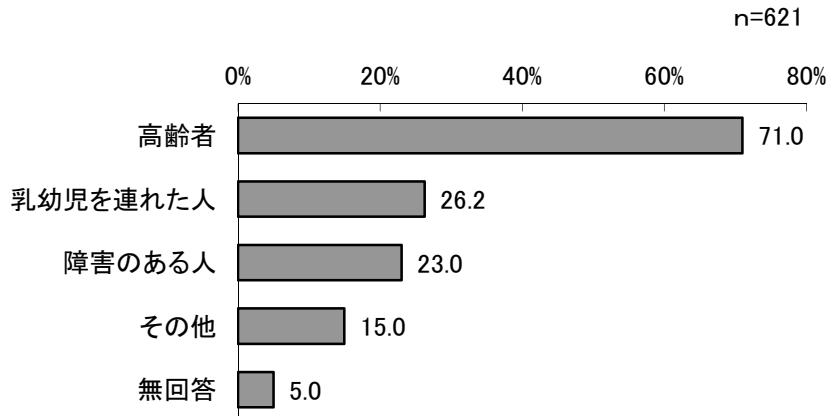


図 1-21 手助けをした人

最近1年間に街で困っている人の手助けをしたことがある方に、どのような人を手助けしたかを聞いたところ、「高齢者」が71.0%で最も高く、次いで「乳幼児を連れて来た人」(26.2%)となっている。

「その他」(15.0%)の回答は主に「外国人」、「妊婦」などとなっている。

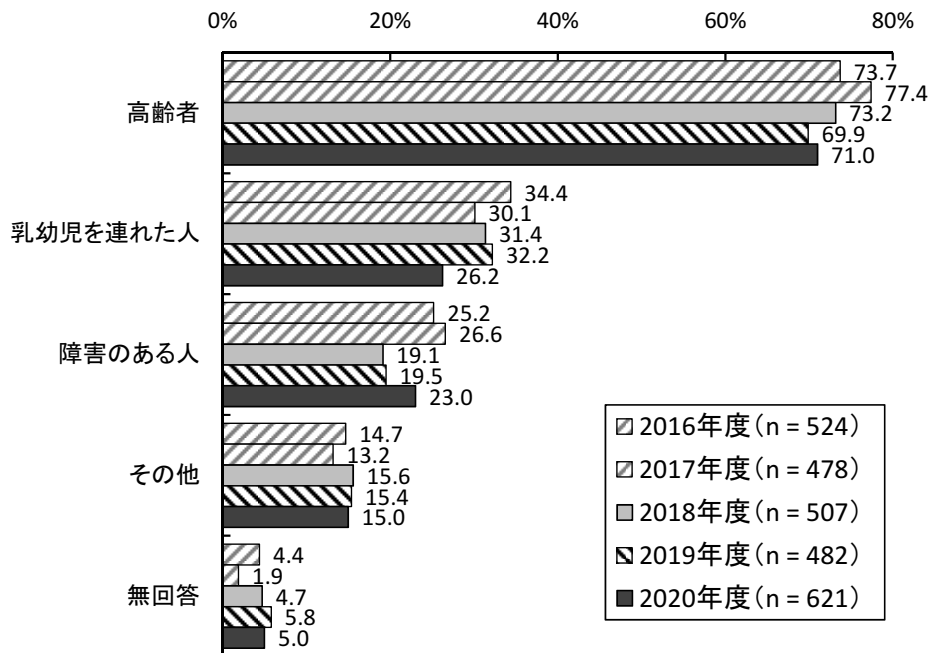
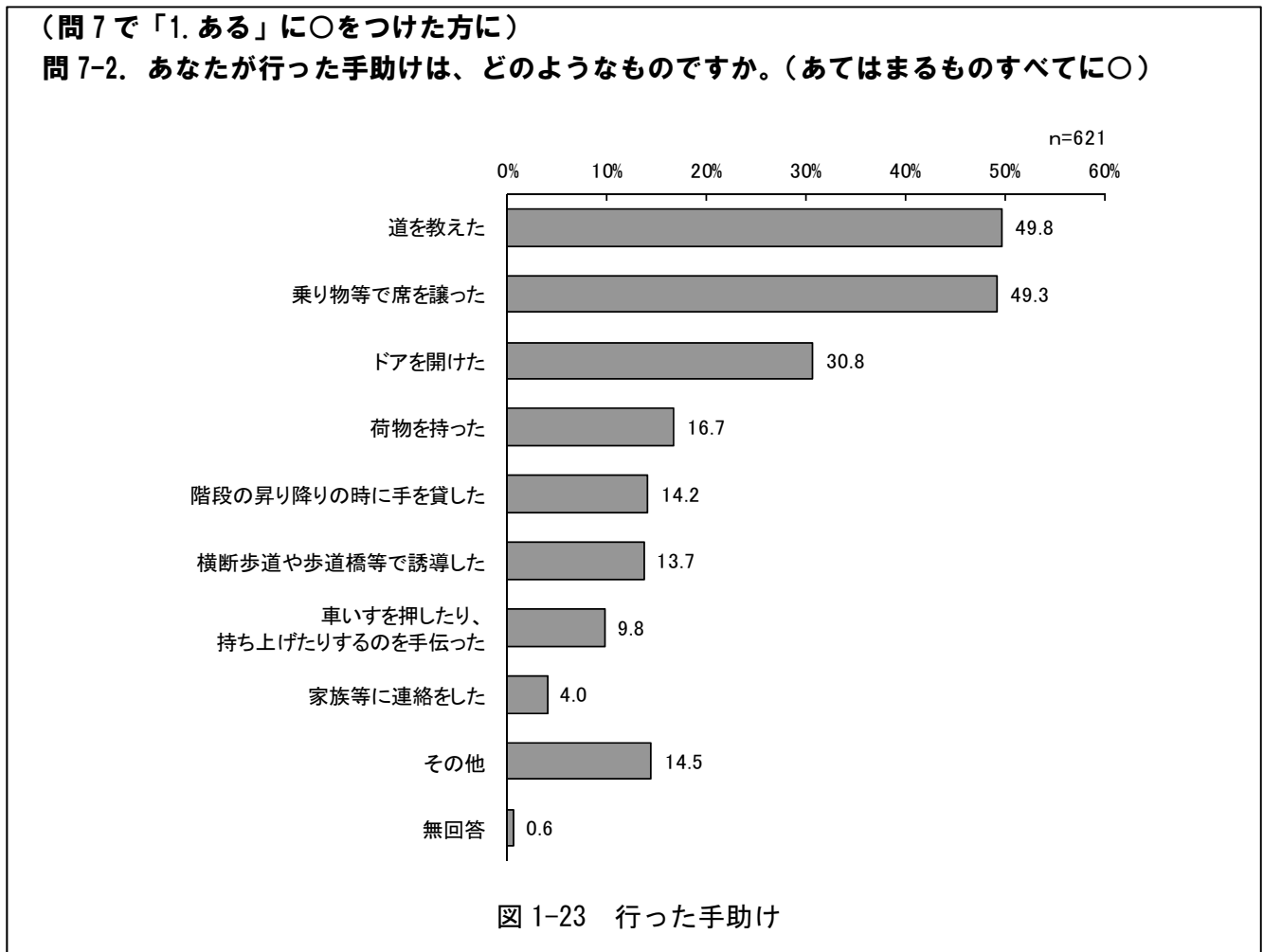


図 1-22 【経年比較】手助けをした人

経年で比較すると、2020年度に「乳幼児を連れて来た人」が2割台半ばまで減少したものの、大きな差異はみられない。

1.5.2. 行った手助け

◆行った手助けは「道を教えた」「乗り物等で席を譲った」が約5割



最近1年間に街で困っている人の手助けをしたことがある方に、行った手助けを聞いたところ、「道を教えた」が49.8%で最も高く、次いで「乗り物等で席を譲った」(49.3%)、「ドアを開けた」(30.8%)となっている。

「その他」(14.5%)としては「体調不良の人やけが人の介助・救助」、「転倒した人の手助け」、「ベビーカーの移動の手助け」などがあがっている。



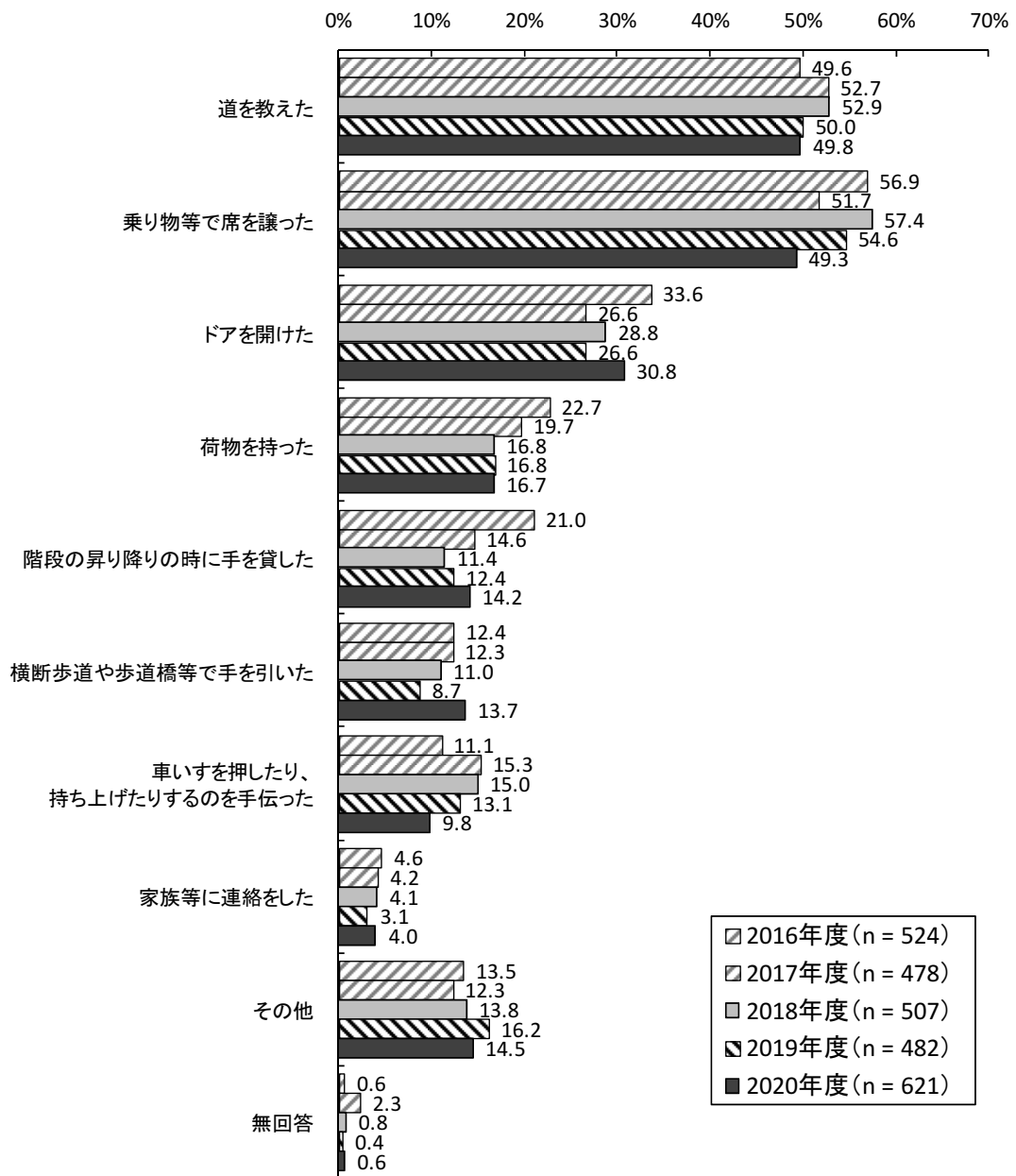


図 1-24 【経年比較】行った手助け

経年で比較すると、「乗り物等で席を譲った」、「荷物を持った」、「階段の昇り降りの時に手を貸した」は5年前と比べて6ポイント以上減少している。

1.6. 障害のある人となない人が共に地域社会で暮らしていくために重要な行政施策

◆障害のある人となない人が共に地域社会で暮らしていくために重要な行政施策は「障害のある人に配慮した公共建築物や公共住宅、交通機関の改善・整備」が3割台半ば

問8. 障害のある人となない人が共に地域社会で暮らしていくために、行政の施策としてどのようなことが重要だと思いますか。特に重要だと思うことを3つまでお選びください。(○は3つまで)

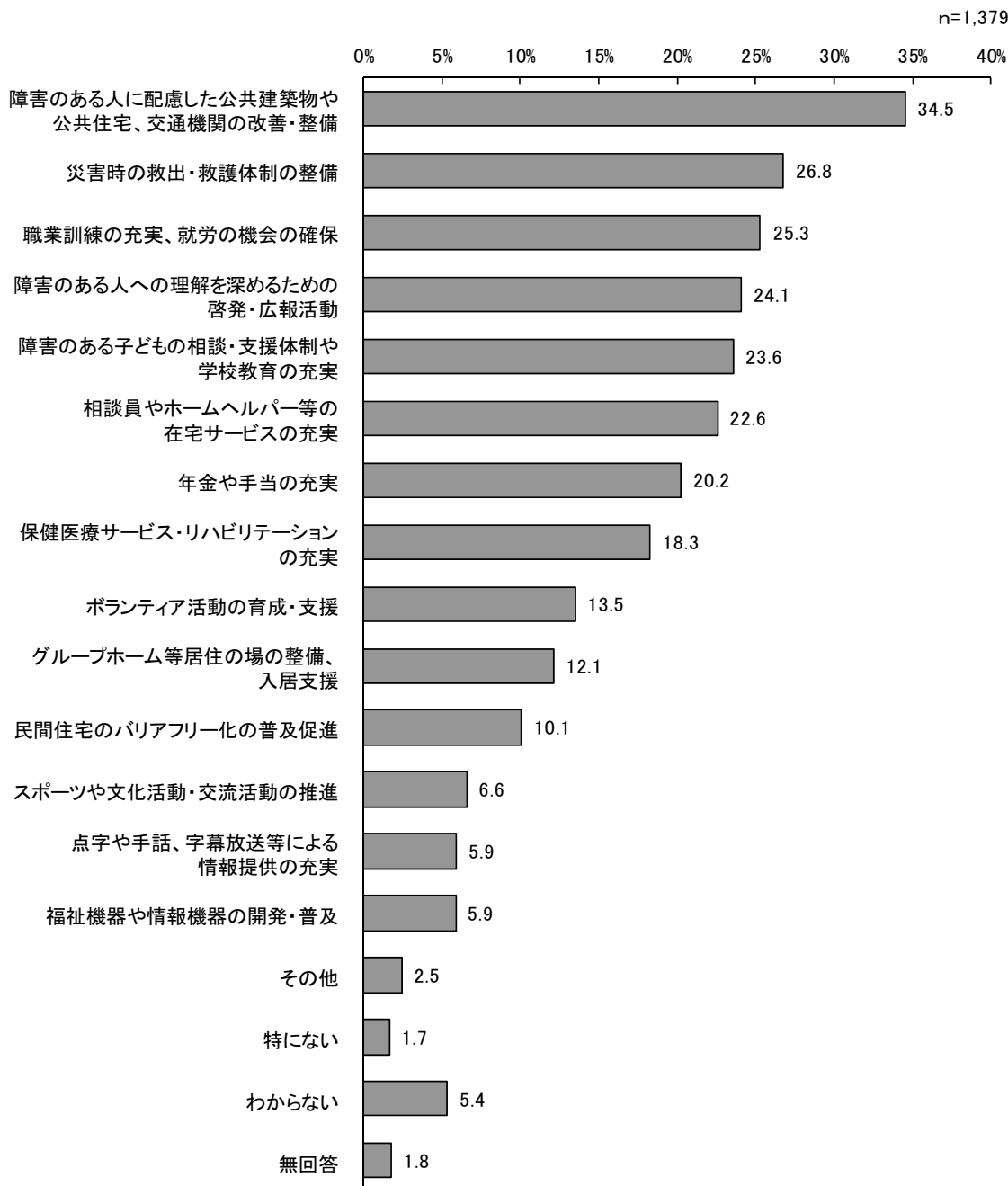


図 1-25 障害のある人となない人が共に地域社会で暮らしていくために重要な行政施策

障害のある人となない人が共に地域社会で暮らしていくために重要な行政施策は、「障害のある人に配慮した公共建築物や公共住宅、交通機関の改善・整備」が34.5%で最も高く、次いで「災害時の救出・救護体制の整備」(26.8%)、「職業訓練の充実、就労の機会の確保」(25.3%)、「障害のある人への理解を深めるための啓発・広報活動」(24.1%)となっている。

表 1-3 【年代別】上位5項目 障害のある人となない人が  
共に地域社会で暮らしていくために重要な行政施策

単位：%

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
20歳代 n=163	障害のある人に配慮した公共建築物や公共住宅、交通機関の改善・整備 36.8	職業訓練の充実、就労の機会の確保 28.8	災害時の救出・救護体制の整備 24.5	障害のある子どもの相談・支援体制や学校教育の充実 23.9	相談員やホームヘルパー等の在宅サービスの充実 20.9
30歳代 n=268	障害のある人に配慮した公共建築物や公共住宅、交通機関の改善・整備 36.9	障害のある子どもの相談・支援体制や学校教育の充実 34.3	職業訓練の充実、就労の機会の確保 33.2	障害のある人への理解を深めるための啓発・広報活動 23.5	災害時の救出・救護体制の整備 23.1
40歳代 n=250	障害のある人に配慮した公共建築物や公共住宅、交通機関の改善・整備 39.2	障害のある子どもの相談・支援体制や学校教育の充実 31.2	職業訓練の充実、就労の機会の確保 26.4	相談員やホームヘルパー等の在宅サービスの充実／災害時の救出・救護体制の整備	23.2
50歳代 n=194	障害のある人に配慮した公共建築物や公共住宅、交通機関の改善・整備 38.7	障害のある人への理解を深めるための啓発・広報活動 27.8	相談員やホームヘルパー等の在宅サービスの充実 25.8	職業訓練の充実、就労の機会の確保 25.3	災害時の救出・救護体制の整備 24.2
60歳代 n=185	災害時の救出・救護体制の整備 38.9	障害のある人に配慮した公共建築物や公共住宅、交通機関の改善・整備 35.1	障害のある人への理解を深めるための啓発・広報活動 26.5	相談員やホームヘルパー等の在宅サービスの充実 21.6	ボランティア活動の育成・支援／保健医療サービス・リハビリテーションの充実 20.5
70歳代 n=193	障害のある人に配慮した公共建築物や公共住宅、交通機関の改善・整備 31.6	災害時の救出・救護体制の整備 26.9	年金や手当の充実 25.9	保健医療サービス・リハビリテーションの充実 24.4	職業訓練の充実、就労の機会の確保／障害のある人への理解を深めるための啓発・広報活動 23.3
80歳以上 n=104	災害時の救出・救護体制の整備 29.8	障害のある人への理解を深めるための啓発・広報活動 26.0	保健医療サービス・リハビリテーションの充実 24.0	相談員やホームヘルパー等の在宅サービスの充実 22.1	年金や手当の充実 16.3

障害のある人となない人が共に地域社会で暮らしていくために重要な行政施策を年代別にみると、20歳～50歳代と70歳代では「障害のある人に配慮した公共建築物や公共住宅、交通機関の改善・整備」が、60歳代と80歳代では「災害時の救出・救護体制の整備」が1位となっている。

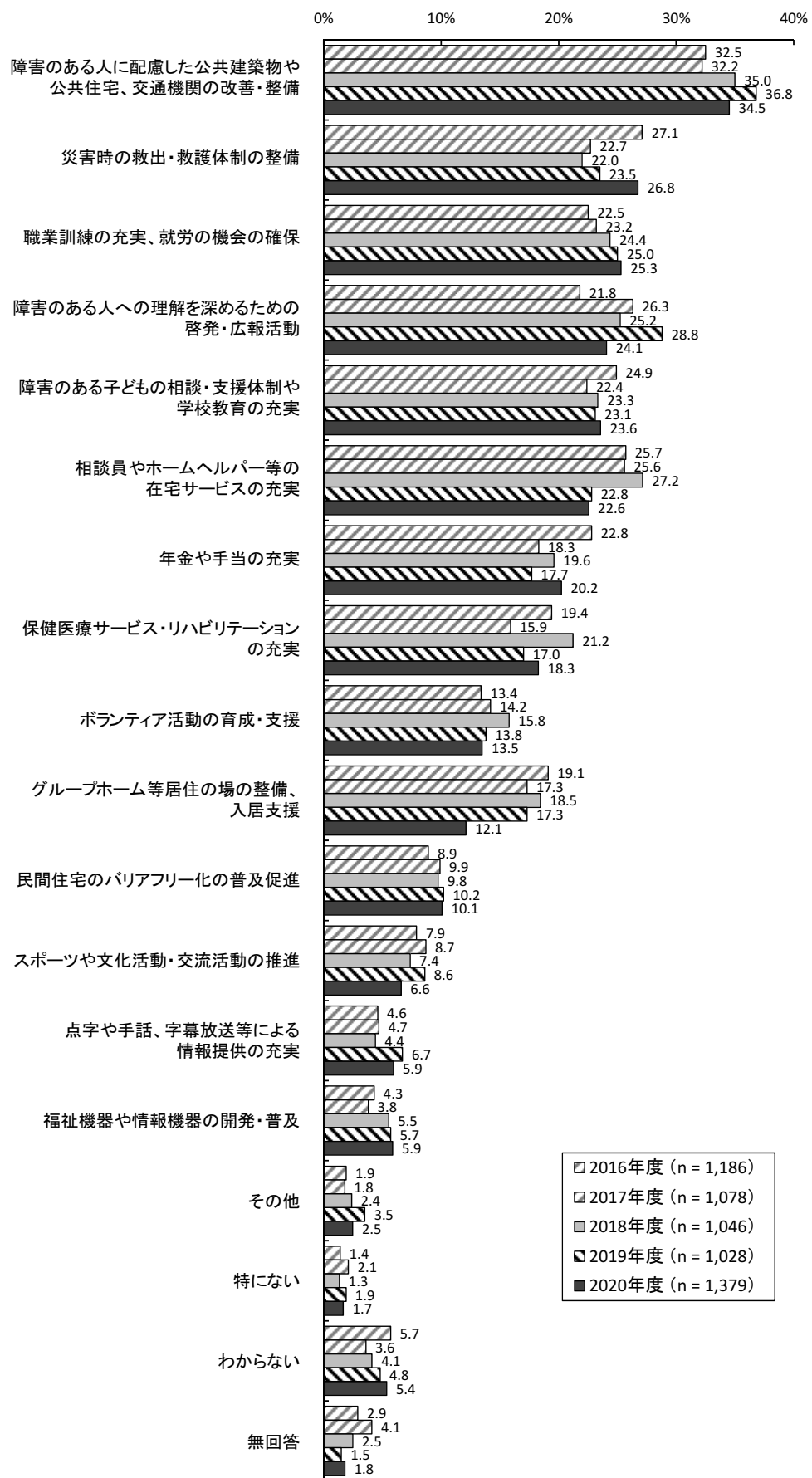


図 1-26 【経年比較】障害のある人とない人が共に地域社会で暮らしていくために重要な行政施策

経年で比較すると、「職業訓練の充実、就労の機会の確保」が増加している。

1.7. 民生委員の活動の認知度

◆民生委員を<知っている>割合は、6割台半ば

問9. 身近な相談相手として、民生委員（児童委員も兼ねます）が地域で活動していることをご存じですか。（○は1つ）

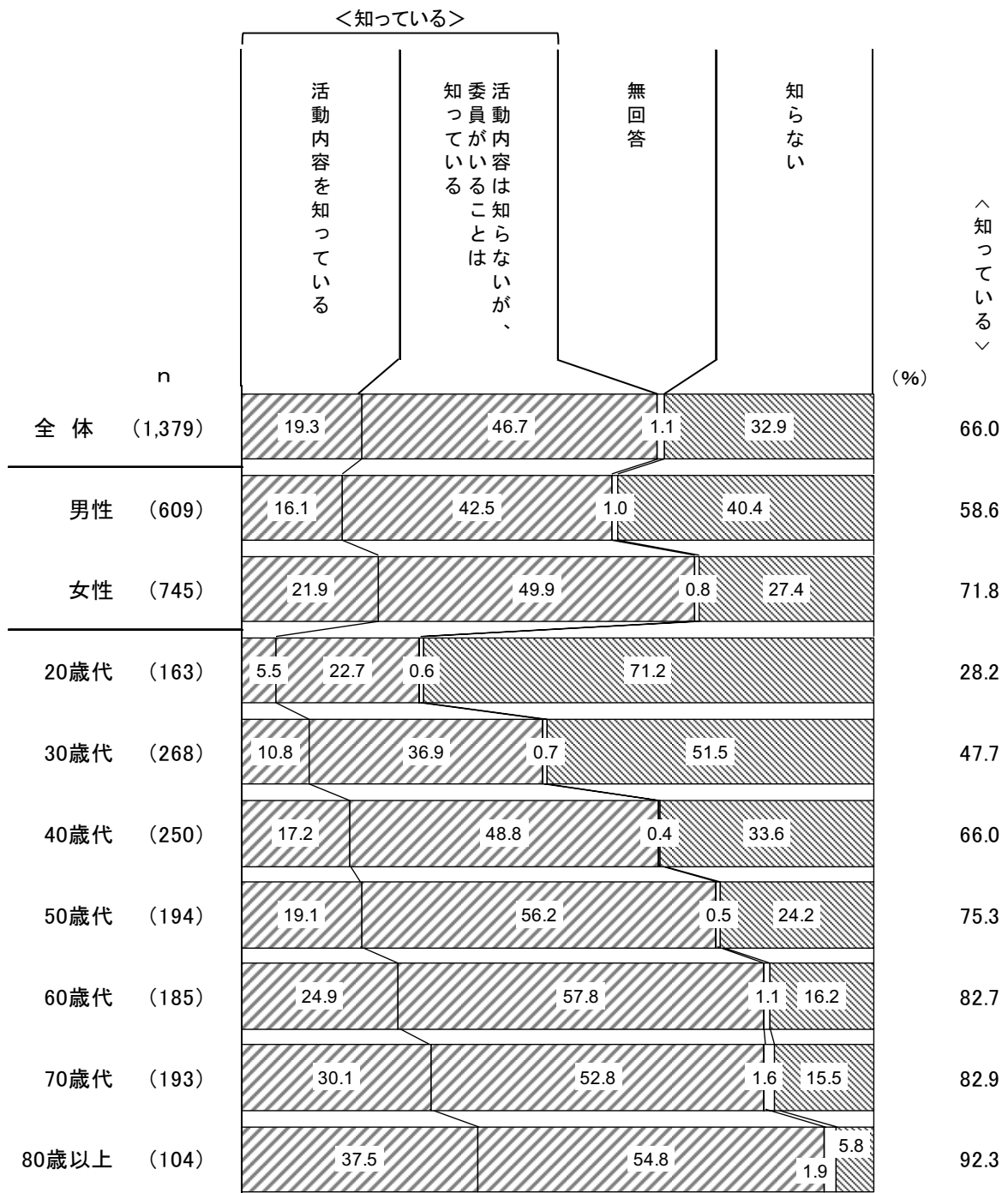


図 1-27 【性・年代別】民生委員の活動の認知度

民生委員の活動の認知度は、「活動内容を知っている」（19.3%）と「活動内容は知らないが、委員がいることは知っている」（46.7%）を合わせた<知っている>で 66.0%となっている。性別にみると、<知っている>は女性（71.8%）が男性（58.6%）を約 13 ポイント上回っている。年代別にみると、<知っている>は年代が上がるほど増加しており、80 歳代以上では 9 割を超えている。

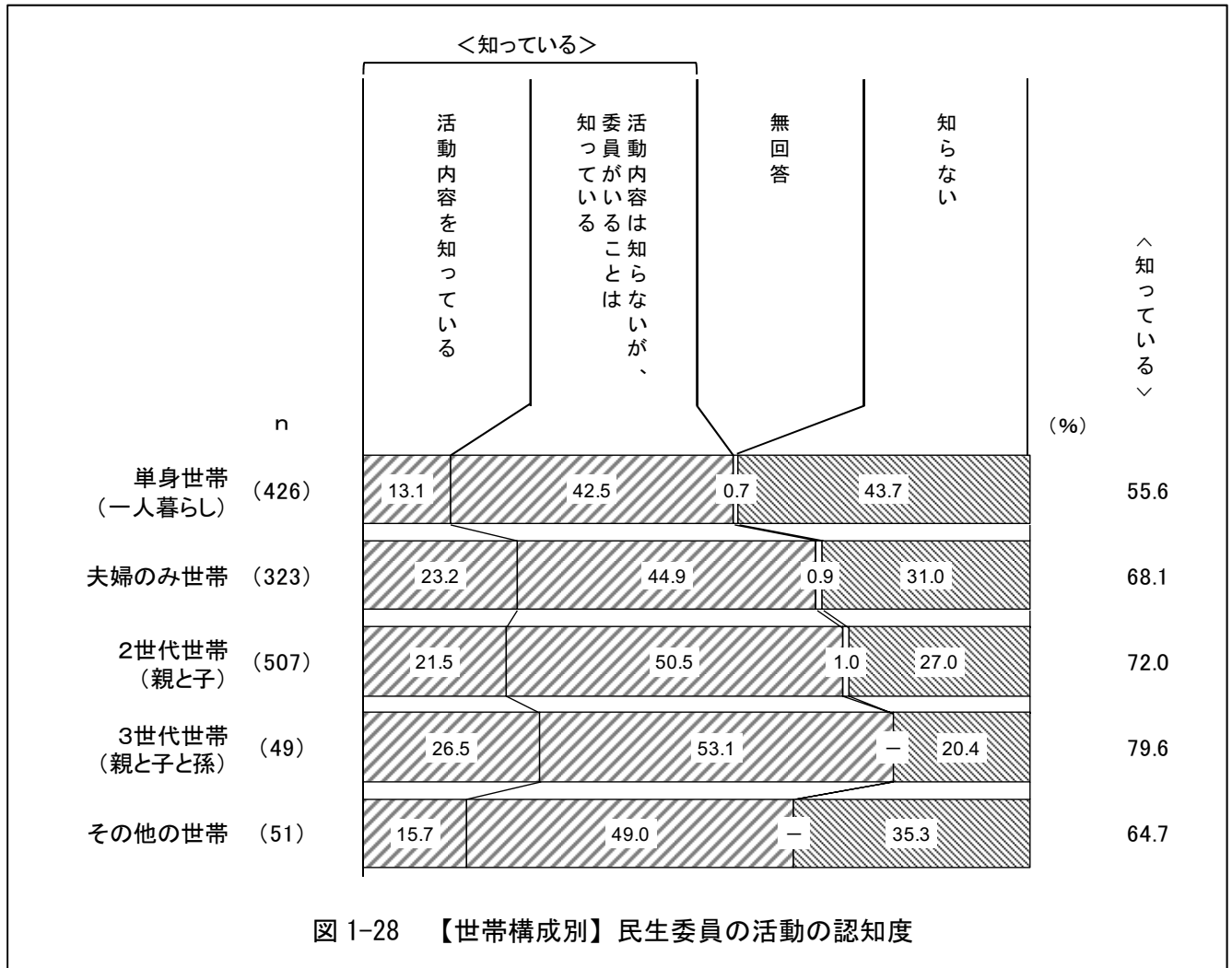


図 1-28 【世帯構成別】民生委員の活動の認知度

世帯構成別にみると、3世代世帯（親と子と孫）で<知っている>が約8割と高くなっている。

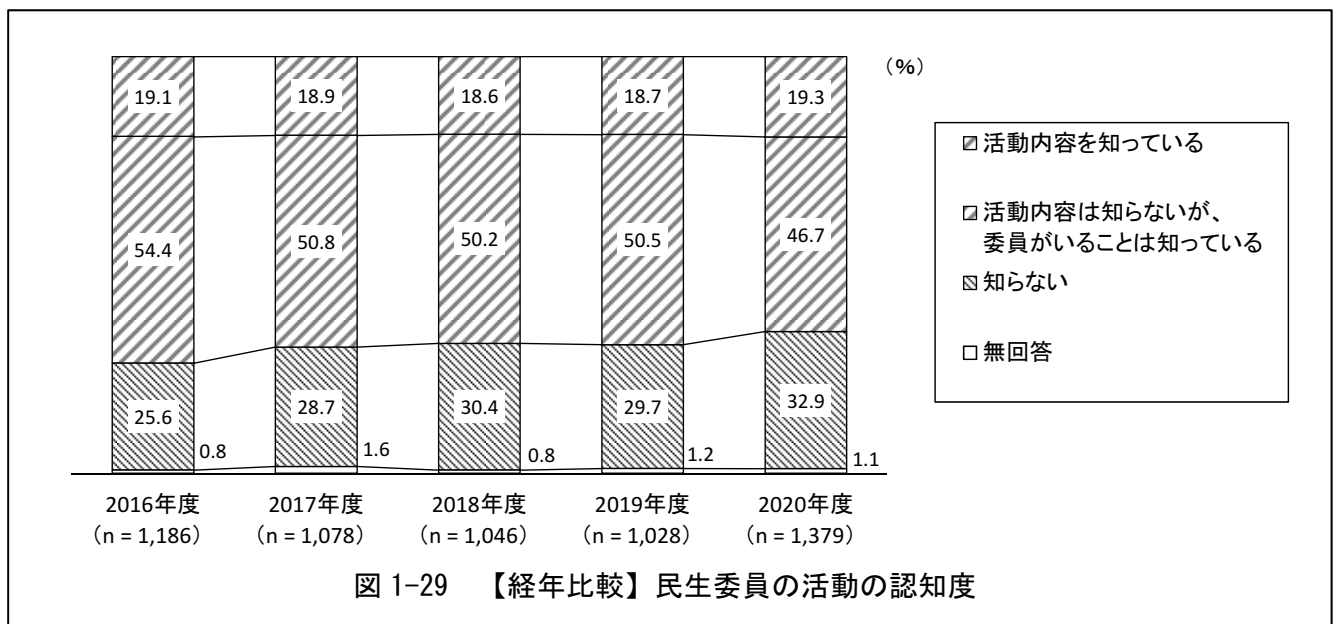
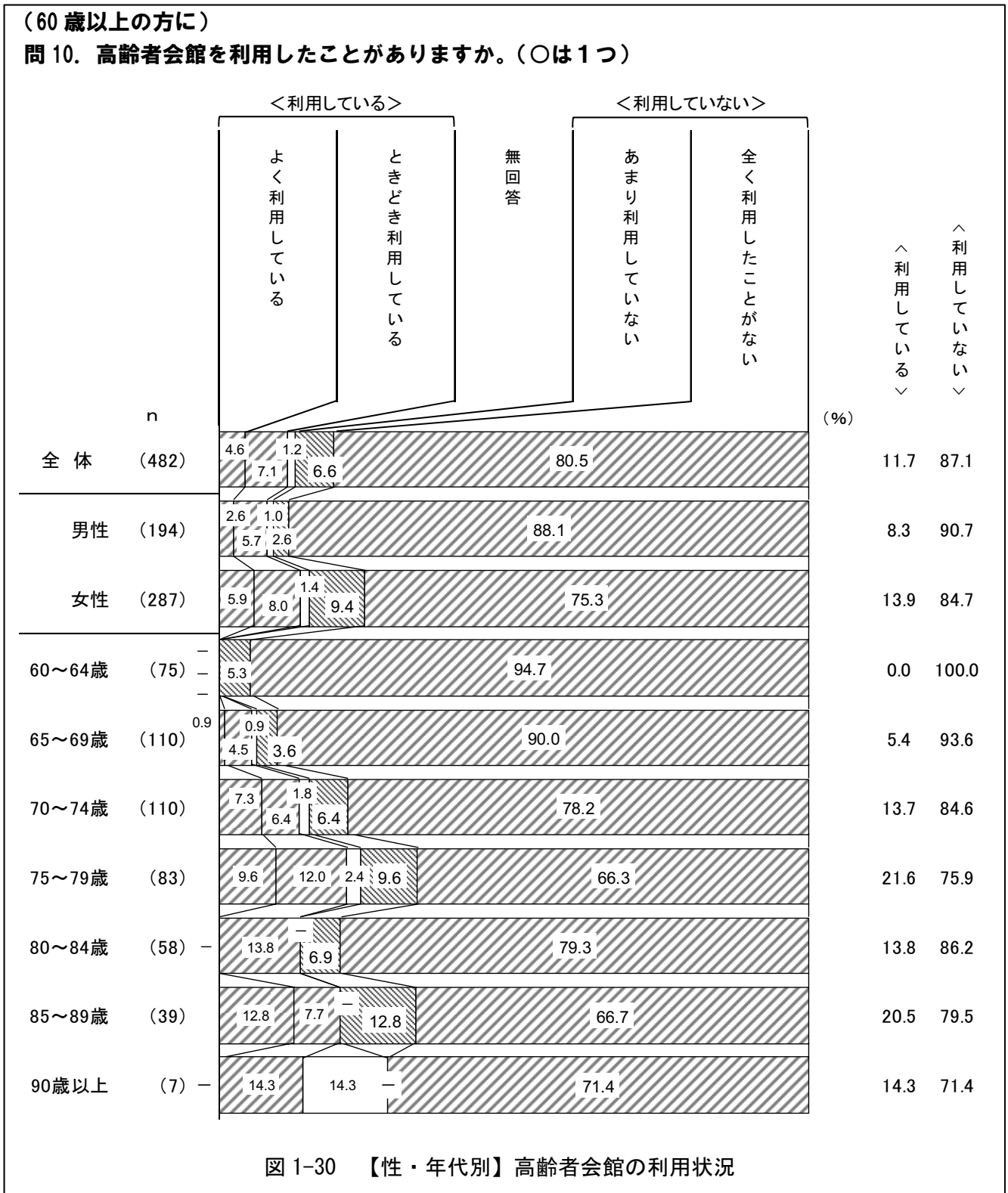


図 1-29 【経年比較】民生委員の活動の認知度

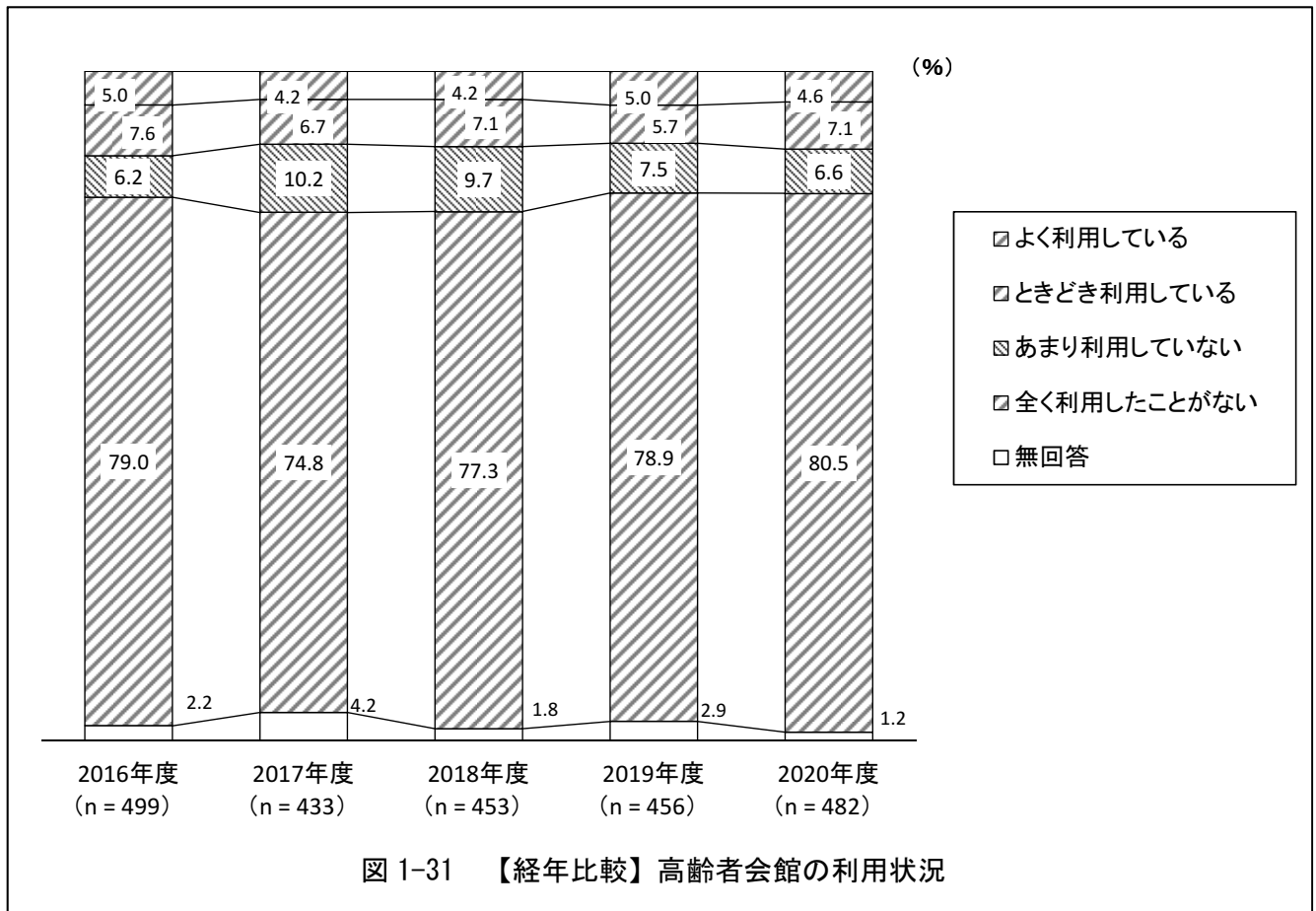
経年で比較すると、「知らない」が増加傾向にある。

1.8. 高齢者会館の利用状況

◆高齢者会館を<利用している>は約1割



60歳以上の方に高齢者会館の利用状況を聞いたところ、「よく利用している」(4.6%)と「ときどき利用している」(7.1%)を合わせた<利用している>は11.7%となっている。性別では、<利用している>は女性(13.9%)が男性(8.3%)を約6ポイント上回っている。年代別にみると、75歳~79歳と85~89歳で<利用している>が約2割と高くなっている。



経年で比較すると、大きな差異はみられない。



1.8.1. 高齢者会館を利用していない理由

◆高齢者会館を利用していない理由は「行く必要を感じないから」が5割台半ば

(問10で「3. あまり利用していない」「4. 全く利用したことがない」に○をつけた方に)  
問10-1. 利用していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

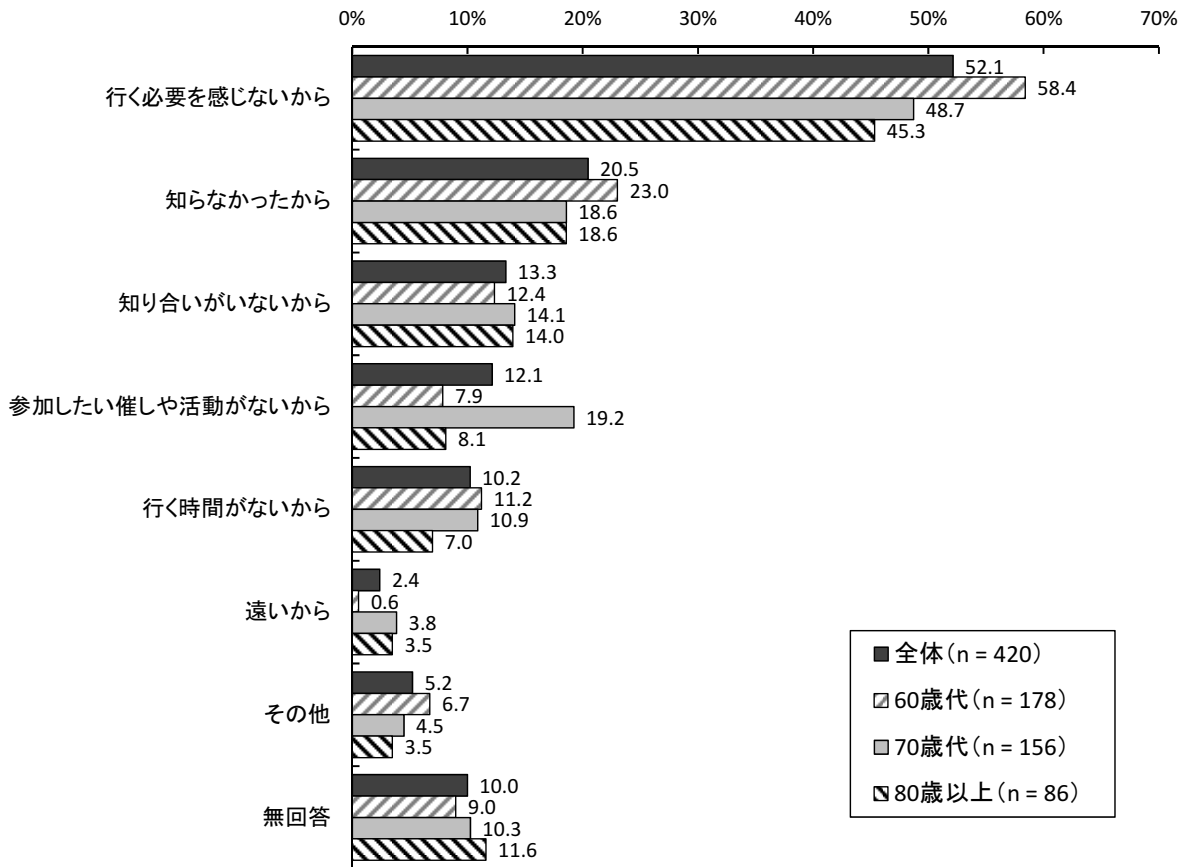


図 1-32 【年代別】高齢者会館を利用していない理由

高齢者会館を利用していない方にその理由を聞いたところ、「行く必要を感じないから」が52.1%で最も高く、次いで「知らなかったから」(20.5%)、「知り合いがないから」(13.3%)となっている。年代別にみると、いずれの年代でも「行く必要を感じないから」が最も高く、特に60歳代で5割台後半となっている。

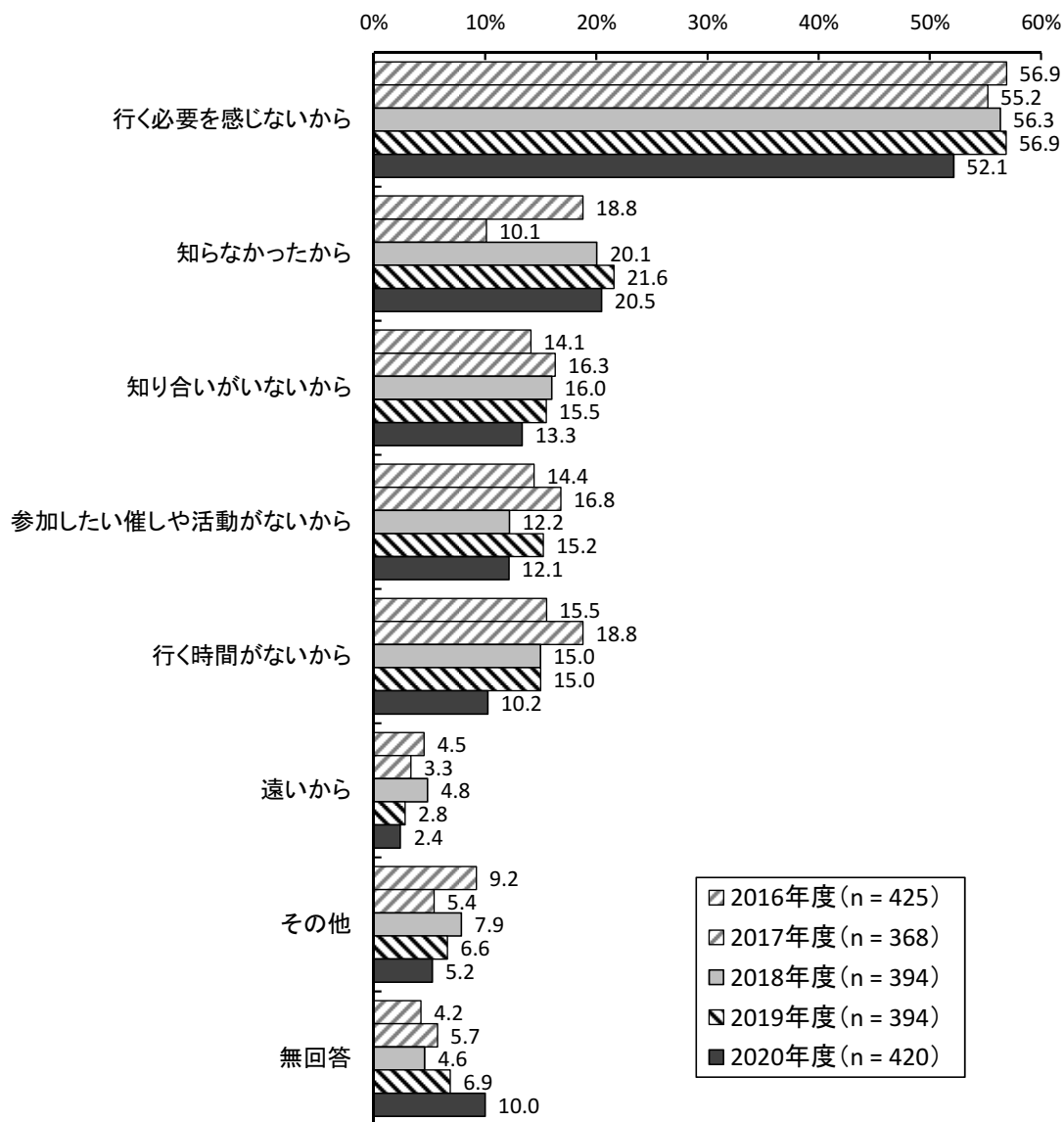


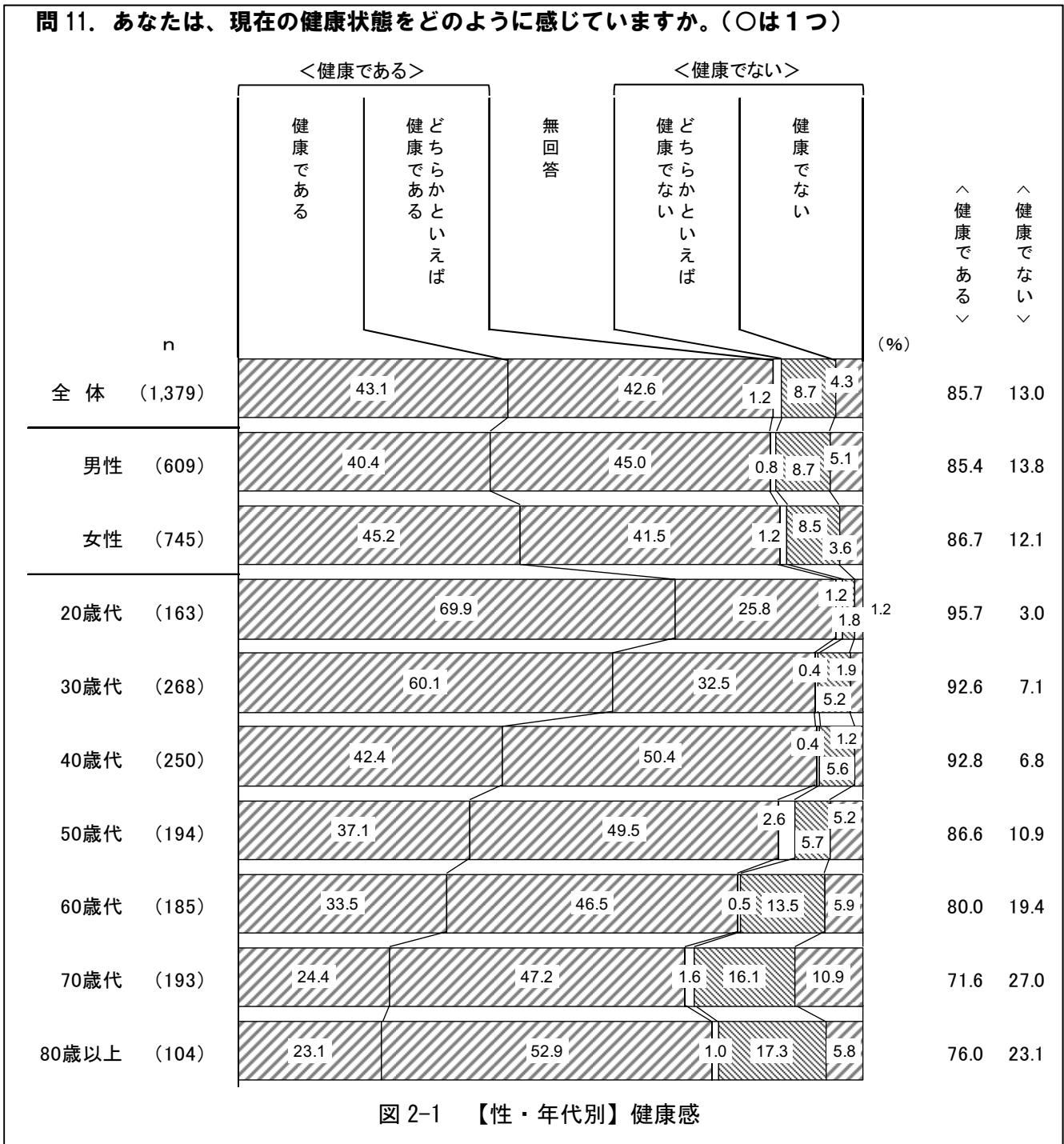
図 1-33 【経年比較】高齢者会館を利用していない理由

経年で比較すると、「行く必要を感じないから」は5割台前半から半ばで推移している。

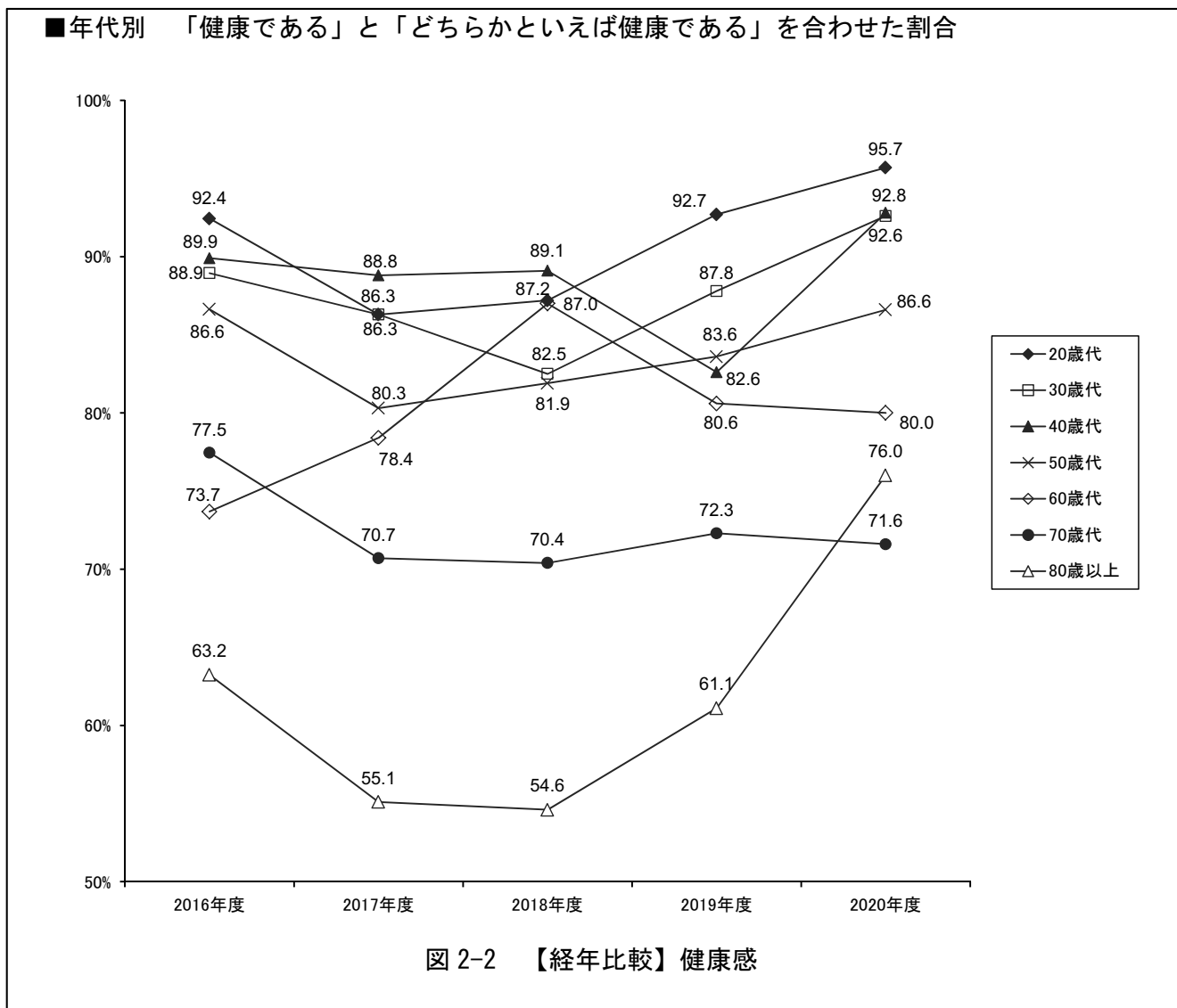
## 2. 医療・健康について

### 2.1. 健康感

#### ◆「健康である」と感じる人の割合は年代が上がるにつれ減少



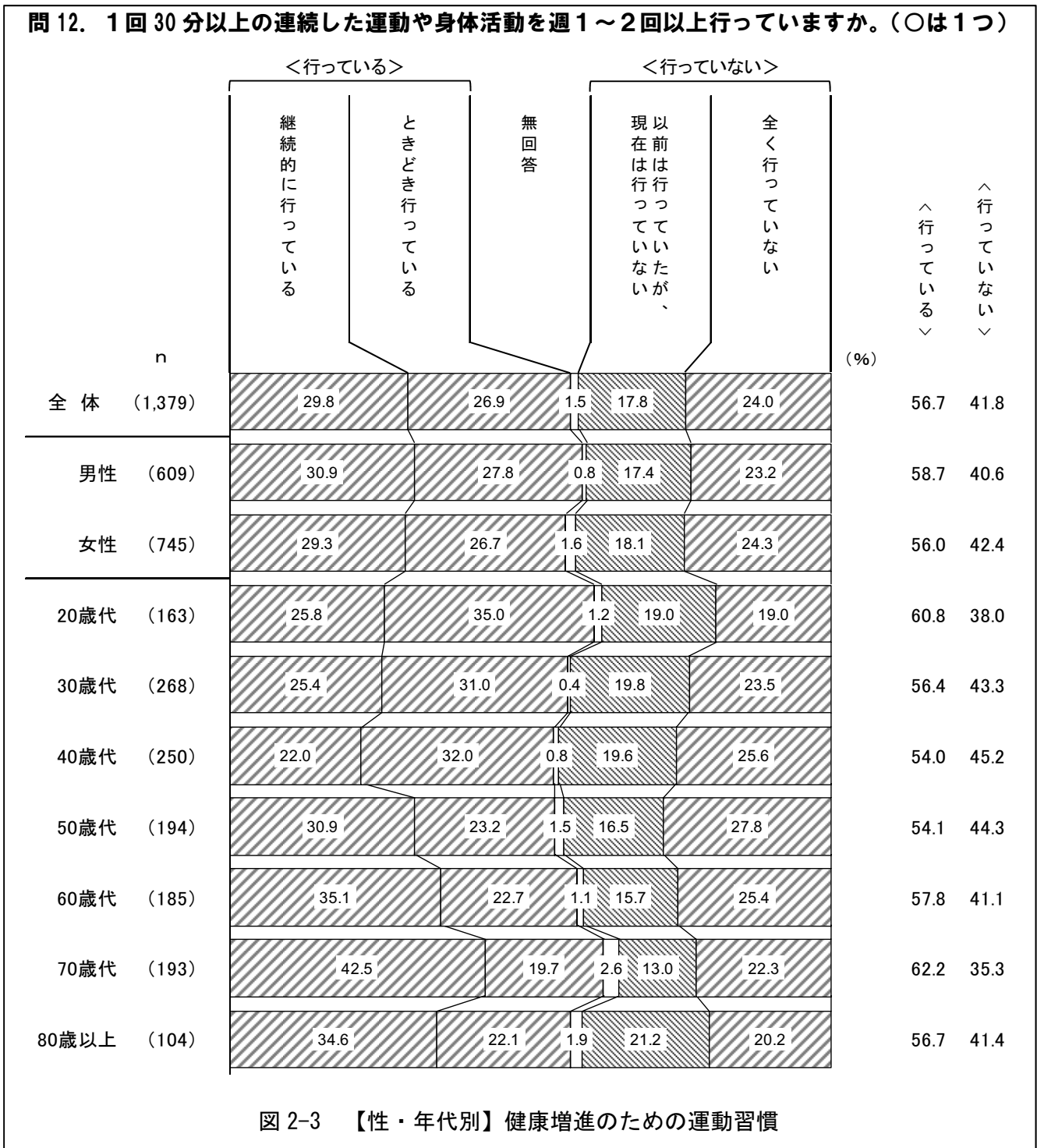
現在の健康状態をどのように感じているかについては、「健康である」(43.1%)と「どちらかといえば健康である」(42.6%)を合わせた<健康である>で85.7%となっている。性別にみると、「健康である」は女性(45.2%)が男性(40.4%)を約5ポイント上回っている。年代別にみると、<健康である>は20歳~40歳代で9割を超えて高くなっている。



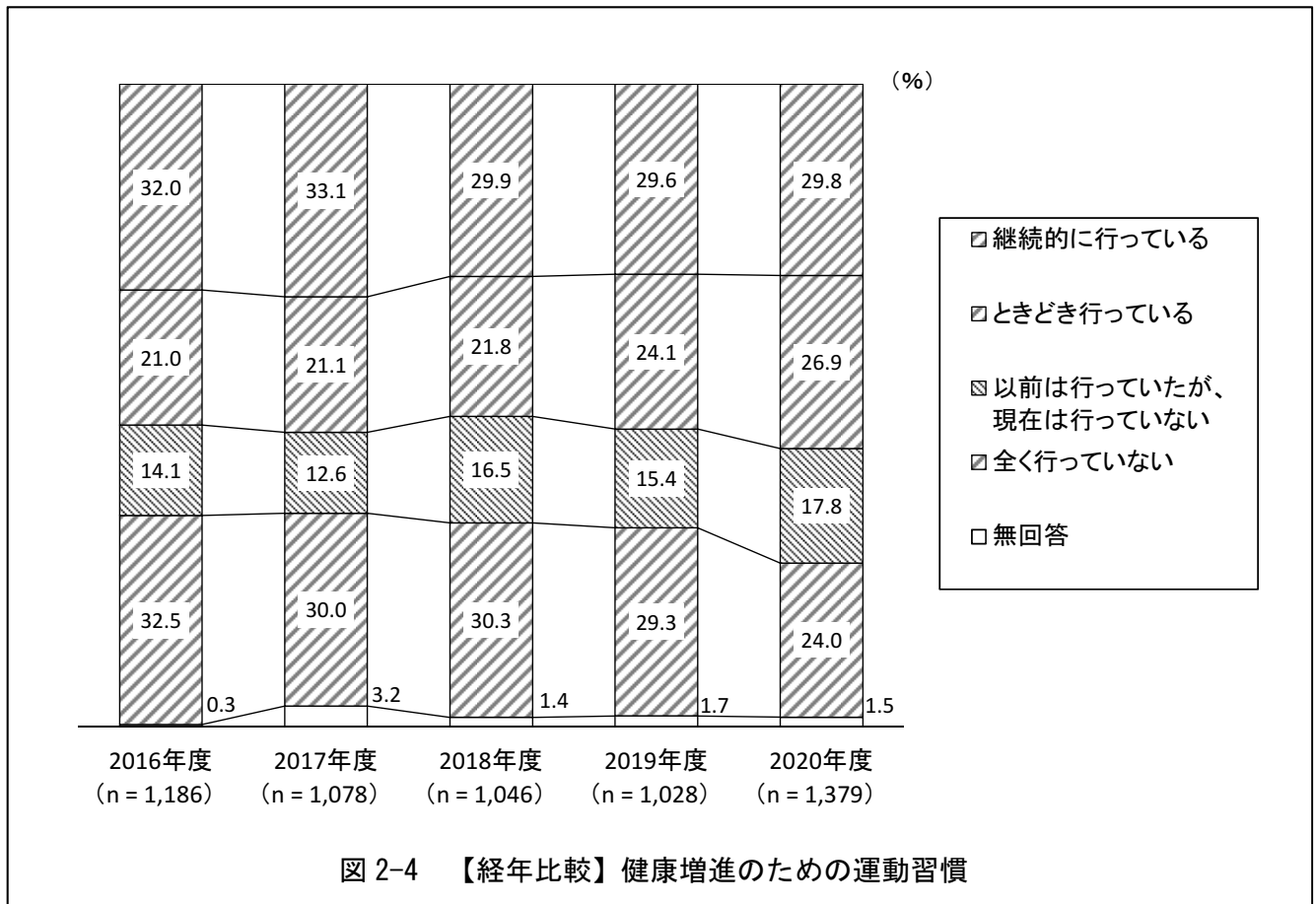
経年で比較すると、80歳以上の「健康である」と「どちらかといえば健康である」を合わせた割合が2018年度までは減少したが、その後大きく増加している。

2.2. 健康増進のための運動習慣

◆ 1回30分以上の運動を週に1～2回以上<行っている>割合は5割台半ば



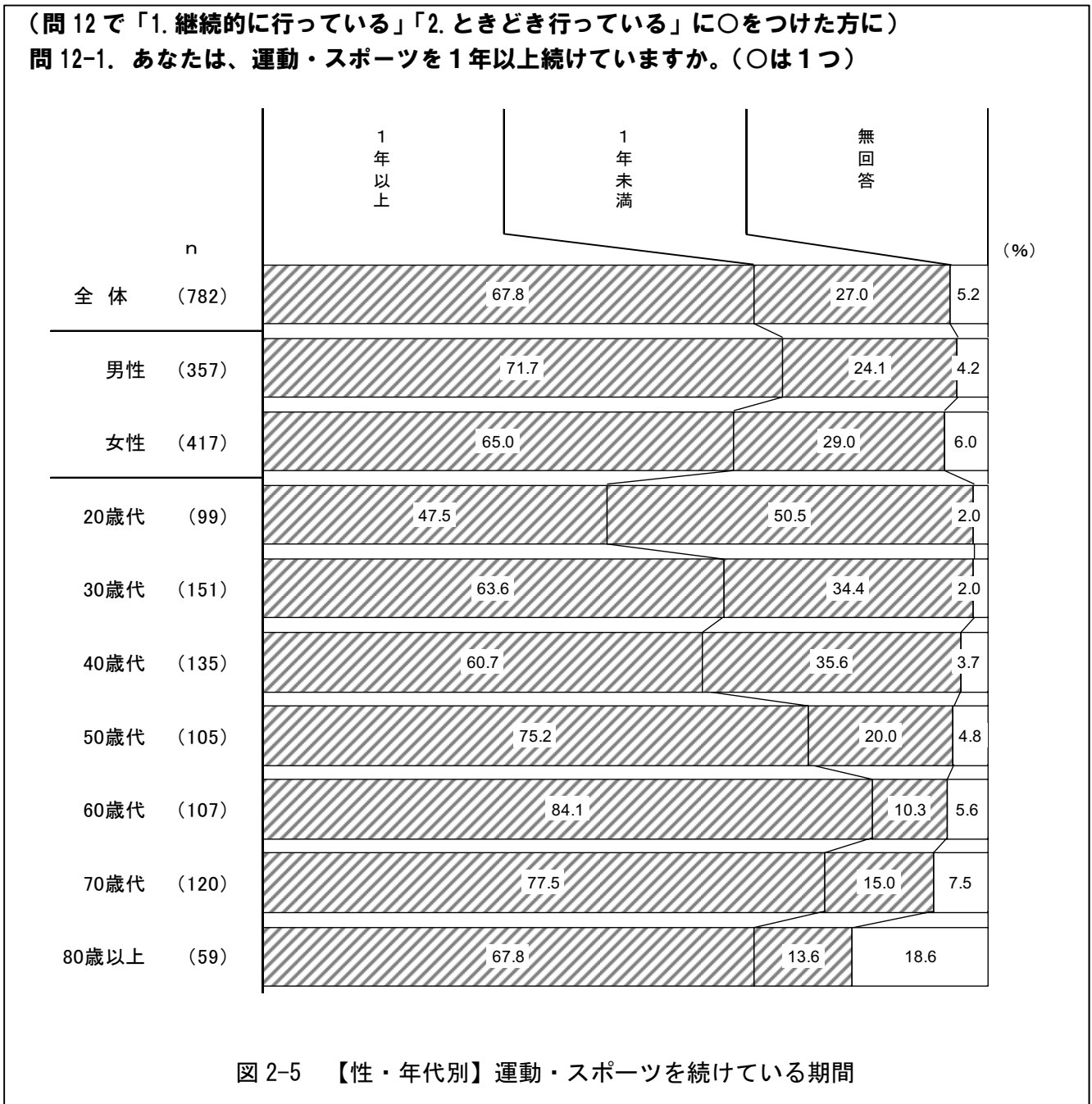
1回30分以上の連続した運動や身体活動を週に1～2回以上行っているかについては、「継続的に  
行っている」(29.8%)と「ときどき行っている」(26.9%)を合わせた<行っている>で56.7%となっ  
ている。性別にみると、<行っている>は男性(58.7%)が女性(56.0%)を約3ポイント上回っている。  
年代別にみると、<行っている>は70歳代(62.2%)で最も高くなっている。



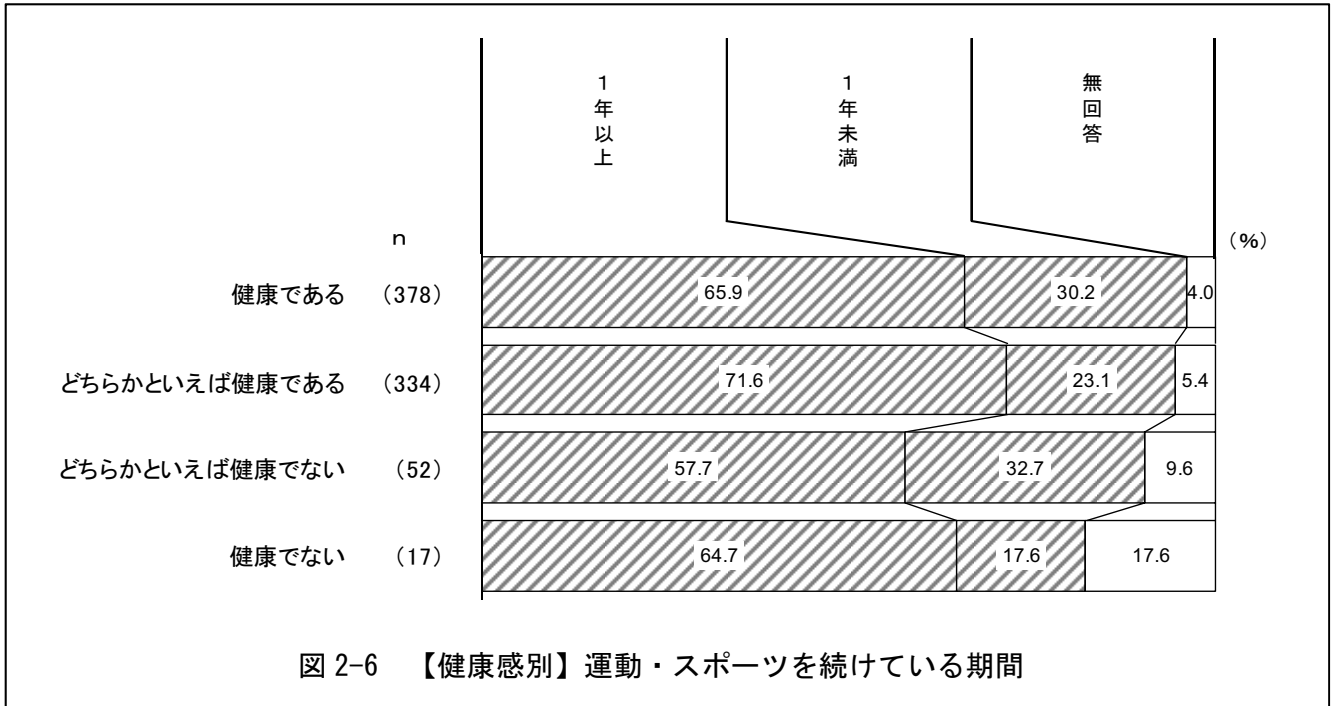
経年で比較すると、「ときどき行っている」が増加傾向であり、「全く行っていない」が減少傾向にある。

2.2.1. 運動・スポーツを続けている期間

◆運動・スポーツを1年以上継続している人が6割台後半



運動・スポーツを1年以上継続しているかについては、「1年以上」が67.8%、「1年未満」が27.0%となっている。性別にみると、「1年以上」は男性（71.7%）が女性（65.0%）を約7ポイント上回っている。年代別にみると、20歳代で「1年以上」が4割台後半となっており、他の年代と比較して低くなっている。

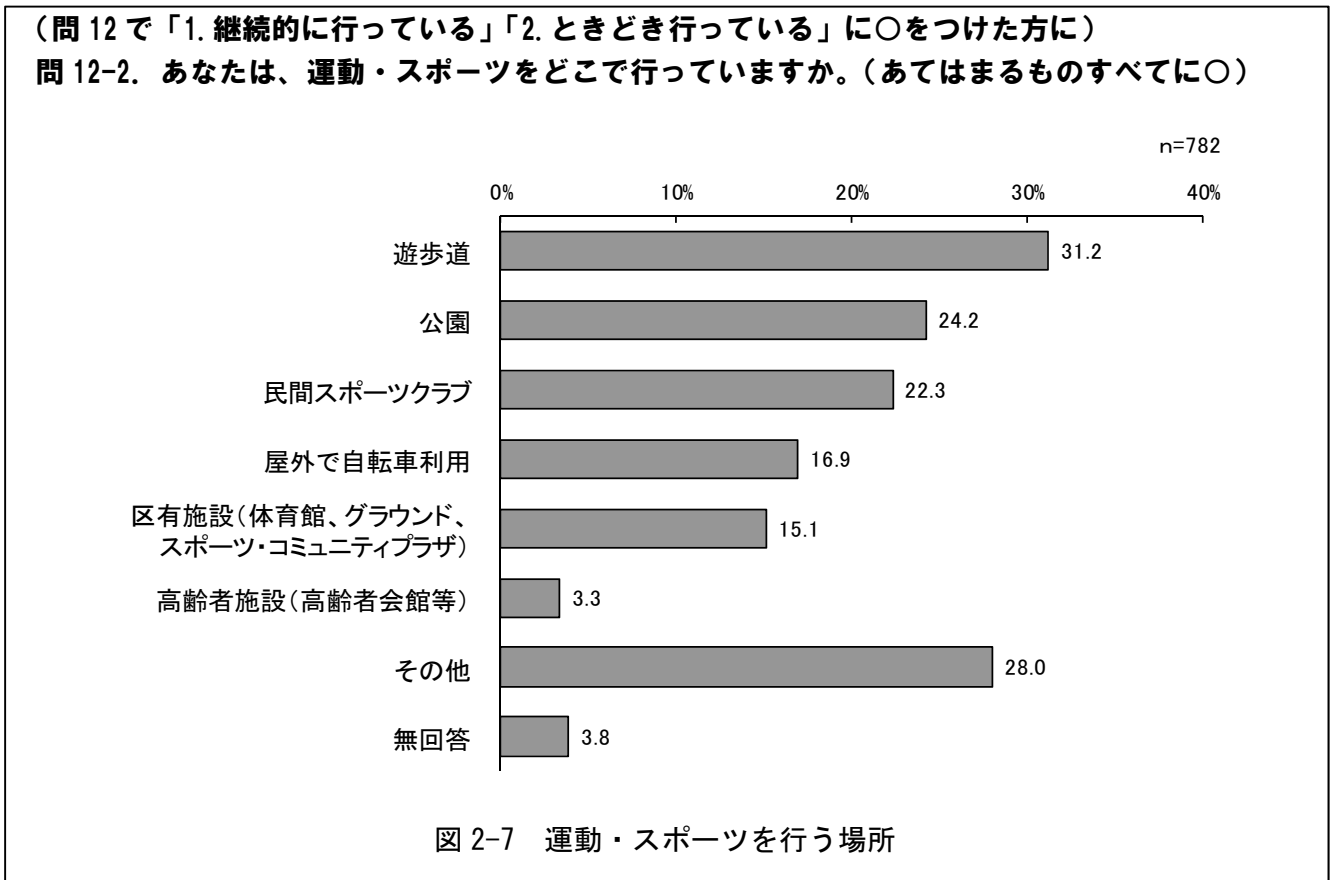


健康感別にみると、「健康である」、「どちらかといえば健康である」の方が、「どちらかといえば健康でない」、「健康でない」人よりも1年以上運動・スポーツを続けている割合が高い。



2.2.2. 運動・スポーツを行う場所

◆運動・スポーツを行う場所は「遊歩道」が約3割



運動・スポーツを行う場所としては、「遊歩道」が31.2%で最も高く、次いで「公園」(24.2%)、「民間スポーツクラブ」(22.3%)となっている。

「その他」(28.0%)としては「自宅」、「道路」、「通勤・職場」、「ゴルフ場」などがあがっている。

表 2-1 【健康感別】運動・スポーツを行う場所

単位: %

区分	有効回答数(件)	公園	遊歩道	区有施設(体育館、グラウンド、スポーツ・コミュニティプラザ)	高齢者施設(高齢者会館等)	民間スポーツクラブ	屋外で自転車利用	その他	無回答
全体	782	24.2	31.2	15.1	3.3	22.3	16.9	28.0	3.8
健康である	378	25.7	32.5	13.5	1.3	23.8	16.7	31.7	3.2
どちらかといえば健康である	334	20.7	28.4	18.6	4.5	23.1	17.4	24.9	4.2
どちらかといえば健康でない	52	36.5	36.5	7.7	9.6	13.5	13.5	21.2	5.8
健康でない	17	23.5	41.2	—	5.9	—	17.6	29.4	5.9

健康感別にみると、健康でないと感じている人よりも健康であると感じている人の方が、「民間スポーツクラブ」や「区有施設(体育館、グラウンド、スポーツ・コミュニティプラザ)」の割合が高くなっている。

表 2-2 【年代別】上位 5 項目 運動・スポーツを行う場所

単位：%

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
20歳代 n=99	遊歩道 27.3	民間スポーツクラブ 25.3	公園 24.2	屋外で自転車利用 16.2	区有施設(体育館、グラウンド、スポーツ・コミュニティプラザ) 7.1
30歳代 n=151	遊歩道 37.1	公園 28.5	民間スポーツクラブ 22.5	屋外で自転車利用 19.2	区有施設(体育館、グラウンド、スポーツ・コミュニティプラザ) 15.2
40歳代 n=135	遊歩道 28.1	公園 25.2	民間スポーツクラブ／区有施設(体育館、グラウンド、スポーツ・コミュニティプラザ) 20.0	屋外で自転車利用 17.0	
50歳代 n=105	遊歩道 39.0	民間スポーツクラブ 22.9	公園 17.1	屋外で自転車利用／区有施設(体育館、グラウンド、スポーツ・コミュニティプラザ) 14.3	
60歳代 n=107	遊歩道 37.4	民間スポーツクラブ 28.0	公園 22.4	屋外で自転車利用 18.7	区有施設(体育館、グラウンド、スポーツ・コミュニティプラザ) 16.8
70歳代 n=120	公園 26.7	民間スポーツクラブ 22.5	遊歩道／屋外で自転車利用 20.0	区有施設(体育館、グラウンド、スポーツ・コミュニティプラザ) 19.2	
80歳以上 n=59	遊歩道 28.8	公園 22.0	高齢者施設(高齢者会館等) 18.6	民間スポーツクラブ 10.2	屋外で自転車利用／区有施設(体育館、グラウンド、スポーツ・コミュニティプラザ) 6.8

1回30分以上の連続した運動・スポーツを週に1～2回以上行っている方の運動・スポーツを行う場所を年代別にみると、20歳～60歳代、80歳以上では「遊歩道」、70歳代では「公園」が1位となっている。

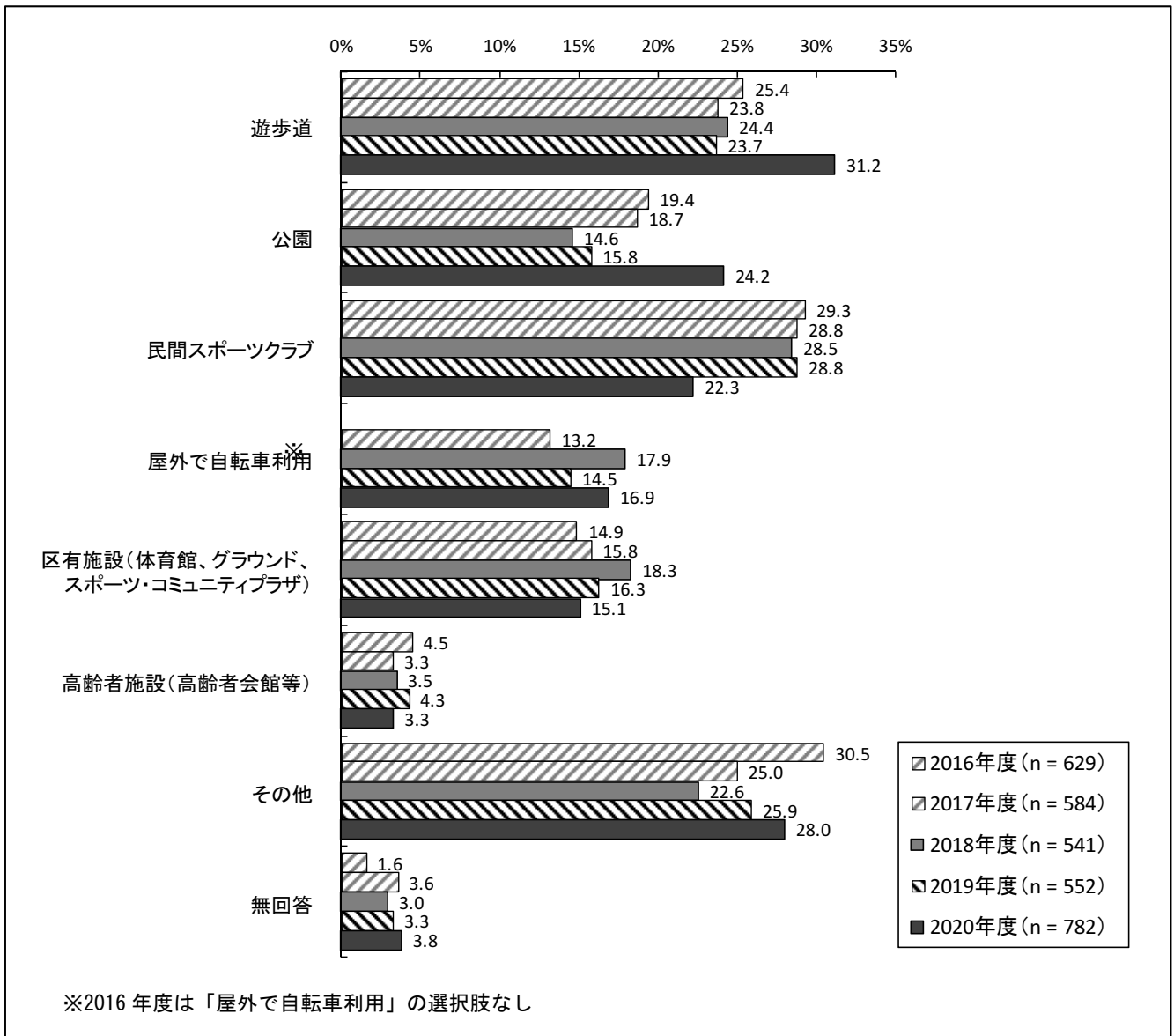


図 2-8 【経年比較】運動・スポーツを行う場所

経年で比較すると、2020年度は「民間スポーツクラブ」の割合が減少し、「遊歩道」、「公園」が増加している。

2.2.3. 運動・スポーツを行わない理由

◆運動・スポーツを行わない理由は「時間がないから」が2割台半ば

(問12で「3. 以前は行っていたが、現在は行っていない」「4. 全く行っていない」に○をつけた方に)  
 問12-3. 運動・スポーツを行っていない理由として最もあてはまるものをお選びください。  
 (○は1つ)

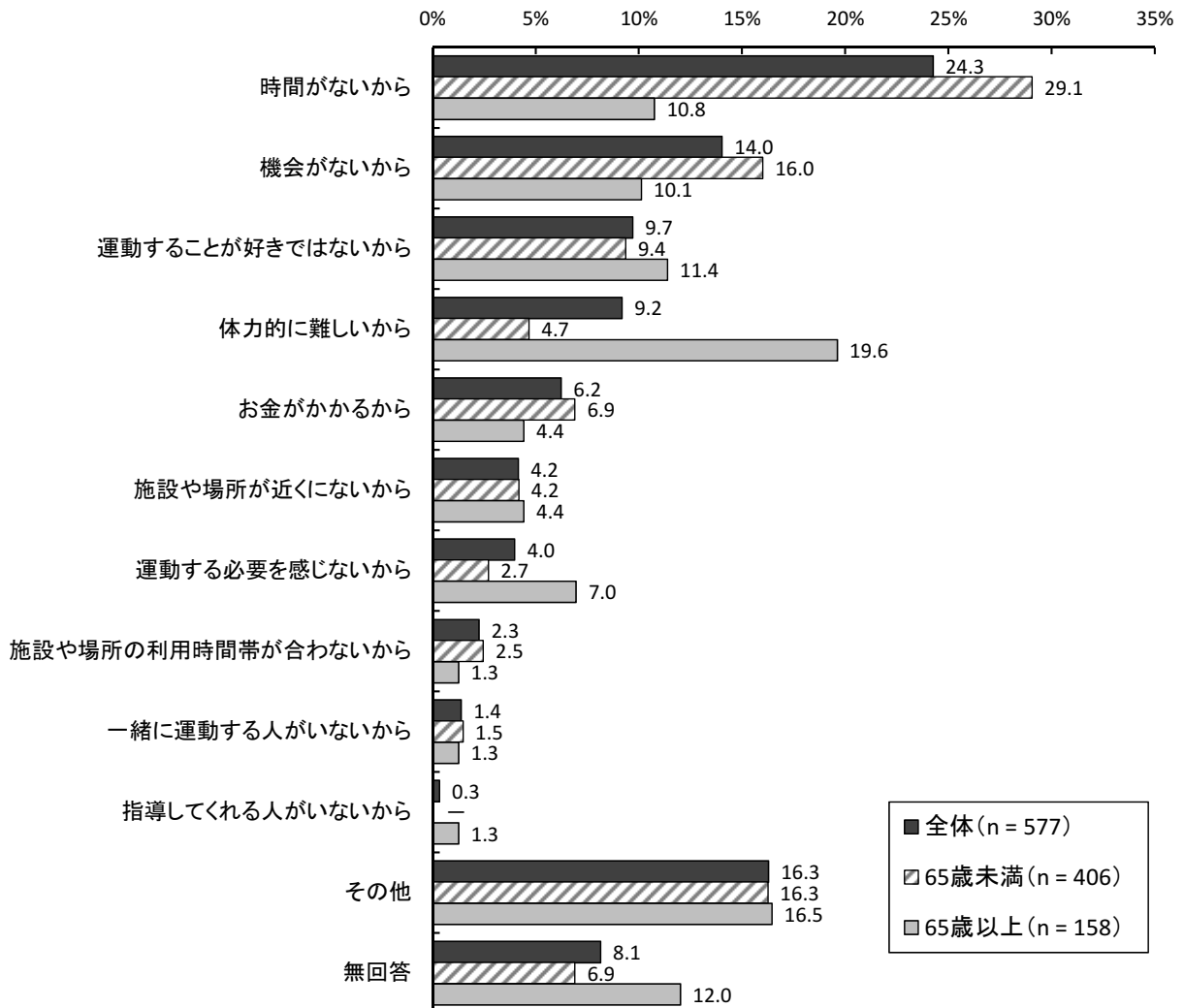


図 2-9 【年代別】運動・スポーツを行わない理由

運動・スポーツを行っていない方にその理由を聞いたところ、「時間がないから」が24.3%で最も高く、次いで「機会がないから」(14.0%)、「運動することが好きではないから」(9.7%)となっている。「その他」としては、「新型コロナウイルス感染症の影響」「30分未満の運動は行っている」などがあげられている。

年代別にみると、65歳未満では「時間がないから」(29.1%)が最も高くなっているのに対し、65歳以上では「体力的に難しいから」(19.6%)が最も高くなっている。

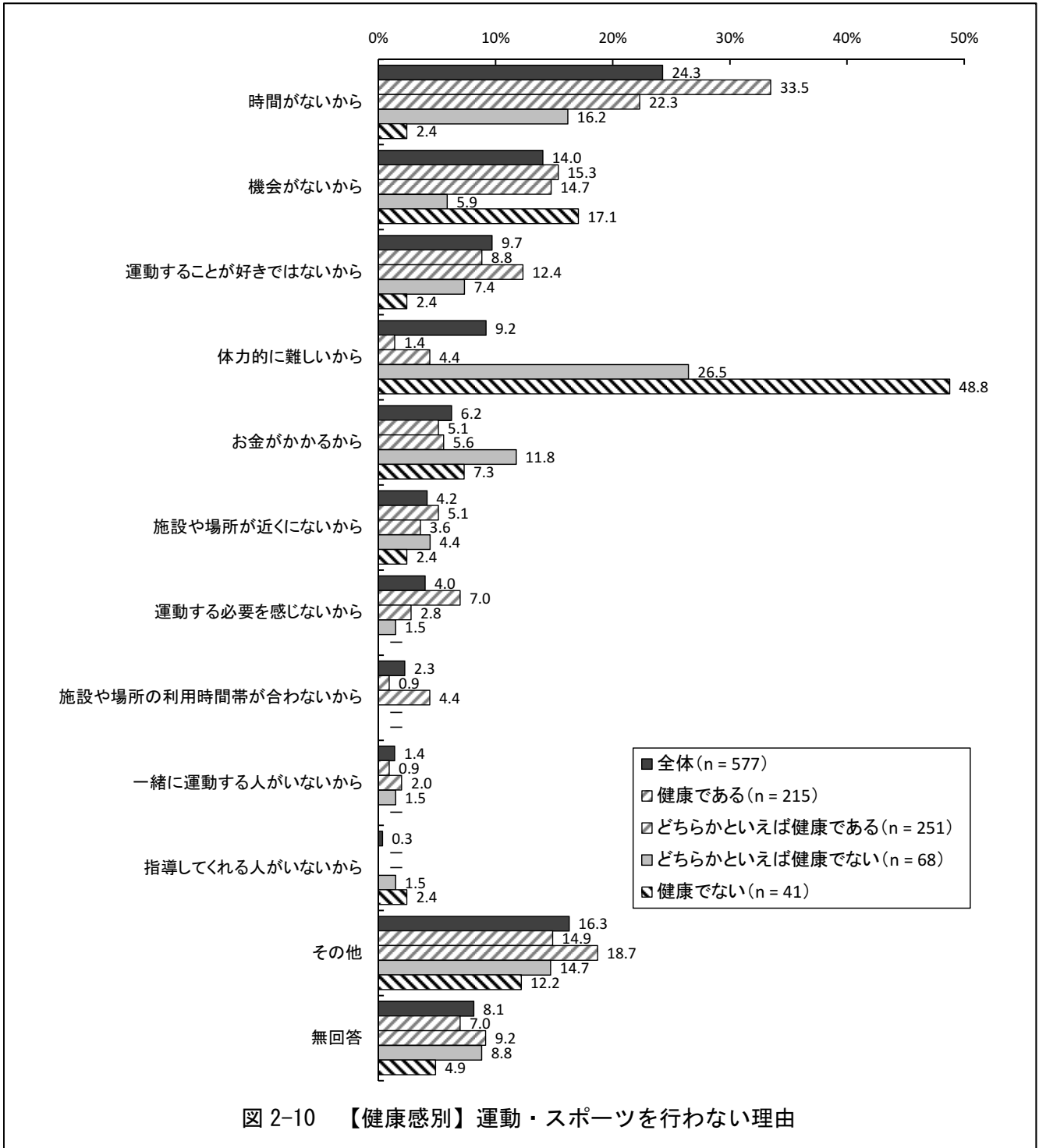
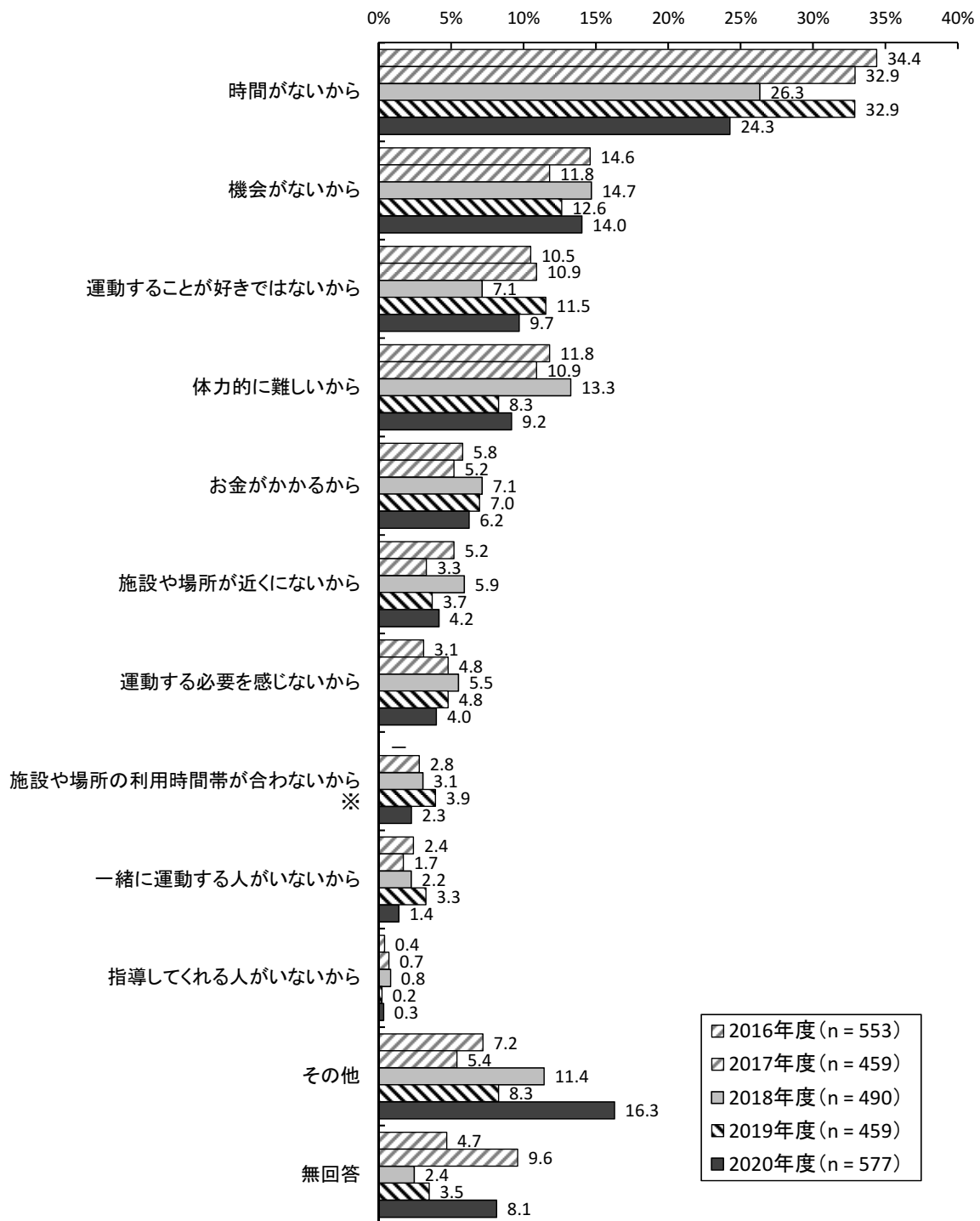


図 2-10 【健康感別】運動・スポーツを行わない理由

健康感別にみると、健康であると感じている人ほど「時間がないから」の割合が高くなっている一方、健康でないと感じている人ほど「体力的に難しいから」の割合が高くなっている。



※2016年度は「施設や場所の利用時間帯が合わないから」の選択肢はなし

図 2-11 【経年比較】運動・スポーツを行わない理由

経年で比較すると、2020年度は「時間がないから」が減少し、「その他」が増加した。「その他」としては「新型コロナウイルス感染症の影響」が多くあげられている。

2.3. この1年間にスタジアム等で実際にスポーツを観戦したか

◆この1年間に観戦したスポーツは「野球」が1割台後半

問13. この1年間に、プロ・アマチュアスポーツを問わず、スタジアム・体育館・沿道などで実際にスポーツを観戦したことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

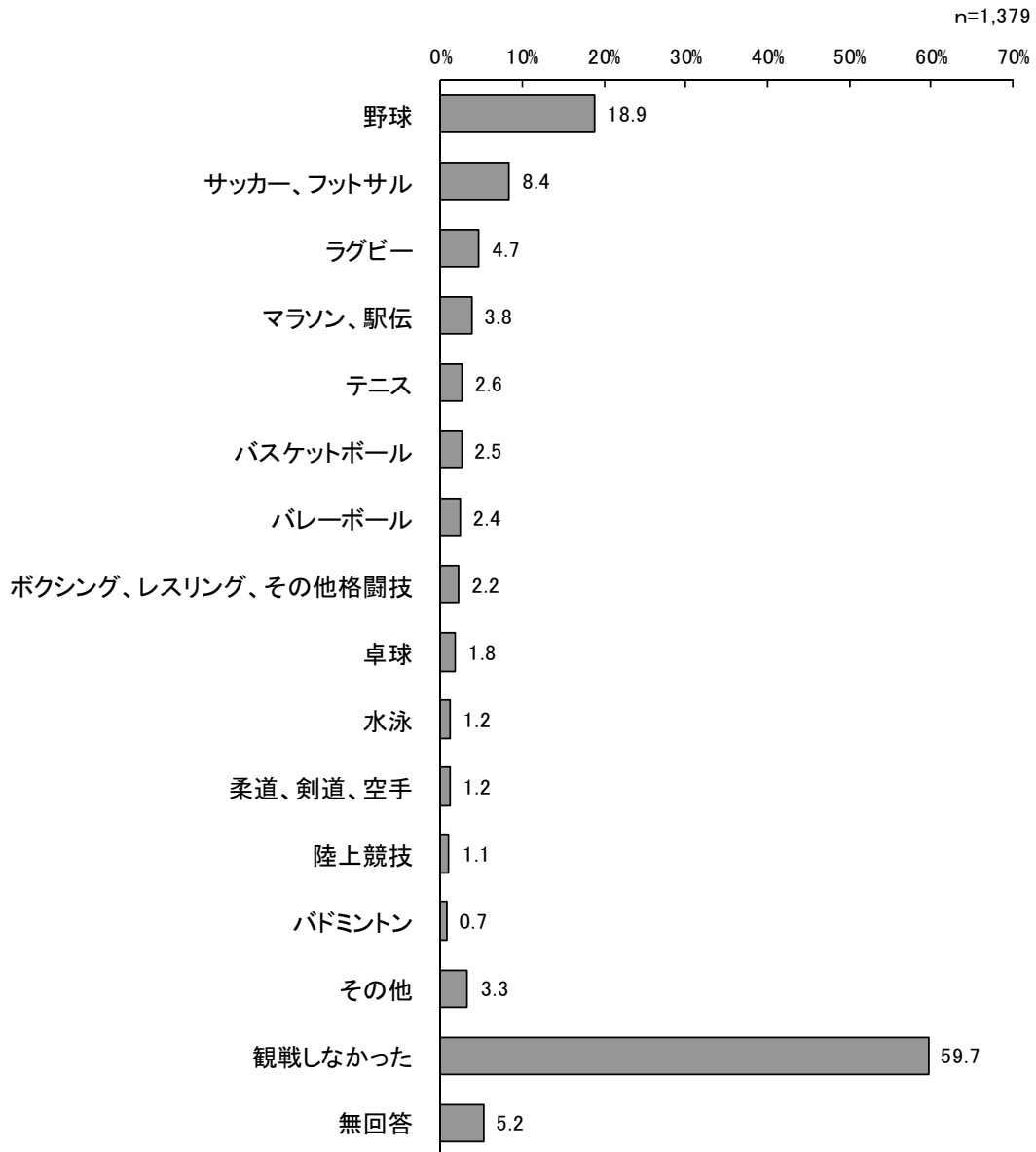


図 2-12 この1年間にスタジアム等で実際にスポーツを観戦したか

実際に観戦したスポーツでは、「野球」が18.9%と最も高くなっており、次いで「サッカー、フットサル」(8.4%)、「ラグビー」(4.7%)となっている。

表 2-3 【年代別】上位 5 項目 この 1 年間にスタジアム等で実際にスポーツを観戦したか

単位: %

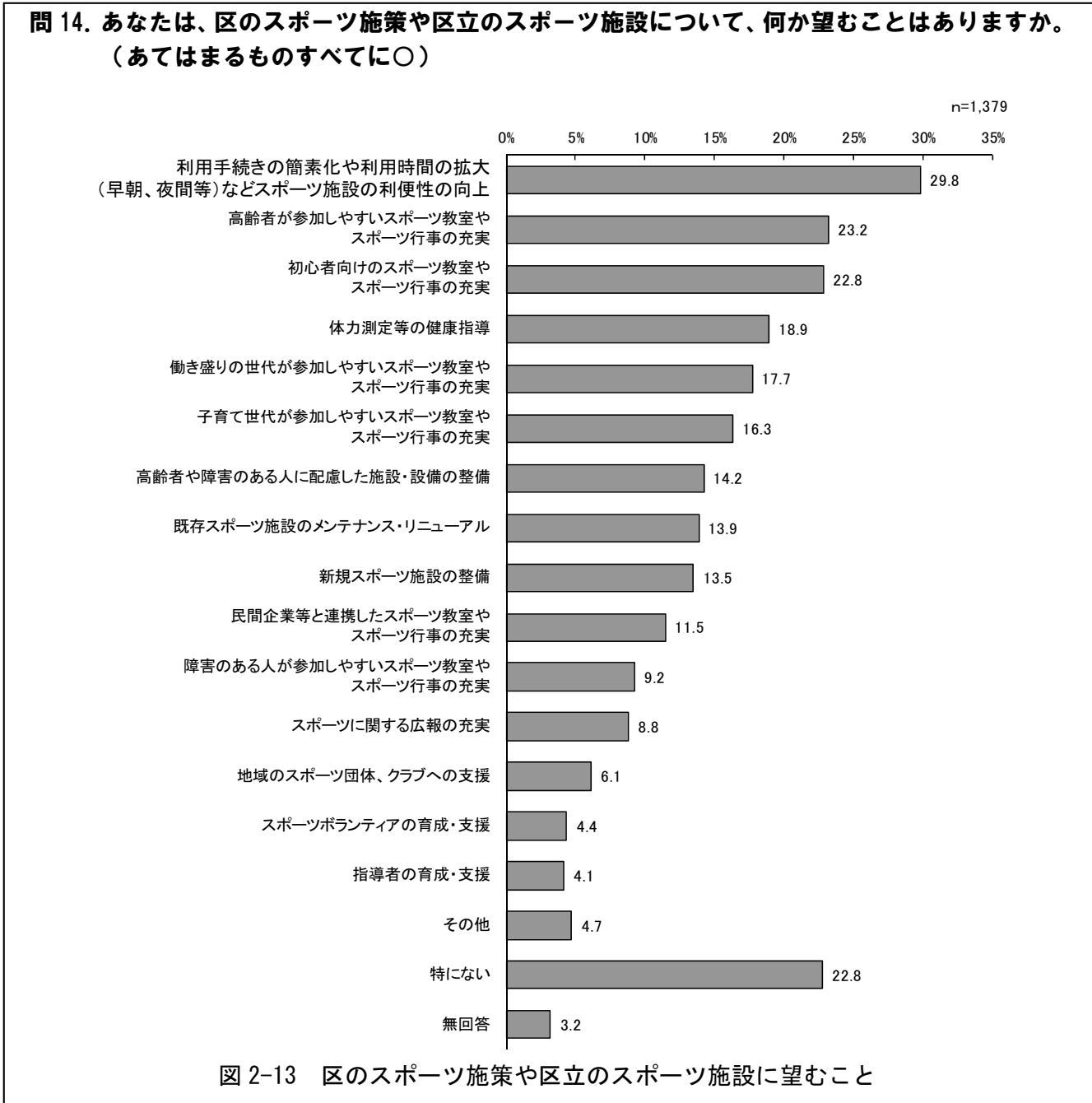
	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
20歳代 n=163	野球 20.9	サッカー、フットサル 15.3	バスケットボール/ボクシング、レスリング、 その他格闘技 3.7		ラグビー 3.1
30歳代 n=268	野球 19.0	サッカー、フットサル 9.7	バスケットボール 5.2	ボクシング、レスリン グ、その他格闘技 4.5	ラグビー 4.1
40歳代 n=250	野球 22.0	サッカー、フットサル 9.6	ラグビー 6.0	バレーボール 4.4	マラソン、駅伝 3.2
50歳代 n=194	野球 22.7	サッカー、フットサル 9.8	ラグビー 9.3	テニス/マラソン、駅伝	4.6
60歳代 n=185	野球 15.1	サッカー、フットサル 5.4	マラソン、駅伝 3.8	テニス 3.2	バレーボール/ラグ ビー 2.7
70歳代 n=193	野球 15.0	テニス/マラソン、駅伝	4.1	ラグビー 3.6	サッカー、フットサル 2.6
80歳以上 n=104	野球 15.4	マラソン、駅伝 6.7	水泳 4.8	サッカー、フットサル/ラグビー/バレー ボール/卓球	3.8

実際に観戦したスポーツを年代別にみると、全ての年代で「野球」が1位にあげられている。



2.4. 区のスポーツ施策や区立のスポーツ施設に望むこと

◆区のスポーツ施策や区立のスポーツ施設に望むことは、「利用手続きの簡素化や利用時間の拡大（早朝、夜間等）などスポーツ施設の利便性の向上」が約3割



区のスポーツ施策や区立のスポーツ施設に望むこととしては、「利用手続きの簡素化や利用時間の拡大（早朝、夜間等）などスポーツ施設の利便性の向上」が29.8%で最も高く、次いで「高齢者が参加しやすいスポーツ教室やスポーツ行事の充実」（23.2%）、「初心者向けのスポーツ教室やスポーツ行事の充実」（22.8%）、「体力測定等の健康指導」（18.9%）となっている。

表 2-4 【年代別】上位 5 項目 区のスポーツ施策や区立のスポーツ施設に望むこと

単位: %

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
20歳代 n=163	利用手続きの簡素化 や利用時間の拡大(早 朝、夜間等)などス ポーツ施設の利便性 の向上 30.7	初心者向けのスポーツ教室やスポーツ行事の 充実/働き盛りの世代が参加しやすいスポ ーツ教室やスポーツ行事の充実 22.1	既存スポーツ施設のメン テナンス・リニューア ル 16.6	体力測定等の健康指 導 15.3	
30歳代 n=268	利用手続きの簡素化 や利用時間の拡大(早 朝、夜間等)などス ポーツ施設の利便性 の向上 39.9	働き盛りの世代が参加しやすいスポーツ教室 やスポーツ行事の充実/子育て世代が参加し やすいスポーツ教室やスポーツ行事の充実 30.6	初心者向けのスポーツ 教室やスポーツ行事 の充実 25.4	新規スポーツ施設の 整備 21.3	
40歳代 n=250	利用手続きの簡素化 や利用時間の拡大(早 朝、夜間等)などス ポーツ施設の利便性 の向上 34.4	初心者向けのスポーツ教室やスポーツ行事の 充実/子育て世代が参加しやすいスポーツ教 室やスポーツ行事の充実 26.0	働き盛りの世代が参加 しやすいスポーツ教室 やスポーツ行事の充 実 24.0	既存スポーツ施設のメン テナンス・リニューア ル 16.8	
50歳代 n=194	利用手続きの簡素化 や利用時間の拡大(早 朝、夜間等)などス ポーツ施設の利便性 の向上 37.6	高齢者が参加しやすい スポーツ教室やスポ ーツ行事の充実 27.3	初心者向けのスポーツ 教室やスポーツ行事 の充実 25.8	働き盛りの世代が参加 しやすいスポーツ教室 やスポーツ行事の充 実 24.2	体力測定等の健康指 導/既存スポーツ施 設のメンテナンス・リ ニューアル 19.6
60歳代 n=185	高齢者が参加しやすい スポーツ教室やスポ ーツ行事の充実 37.3	利用手続きの簡素化 や利用時間の拡大(早 朝、夜間等)などス ポーツ施設の利便性 の向上 23.8	高齢者や障害のある 人に配慮した施設・設 備の整備 23.2	初心者向けのスポーツ教室やスポーツ行事の 充実/体力測定等の健康指導 22.2	
70歳代 n=193	高齢者が参加しやすい スポーツ教室やスポ ーツ行事の充実 49.7	体力測定等の健康指 導 27.5	高齢者や障害のある 人に配慮した施設・設 備の整備 24.4	利用手続きの簡素化 や利用時間の拡大(早 朝、夜間等)などス ポーツ施設の利便性 の向上 20.2	初心者向けのスポーツ 教室やスポーツ行事 の充実 19.7
80歳以上 n=104	高齢者が参加しやすい スポーツ教室やスポ ーツ行事の充実 32.7	高齢者や障害のある 人に配慮した施設・設 備の整備 26.0	体力測定等の健康指 導 17.3	初心者向けのスポーツ 教室やスポーツ行事 の充実 11.5	利用手続きの簡素化 や利用時間の拡大(早 朝、夜間等)などス ポーツ施設の利便性 の向上/スポーツに関 する広報の充実 6.7

年代別にみると、20歳～50歳代では「利用手続きの簡素化や利用時間の拡大（早朝、夜間等）などスポーツ施設の利便性の向上」、60歳代以上では「高齢者が参加しやすいスポーツ教室やスポーツ行事の充実」が1位となっている。

表 2-5 【健康感別】区のスーポーツ施策や区立のスーポーツ施設に望むこと

単位：%

区分	有効回答数（件）	初心者向けのスーポーツ教室やスーポーツ行事の充実	障害のある人が参加しやすいスーポーツ教室やスーポーツ行事の充実	高齢者が参加しやすいスーポーツ教室やスーポーツ行事の充実	子育て世代が参加しやすいスーポーツ教室やスーポーツ行事の充実	働き盛りの世代が参加しやすいスーポーツ教室やスーポーツ行事の充実	民間企業等と連携したスーポーツ教室やスーポーツ行事の充実	体力測定等の健康指導	地域のスーポーツ団体、クラブへの支援	指導者の育成・支援
全体	1,379	22.8	9.2	23.2	16.3	17.7	11.5	18.9	6.1	4.1
健康である	595	24.2	8.1	18.8	20.8	22.4	12.4	17.5	5.9	3.9
どちらかといえば健康である	588	22.4	8.8	26.2	14.6	15.5	10.9	19.6	6.0	3.6
どちらかといえば健康でない	120	22.5	15.0	32.5	8.3	13.3	11.7	20.0	9.2	9.2
健康でない	59	11.9	10.2	16.9	1.7	1.7	3.4	25.4	3.4	1.7

区分	スーポーツボランティアの育成・支援	利用手続きの簡素化や利用時間の拡大（早朝、夜間等）などスーポーツ施設の利便性の向上	スーポーツに関する広報の充実	新規スーポーツ施設の整備	既存スーポーツ施設のメンテナンス・リニューアル	高齢者や障害のある人に配慮した施設・設備の整備	その他	特にない	無回答
全体	4.4	29.8	8.8	13.5	13.9	14.2	4.7	22.8	3.2
健康である	3.9	33.9	8.6	13.8	13.6	9.4	5.4	21.2	3.2
どちらかといえば健康である	3.6	30.1	8.7	14.6	15.0	14.6	5.1	22.6	1.7
どちらかといえば健康でない	10.8	20.8	12.5	10.8	13.3	33.3	1.7	25.0	1.7
健康でない	5.1	3.4	6.8	1.7	1.7	20.3	1.7	39.0	13.6

健康感別にみると、健康である、どちらかといえば健康であると感じている人は、「利用手続きの簡素化や利用時間の拡大（早朝、夜間等）などスーポーツ施設の利便性の向上」の割合が高くなっており、どちらかといえば健康でないと感じている人は、「高齢者や障害のある人に配慮した施設・設備の整備」、健康でないと感じている人は「特にない」の割合が高くなっている。

表 2-6 【居住地域別】 区のスポーツ施策や区立のスポーツ施設に望むこと

単位：％

区分	有効回答数（件）	初心者向けのスポーツ教室や	障害のある人が参加しやすいの	高齢者が参加しやすいスポーツ	子育て世代が参加しやすい	働き盛りの世代が参加しやすい	民間企業等と連携したスポーツ	体力測定等の健康指導	地域のスポーツ団体、クラブ	指導者の育成・支援
全体	1,379	22.8	9.2	23.2	16.3	17.7	11.5	18.9	6.1	4.1
南台	55	21.8	9.1	20.0	18.2	20.0	16.4	9.1	10.9	3.6
弥生町	92	15.2	6.5	16.3	19.6	14.1	13.0	16.3	4.3	4.3
本町	135	23.0	7.4	20.0	17.8	19.3	11.1	20.0	3.7	4.4
中央	108	22.2	5.6	22.2	15.7	21.3	12.0	16.7	8.3	1.9
東中野	101	19.8	8.9	21.8	13.9	18.8	18.8	22.8	6.9	5.9
中野	132	25.0	5.3	19.7	13.6	15.2	10.6	18.9	6.8	0.8
上高田	82	23.2	9.8	28.0	14.6	18.3	8.5	18.3	2.4	3.7
新井	82	20.7	7.3	23.2	12.2	18.3	9.8	22.0	4.9	4.9
沼袋	41	22.0	9.8	24.4	9.8	22.0	7.3	26.8	7.3	14.6
松が丘	33	18.2	12.1	27.3	15.2	21.2	9.1	18.2	3.0	3.0
江原町	26	15.4	7.7	26.9	15.4	3.8	11.5	11.5	3.8	3.8
江古田	65	21.5	13.8	15.4	21.5	20.0	7.7	15.4	4.6	1.5
丸山	11	27.3	18.2	27.3	18.2	27.3	18.2	9.1	—	—
野方	79	26.6	11.4	25.3	22.8	13.9	11.4	19.0	8.9	3.8
大和町	55	23.6	10.9	18.2	16.4	18.2	7.3	14.5	5.5	—
若宮	60	21.7	8.3	21.7	10.0	16.7	10.0	20.0	5.0	1.7
白鷺	59	27.1	10.2	42.4	10.2	10.2	6.8	18.6	—	1.7
鷺宮	69	30.4	13.0	27.5	21.7	17.4	7.2	21.7	13.0	11.6
上鷺宮	68	27.9	16.2	26.5	19.1	20.6	19.1	25.0	10.3	7.4

居住地域別にみると、多くの地域で「利用手続きの簡素化や利用時間の拡大（早朝、夜間等）などスポーツ施設の利便性の向上」の割合が最も高くなっているものの、松ヶ丘、江原町、白鷺では「高齢者が参加しやすいスポーツ教室やスポーツ行事の充実」の割合が高くなっている。

表 2-6 【居住地域別】 区のスポーツ施策や区立のスポーツ施設に望むこと（続き）

単位：%

区分	スポーツボランティアの育成・支援	の利用手続きの簡素化や利用時間の拡大（早朝、夜間等）など	スポーツに関する広報の充実	新規スポーツ施設の整備	既存スポーツ施設のメンテナンス・リニューアル	高齢者や障害のある人に配慮した施設・設備の整備	その他	特にない	無回答
全体	4.4	29.8	8.8	13.5	13.9	14.2	4.7	22.8	3.2
南台	1.8	21.8	9.1	16.4	10.9	9.1	7.3	23.6	1.8
弥生町	5.4	25.0	3.3	7.6	4.3	9.8	3.3	35.9	3.3
本町	3.7	24.4	12.6	15.6	11.9	11.1	2.2	28.1	3.0
中央	2.8	26.9	12.0	13.0	17.6	10.2	7.4	23.1	2.8
東中野	4.0	30.7	7.9	19.8	19.8	15.8	5.0	19.8	4.0
中野	3.0	30.3	8.3	9.1	11.4	9.8	6.1	22.7	4.5
上高田	3.7	35.4	9.8	17.1	18.3	18.3	4.9	18.3	2.4
新井	4.9	36.6	11.0	7.3	19.5	17.1	3.7	23.2	2.4
沼袋	7.3	41.5	4.9	14.6	14.6	9.8	4.9	26.8	2.4
松が丘	—	21.2	6.1	18.2	9.1	15.2	3.0	27.3	—
江原町	11.5	26.9	11.5	15.4	11.5	15.4	—	23.1	3.8
江古田	6.2	38.5	10.8	16.9	20.0	10.8	4.6	18.5	6.2
丸山	—	36.4	18.2	9.1	18.2	27.3	9.1	18.2	—
野方	6.3	30.4	1.3	10.1	11.4	16.5	3.8	17.7	5.1
大和町	1.8	25.5	10.9	12.7	12.7	21.8	7.3	23.6	1.8
若宮	5.0	28.3	8.3	11.7	10.0	18.3	5.0	26.7	3.3
白鷺	3.4	23.7	5.1	13.6	11.9	18.6	—	18.6	3.4
鷺宮	4.3	33.3	13.0	15.9	17.4	18.8	7.2	13.0	—
上鷺宮	7.4	38.2	7.4	14.7	16.2	11.8	4.4	20.6	1.5

## 2.5. 東京オリンピック・パラリンピックを通じて期待する効果

### ◆バリアフリー化などの全ての人に優しいまちづくりの促進が3割台半ば

問 15. 東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を通じて、あなたはどのような効果を期待しますか。(あてはまるものすべてに○)

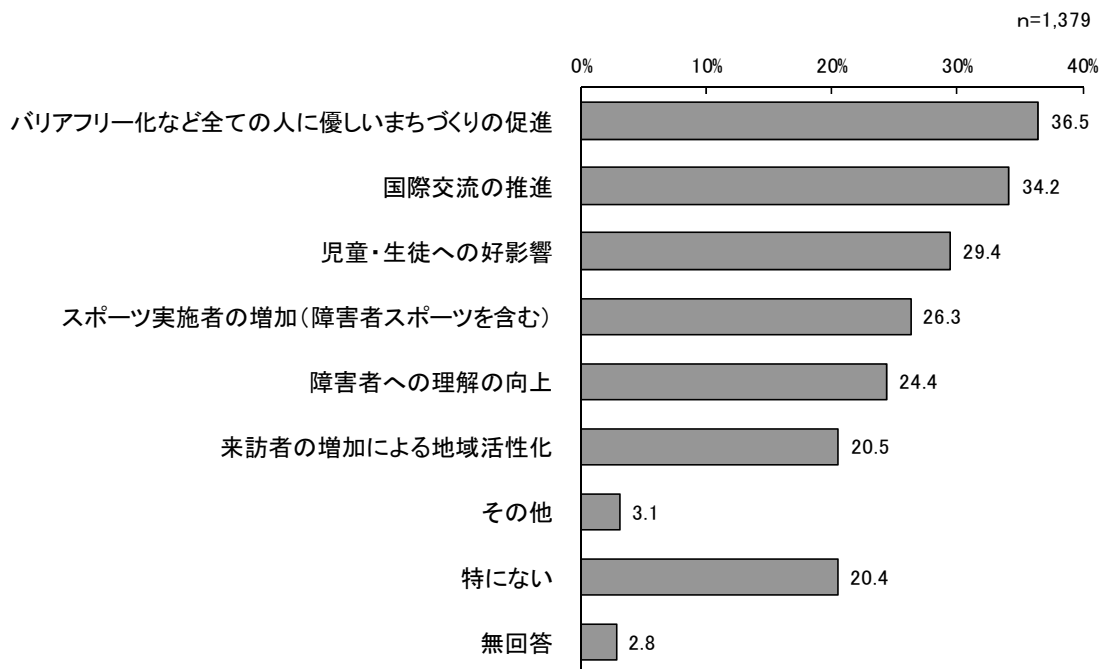


図 2-14 東京オリンピック・パラリンピックを通じて期待する効果

東京オリンピック・パラリンピックを通じて期待する効果では、「バリアフリー化など全ての人に優しいまちづくりの促進」が36.5%で最も高くなっており、次いで「国際交流の推進」(34.2%)、「児童・生徒への好影響」(29.4%)となっている。

表 2-7 【年代別】東京オリンピック・パラリンピックを通じて期待する効果

単位: %

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
20歳代 n=163	国際交流の推進 34.4	バリアフリー化など全てのの人に優しいまちづくりの促進 28.8	来訪者の増加による地域活性化 28.2	スポーツ実施者の増加(障害者スポーツを含む) 27.6	児童・生徒への好影響 19.6
30歳代 n=268	国際交流の推進 34.7	児童・生徒への好影響 31.7	バリアフリー化など全てのの人に優しいまちづくりの促進 30.6	スポーツ実施者の増加(障害者スポーツを含む) 28.0	来訪者の増加による地域活性化 27.2
40歳代 n=250	バリアフリー化など全てのの人に優しいまちづくりの促進 37.6	児童・生徒への好影響 36.0	国際交流の推進 34.4	スポーツ実施者の増加(障害者スポーツを含む) 27.6	障害者への理解の向上 22.8
50歳代 n=194	バリアフリー化など全てのの人に優しいまちづくりの促進 43.8	国際交流の推進 40.7	児童・生徒への好影響 31.4	スポーツ実施者の増加(障害者スポーツを含む) 26.3	障害者への理解の向上 25.8
60歳代 n=185	バリアフリー化など全てのの人に優しいまちづくりの促進 44.3	障害者への理解の向上 36.2	国際交流の推進/児童・生徒への好影響	33.0	スポーツ実施者の増加(障害者スポーツを含む) 25.9
70歳代 n=193	バリアフリー化など全てのの人に優しいまちづくりの促進 35.8	国際交流の推進 30.1	障害者への理解の向上 27.5	児童・生徒への好影響 25.9	スポーツ実施者の増加(障害者スポーツを含む) 21.2
80歳以上 n=104	バリアフリー化など全てのの人に優しいまちづくりの促進 35.6	国際交流の推進 26.9	スポーツ実施者の増加(障害者スポーツを含む) 25.0	障害者への理解の向上 20.2	児童・生徒への好影響 17.3

東京オリンピック・パラリンピックを通じて期待する効果を年代別にみると、20歳～30歳代では「国際交流の推進」が、40歳代以上では「バリアフリー化など全てのの人に優しいまちづくりの促進」が1位となっている。

2.6. パラリンピックや障害者スポーツを理解し広めるために区が重点的に行うべきこと

◆「パラリンピック競技種目等の障害者スポーツ体験イベントの実施」が5割台前半

問 16. パラリンピックや障害者スポーツ（ユニバーサルスポーツ）を理解し広めるために、区はどのようなことを重点的に行えば良いと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

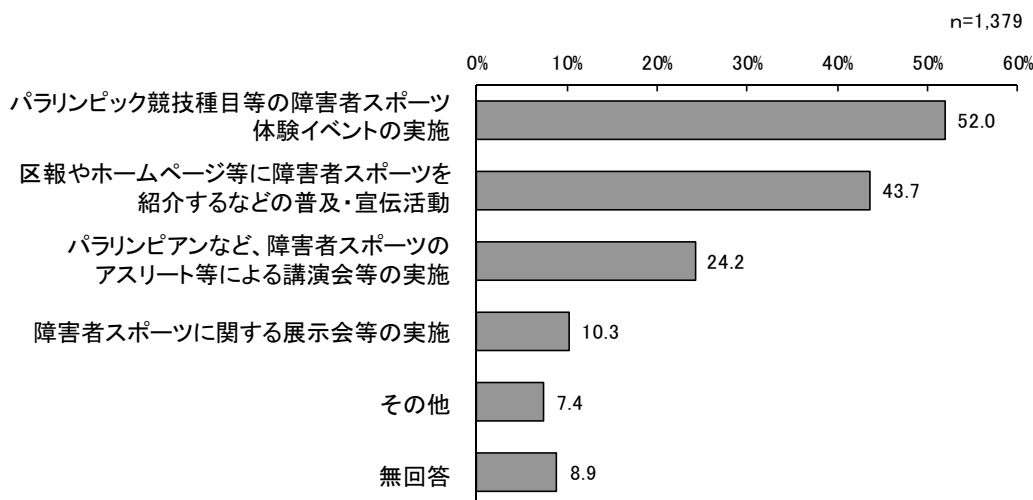


図 2-15 パラリンピックや障害者スポーツを理解し広めるために区が重点的に行うべきこと

パラリンピックや障害者スポーツを理解し広めるために区が重点的に行うべきことは、「パラリンピック競技種目等の障害者スポーツ体験イベントの実施」が52.0%で最も高く、次いで「区報やホームページ等に障害者スポーツを紹介するなどの普及・宣伝活動」（43.7%）、「パラリンピアンなど、障害者スポーツのアスリート等による講演会等の実施」（24.2%）となっている。

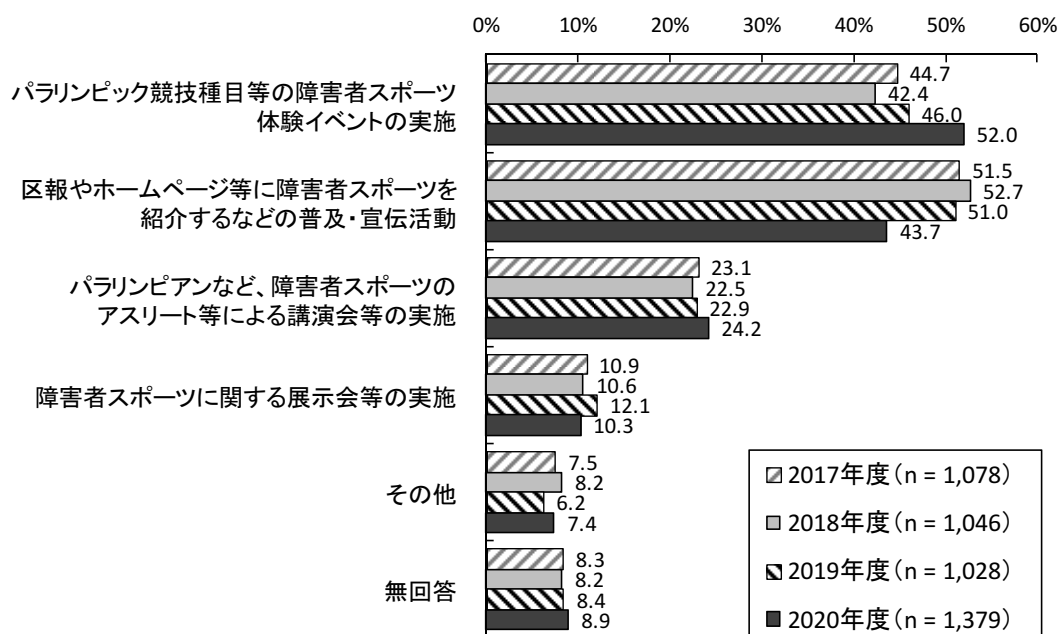


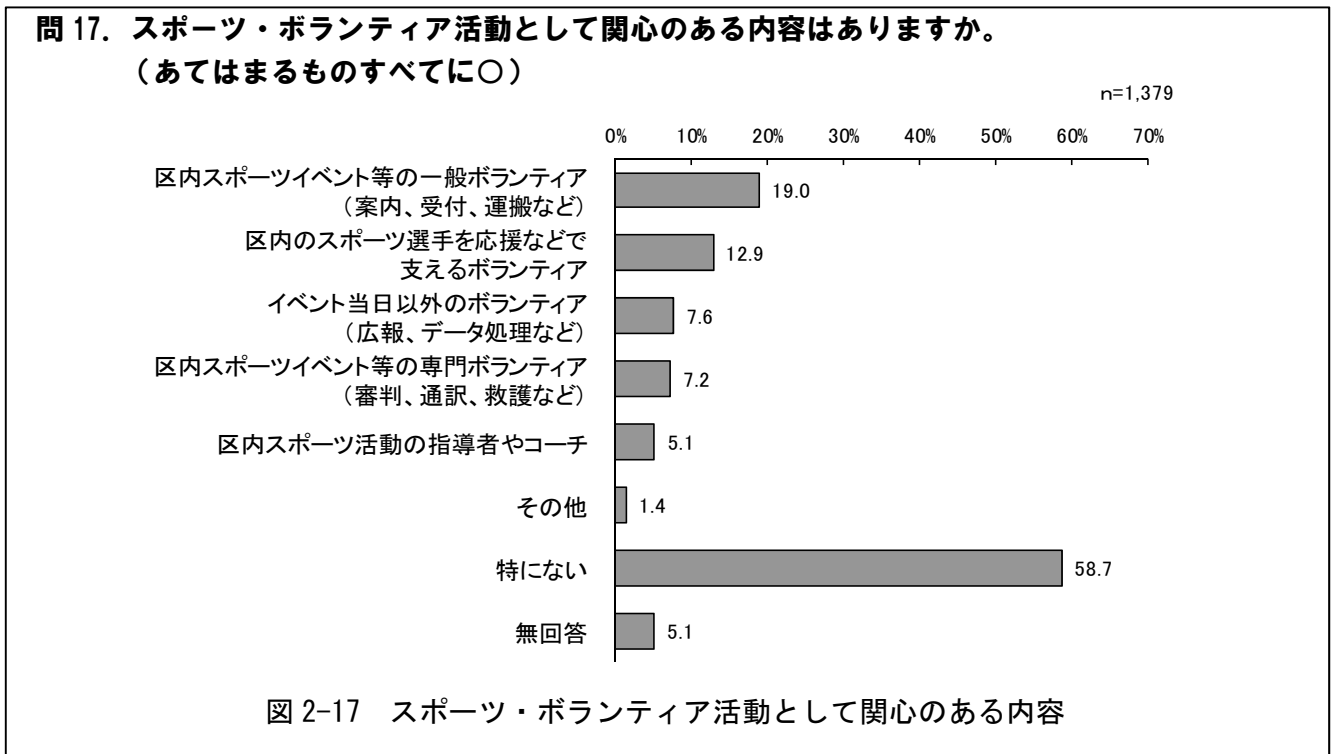
図 2-16 【経年比較】パラリンピックや障害者スポーツを理解し広めるために区が重点的に行うべきこと

経年で比較すると、「パラリンピック競技種目等の障害者スポーツ体験イベントの実施」が増加傾向にある。

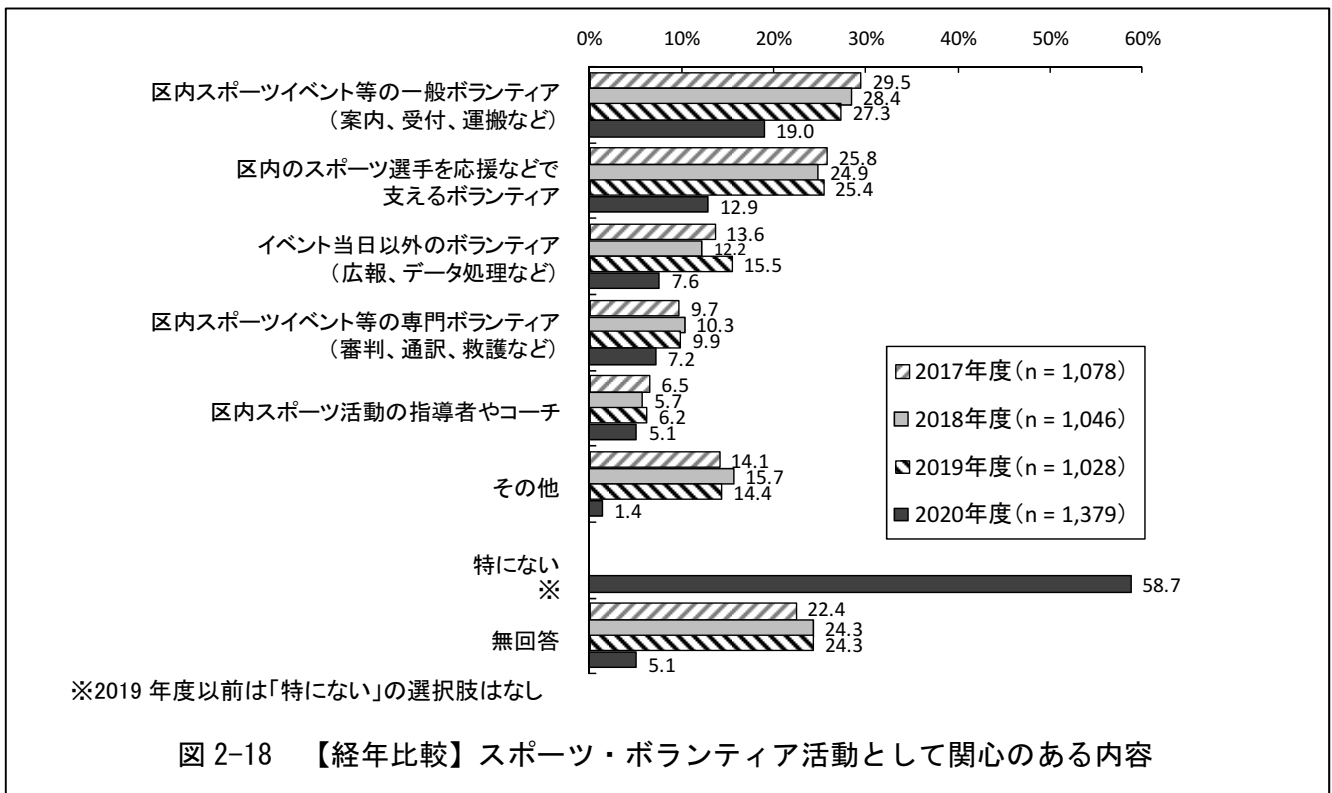


2.7. スポーツ・ボランティア活動として関心のある内容

◆「区内スポーツイベント等の一般ボランティア（案内、受付、運搬など）」が約2割



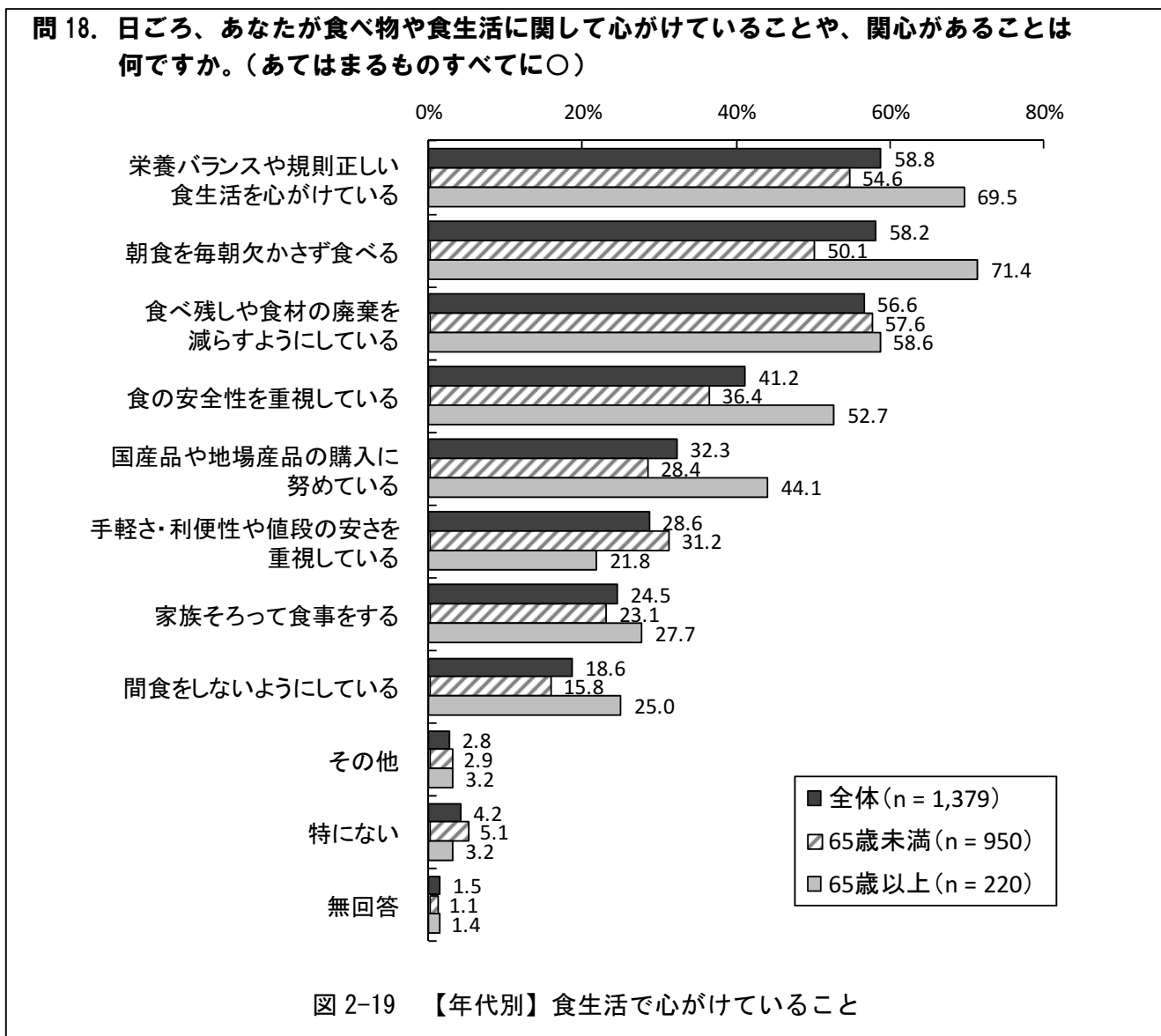
スポーツ・ボランティア活動として関心のある内容は、「特にない」(58.7%)を除き、「区内スポーツイベント等の一般ボランティア（案内、受付、運搬など）」が19.0%で最も高く、次いで「区内のスポーツ選手を応援などで支えるボランティア」(12.9%)、「イベント当日以外のボランティア（広報、データ処理など）」(7.6%)となっている。



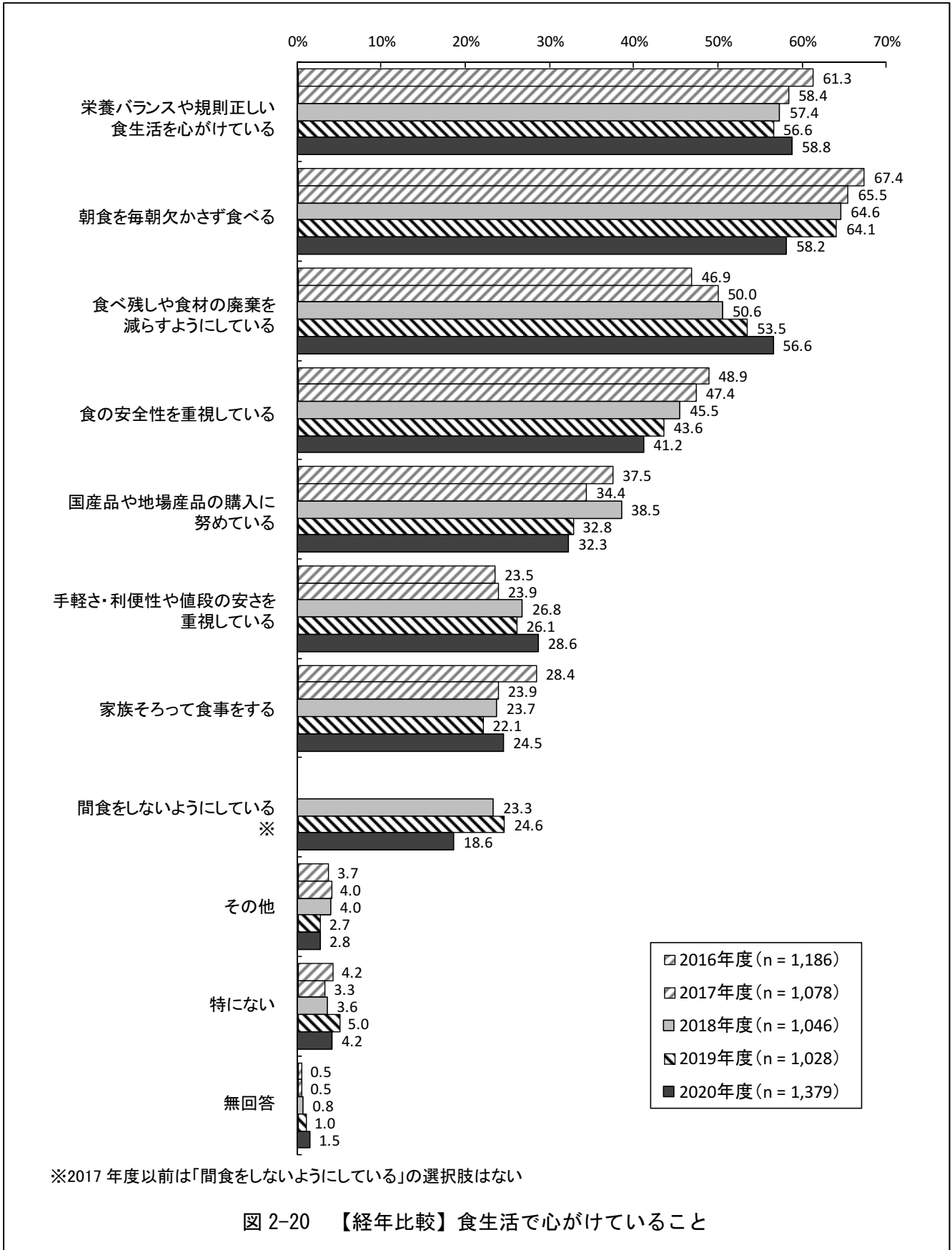
経年で比較すると、「特にない」の選択肢を追加したため正確な比較はできないものの、「区内スポーツイベント等の一般ボランティア（案内、受付、運搬など）」が減少している。

2.8. 食生活で心がけていること

◆食生活で心がけていることは「栄養バランスや規則正しい食生活を心がけている」が5割台後半



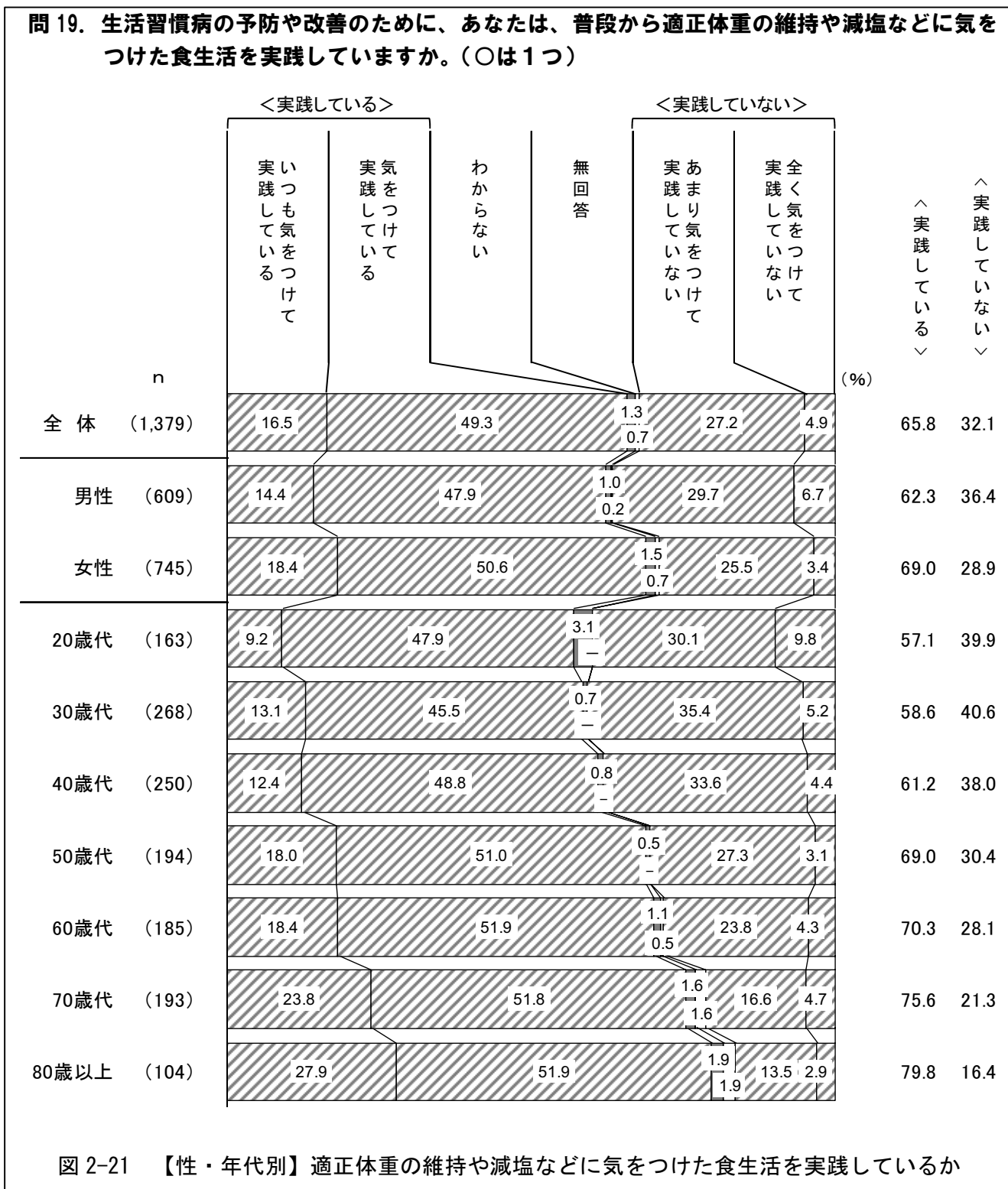
食べ物や食生活に関して心がけていることや関心があることは、「栄養バランスや規則正しい食生活を心がけている」が 58.8%で最も高く、次いで「朝食を毎朝欠かさず食べる」(58.2%)、「食べ残しや食材の廃棄を減らすようにしている」(56.6%) となっている。年代別にみると、65歳以上の方が65歳未満より食べ物や食生活について、「手軽さ・利便性や値段の安さを重視している」、「特にない」を除いて関心が高くなっている。



経年で比較すると、「朝食を毎朝欠かさず食べる」、「食の安全性を重視している」、「国産品や地場産品の購入に努めている」が減少傾向にあり、「食べ残しや食材の廃棄を減らすようにしている」、「手軽さ・利便性や値段の安さを重視している」は増加傾向となっている。

2.9. 適正体重の維持や減塩などに気をつけた食生活を実践しているか

◆適正体重の維持や減塩などに気をつけた食生活を<実践している>は6割台半ば



適正体重の維持や減塩などに気をつけた食生活を実践しているかについては、「いつも気をつけて実践している」(16.5%)と「気をつけて実践している」(49.3%)を合わせた<実践している>は65.8%となっている。性別にみると、<実践している>は女性(69.0%)が男性(62.3%)を約7ポイント上回っている。年代別にみると、<実践している>は年代が上がるにつれ増加しており、60歳代以上では7割を超えている。

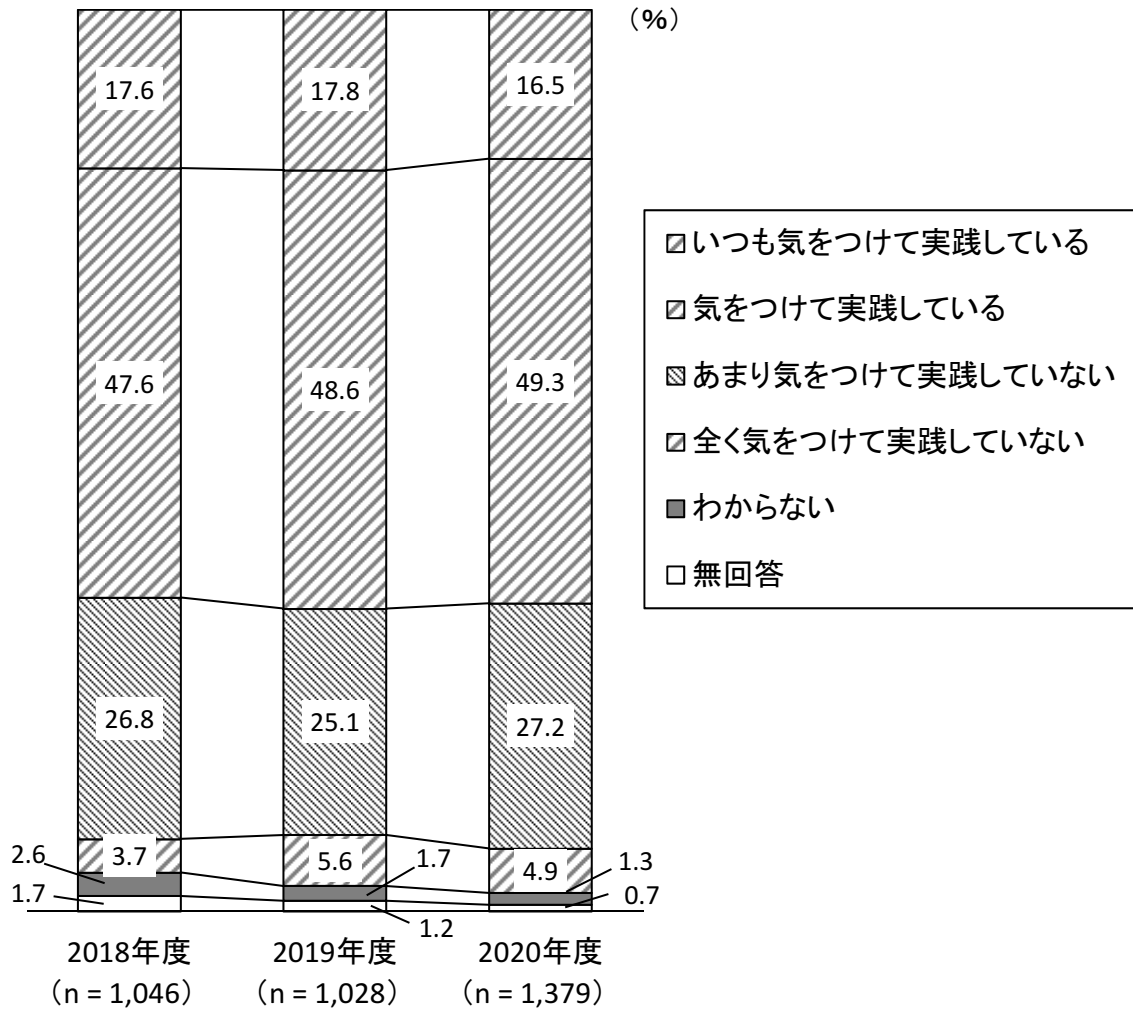
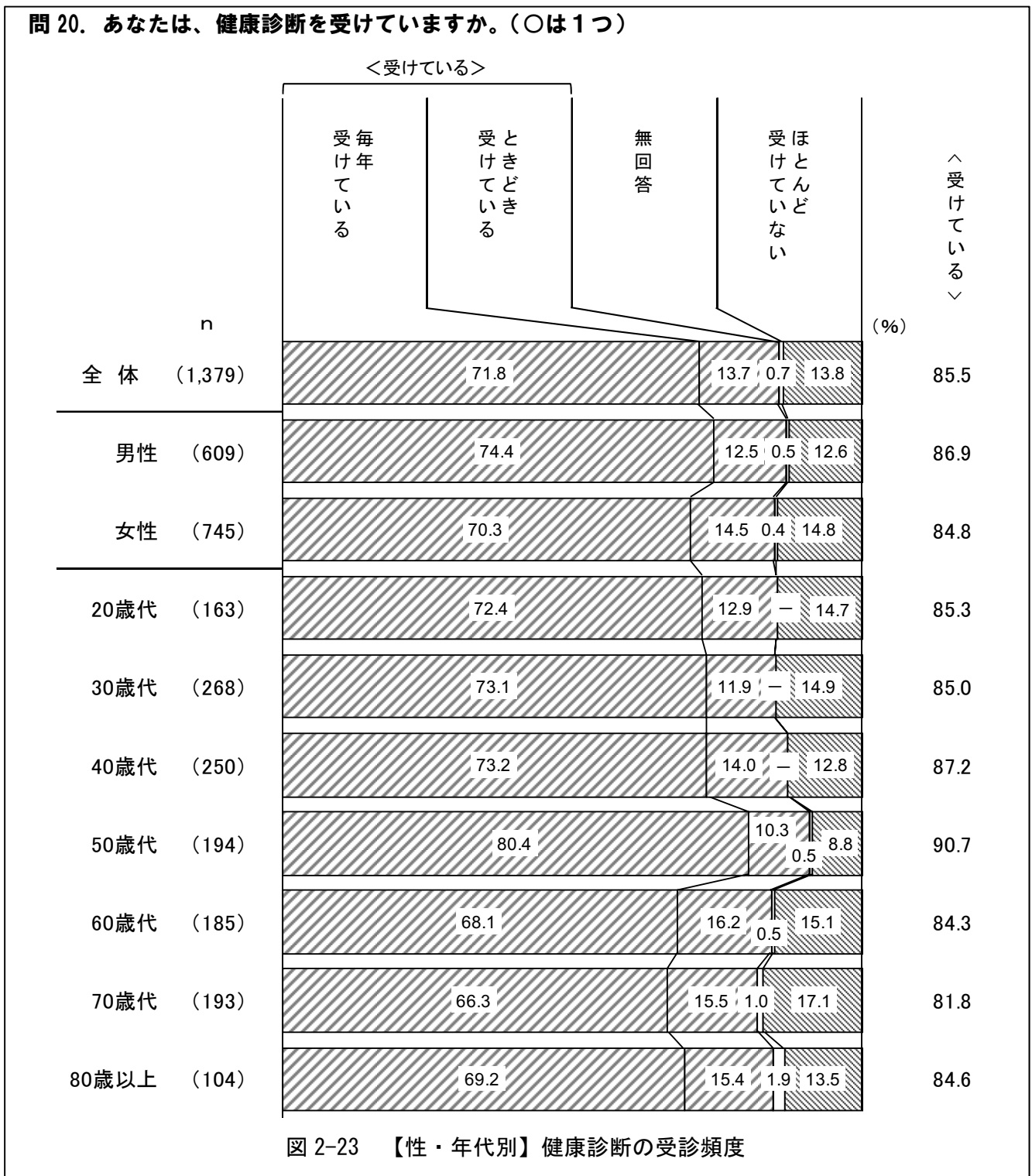


図 2-22 【経年比較】適正体重の維持や減塩などに気をつけた食生活を実践しているか

経年で比較すると、大きな差異はみられない。

2. 10. 健康診断の受診頻度

◆健康診断を<受けている>は8割台半ば



健康診断の受診頻度は、「毎年受けている」(71.8%)と「ときどき受けている」(13.7%)を合わせた<受けている>で85.5%となっている。性別にみると、「毎年受けている」は男性(74.4%)が女性(70.3%)を約4ポイント上回っている。年代別にみると、50歳代で<受けている>が9割を超えて高くなっている。

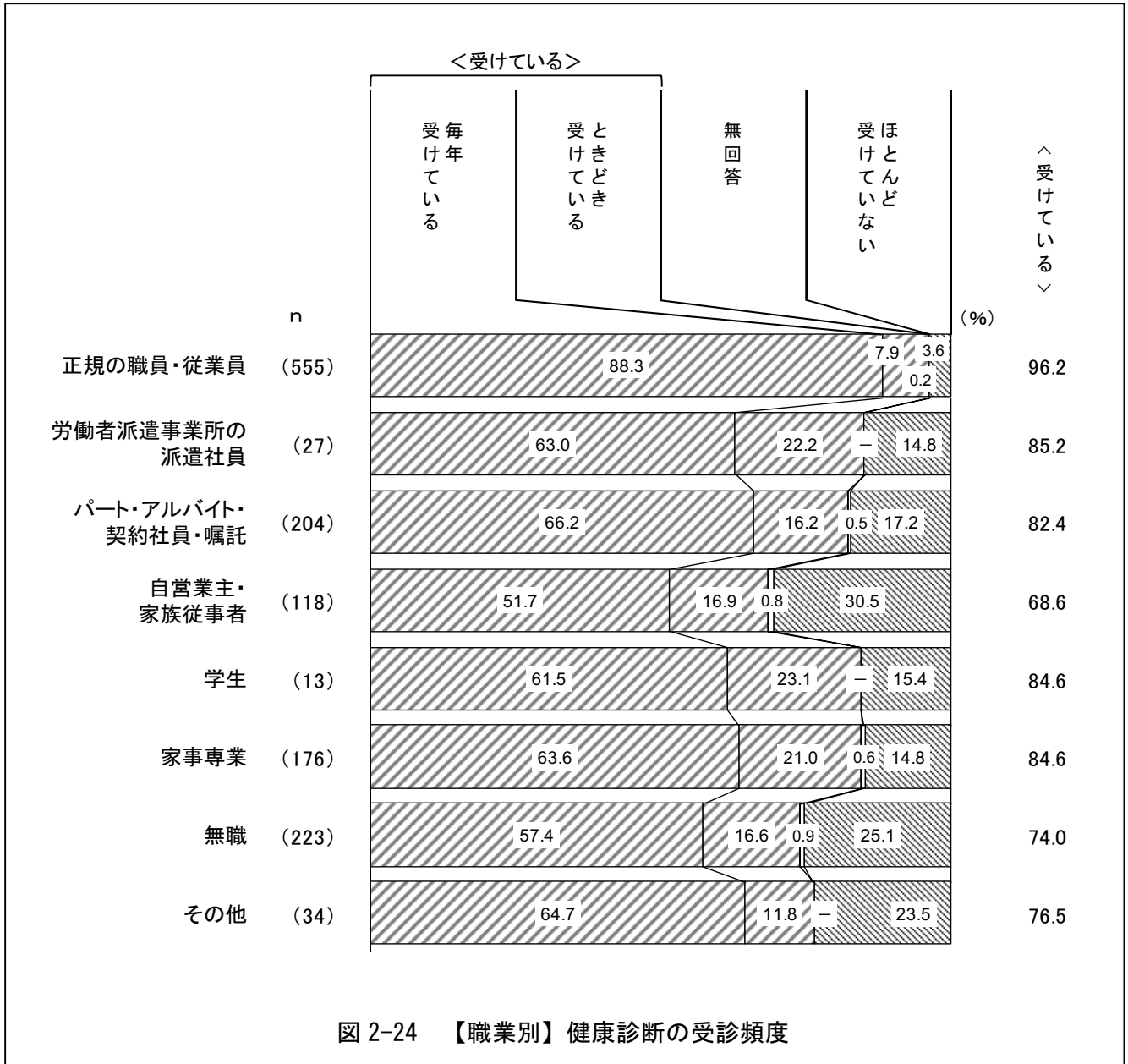


図 2-24 【職業別】健康診断の受診頻度

職業別にみると、＜受けている＞は「正規の職員・従業員」で 96.2%と最も高くなっている。一方、「自営業主・家族従事者」は＜受けていない＞が 68.6%と低くなっている。

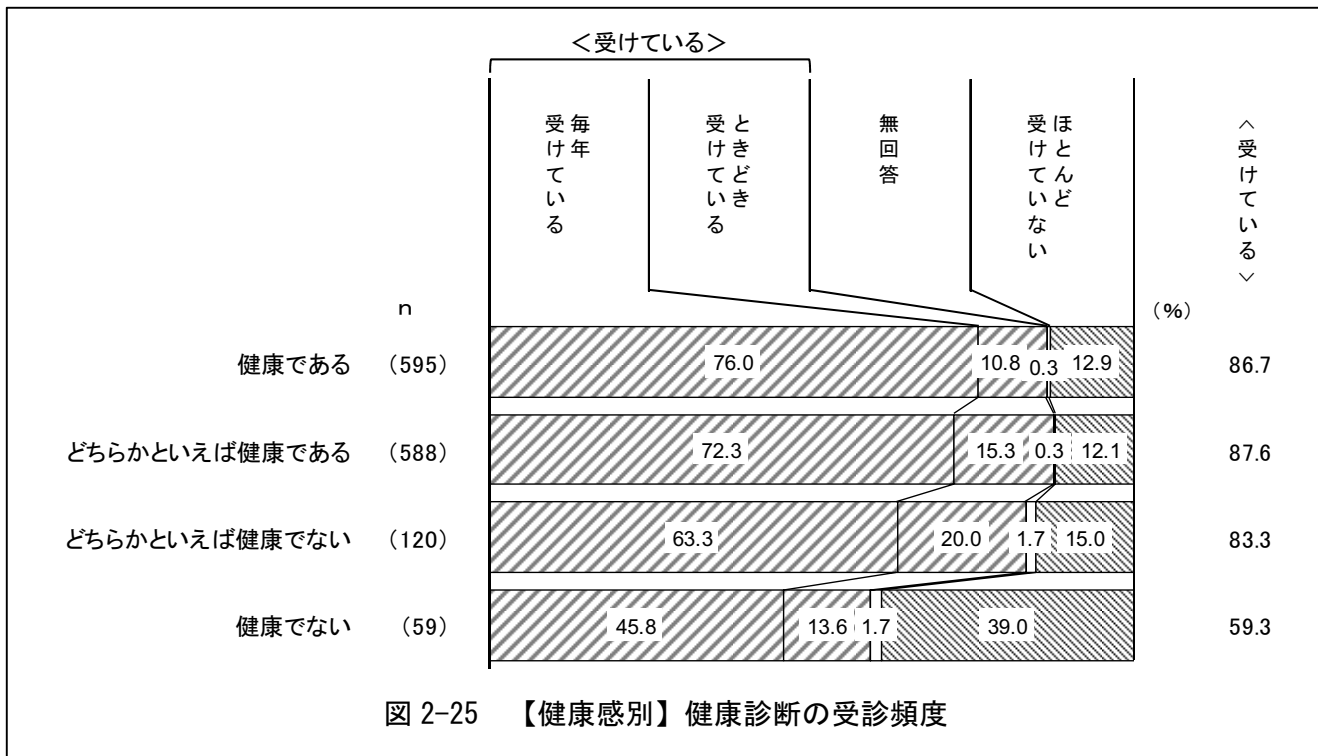


図 2-25 【健康感別】健康診断の受診頻度

「健康である」「どちらかといえば健康である」の方が、「どちらかといえば健康でない」「健康でない」よりも毎年健康診断を受診している割合が高くなっている。

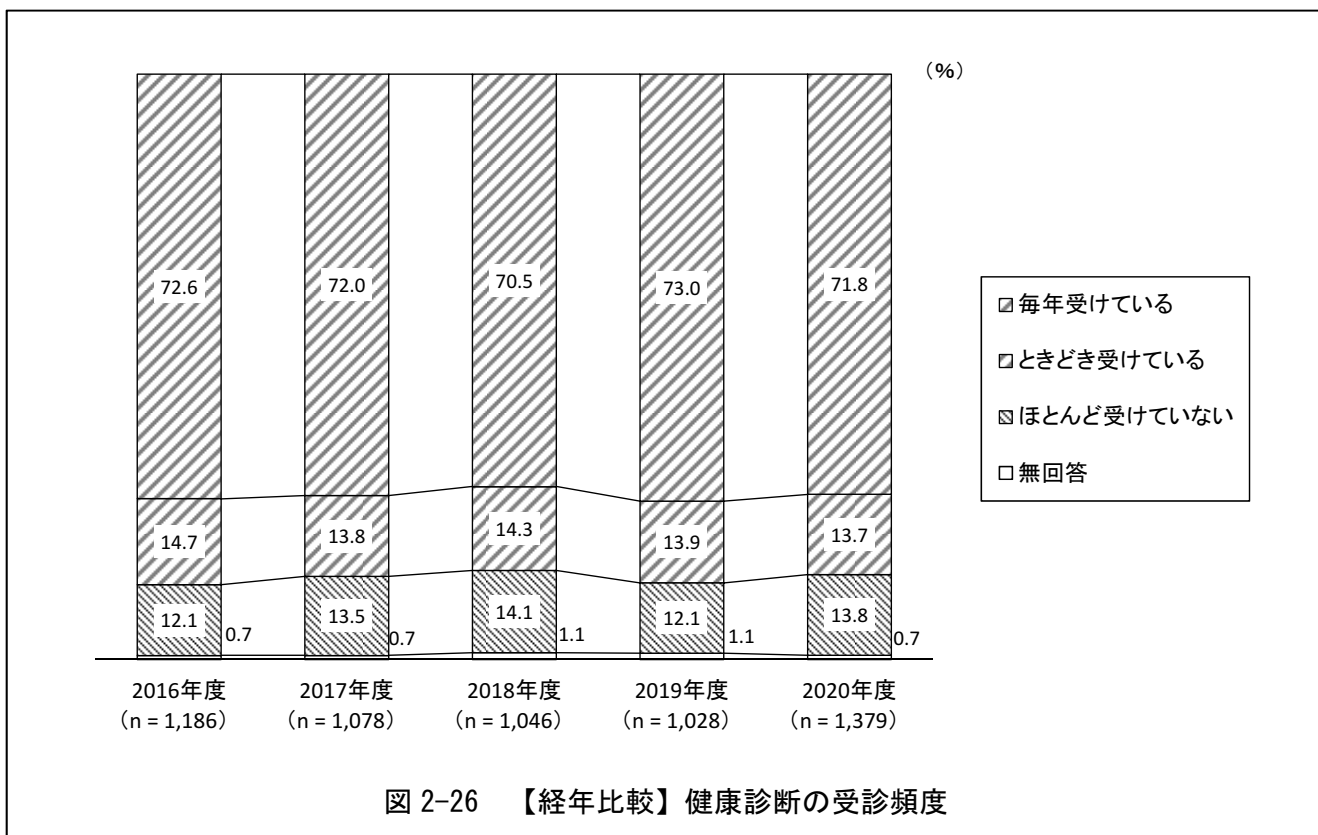


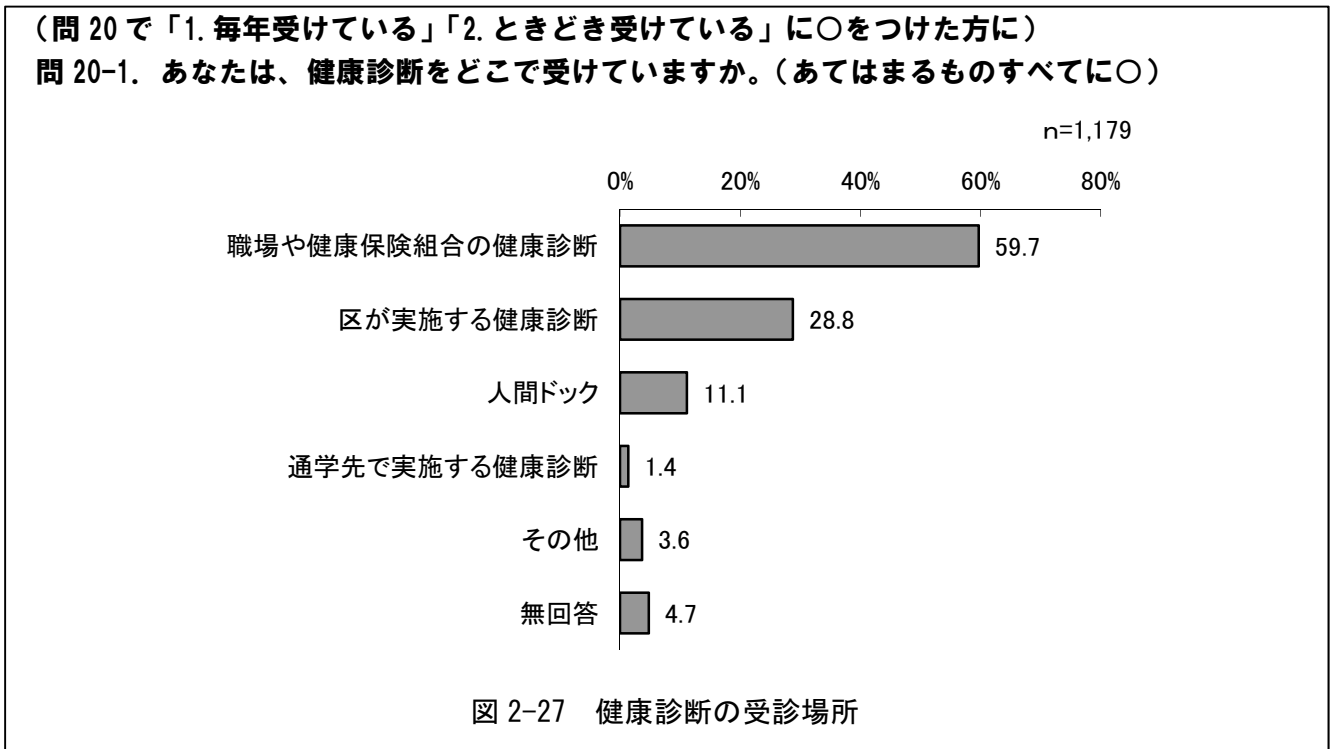
図 2-26 【経年比較】健康診断の受診頻度

経年で比較すると、大きな差異はみられない。



2.10.1. 健康診断の受診場所

◆健康診断の受診場所は「職場や健康保険組合の健康診断」が約6割



健康診断を受けている方に受診場所を聞いたところ、「職場や健康保険組合の健康診断」が 59.7%で最も高く、次いで「区が実施する健康診断」(28.8%)となっている。

表 2-8 【性・年代別】健康診断の受診場所

単位: %

区分	有効回答数(件)	職場や健康保険組合の健康診断	区が実施する健康診断	通学先で実施する健康診断	人間ドック	その他	無回答
全体	1,179	59.7	28.8	1.4	11.1	3.6	4.7
男性	529	62.0	22.3	1.7	11.7	3.4	4.5
女性	632	58.2	33.5	1.1	10.8	3.6	4.9
20歳代	139	89.9	1.4	7.2	—	0.7	2.9
30歳代	228	87.7	7.5	1.3	3.9	1.8	1.3
40歳代	218	78.4	14.7	0.9	15.1	0.5	2.8
50歳代	176	67.6	16.5	0.6	27.3	—	5.7
60歳代	156	37.8	44.2	—	14.1	5.8	9.6
70歳代	158	13.3	74.1	—	8.2	8.9	5.1
80歳以上	88	2.3	73.9	—	5.7	13.6	10.2

性別にみると、「職場や健康保険組合の健康診断」は男性、「区が実施する健康診断」は女性の割合が高くなっている。年代別にみると、20歳～50歳代は「職場や健康保険組合の健康診断」が最も高いのに対し、60歳代以上では「区が実施する健康診断」が最も高くなっている。また、50歳代は「人間ドック」の割合が2割台後半と他の年代と比較して高くなっている。

表 2-9 【居住地域別】健康診断の受診場所

単位：%

区分	有効回答数（件）	職場や健康保険組合の健康診断	区が実施する健康診断	通学先で実施する健康診断	人間ドック	その他	無回答
全体	1,179	59.7	28.8	1.4	11.1	3.6	4.7
南台	48	58.3	27.1	—	8.3	6.3	8.3
弥生町	81	45.7	43.2	3.7	9.9	2.5	4.9
本町	116	61.2	30.2	—	12.1	3.4	6.0
中央	93	66.7	22.6	—	9.7	6.5	3.2
東中野	85	62.4	25.9	—	10.6	4.7	4.7
中野	123	63.4	26.8	0.8	10.6	2.4	4.9
上高田	71	69.0	21.1	1.4	11.3	2.8	2.8
新井	65	58.5	26.2	3.1	18.5	1.5	4.6
沼袋	33	54.5	36.4	—	3.0	—	6.1
松が丘	28	50.0	28.6	—	17.9	7.1	3.6
江原町	23	56.5	34.8	—	13.0	4.3	0.0
江古田	53	67.9	22.6	—	15.1	5.7	1.9
丸山	10	50.0	50.0	—	—	—	10.0
野方	61	63.9	27.9	3.3	6.6	1.6	1.6
大和町	50	64.0	26.0	2.0	14.0	—	2.0
若宮	50	52.0	34.0	—	14.0	6.0	6.0
白鷺	54	51.9	37.0	1.9	11.1	3.7	3.7
鷺宮	59	57.6	25.4	5.1	10.2	3.4	8.5
上鷺宮	57	59.6	21.1	3.5	10.5	3.5	8.8

居住地域別にみると、全ての地域で「職場や健康保険組合の健康診断」が最も高くなっている。

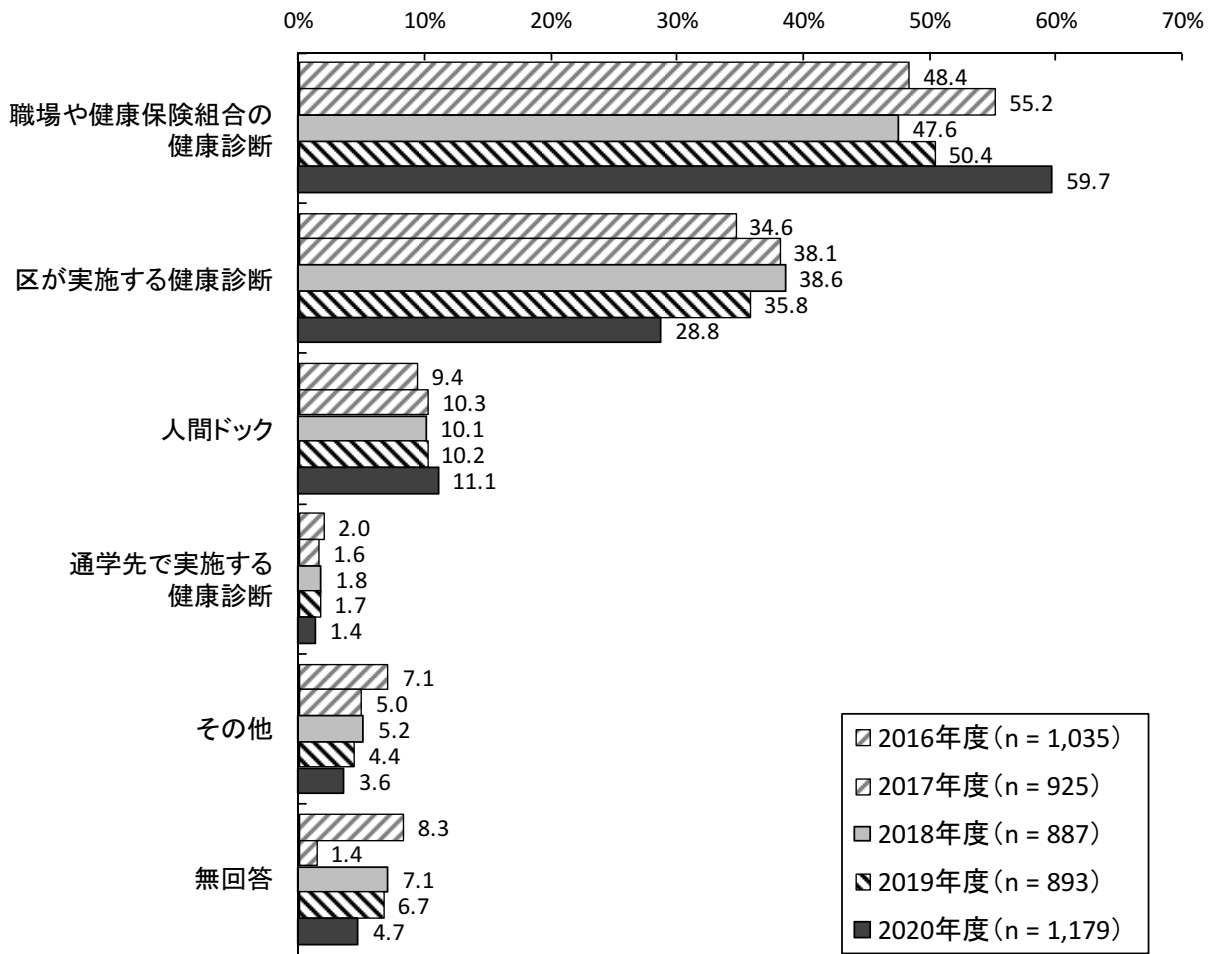
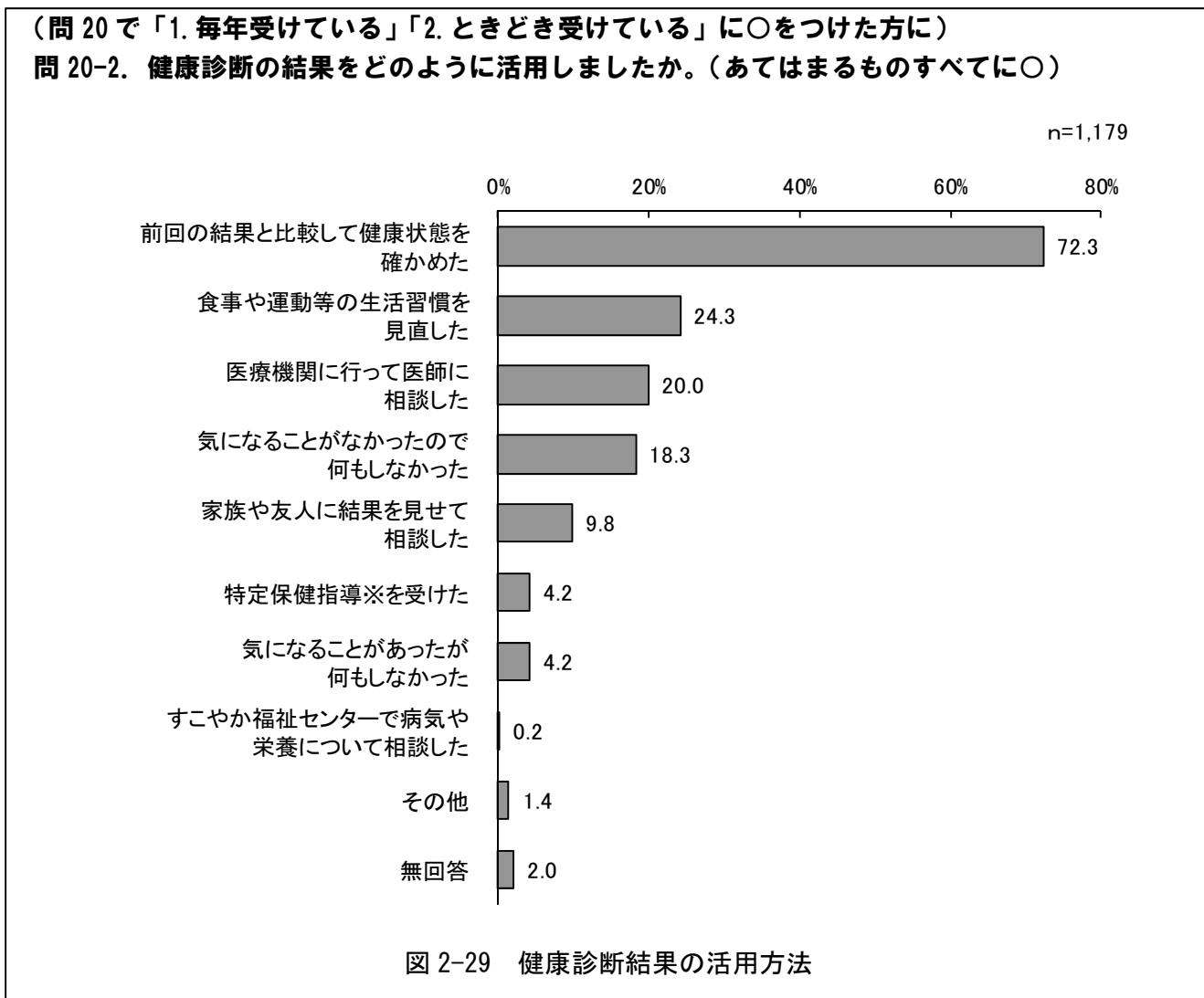


図 2-28 【経年比較】健康診断の受診場所

経年で比較すると、2020年度は「職場や健康保険組合の健康診断」が増加し、「区が実施する健康診断」が減少している。

2. 10. 2. 健康診断結果の活用方法

◆健康診断結果の活用方法は「前回の結果と比較して健康状態を確かめた」が7割台前半



※特定保健指導…メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の早期発見を目的とした健康診査（特定健診）の結果、メタボリックシンドローム、あるいはその予備群とされた人に対して医療保険者が行う保健指導のこと。

健康診断を受けている方に健康診断結果の活用方法を聞いたところ、「前回の結果と比較して健康状態を確かめた」が 72.3%で最も高く、次いで「食事や運動等の生活習慣を見直した」（24.3%）、「医療機関に行って医師に相談した」（20.0%）となっている。

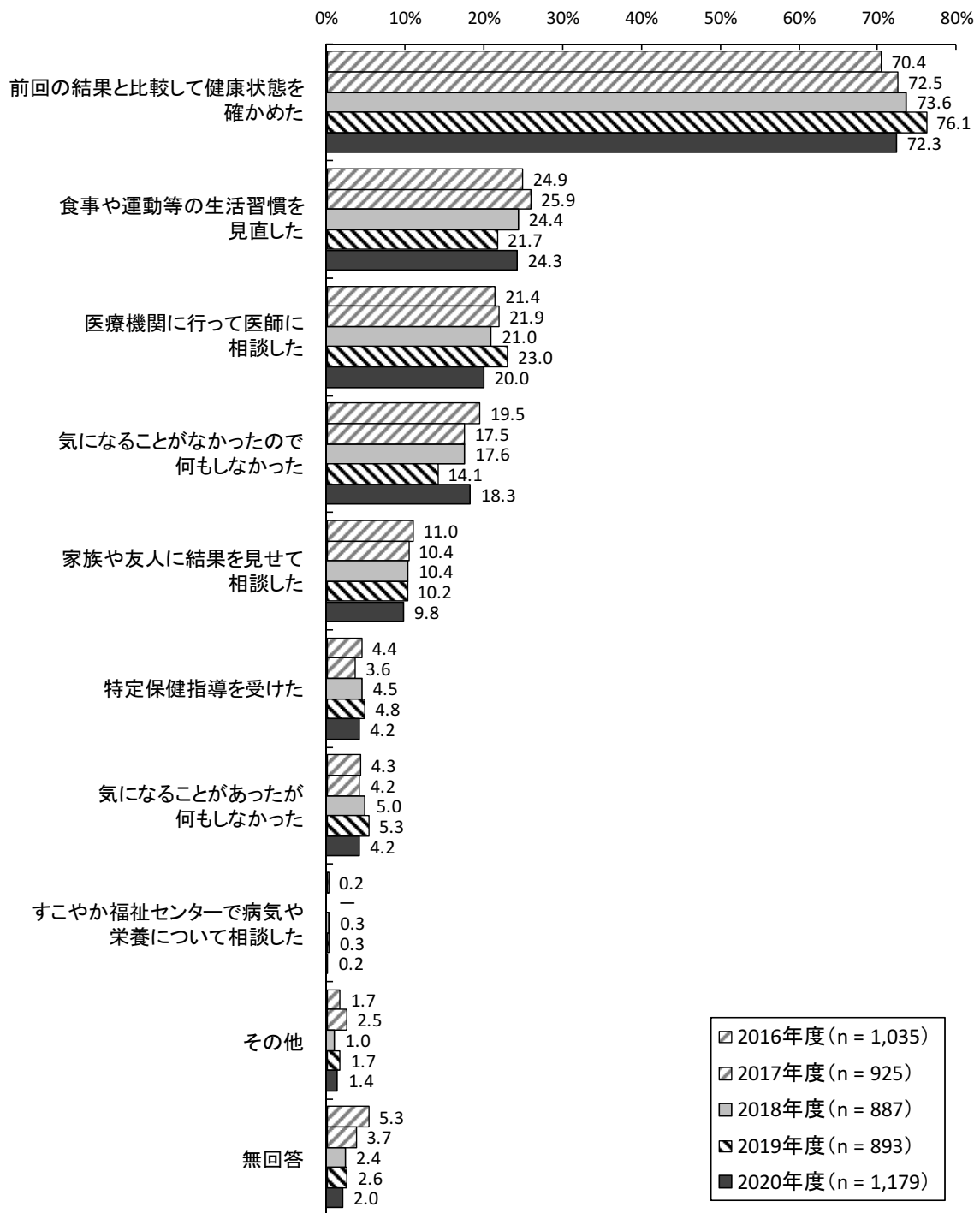


図 2-30 【経年比較】健康診断結果の活用方法

経年で比較すると、大きな差異はみられない。

2. 10. 3. 健康診断を受けなかった理由

◆健康診断を受けなかった理由は「費用がかかるから」が約3割

(問 20 で「3. ほとんど受けていない」に○をつけた方に)

問 20-3. あなたが、健康診断を受けなかった理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

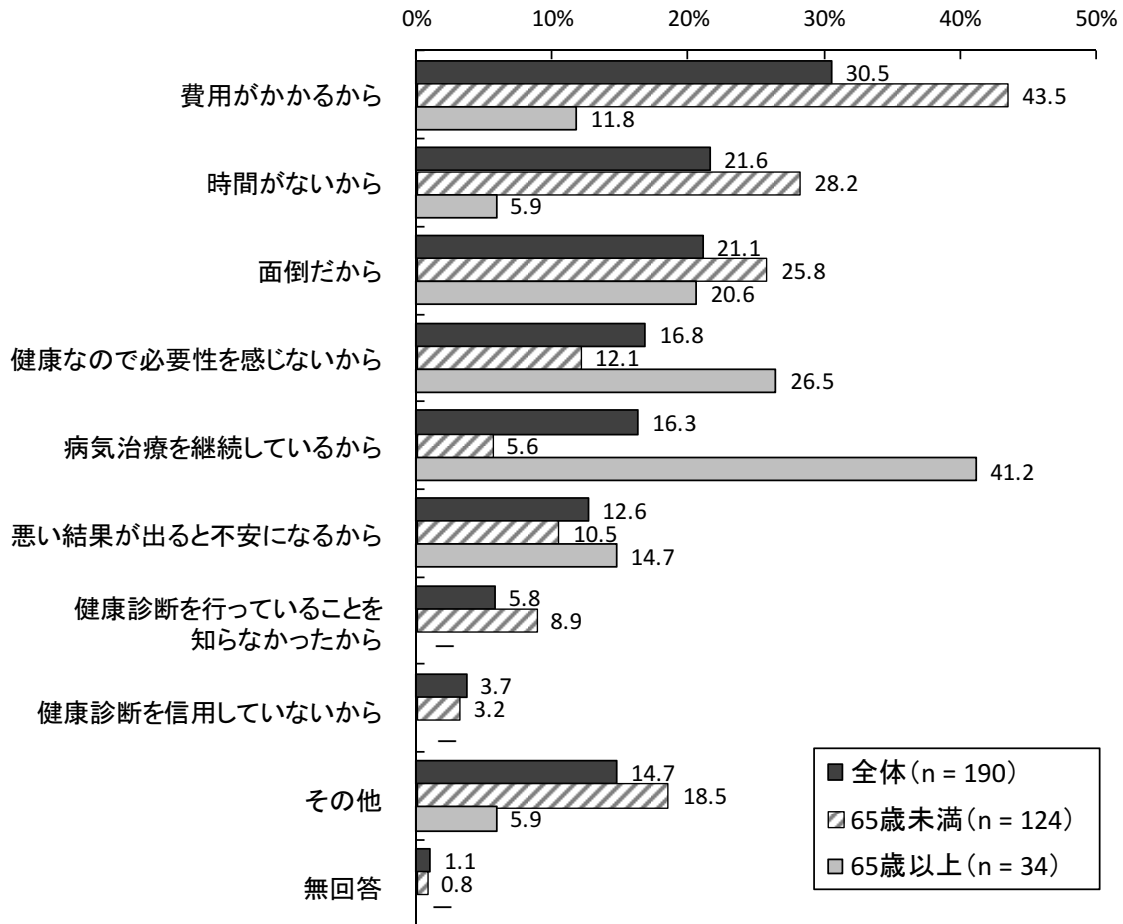


図 2-31 【年代別】健康診断を受けなかった理由

健康診断を受けなかった方にその理由を聞いたところ、「費用がかかるから」が 30.5%で最も高く、次いで「時間がないから」(21.6%)、「面倒だから」(21.1%)となっている。年代別にみると、65歳未満では「費用がかかるから」(43.5%)が最も高く、次いで「時間がないから」(28.2%)、「面倒だから」(25.8%)となっているのに対し、65歳以上では「病気治療を継続しているから」(41.2%)が最も高く、次いで「健康なので必要性を感じないから」(26.5%)、「面倒だから」(20.6%)となっている。

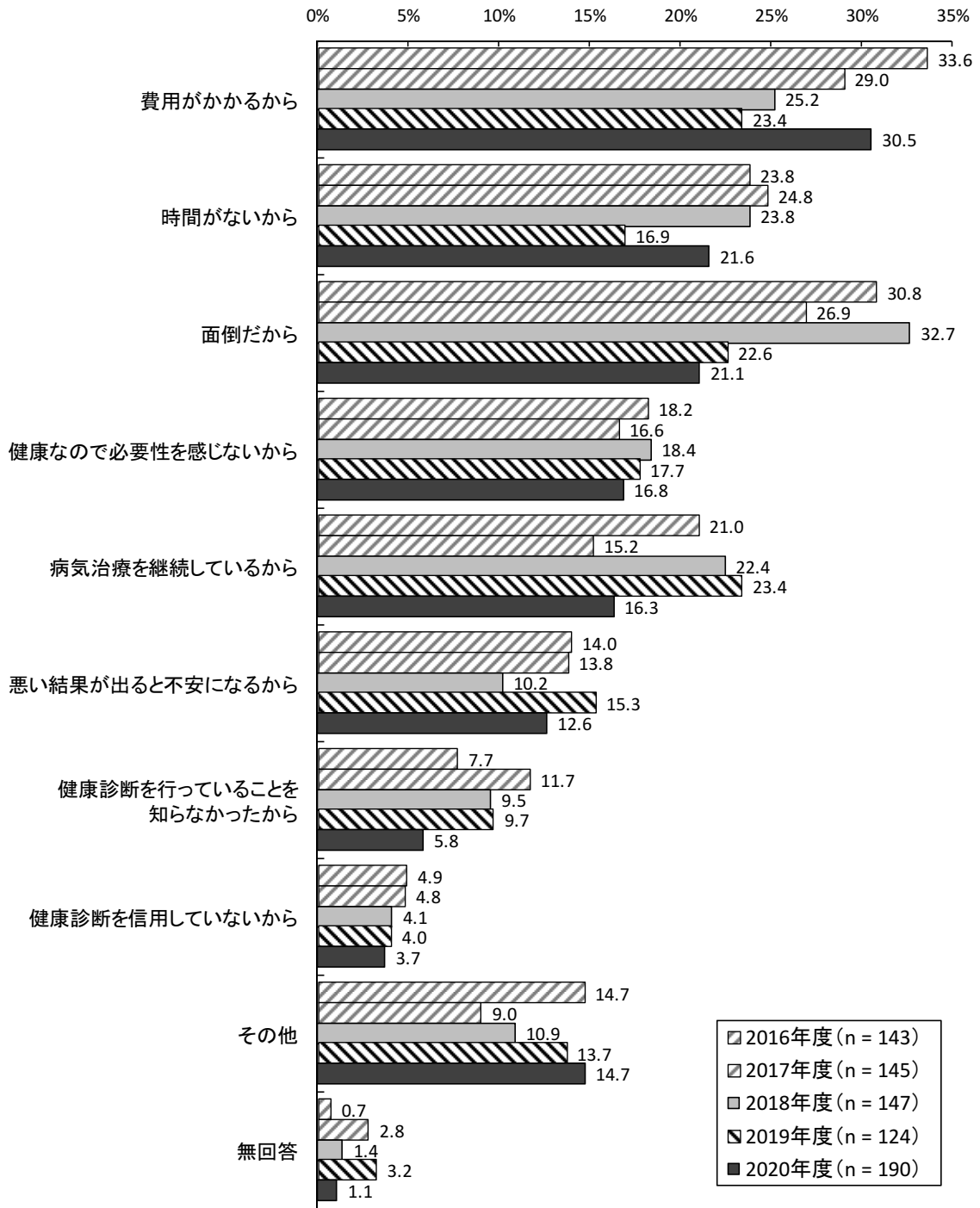
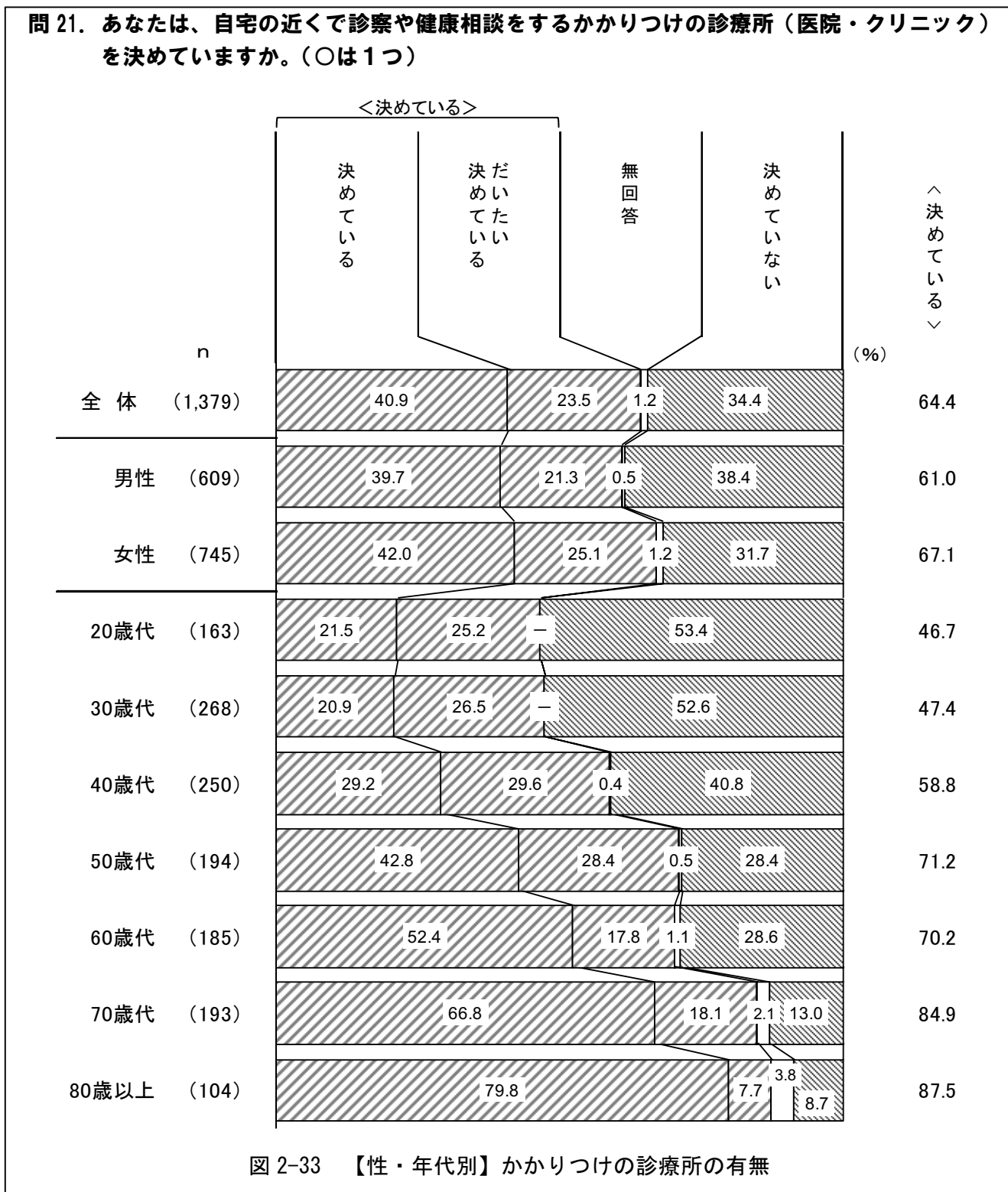


図 2-32 【経年比較】健康診断を受けなかった理由

経年で比較すると、「費用がかかるから」は減少していたが、2020年度は増加した。

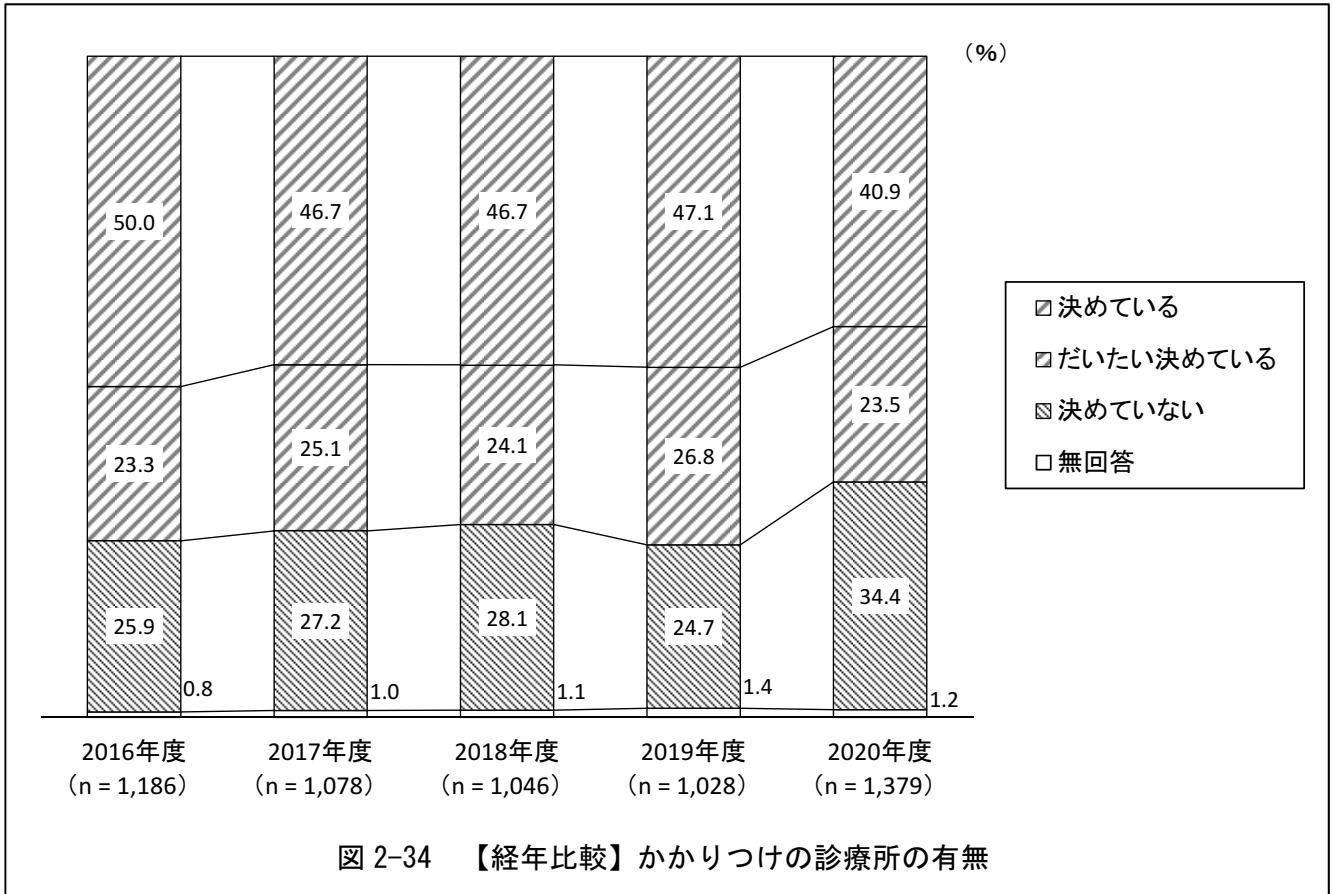
2. 11. かかりつけの診療所の有無

◆かかりつけの診療所を<決めている>割合は年代が上がるにつれ増加傾向



かかりつけの診療所を決めているかについては、「決めている」（40.9％）と「だいたい決めている」（23.5％）を合わせた<決めている>で64.4％となっている。性別にみると、<決めている>では女性（67.1％）が男性（61.0％）を約6ポイント上回っている。年代別にみると、<決めている>は年代が上がるにつれ増加しており、80歳以上では8割台後半となっている。

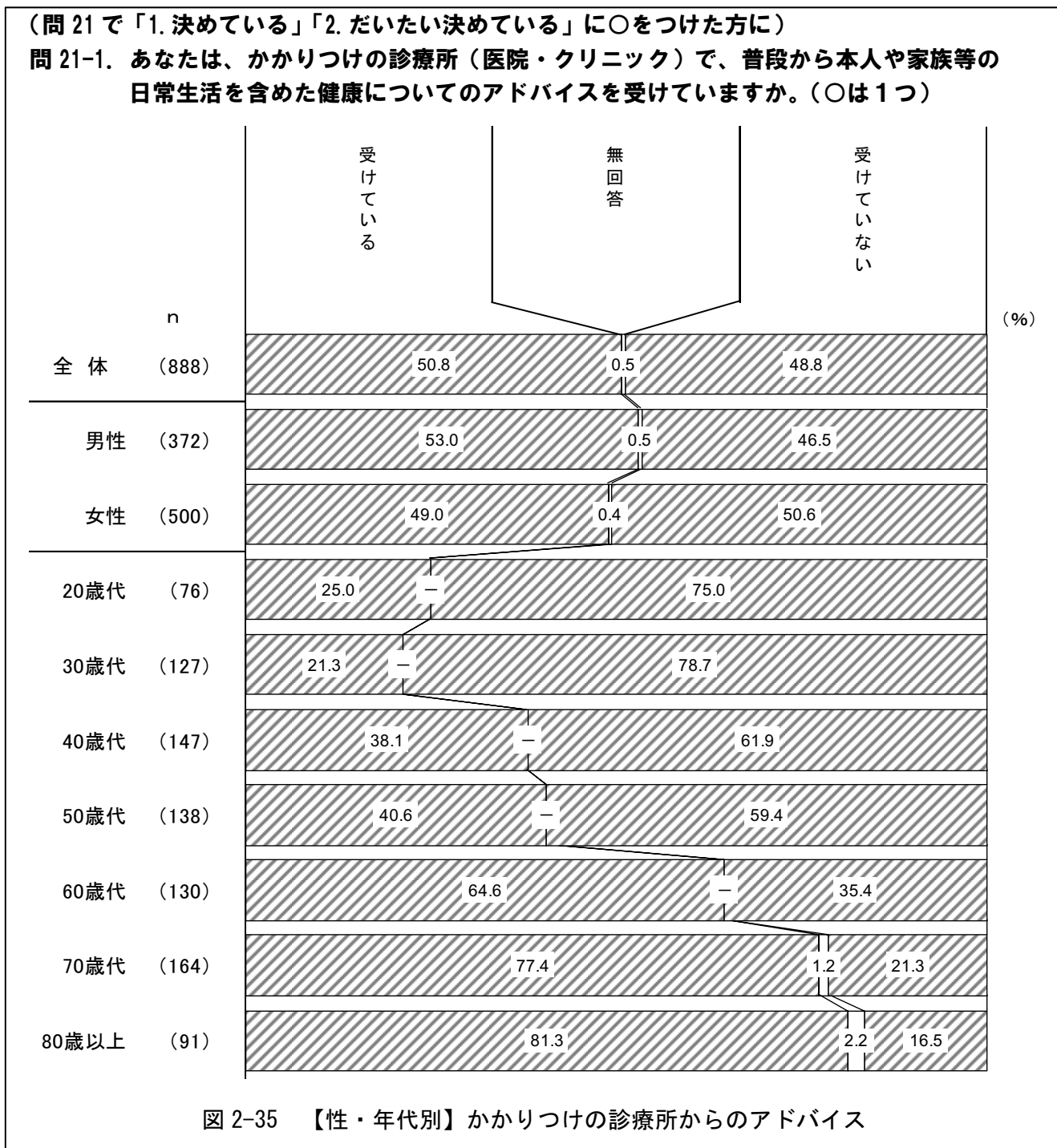




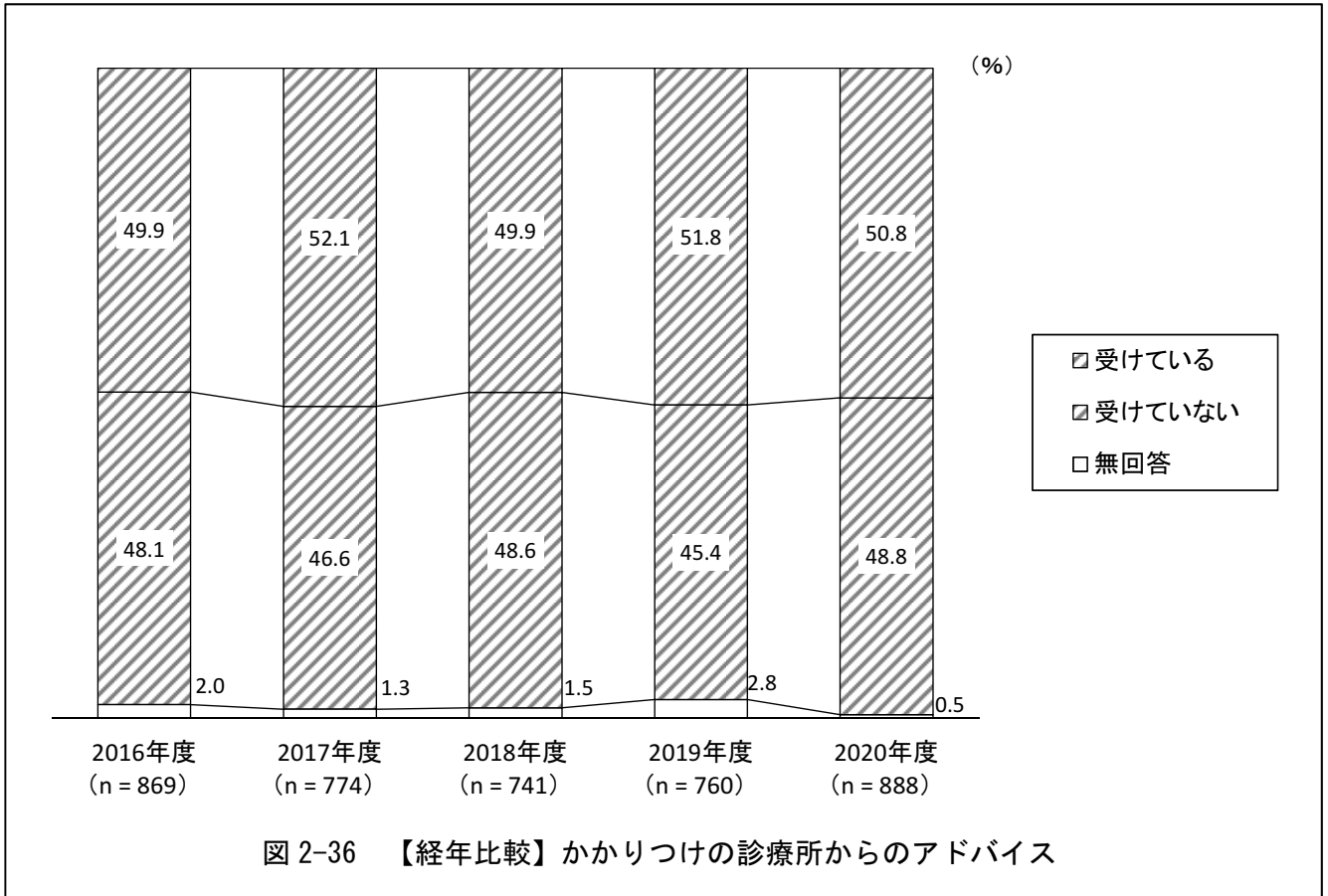
経年で比較すると、「決めていない」は2019年度のみ減少したものの、増加傾向にある。

2. 11. 1. かかりつけの診療所からのアドバイス

◆かかりつけの診療所で健康についてのアドバイスを「受けている」は約5割



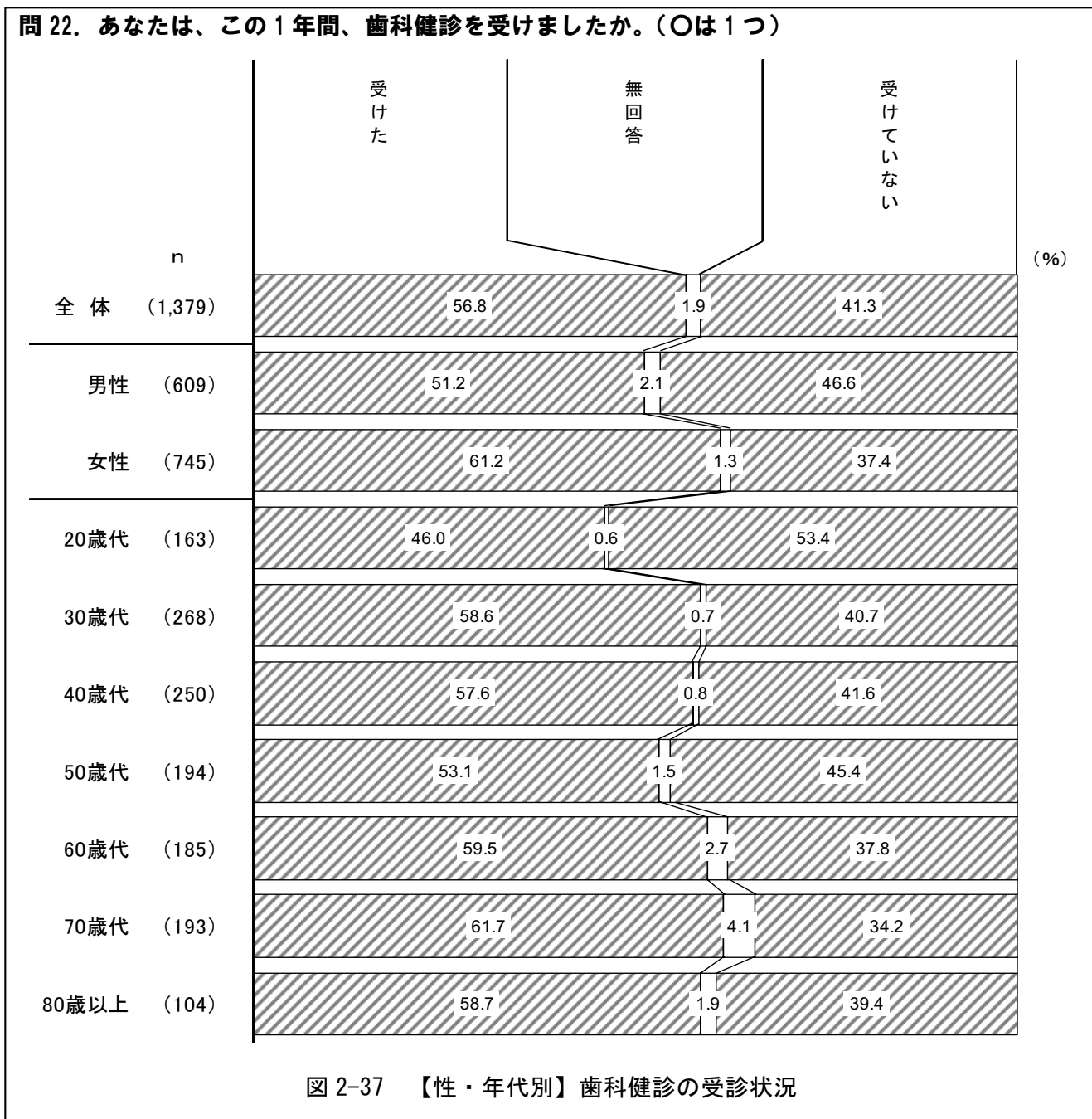
かかりつけの診療所を決めている方にかかりつけの診療所から健康についてのアドバイスを受けているか聞いたところ、「受けている」が 50.8%に対し、「受けていない」は 48.8%となっている。性別にみると、「受けている」では男性 (53.0%) が女性 (49.0%) を 4 ポイント上回っている。年代別にみると、「受けている」は 30 歳代を除き年代が上がるにつれ増加しており、80 歳代以上では 8 割を超えている。



経年で比較すると、大きな差異はみられない。

2. 12. 歯科健診の受診状況

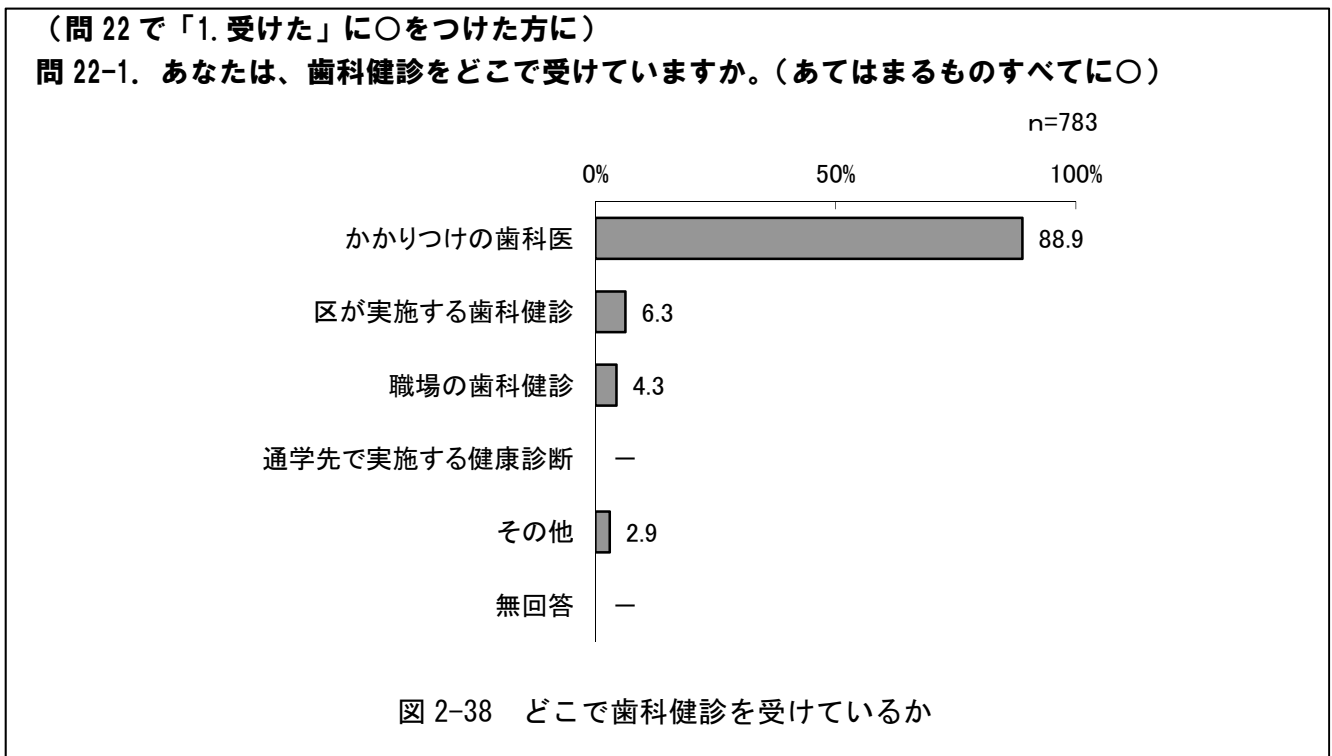
◆ 歯科健診を「受けた」は5割台半ば



歯科健診の受診については「受けた」が56.8%に対し、「受けていない」が41.3%となっている。性別に見ると、「受けた」は女性(61.2%)が男性(51.2%)を10ポイント上回っている。年代別にみると、20歳代で「受けた」が4割台半ばとなっており、他の年代と比較して低くなっている。

2.12.1. どこで歯科健診を受けているか

◆歯科健診の受診場所は「かかりつけの歯科医」が8割台後半



歯科健診の受診場所については「かかりつけの歯科医」が 88.9%で最も高く、次いで、「区が実施する歯科健診」(6.3%)となっている。

表 2-10 【性・年代別】どこで歯科健診を受けているか

単位: %

区分	有効回答数 (件)	職場の 歯科健診	区が 実施する 歯科健診	健康 診断 通学先で 実施する	かかり つけの 歯科医	その他	無 回答
全体	783	4.3	6.3	—	88.9	2.9	—
男性	312	7.1	5.8	—	87.2	2.6	—
女性	456	2.6	6.6	—	90.1	3.1	—
20歳代	75	8.0	2.7	—	86.7	5.3	—
30歳代	157	5.1	4.5	—	87.3	5.1	—
40歳代	144	6.3	5.6	—	87.5	2.1	—
50歳代	103	7.8	6.8	—	86.4	1.0	—
60歳代	110	2.7	12.7	—	90.0	0.9	—
70歳代	119	—	7.6	—	91.6	3.4	—
80歳以上	61	—	1.6	—	96.7	1.6	—

性別にみると、「職場の歯科健診」は男性の割合が高くなっている。年代別にみると、60歳代で「区が実施する歯科健診」の割合が他の年代と比較して高くなっている。

2. 12. 2. 歯科健診を受診しなかった理由

◆歯科健診を受診しなかった理由は「時間がないから」が3割

(問 22 で「2. 受けていない」に○をつけた方に)

問 22-2. あなたが、歯科健診を受診しなかった理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

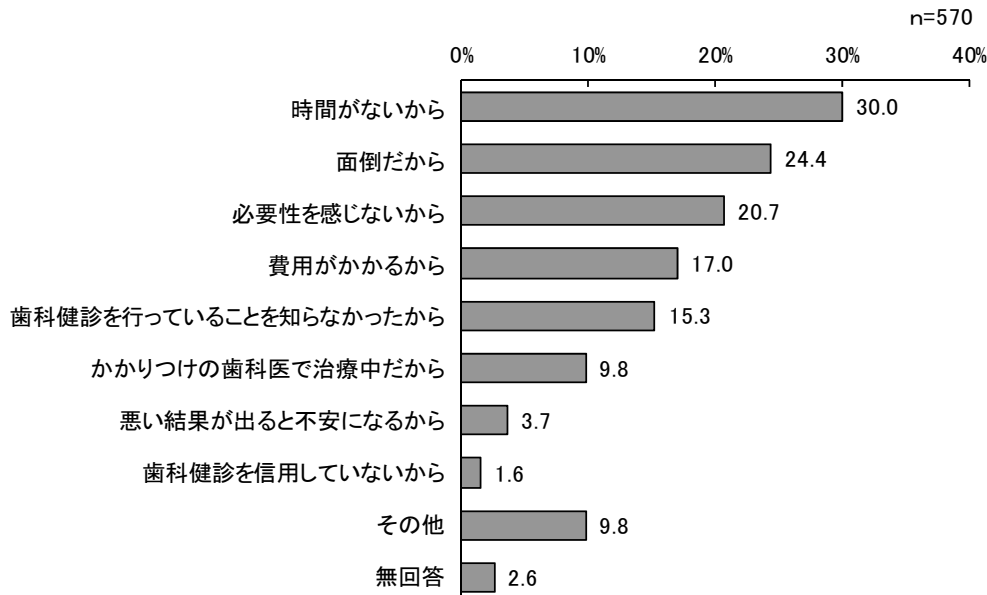


図 2-39 歯科健診を受診しなかった理由

歯科健診を受診しなかった理由については「時間がないから」が30.0%と最も高くなっており、次いで「面倒だから」(24.4%)、「必要性を感じないから」(20.7%)となっている。

表 2-11 【性・年代別】歯科健診を受診しなかった理由

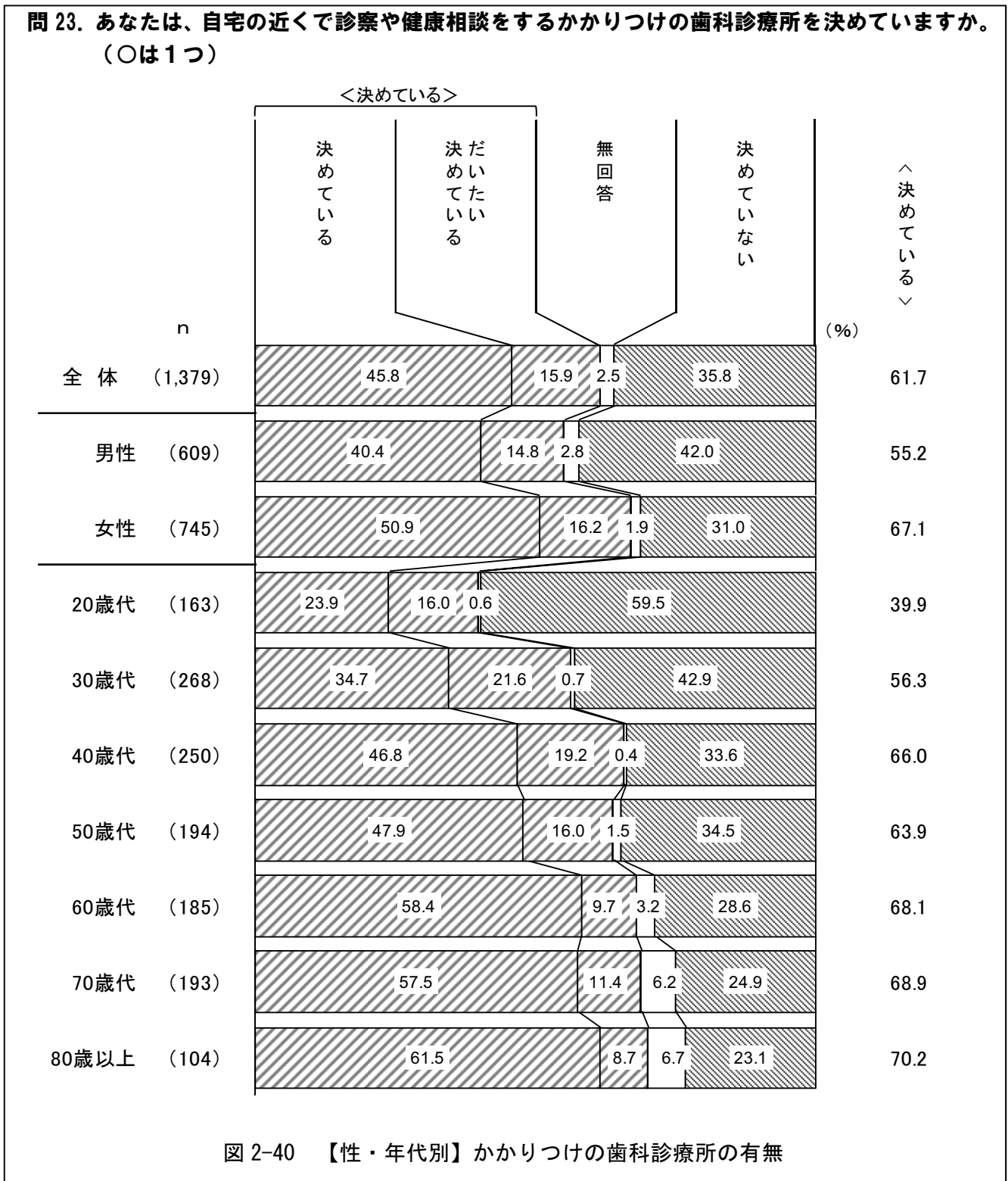
単位: %

区分	有効回答数 (件)	時間がないから	費用がかかるから	面倒だから	かかりつけの歯科医で治療中だから	歯科健診を行っていることを知らなかったから	歯科健診を信用していないから	悪い結果が出ると不安になるから	必要性を感じないから	その他	無回答
全体	570	30.0	17.0	24.4	9.8	15.3	1.6	3.7	20.7	9.8	2.6
男性	284	30.6	19.4	28.2	7.4	15.8	1.8	4.9	23.6	7.4	2.5
女性	279	29.4	14.7	20.8	12.2	15.1	1.4	2.2	17.6	12.5	2.5
20歳代	87	40.2	28.7	36.8	—	8.0	2.3	2.3	26.4	4.6	2.3
30歳代	109	33.9	22.9	33.0	8.3	16.5	1.8	3.7	17.4	11.9	2.8
40歳代	104	41.3	14.4	26.0	7.7	15.4	1.0	3.8	17.3	2.9	1.9
50歳代	88	39.8	13.6	22.7	9.1	19.3	—	2.3	21.6	8.0	1.1
60歳代	70	17.1	15.7	18.6	22.9	15.7	5.7	2.9	12.9	11.4	1.4
70歳代	66	10.6	10.6	12.1	13.6	19.7	—	7.6	18.2	22.7	1.5
80歳以上	41	2.4	2.4	4.9	12.2	12.2	—	2.4	41.5	14.6	9.8

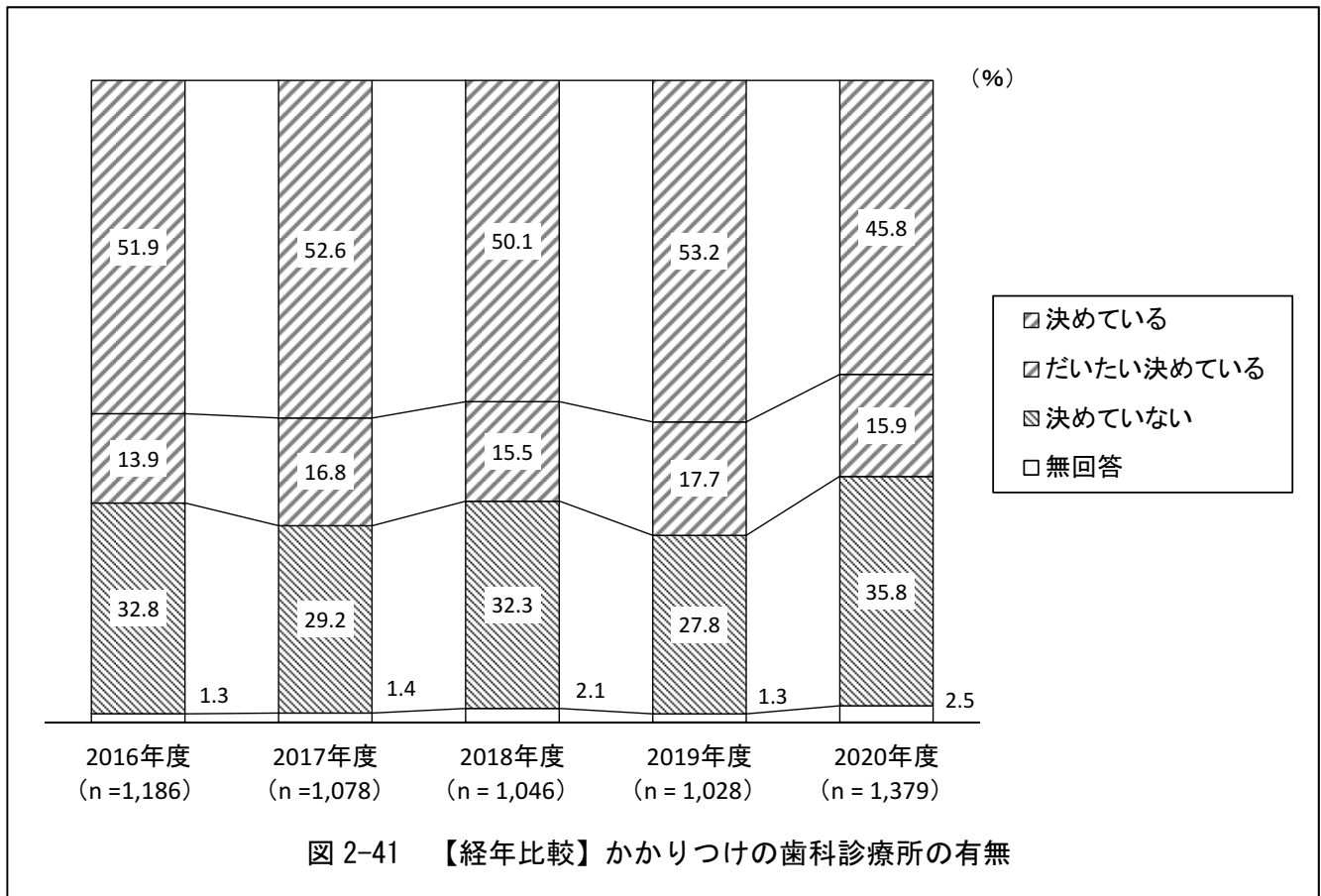
性別にみると、「かかりつけの歯科医で治療中だから」、「その他」を除き、男性の割合が高くなっている。年代別にみると、20歳～50歳代で「時間がないから」、60歳代で「かかりつけの歯科医で治療中だから」、80歳以上で「必要性を感じないから」の割合が高くなっている。

2.13. かかりつけの歯科診療所の有無

◆かかりつけの歯科診療所を<決めている>が約6割



かかりつけの歯科診療所を決めているかについては、「決めている」(45.8%)と「だいたい決めている」(15.9%)を合わせた<決めている>で61.7%となっている。性別にみると、<決めている>は女性(67.1%)が男性(55.2%)を約12ポイント上回っている。年代別にみると、<決めている>は50歳代を除き年代が上がるにつれ増加しており、80歳以上では7割を超えている。

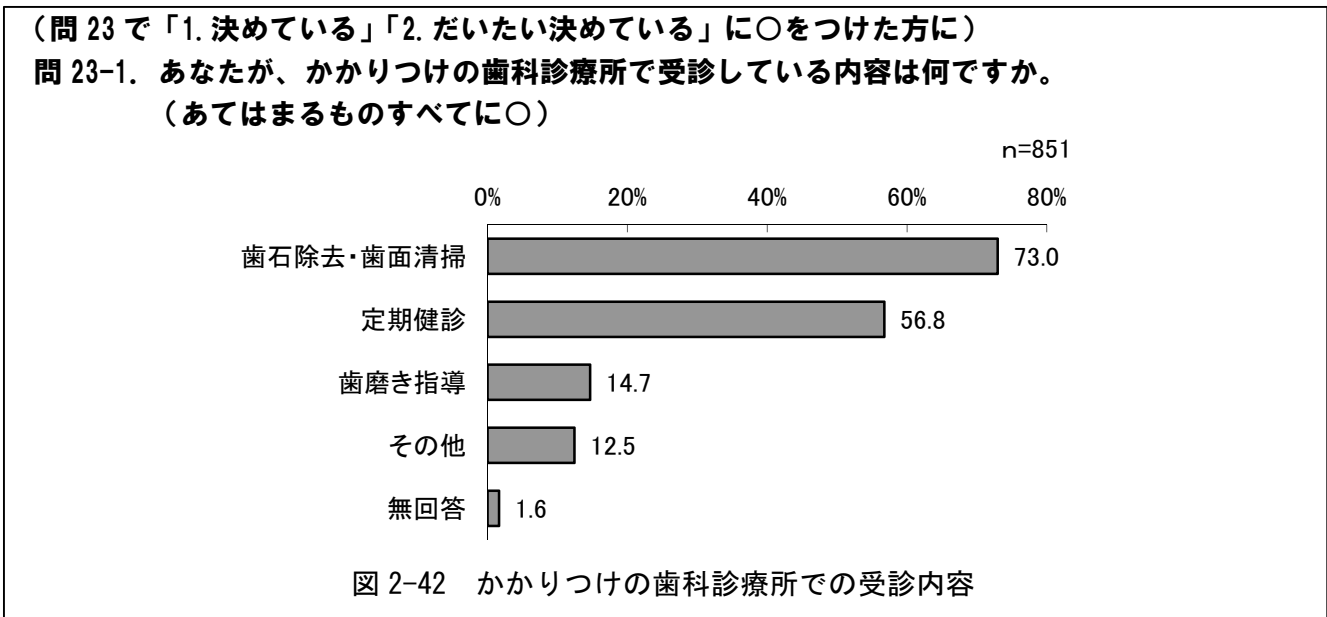


経年で比較すると、大きな差異はみられない。

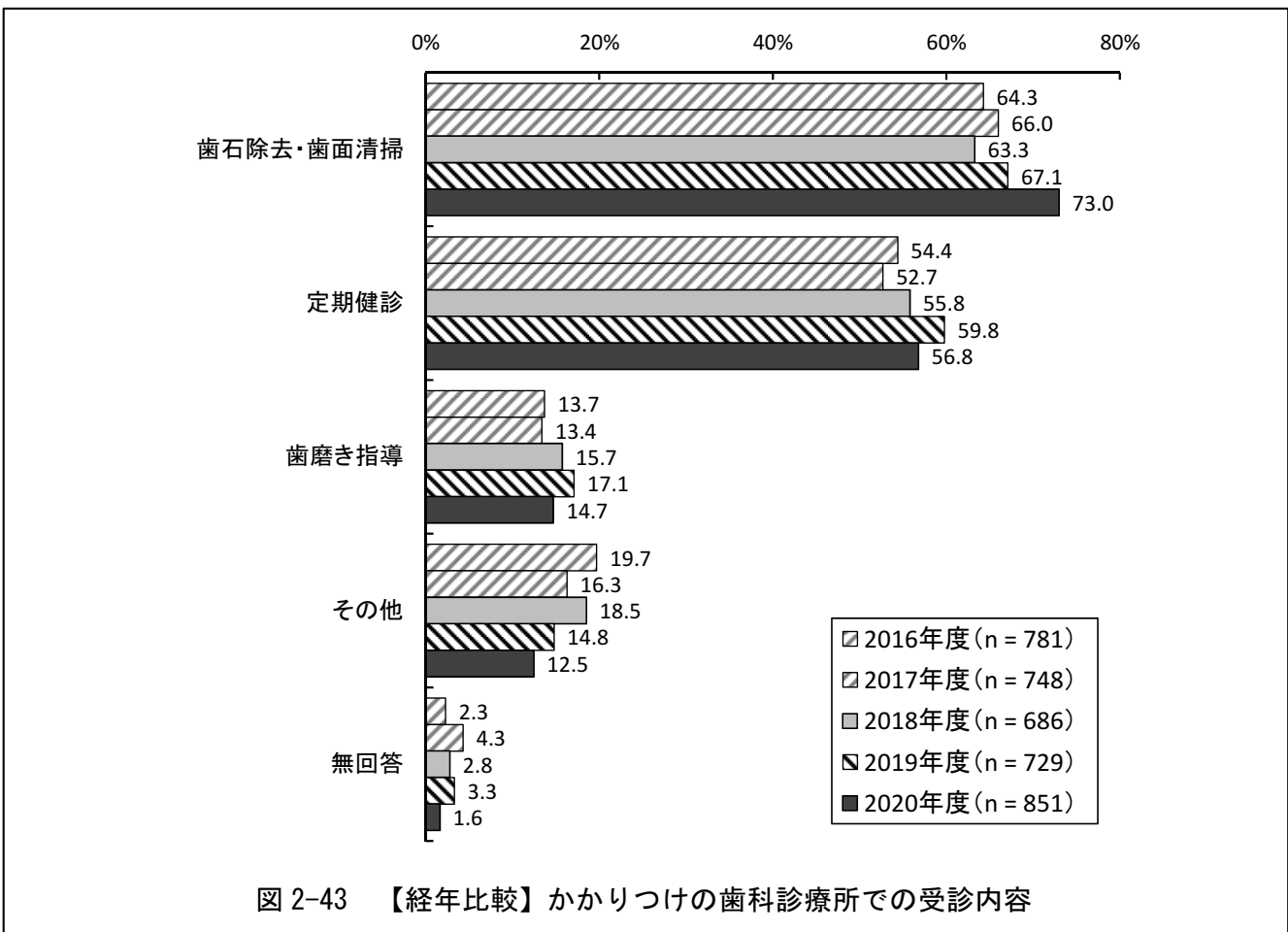


2. 13. 1. かかりつけの歯科診療所での受診内容

◆かかりつけの歯科診療所での受診内容は「歯石除去・歯面清掃」が7割前半



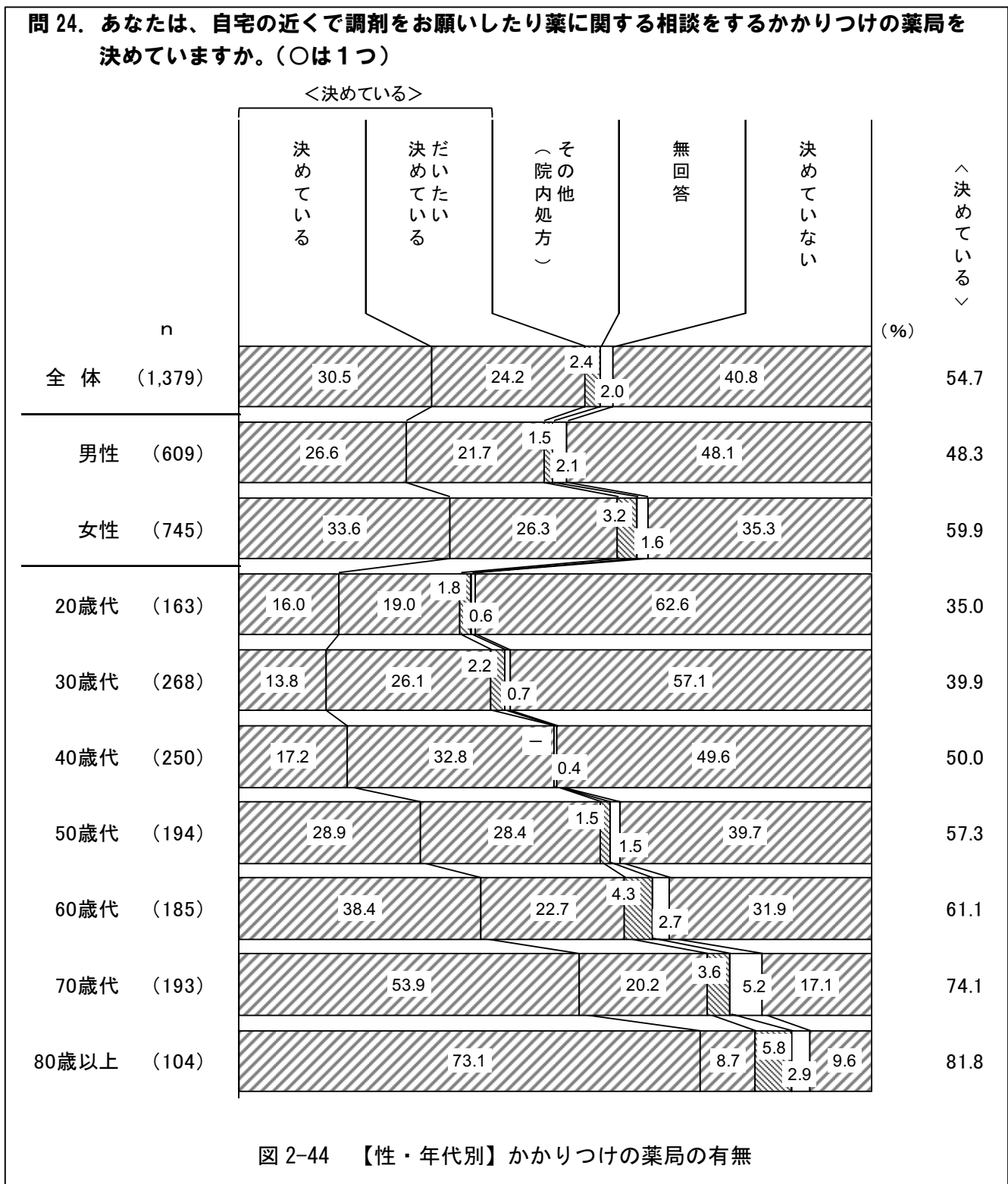
かかりつけの歯科診療所を決めている方に受診内容を聞いたところ、「歯石除去・歯面清掃」が73.0%と最も高く、次いで「定期健診」(56.8%)となっている。「その他」(12.5%)としては「虫歯治療」、「入れ歯の調整」、「歯列矯正」などがあげられている。



経年で比較すると、「歯石除去・歯面清掃」が増加傾向にある。

2. 14. かかりつけの薬局の有無

◆かかりつけの薬局を<決めている>が5割台半ば



かかりつけの薬局を決めているかについては、「決めている」(30.5%)と「だいたい決めている」(24.2%)を合わせた<決めている>で54.7%となっている。性別にみると、<決めている>は女性(59.9%)が男性(48.3%)を約12ポイント上回っている。年代別にみると、<決めている>は年代が上がるにつれ増加しており、80歳以上では8割を超えている。

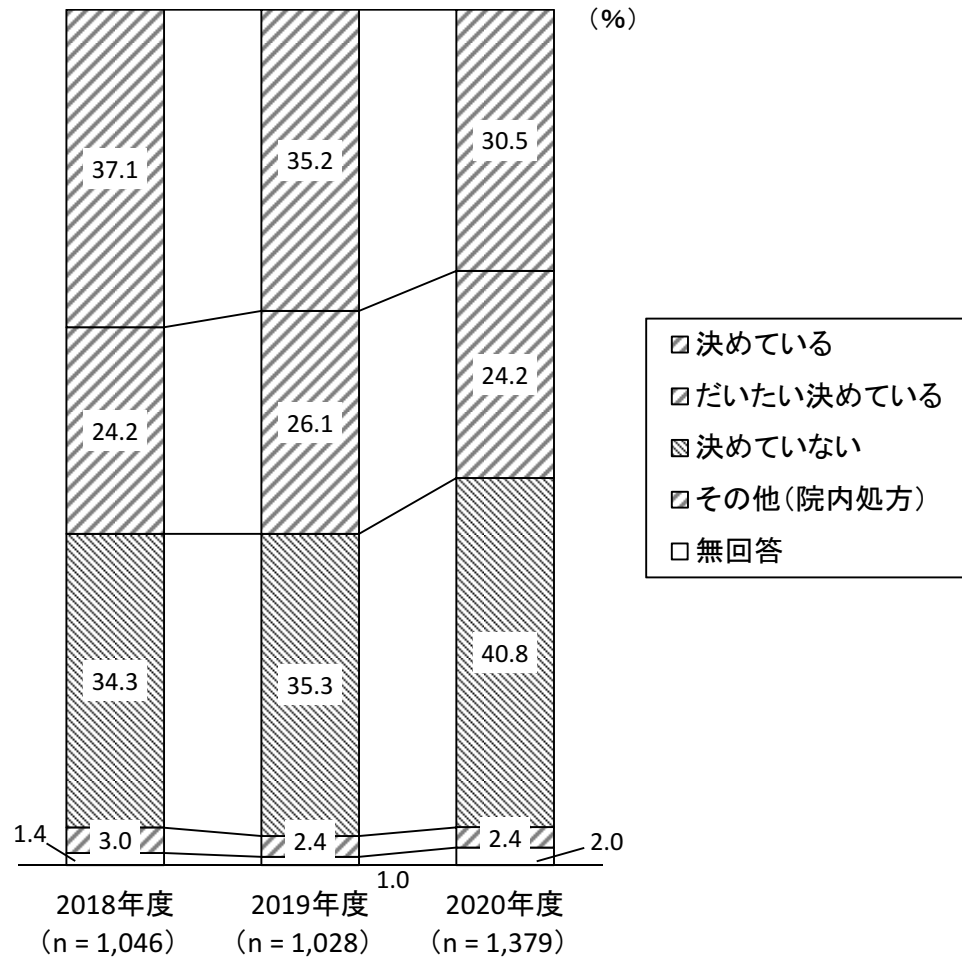
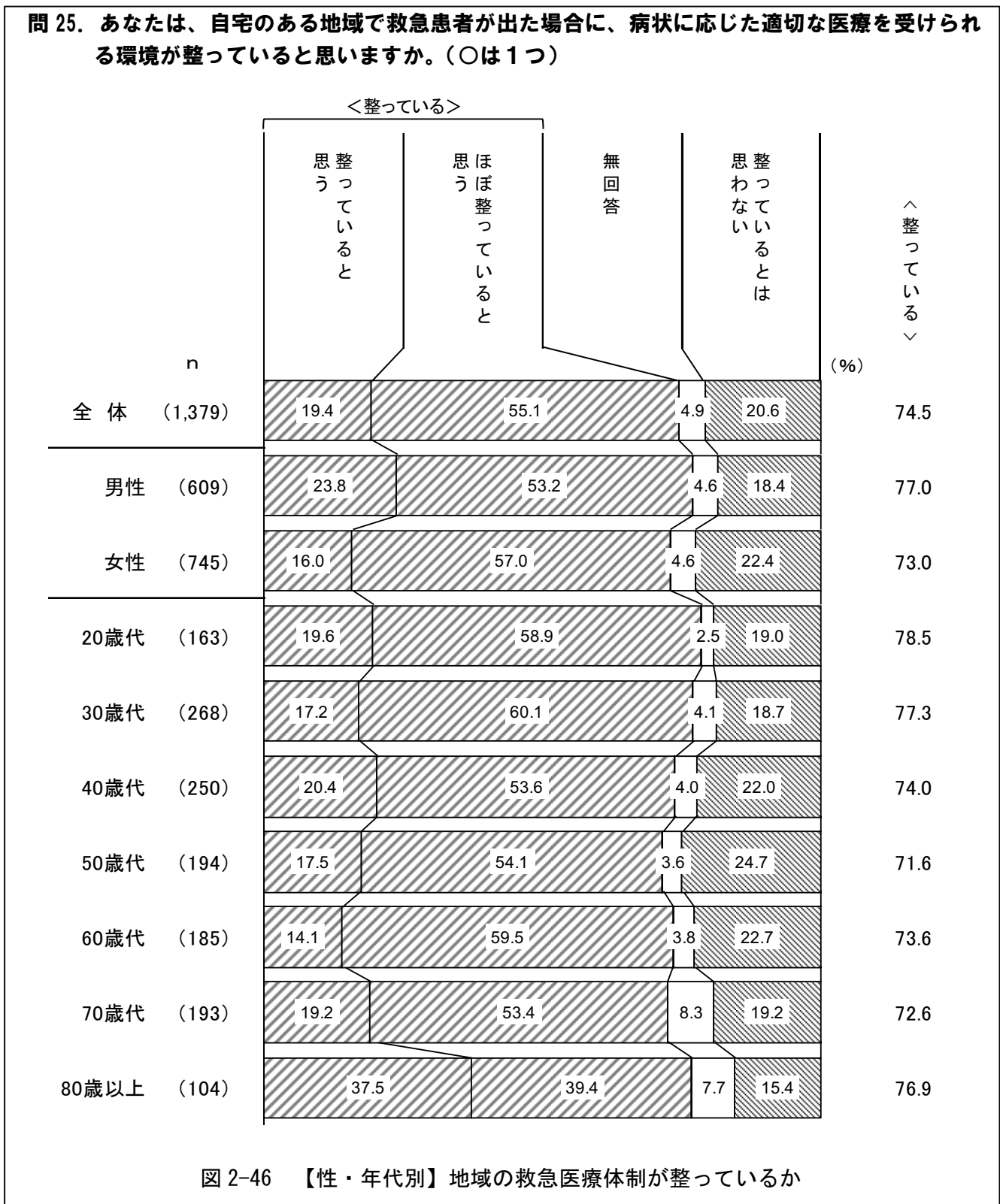


図 2-45 【経年比較】かかりつけの薬局の有無

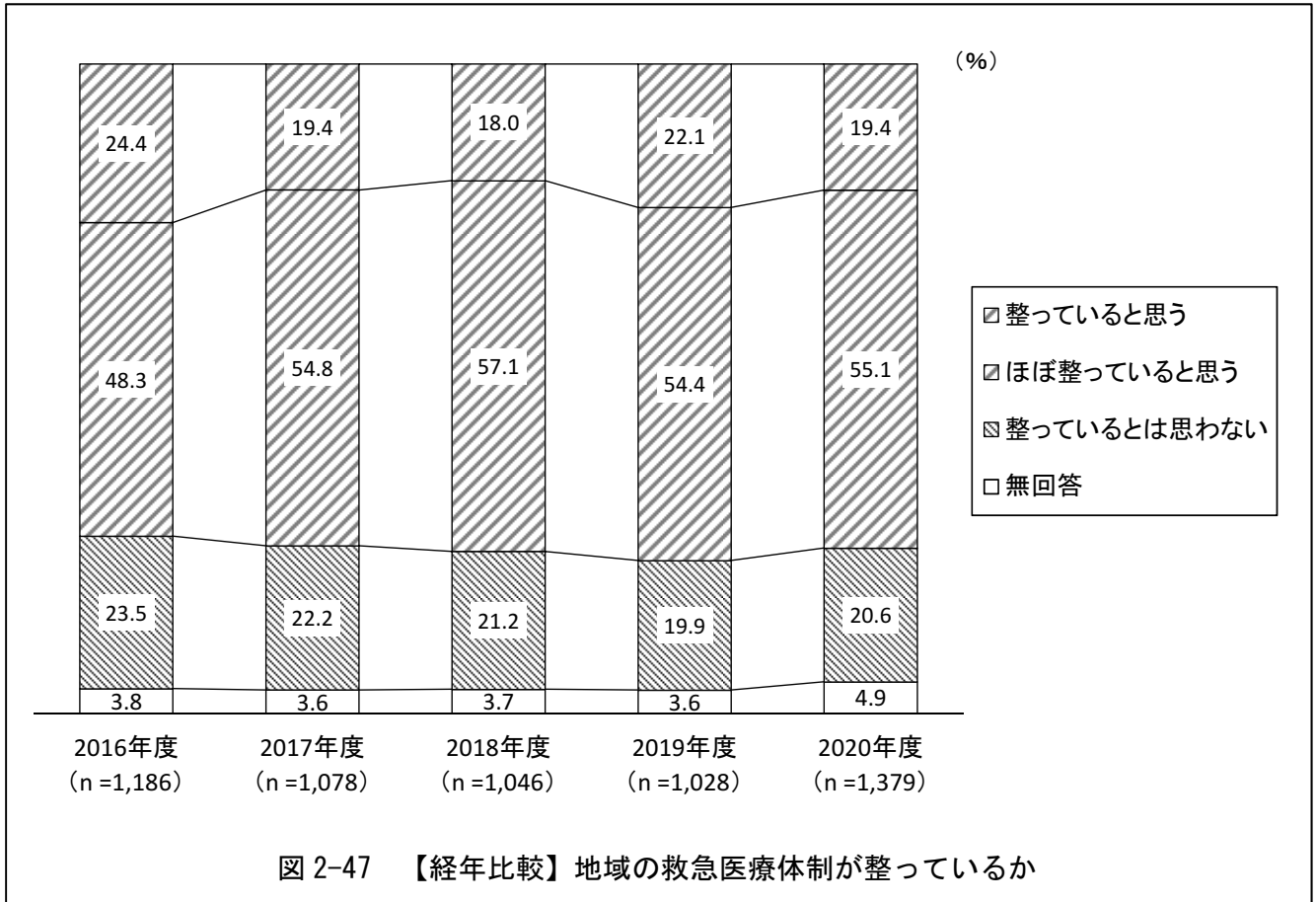
経年で比較すると、「決めていない」が増加している。

2. 15. 地域の救急医療体制が整っているか

◆地域の救急医療体制は<整っている>が7割台半ば



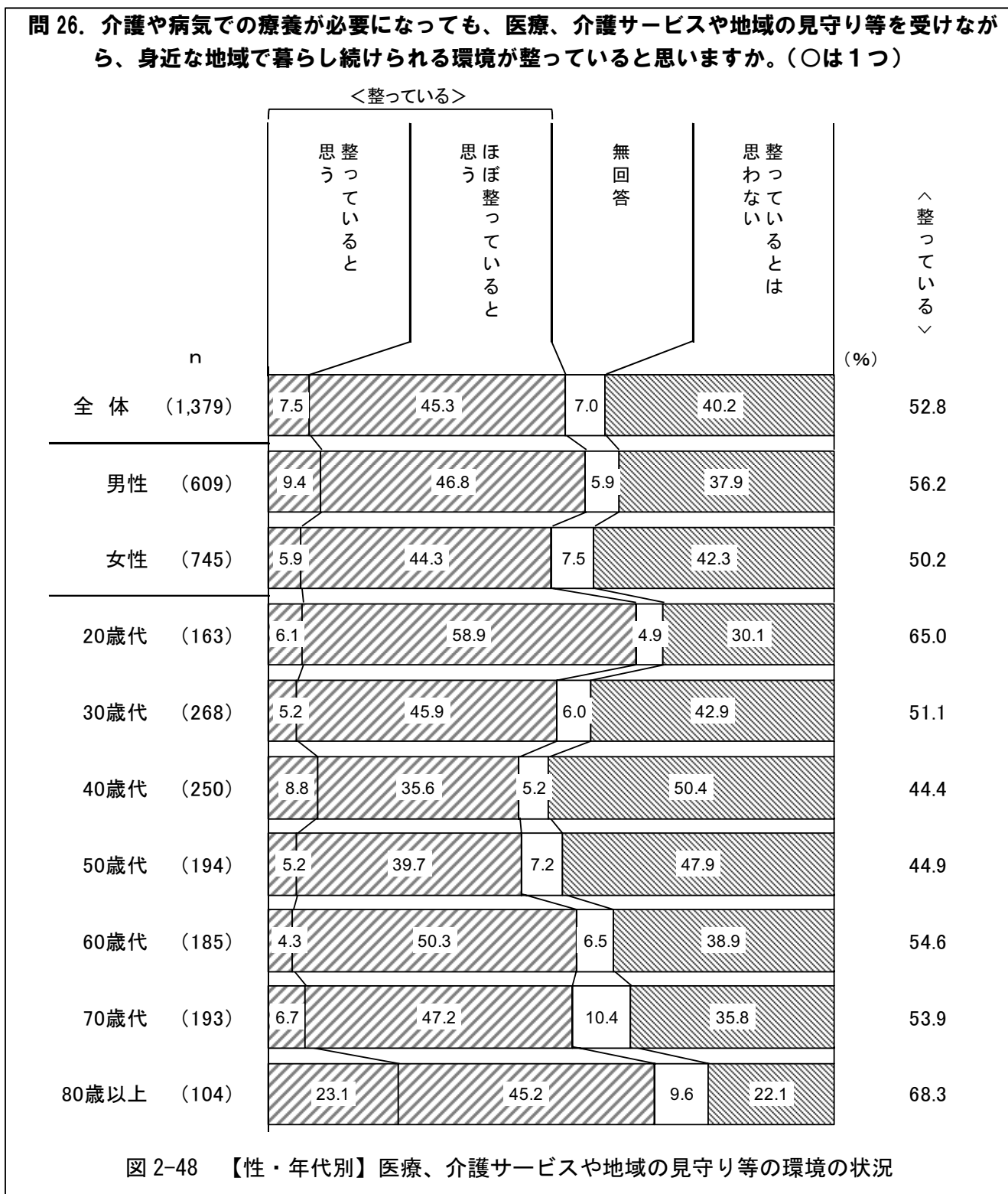
自宅のある地域で救急医療の体制が整っていると思うかについては、「整っていると思う」(19.4%)と「ほぼ整っていると思う」(55.1%)を合わせた<整っている>で74.5%となっている。性別にみると「整っていると思う」は男性(23.8%)が女性(16.0%)を約8ポイント上回っている。年代別にみると、<整っている>はいずれの年代でも7割を超えており、20歳代では7割台後半で最も高くなっている。



経年で比較すると、大きな差異はみられない。

2.16. 医療・介護サービスや見守り環境の状況

◆医療、介護サービスや地域の見守り等の環境が<整っている>は5割前半



医療、介護サービスや地域の見守り等を受けながら、身近な地域で暮らし続けられる環境が整っていると思うかについては、「整っていると思う」(7.5%)と「ほぼ整っていると思う」(45.3%)を合わせた<整っている>で52.8%となっている。年代別にみると、20歳代と80歳代以上で<整っている>が6割を超えて高くなっている。一方、40歳代で「整っているとは思わない」が約5割と高くなっている。

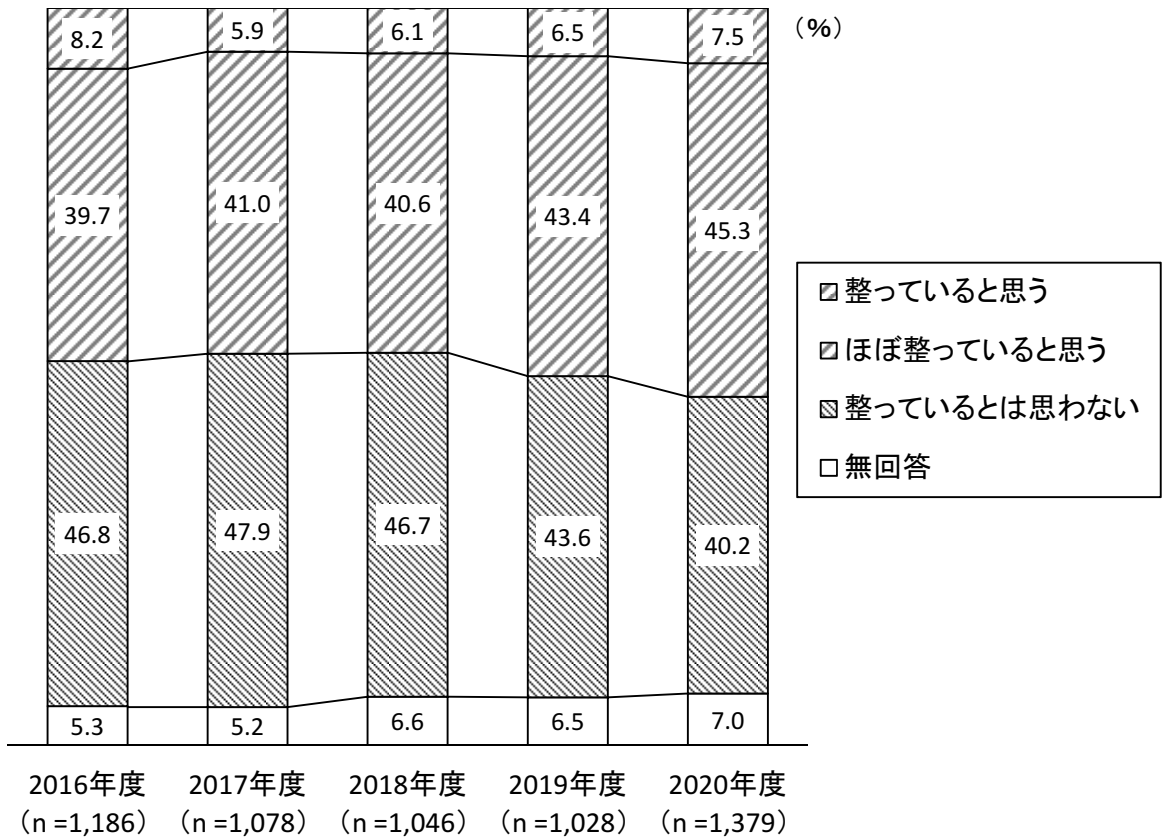
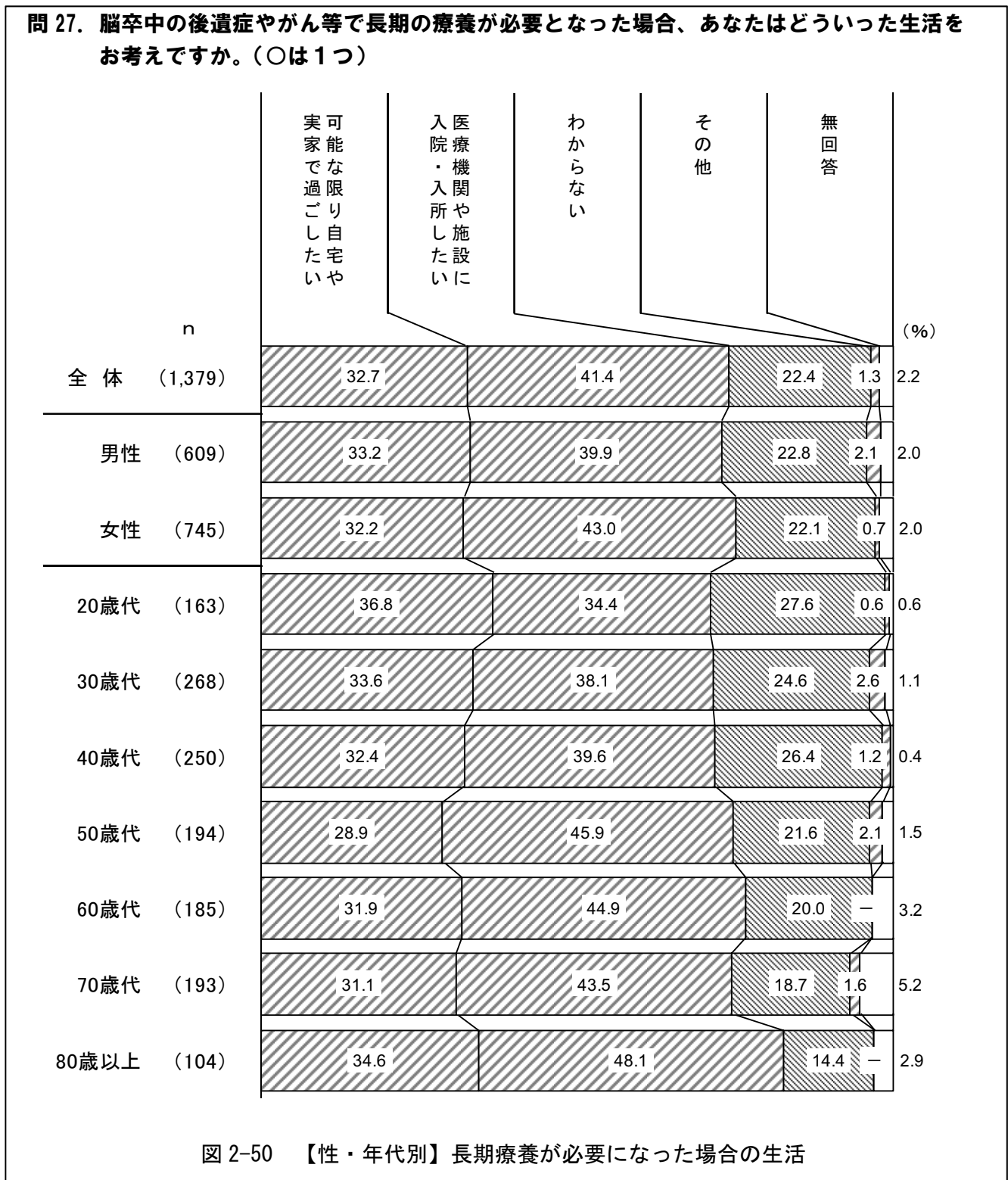


図 2-49 【経年比較】医療、介護サービスや地域の見守り等の環境が整っているか

経年で比較すると、「ほぼ整っていると思う」の割合が増加傾向にある。

2.17. 長期療養が必要になった場合の生活

◆長期療養が必要になった場合の生活は「医療機関や施設に入院・入所したい」が約4割



長期療養が必要になった場合の生活は、「医療機関や施設に入院・入所したい」が41.4%で最も高く、次いで「可能な限り自宅や実家で過ごしたい」が32.7%、「わからない」が22.4%となっている。性別にみると、「医療機関や施設に入院・入所したい」は女性(43.0%)が男性(39.9%)を約3ポイント上回っている。年代別にみると、20歳代を除きいずれの年代でも「医療機関や施設に入院・入所したい」の割合が最も高くなっている。



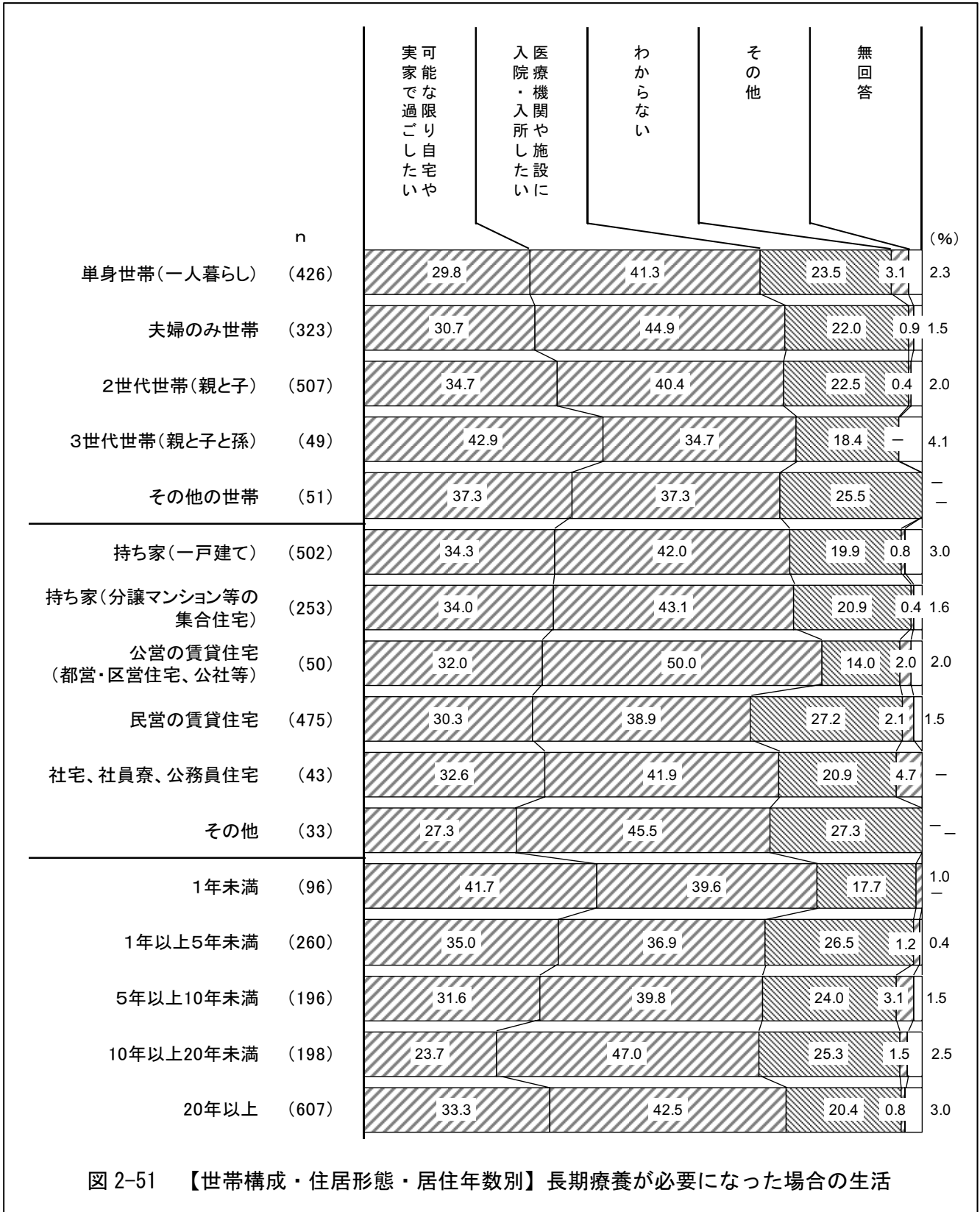
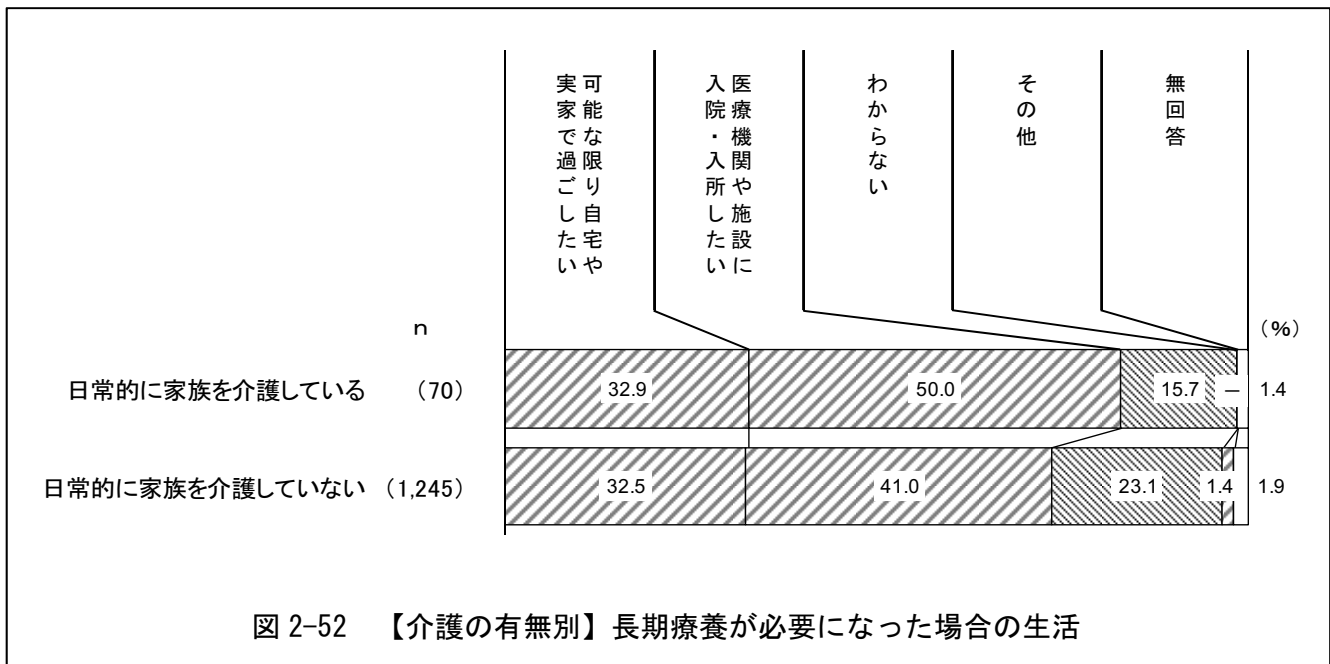
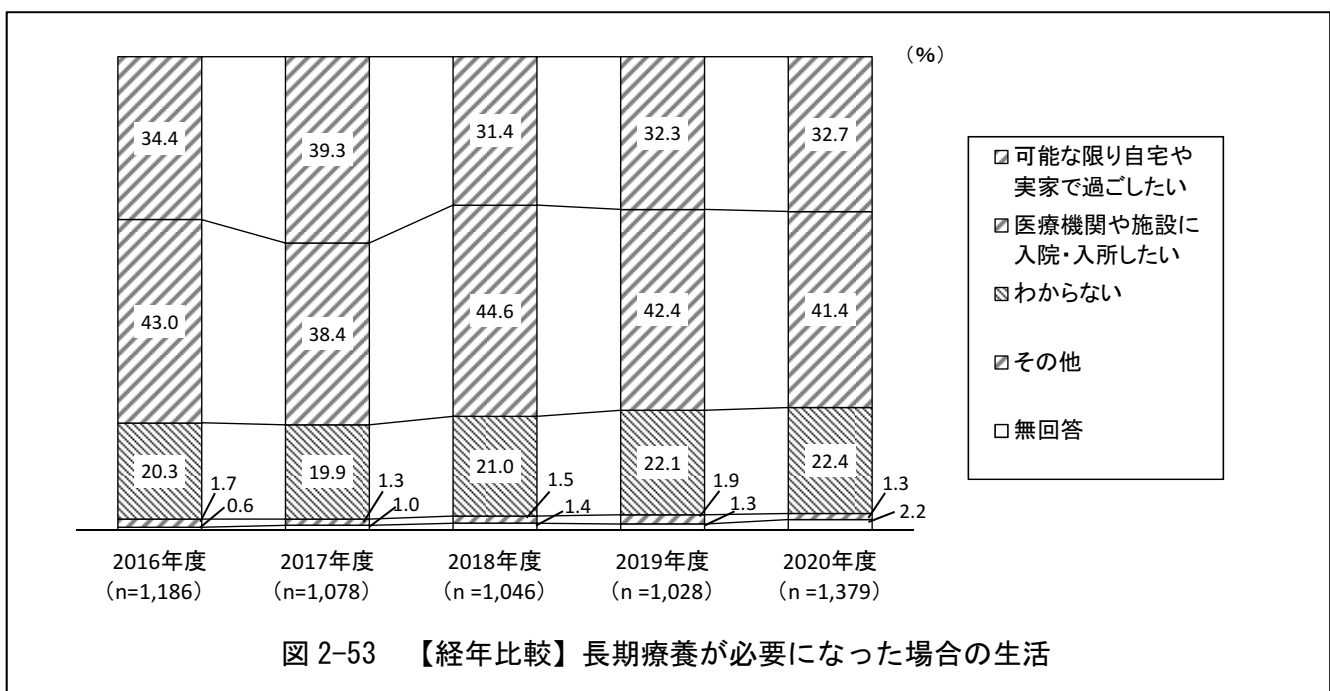


図 2-51 【世帯構成・住居形態・居住年数別】長期療養が必要になった場合の生活

長期療養が必要になった場合の生活を世帯構成・住居形態・居住年数別にみると、世帯構成が「3世代世帯(親と子と孫)」、居住年数が「1年未満」を除き、「医療機関や施設に入院・入所したい」の割合が最も高くなっている。



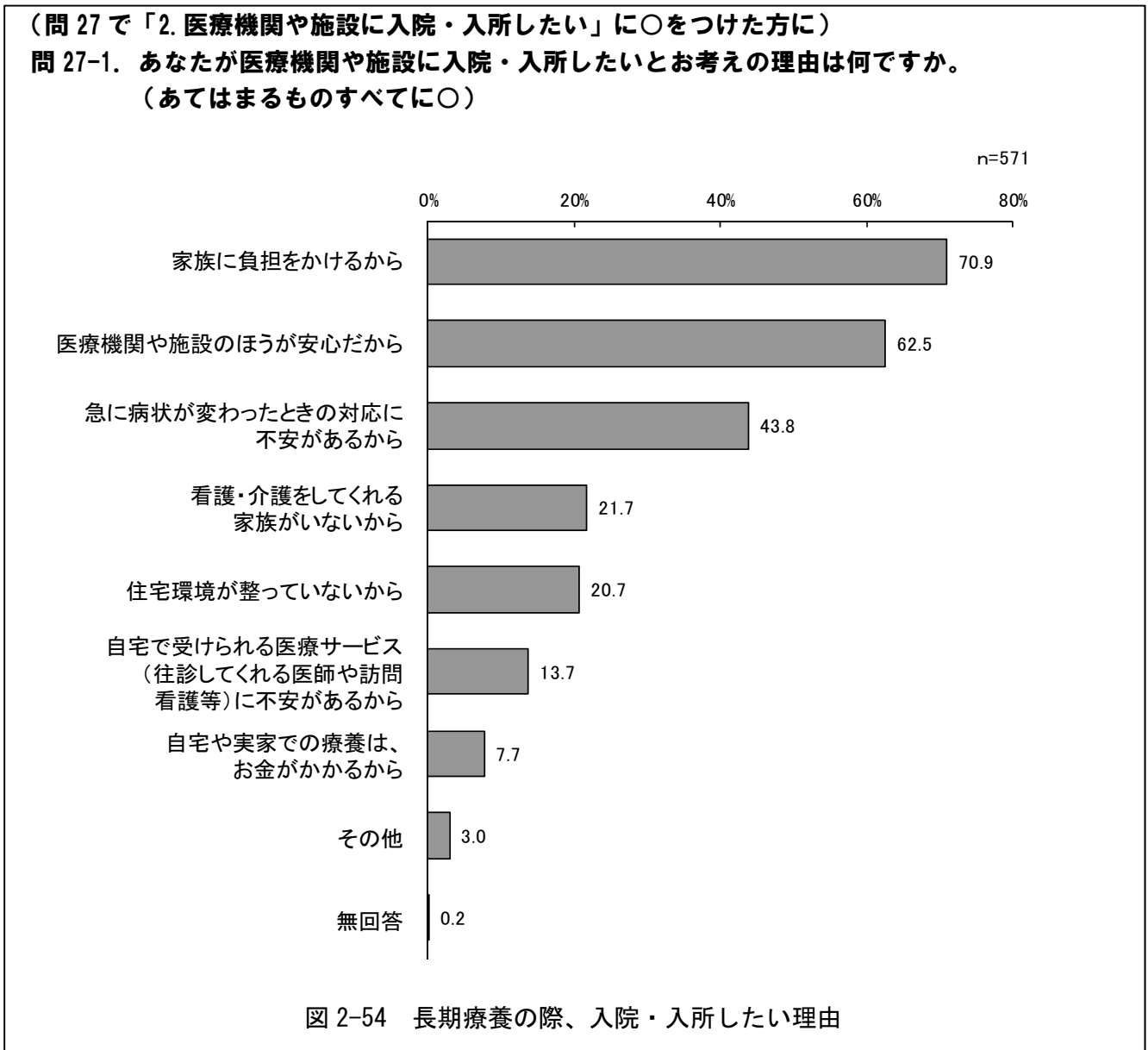
長期療養が必要になった場合の生活を介護の有無別でみると、「医療機関や施設に入院・入所したい」は日常的に家族を介護している人（50.0%）が、日常的に家族を介護していない人（41.0%）を9ポイント上回っている。



経年で比較すると、2017年度に「可能な限り自宅や実家で過ごしたい」が最も高くなったが、2018年度以降は再び「医療機関や施設に入院・入所したい」が最も高くなっている。

2.17.1. 長期療養の際、入院・入所したい理由

◆長期療養の際に入院・入所したい理由は「家族に負担をかけるから」が約7割



長期療養が必要になった場合、医療機関や施設に入院・入所したい方にその理由を聞いたところ、「家族に負担をかけるから」が70.9%で最も高く、次いで「医療機関や施設のほうが安心だから」(62.5%)、「急に病状が変わったときの対応に不安があるから」(43.8%)となっている。

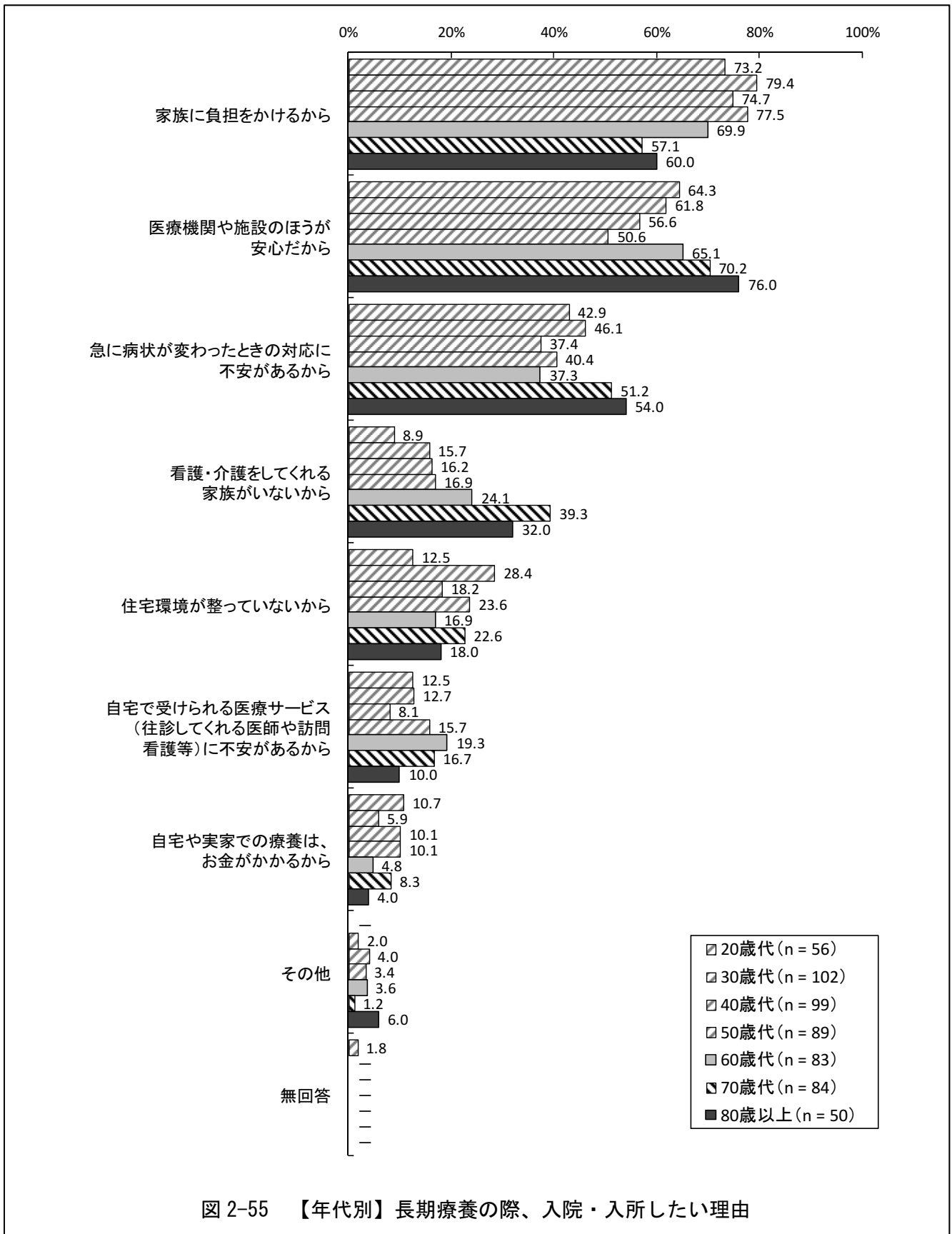
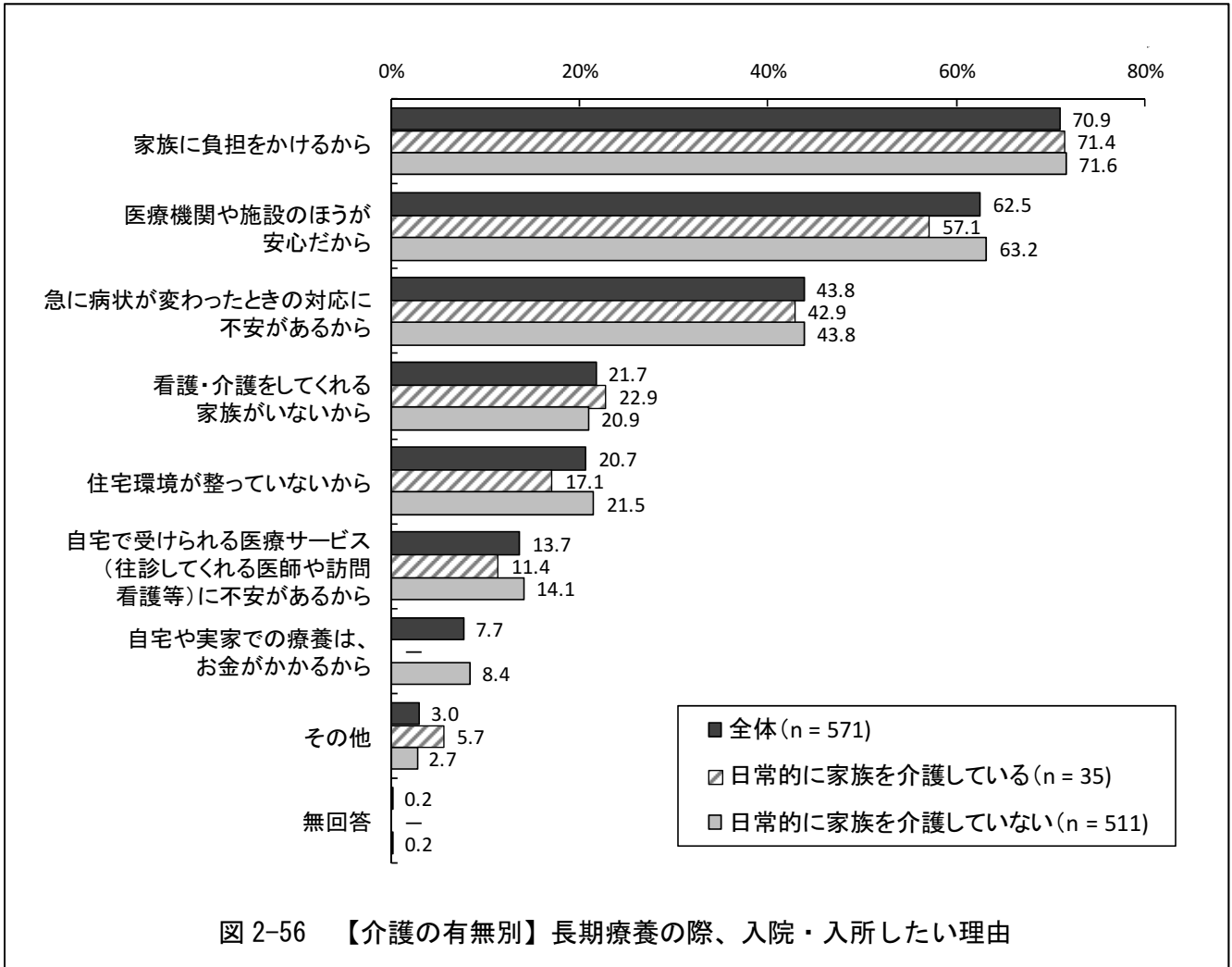
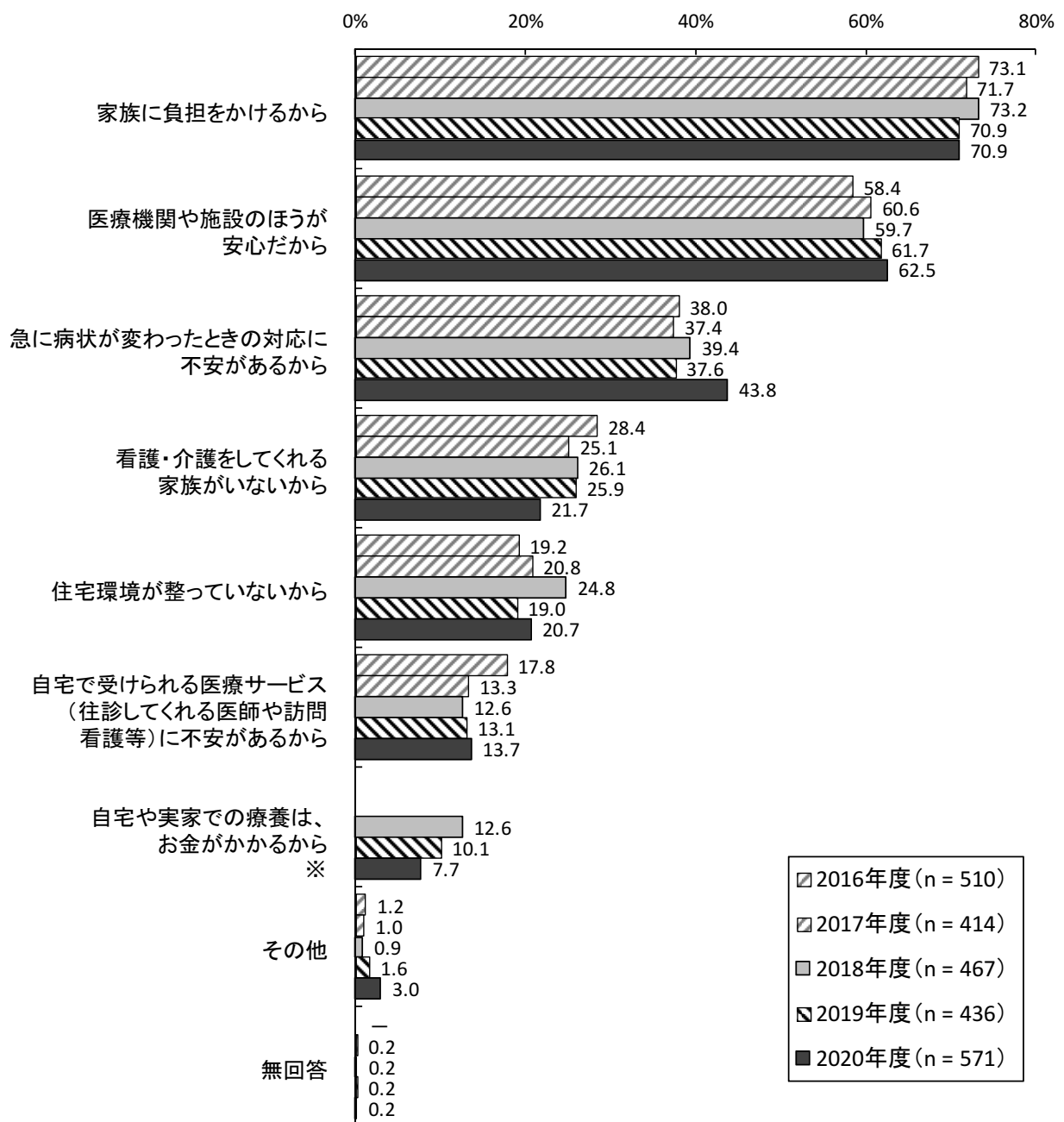


図 2-55 【年代別】長期療養の際、入院・入所したい理由

長期療養が必要になった場合、医療機関や施設に入院・入所したい理由を年代別にみると、20歳～60歳代では「家族に負担をかけるから」、70歳代以上では「医療機関や施設のほうが安心だから」の割合が最も高くなっている。



長期療養が必要になった場合、医療機関や施設に入院・入所したい理由を介護の有無別にみると、「看護・介護をしてくれる家族がないから」、「その他」を除き、日常的に家族を介護していない人の割合が、日常的に家族を介護している人の割合を上回っている。



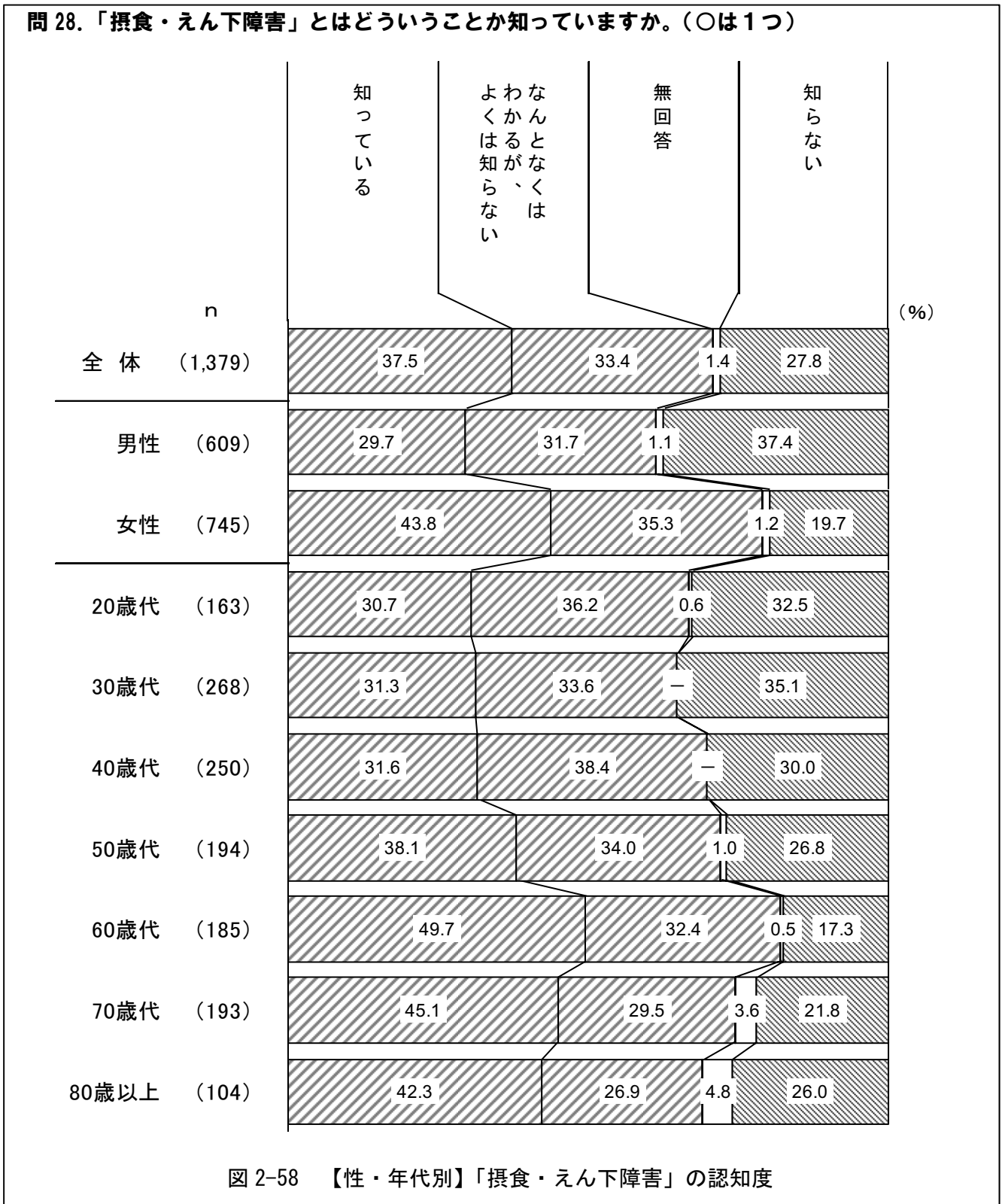
※2017年度以前は「自宅や実家での療養は、お金がかかるから」の選択肢はない

図 2-57 【経年比較】長期療養の際、入院・入所したい理由

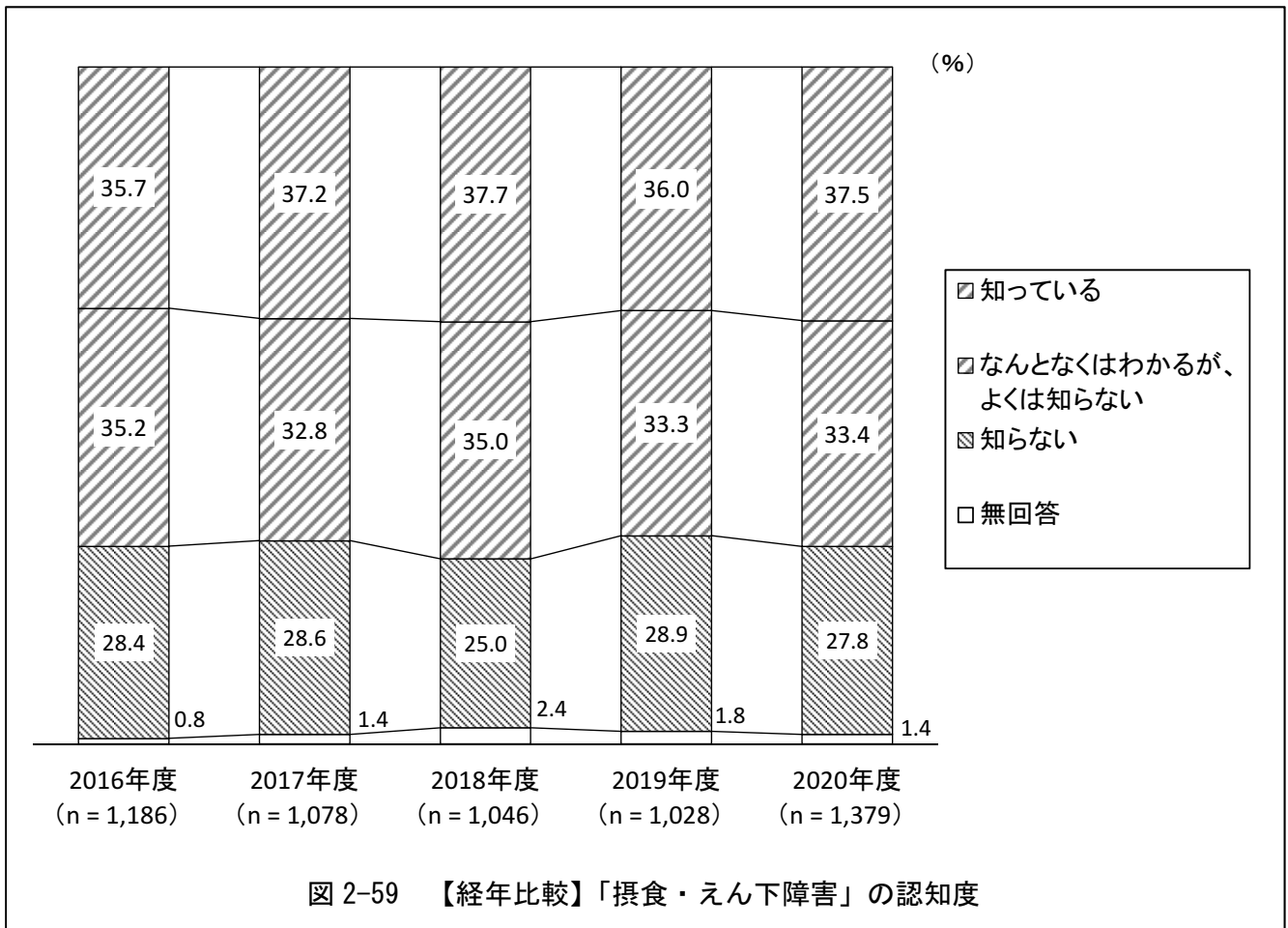
経年で比較すると、「医療機関や施設のほうが安心だから」が増加傾向にある。

2.18. 「摂食・えん下障害」の認知度

◆「摂食・えん下障害」を「知っている」割合は、60歳代が最も高く約5割



「摂食・えん下障害」の認知度は、「知っている」が 37.5%に対し、「知らない」は 27.8%となっている。性別にみると、「知っている」で女性(43.8%)が男性(29.7%)を約 14 ポイント上回っている。年代別にみると、「知っている」の割合は 60 歳代で約 5 割と高くなっている。



経年で比較すると、大きな差異はみられない。



2. 19. 自身や家族がうつ病になった際の相談先

◆「うつ病」になった際は「精神科等の専門医療機関に相談（受診）する」が約6割

問 29. 「うつ病」は誰でもかかる可能性があります。あなたもしくはあなたの家族がそういう状態になったとき、あなたが抵抗なく相談できると考えるところはどこですか。  
（あてはまるものすべてに○）

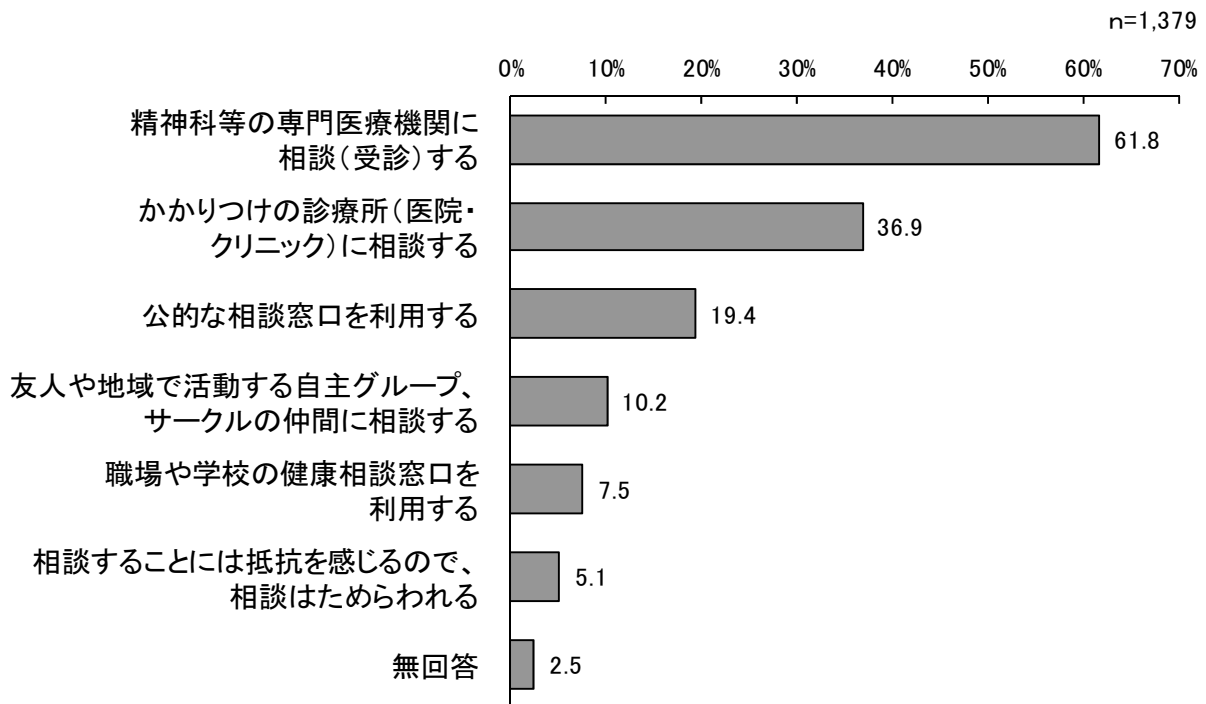
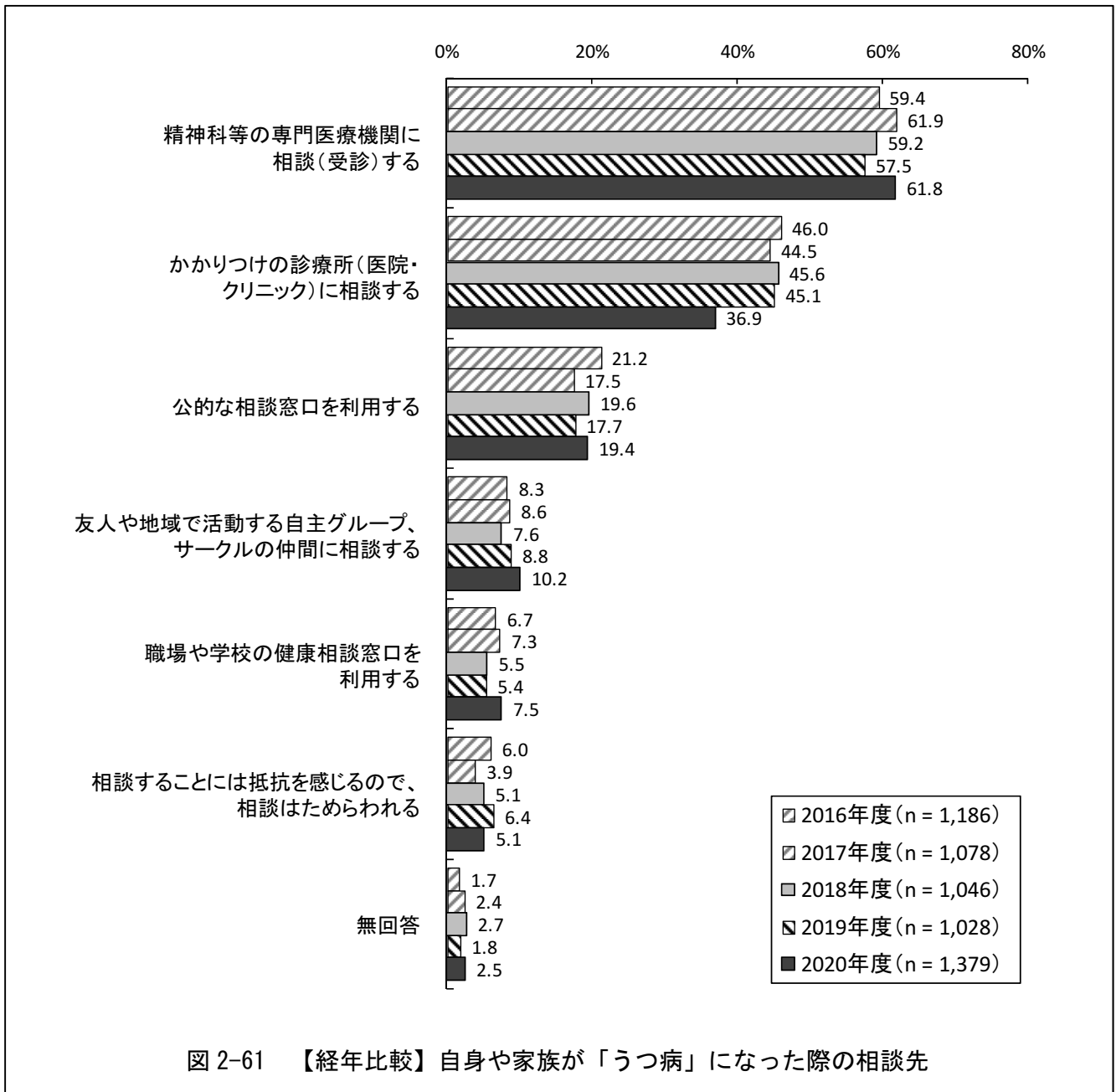


図 2-60 自身や家族が「うつ病」になった際の相談先

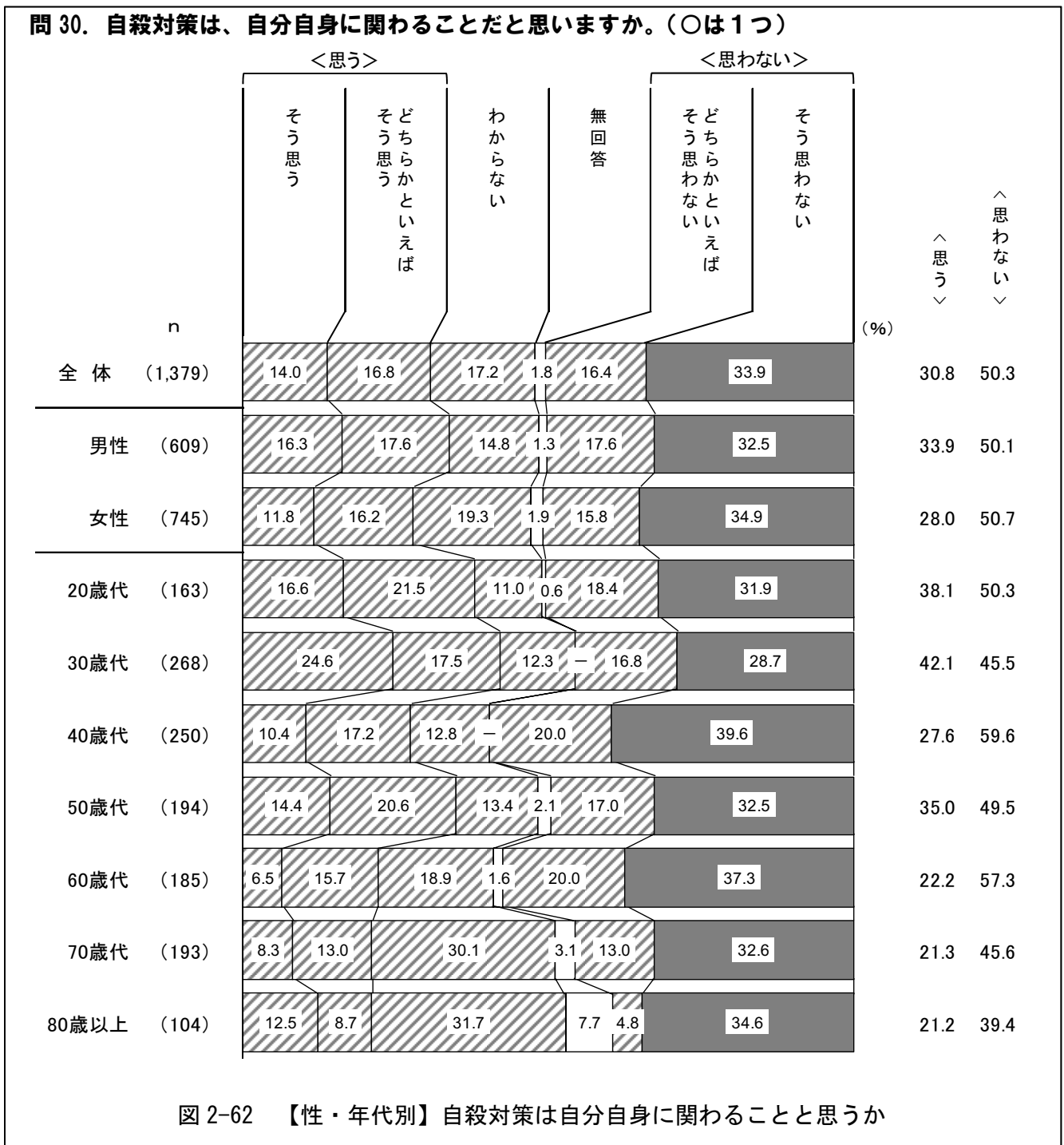
自身や家族が「うつ病」になった際に抵抗なく相談できると考えるのは、「精神科等の専門医療機関に相談（受診）する」が61.8%で最も高く、次いで「かかりつけの診療所（医院・クリニック）に相談する」（36.9%）、「公的な相談窓口を利用する」（19.4%）となっている。



経年で比較すると、「かかりつけの診療所（医院・クリニック）に相談する」が4割台半ばで推移していたが、2020年度は3割台半ばとなっている。

2. 20. 自殺対策は自分自身に関わることと思うか

◆自殺対策は自分自身に関わることと<思う>が約3割



自殺対策は自分自身に関わることと思うかについては、「そう思う」(14.0%)と「どちらかといえばそう思う」(16.8%)を合わせた<思う>が30.8%に対し、「そう思わない」(33.9%)と「どちらかといえばそう思わない」(16.4%)を合わせた<思わない>は50.3%となっている。性別にみると、<思う>で男性(33.9%)が女性(28.0%)を約6ポイント上回っている。年代別にみると、30歳代で<思う>が4割台前半と他の年代と比較して高くなっている。

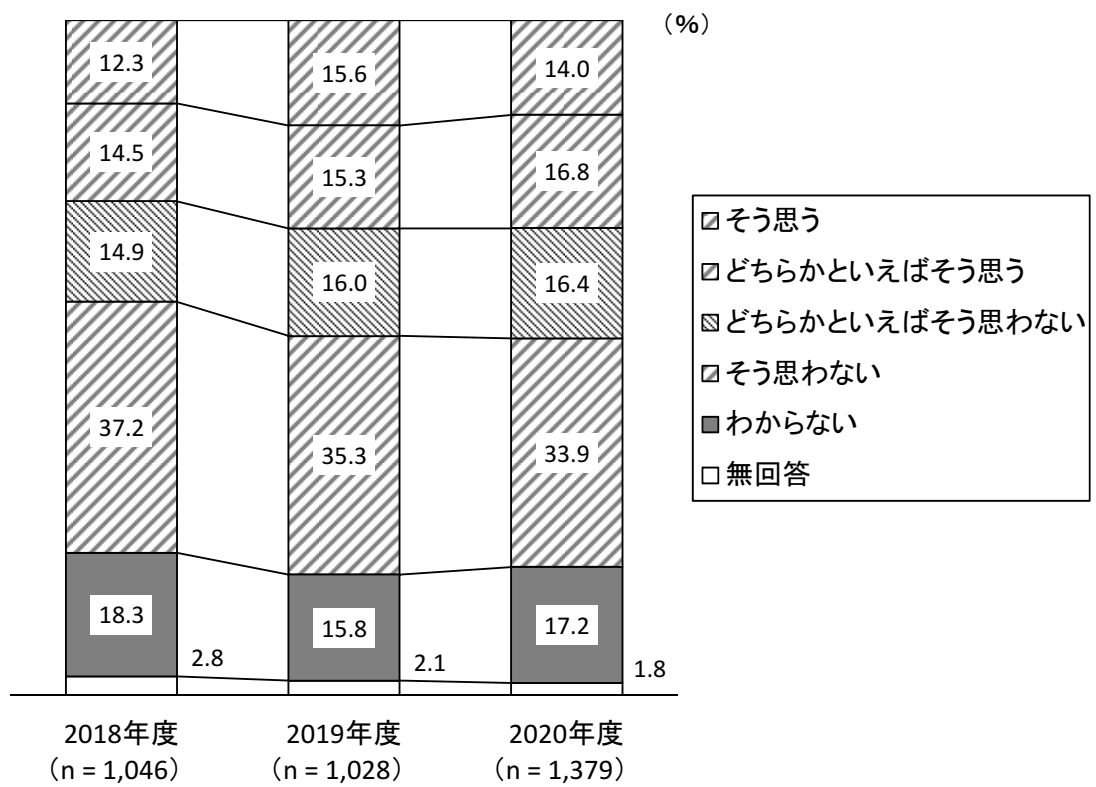
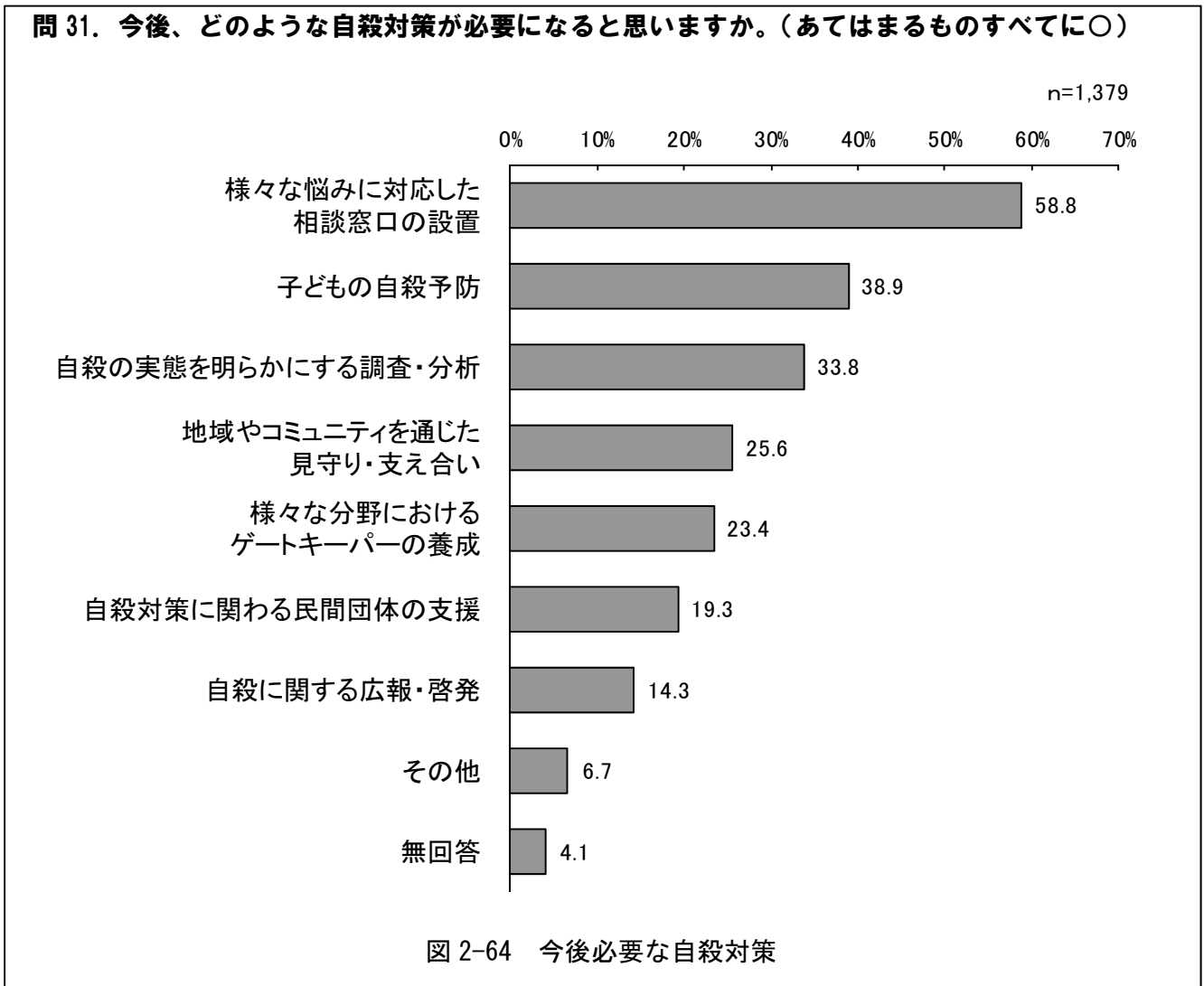


図 2-63 【経年比較】自殺対策は自分自身に関わることと思うか

経年で比較すると、大きな差異はみられない。

2. 21. 今後必要な自殺対策

◆今後必要な自殺対策は「様々な悩みに対応した相談窓口の設置」が5割台後半



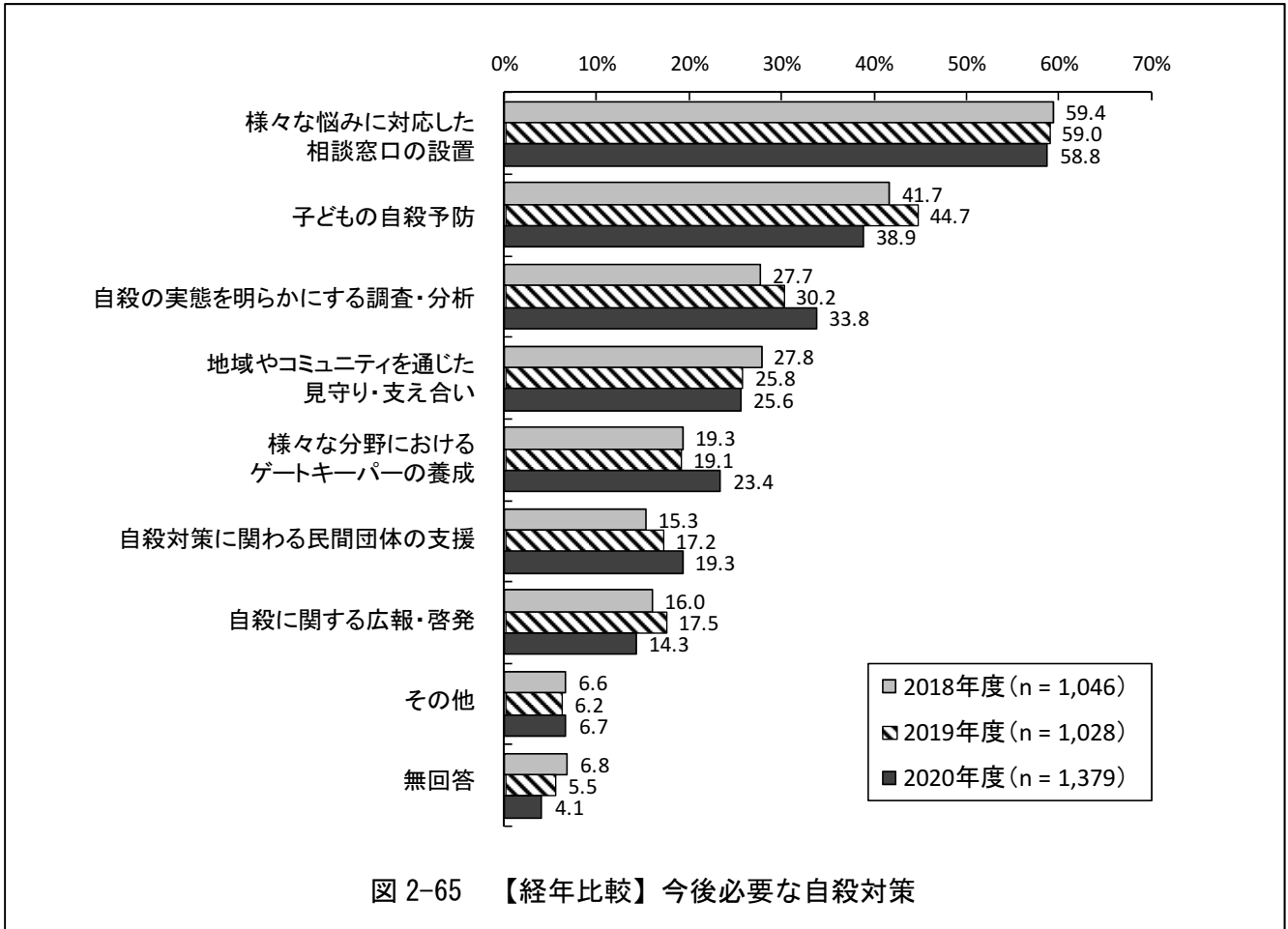
今後必要な自殺対策は、「様々な悩みに対応した相談窓口の設置」(58.8%)が最も高く、次いで「子どもの自殺予防」(38.9%)、「自殺の実態を明らかにする調査・分析」(33.8%)、「地域やコミュニティを通じた見守り・支え合い」(25.6%)となっている。

表 2-12 【性・年代別】今後必要な自殺対策

単位: %

区分	有効回答数（件）	自殺の実態を明らかにする調査・分析	様々な分野におけるゲートキーパーの養成	地域やコミュニティを通じた見守り・支え合い	様々な悩みに対応した相談窓口の設置	民間団体の支援	自殺対策に関する広報・啓発	子どもの自殺予防	その他	無回答
全体	1,379	33.8	23.4	25.6	58.8	19.3	14.3	38.9	6.7	4.1
男性	609	36.6	21.3	25.0	52.9	18.7	16.9	35.3	8.0	3.8
女性	745	31.1	25.5	26.4	63.9	19.9	12.1	41.6	5.6	3.8
20歳代	163	42.9	21.5	23.9	49.1	16.6	12.9	36.8	7.4	0.6
30歳代	268	41.4	34.0	27.2	54.5	20.5	12.3	52.6	9.3	0.7
40歳代	250	34.8	29.6	22.0	54.0	19.2	14.0	49.2	6.8	1.2
50歳代	194	29.4	25.8	23.2	66.5	19.1	19.6	33.0	7.2	2.1
60歳代	185	34.6	21.1	28.1	62.7	23.2	21.6	39.5	3.2	4.3
70歳代	193	20.7	14.0	28.5	67.9	17.6	7.8	20.7	4.7	9.8
80歳以上	104	26.0	3.8	28.8	60.6	17.3	10.6	23.1	8.7	14.4

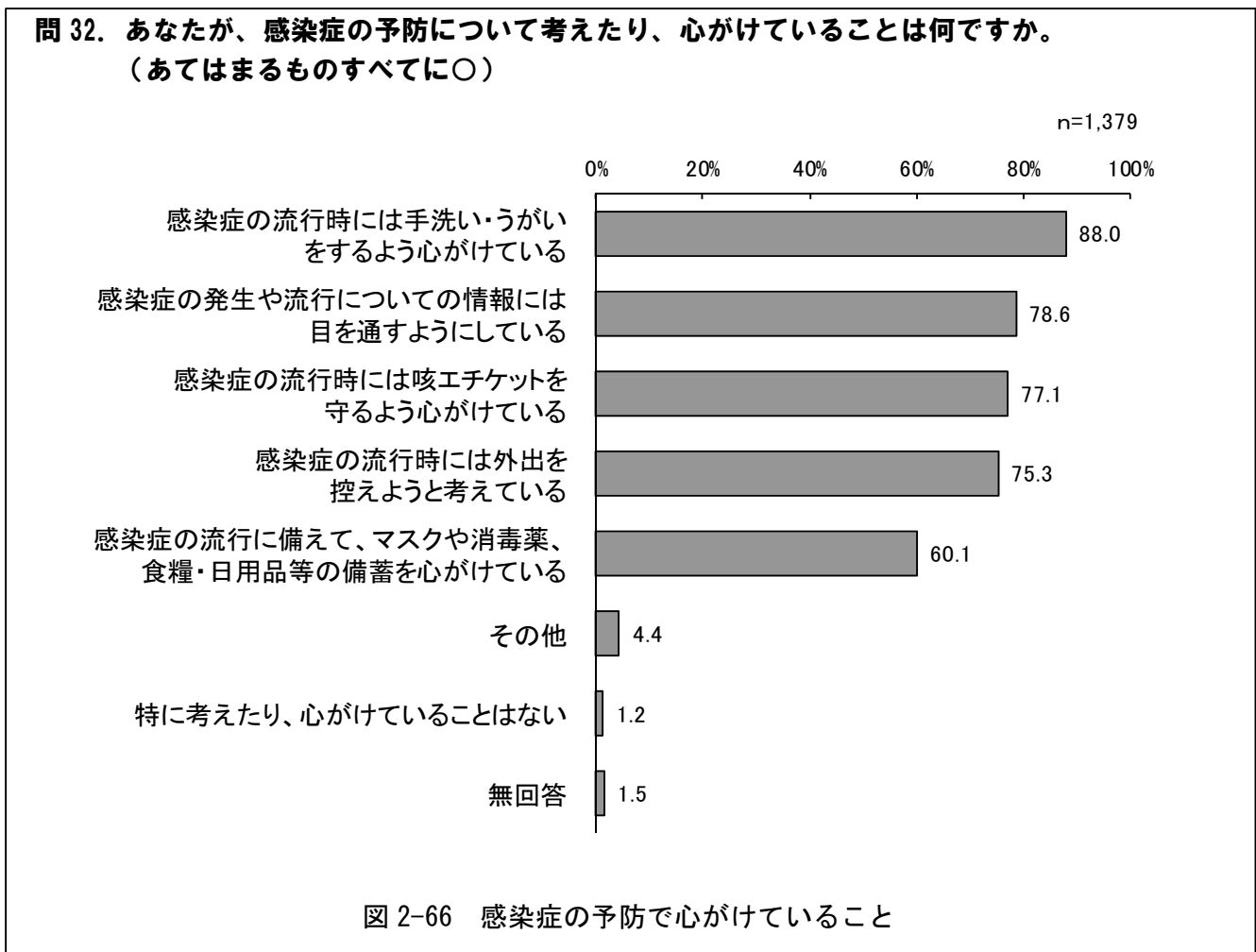
性別にみると、「様々な悩みに対応した相談窓口の設置」で女性（63.9%）が男性（52.9%）を11ポイント上回っている。年代別にみると、30歳代で「子どもの自殺予防」が5割台前半と他の年代と比較して高くなっている。



経年で比較すると、「自殺の実態を明らかにする調査・分析」、「自殺対策に関わる民間団体の支援」が増加している。

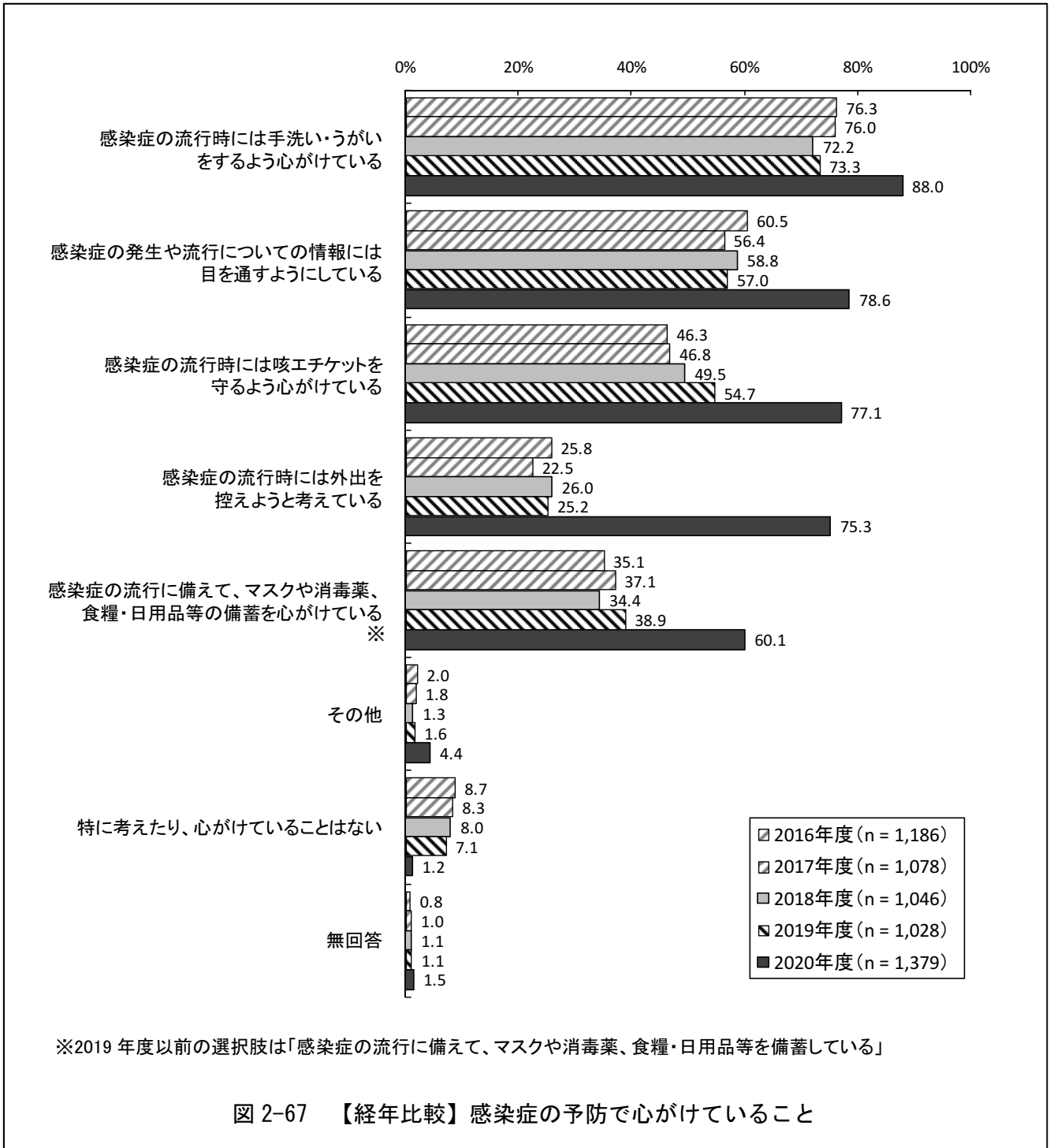
2.22. 感染症の予防で心がけていること

◆感染症の予防では「感染症の流行時には手洗い・うがいをするよう心がけている」が8割台後半



感染症の予防について考えたり、心がけていることは、「感染症の流行時には手洗い・うがいをするよう心がけている」が88.0%で最も高く、次いで「感染症の発生や流行についての情報には目を通すようにしている」(78.6%)、「感染症の流行時には咳エチケットを守るよう心がけている」(77.1%)、「感染症の流行時には外出を控えようと考えている」(75.3%)となっている。





経年で比較すると、2020年度は「特に考えたり、心がけていることはない」を除き、すべての項目で増加している。

2. 23. 加工食品等の栄養成分表示を参考にしているか

◆何らかの加工食品等の栄養成分表示を＜参考にしている＞が約6割

問 33. 加工食品等のパッケージには、エネルギーやたんぱく質量等の表示がされていますが、それらの加工食品や調理済みの料理を購入する時に、表示されている栄養成分を参考にしていますか。(○は1つ)

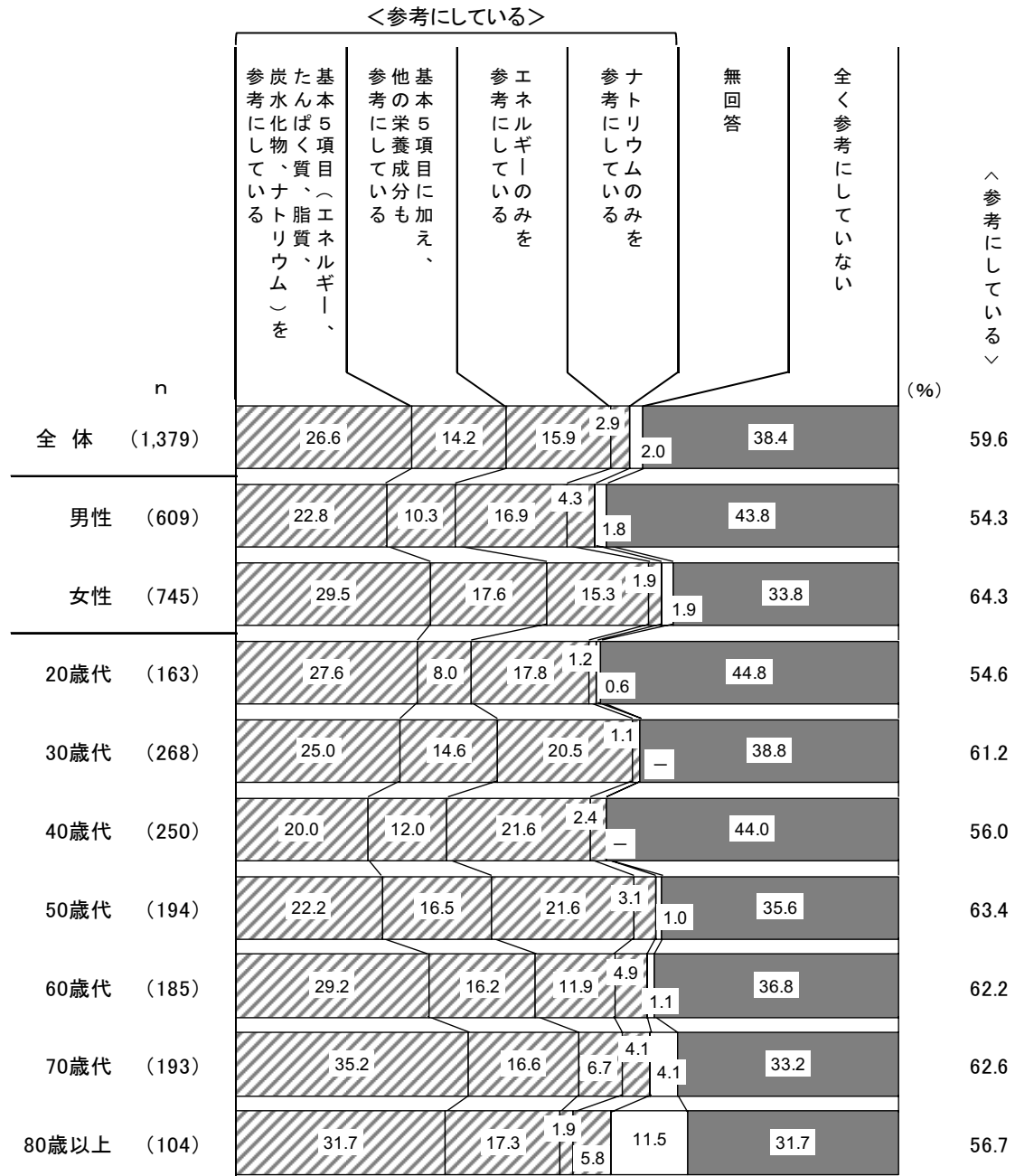


図 2-68 【性・年代別】加工食品等の栄養成分表示を参考にしているか

加工食品等の栄養成分表示の参考の度合いは、「全く参考にしていない」が 38.4%で最も高く、次いで「基本5項目（エネルギー、たんぱく質、脂質、炭水化物、ナトリウム）を参考にしている」（26.6%）となっている。性別にみると、＜参考にしている＞は女性（64.3%）が男性（54.3%）を 10 ポイント上回っている。年代別にみると、「基本5項目（エネルギー、たんぱく質、脂質、炭水化物、ナトリウム）を参考にしている」は 70 歳代で 3 割台半ばと他の年代と比較して高くなっている。

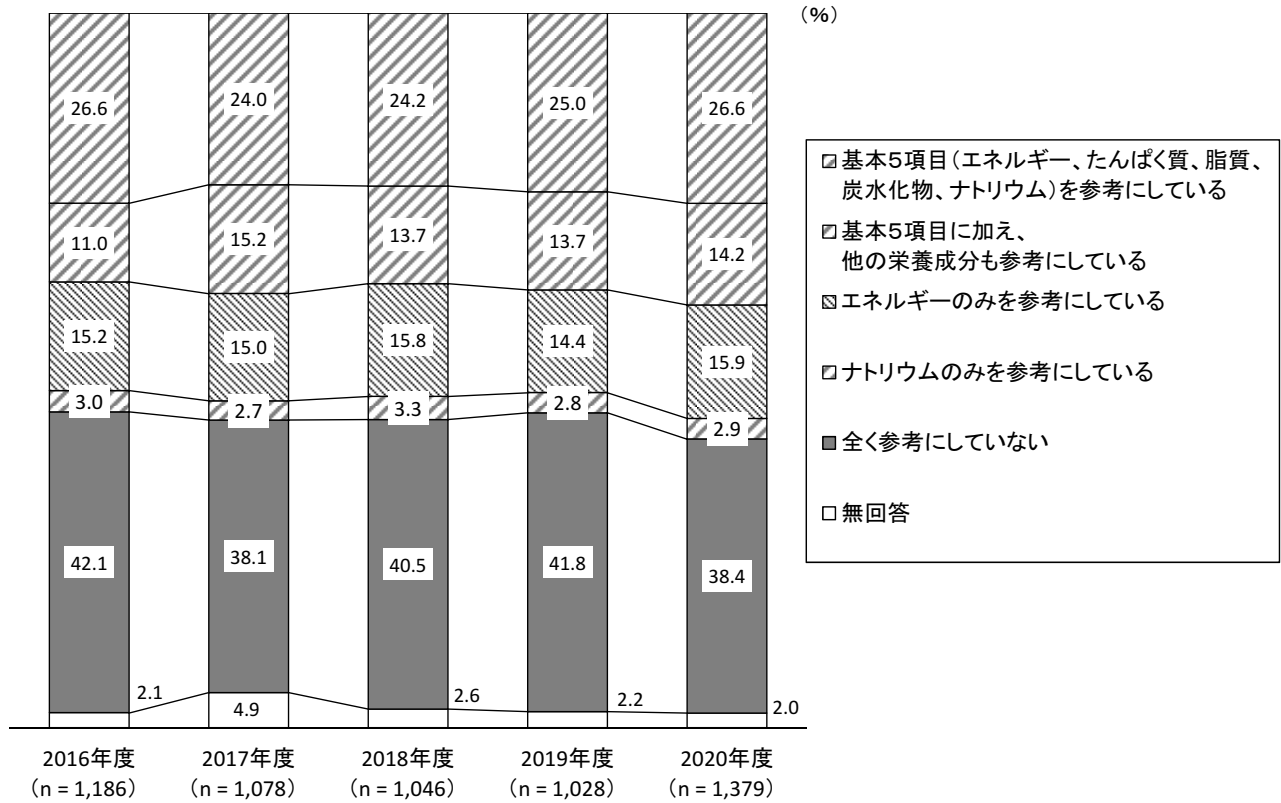
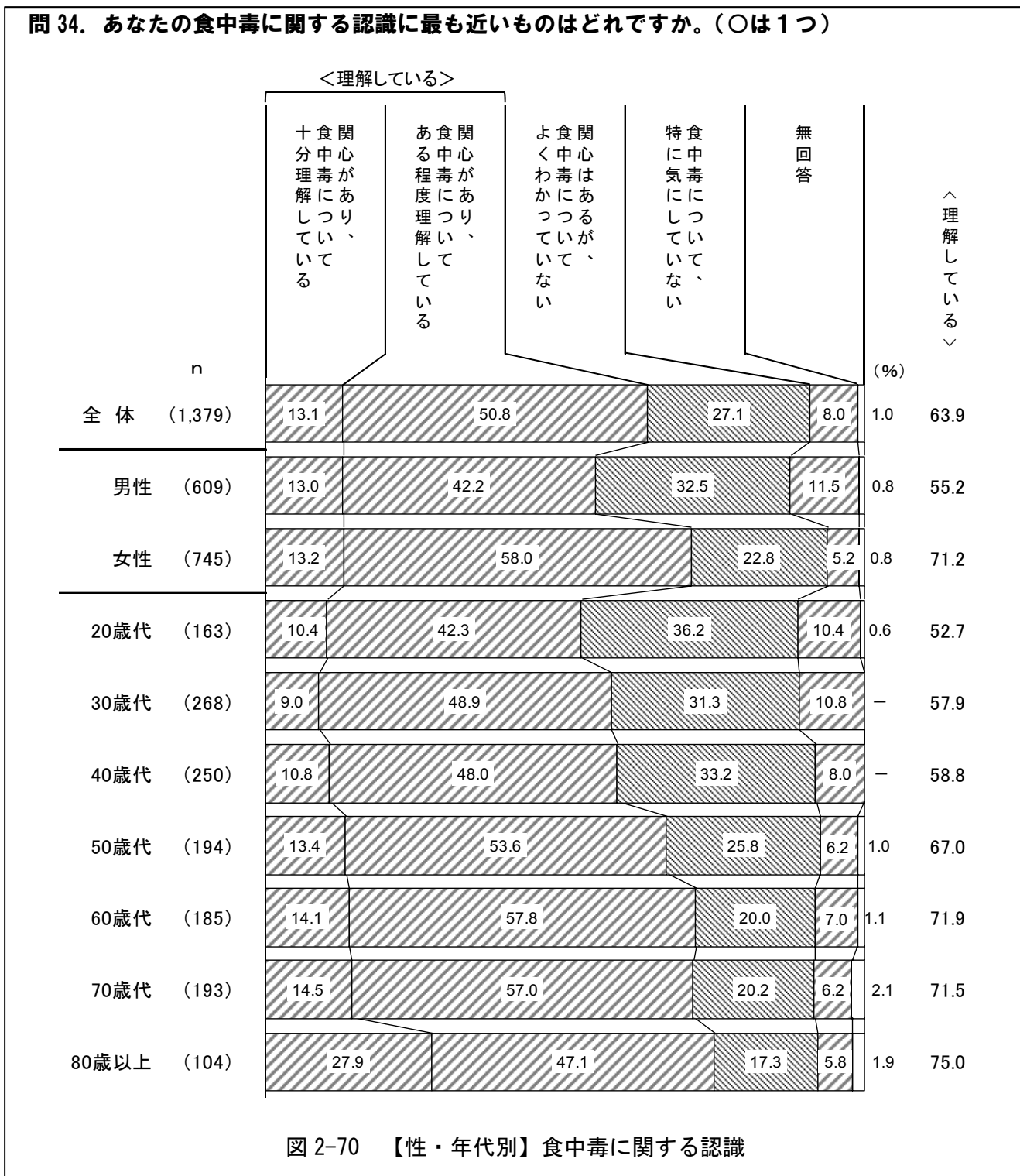


図 2-69 【経年比較】加工食品等の栄養成分表示を参考にしているか

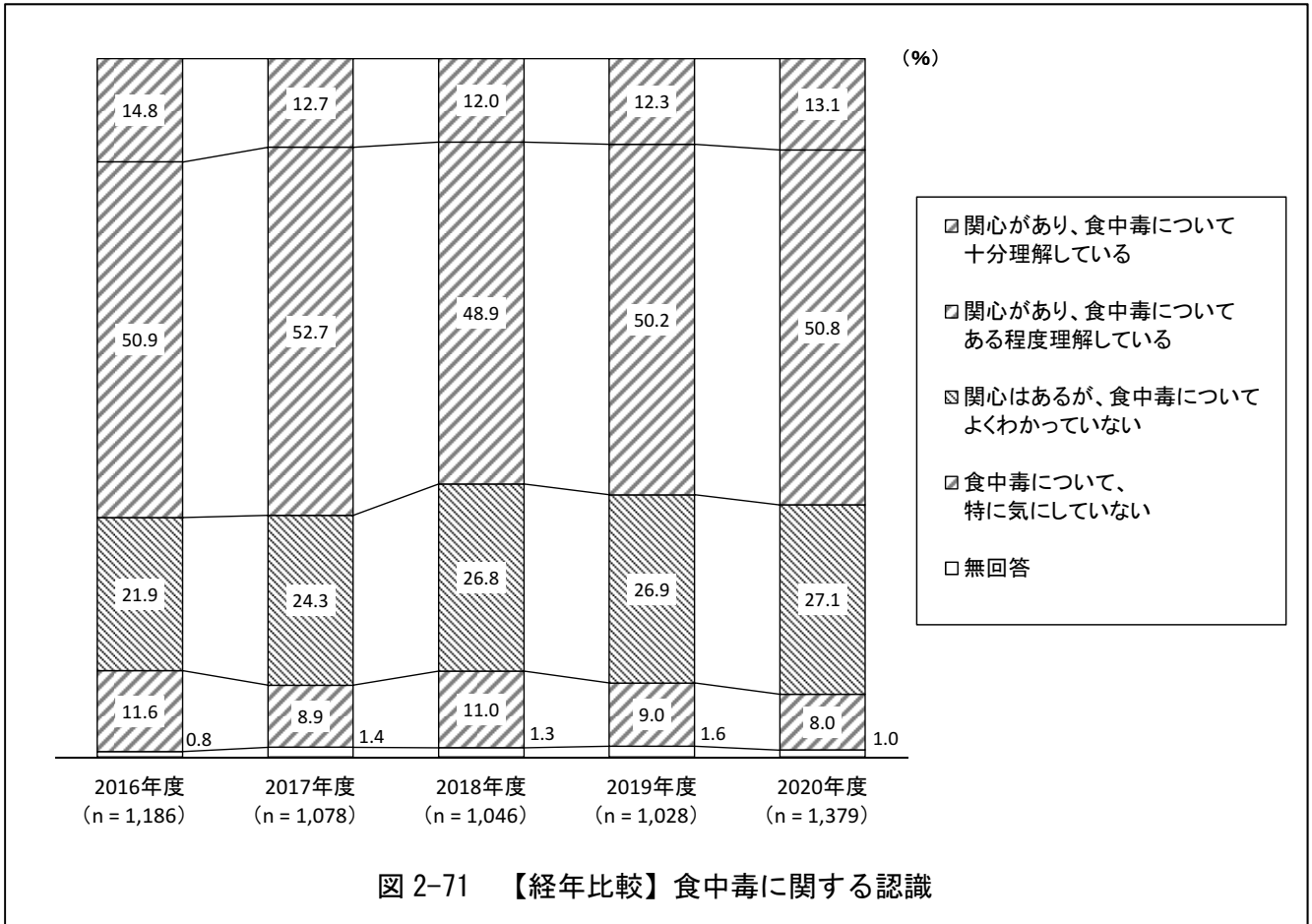
経年で比較すると、大きな差異はみられない。

2. 24. 食中毒に関する認識

◆食中毒に関する認識は<理解している>が6割台前半



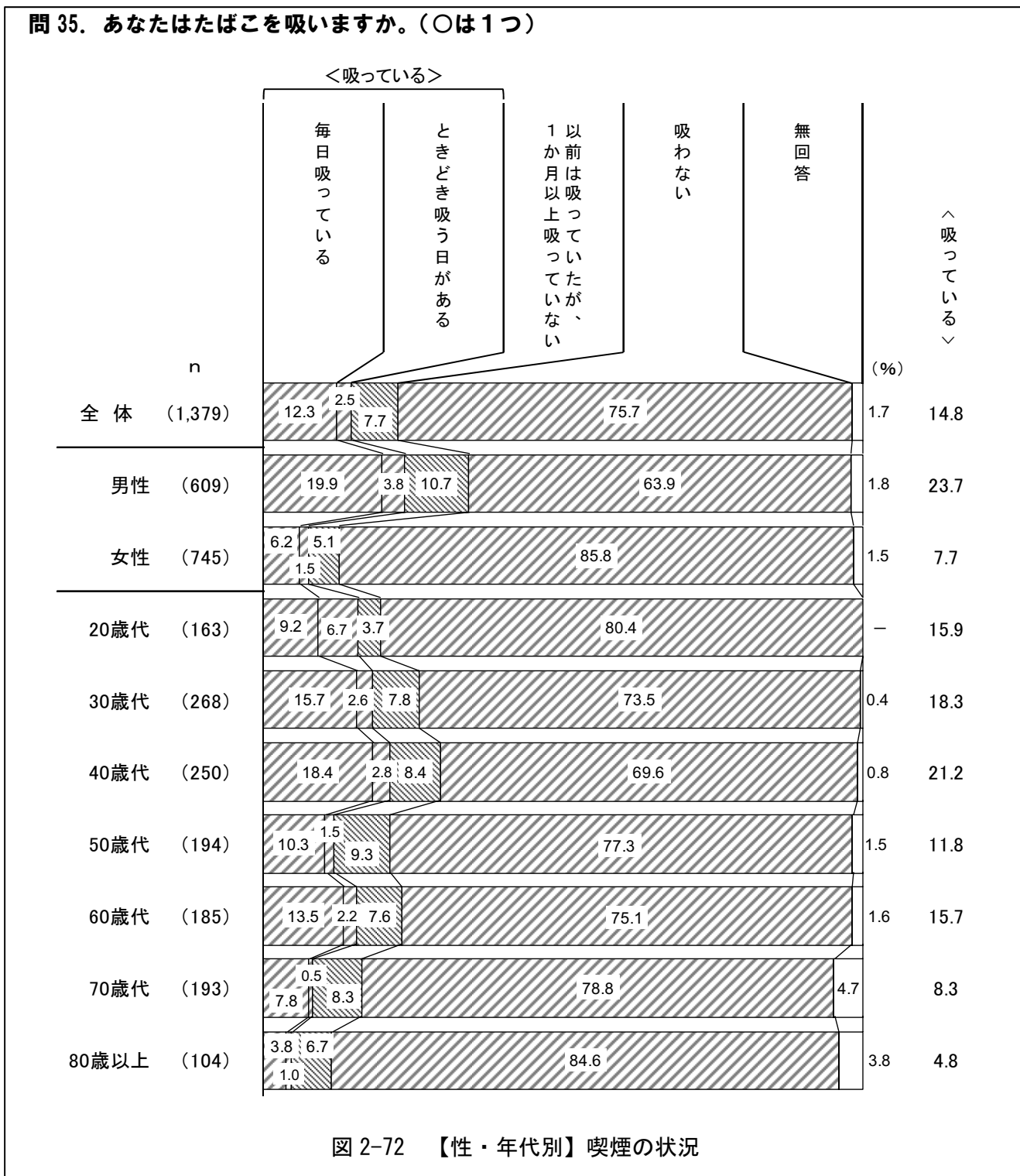
食中毒に関する認識の割合は、「関心があり、食中毒について十分理解している」(13.1%)と「関心があり、食中毒についてある程度理解している」(50.8%)を合わせた<理解している>で63.9%となっている。性別にみると、<理解している>は女性(71.2%)が男性(55.2%)を16ポイント上回っている。年代別にみると、<理解している>は60歳代以上で7割を超えている。



経年で比較すると、大きな差異はみられない。

2. 25. 喫煙の状況

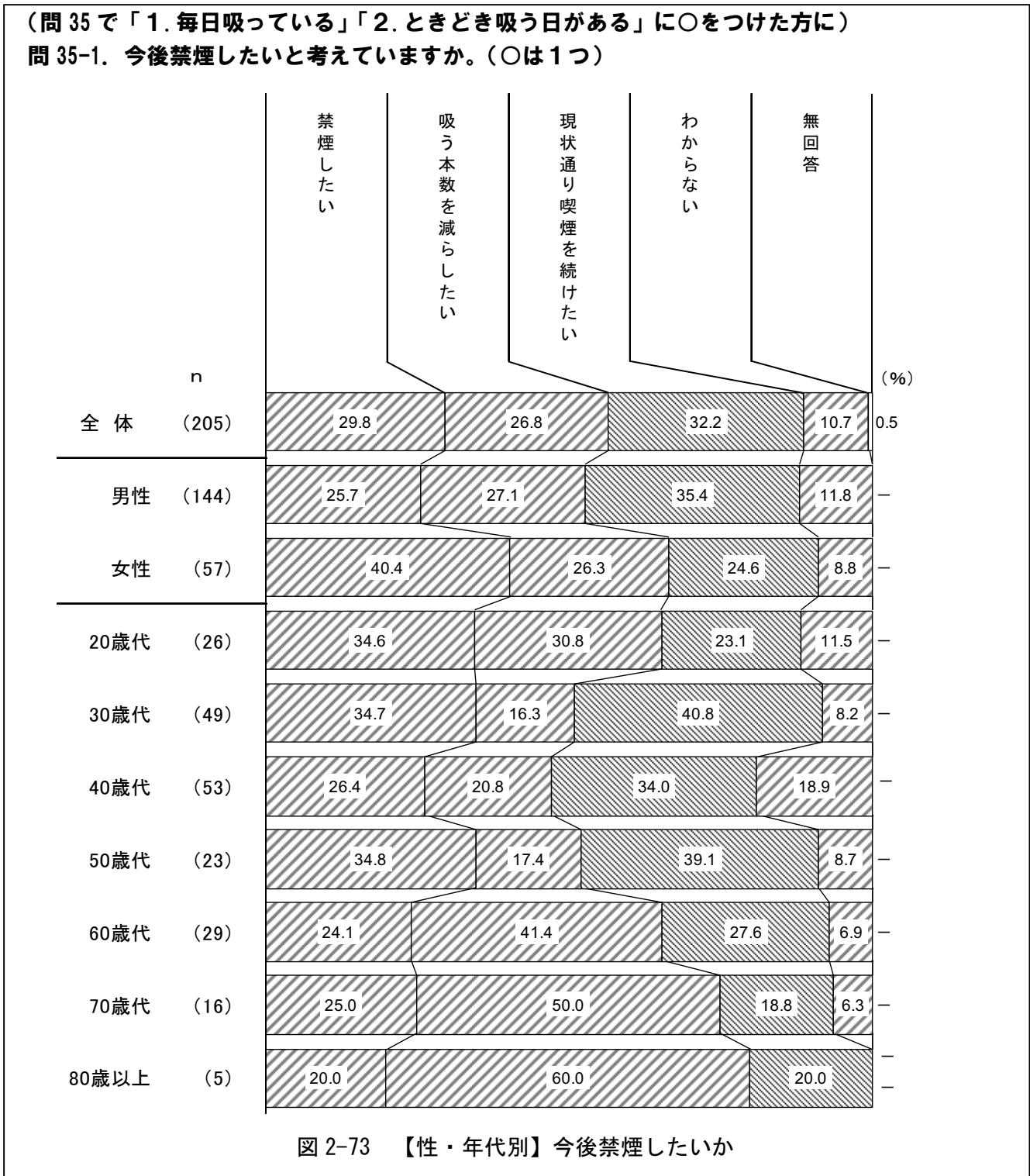
◆たばこを<吸っている>人は1割台半ば



喫煙の状況は、「毎日吸っている」(12.3%)と「ときどき吸う日がある」(2.5%)を合わせた<吸っている>で14.8%となっている。性別にみると、<吸っている>は男性(23.7%)が女性(7.7%)を16ポイント上回っている。年代別にみると、<吸っている>は40歳代で約2割と他の年代と比較して高くなっている。

2. 25. 1. 今後禁煙したいか

◆「禁煙したい」は約3割、「吸う本数を減らしたい」が2割台半ば

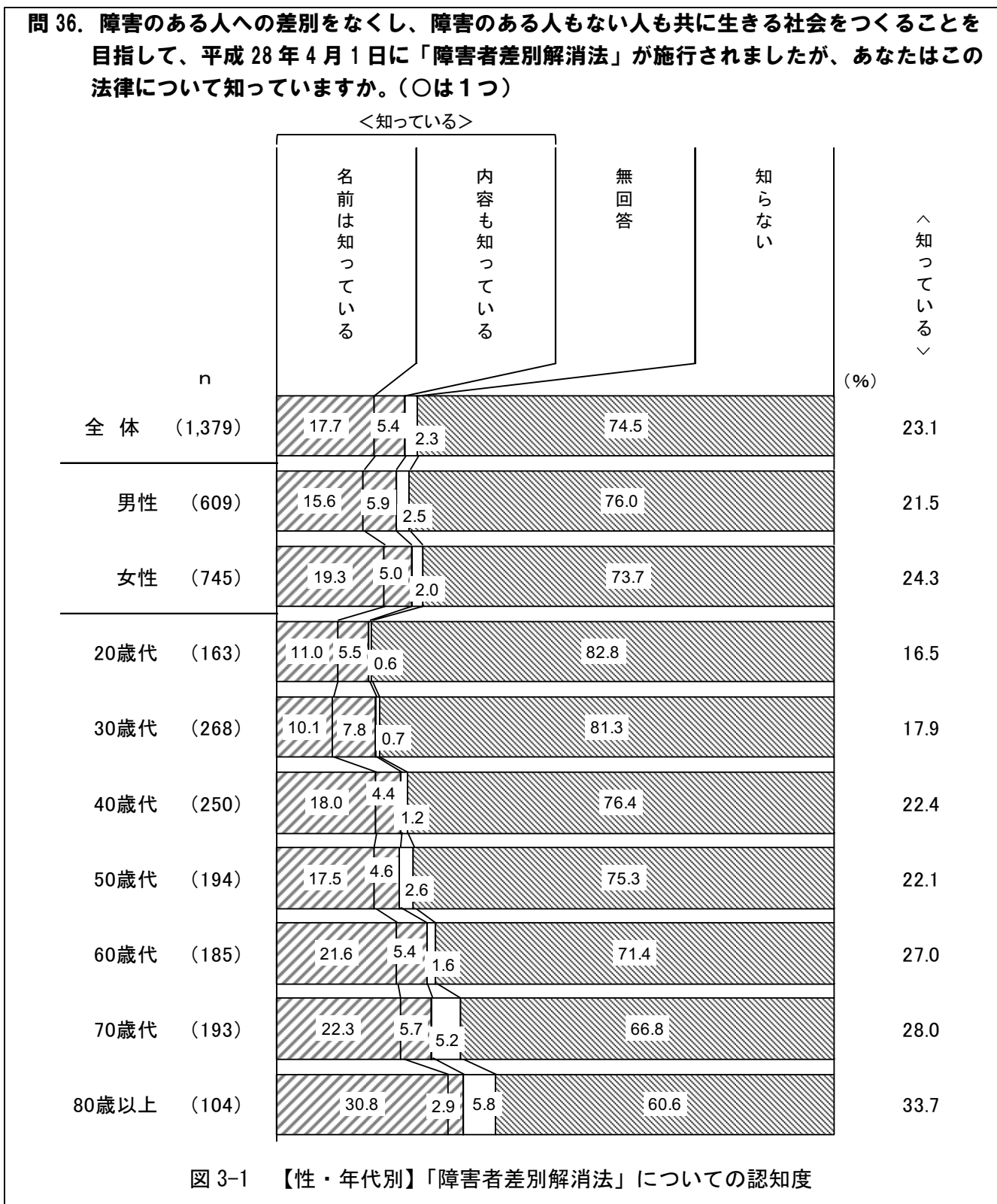


今後禁煙したいかについては、「現状通り喫煙を続けたい」が32.2%で最も多く、次いで、「禁煙したい」(29.8%)となっている。性別にみると、「禁煙したい」は女性(40.4%)が男性(25.7%)を約15ポイント上回っている。年代別にみると、「禁煙したい」は20歳～30歳代、50歳代で3割台半ばと他の年代と比較して高くなっている。

### 3. 制度等について

#### 3.1. 「障害者差別解消法」についての認知度

##### ◆「障害者差別解消法」について<知っている>人は2割台前半



「障害者差別解消法」についての認知度は、「名前を知っている」(17.7%)と「内容も知っている」(5.4%)を合わせた<知っている>が 23.1%となっている。性別にみると、<知っている>は女性(19.3%)が男性(15.6%)を約4ポイント上回っている。年代別にみると、<知っている>は80歳以上で3割台前半と他の年代と比較して高くなっている。



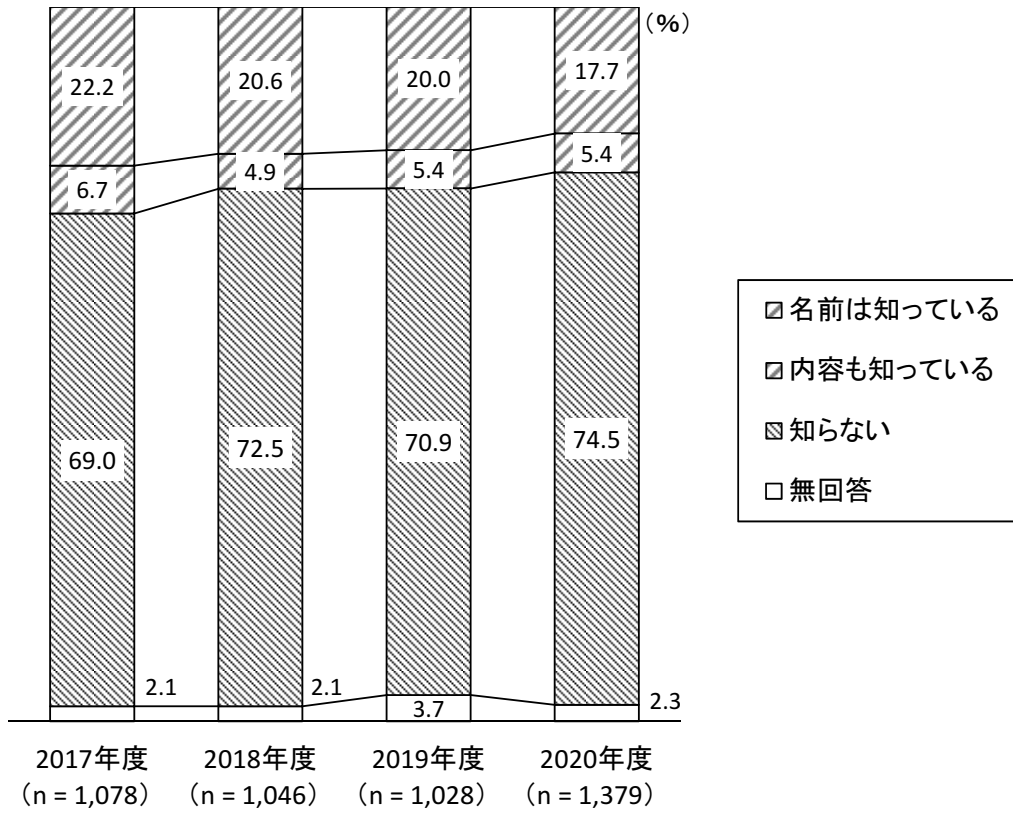
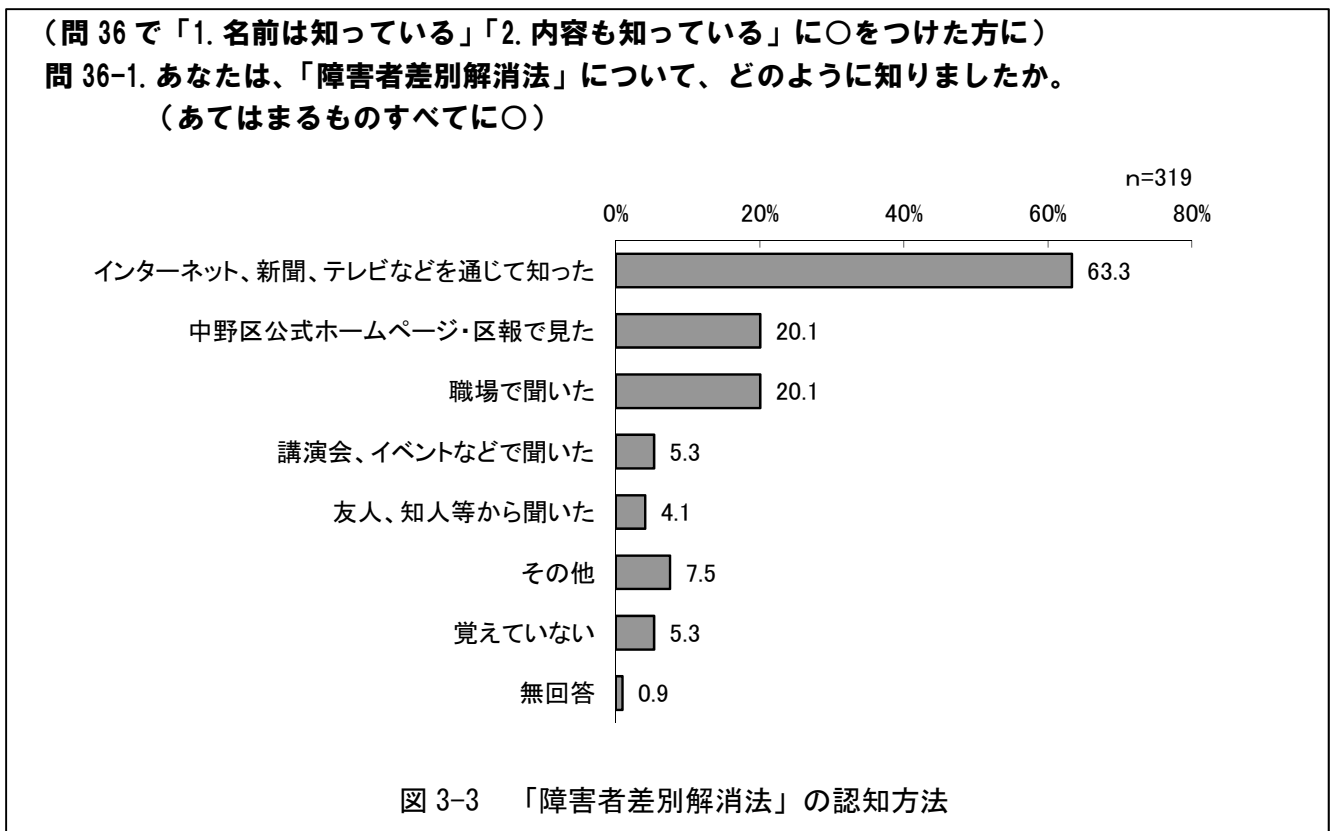


図 3-2 【経年比較】「障害者差別解消法」についての認知度

経年で比較すると、＜知っている＞は減少傾向にある。

3.1.1. 「障害者差別解消法」の認知方法

◆「インターネット、新聞、テレビなどを通じて知った」が6割台前半



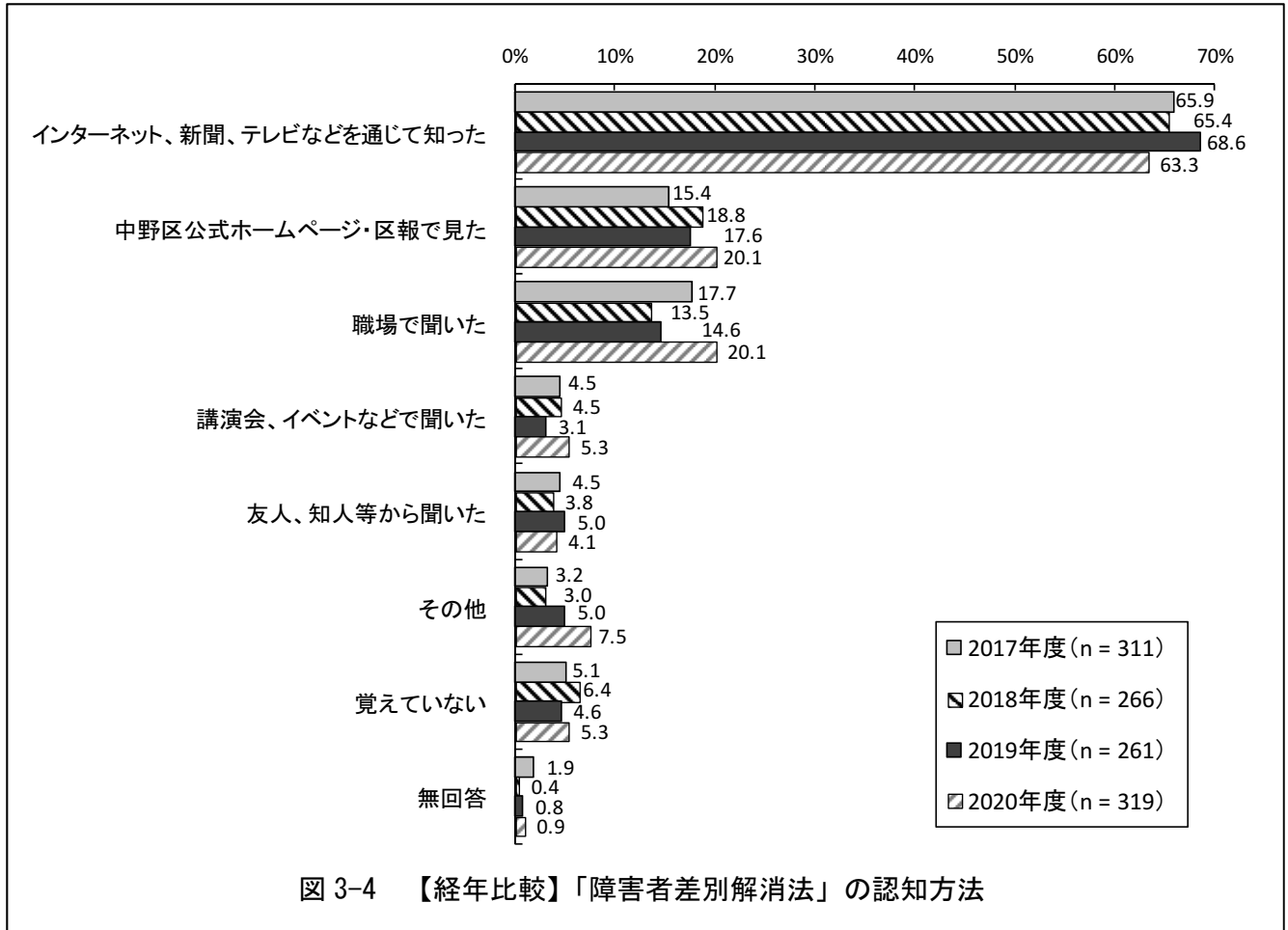
「障害者差別解消法」を<知っている>人に認知方法を聞いたところ、「インターネット、新聞、テレビなどを通じて知った」が63.3%と最も高くなっている。

表 3-1 【性・年代別】「障害者差別解消法」の認知方法

単位: %

区分	有効回答数 (件)	見た	中野区公式ホームページ	を通じて知った	インターネットなど	講演会、イベント	職場で聞いた	友人、知人等から	その他	覚えていない	無回答
全体	319	20.1	63.3	5.3	20.1	4.1	7.5	5.3	0.9		
男性	131	20.6	64.1	6.1	21.4	2.3	6.1	5.3	0.8		
女性	181	20.4	63.0	5.0	19.3	5.0	8.8	5.0	—		
20歳代	27	3.7	37.0	—	25.9	3.7	18.5	11.1	3.7		
30歳代	48	8.3	52.1	8.3	43.8	6.3	18.8	2.1	—		
40歳代	56	7.1	66.1	5.4	25.0	1.8	7.1	7.1	—		
50歳代	43	4.7	62.8	4.7	32.6	2.3	7.0	4.7	—		
60歳代	50	26.0	64.0	8.0	14.0	6.0	6.0	6.0	—		
70歳代	54	44.4	83.3	7.4	—	1.9	—	—	1.9		
80歳以上	35	45.7	62.9	—	—	5.7	—	8.6	—		

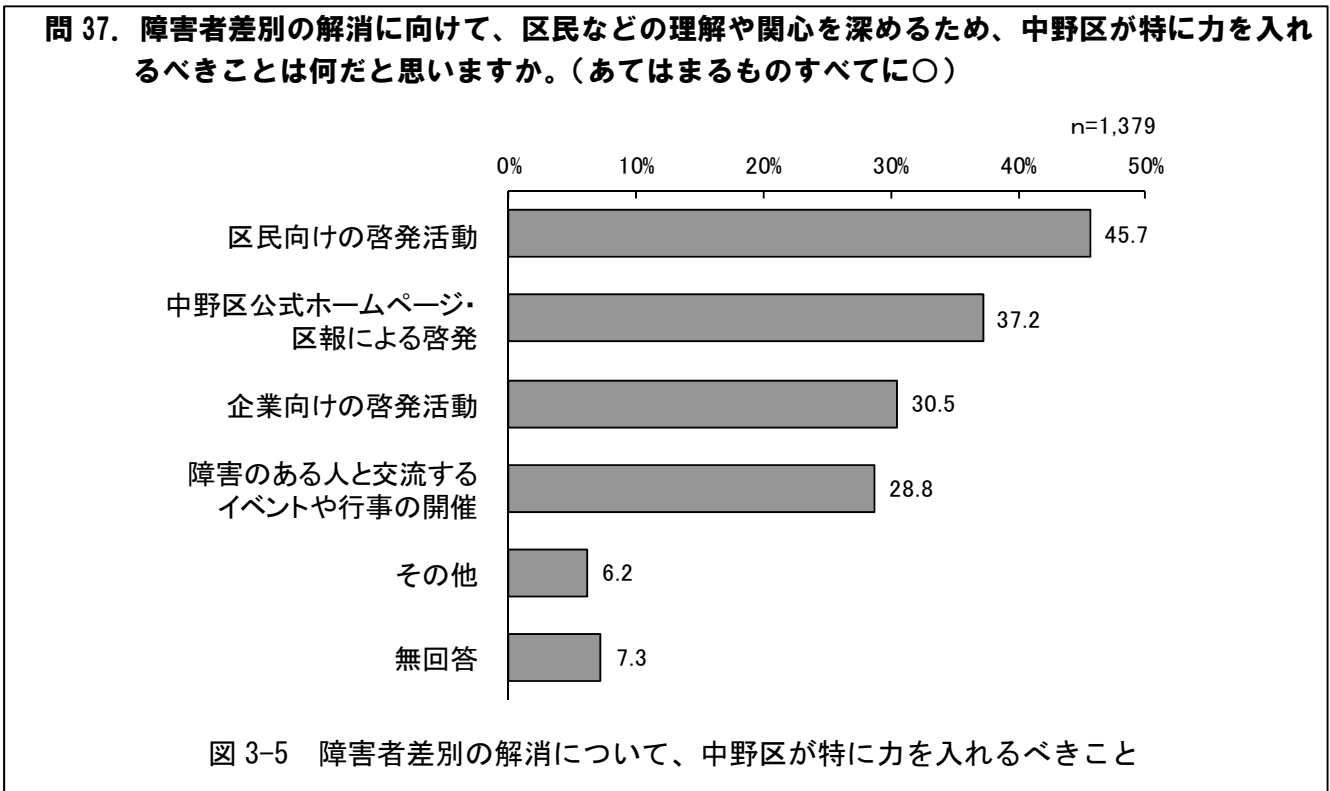
性別にみると、大きな差異はみられない。年代別にみると、30歳代で「職場で聞いた」、70歳代以上で「中野区公式ホームページ・区報で見た」の割合が4割を超え、他の年代と比較して高くなっている。



経年で比較すると、2020年度に「中野区公式ホームページ・区報で見た」、「職場で聞いた」が約2割となったが、大きな差異はない。

3.2. 障害者差別の解消について、中野区が特に力を入れるべきこと

◆障害者差別解消のため中野区が特に力を入れるべきことは、「区民向けの啓発活動」が4割台半ば



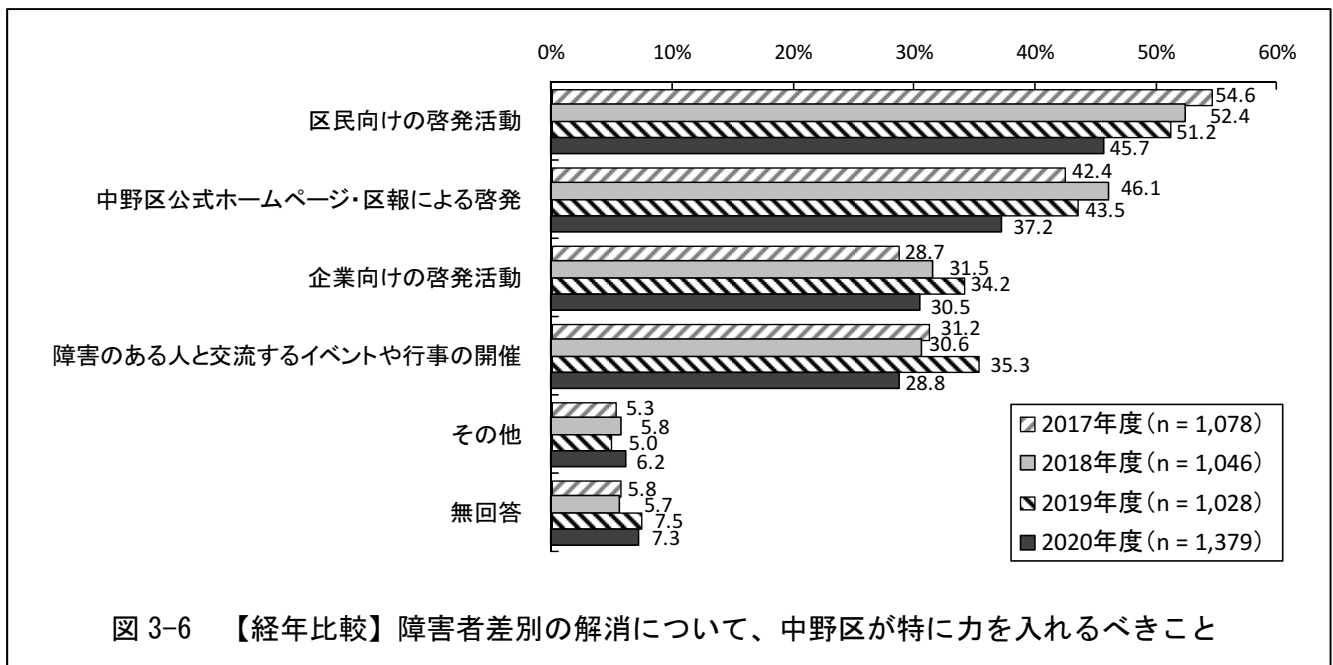
障害者差別の解消について、中野区が特に力を入れるべきことは、「区民向けの啓発活動」が 45.7%で最も高く、次いで「中野区公式ホームページ・区報による啓発」(37.2%)、「企業向けの啓発活動」(30.5%)となっている。

表 3-2 【性・年代別】障害者差別の解消について、中野区が特に力を入れるべきこと

単位：%

区分	有効回答数（件）	中野区公式ホームページ・区報による啓発	区民向けの啓発活動	企業向けの啓発活動	障害のある人と交流するイベントや行事の開催	その他	無回答
全体	1,379	37.2	45.7	30.5	28.8	6.2	7.3
男性	609	34.6	44.5	31.5	25.3	6.7	7.2
女性	745	39.5	46.4	29.8	31.9	5.8	6.7
20歳代	163	28.8	44.8	46.6	22.7	6.7	2.5
30歳代	268	25.4	42.5	45.9	31.7	9.3	2.6
40歳代	250	30.8	52.0	29.6	31.6	6.4	6.8
50歳代	194	40.7	51.0	32.0	29.9	5.2	7.2
60歳代	185	49.7	54.1	24.9	29.2	3.8	5.9
70歳代	193	46.6	36.3	12.4	31.1	4.1	10.9
80歳以上	104	51.0	30.8	9.6	18.3	6.7	21.2

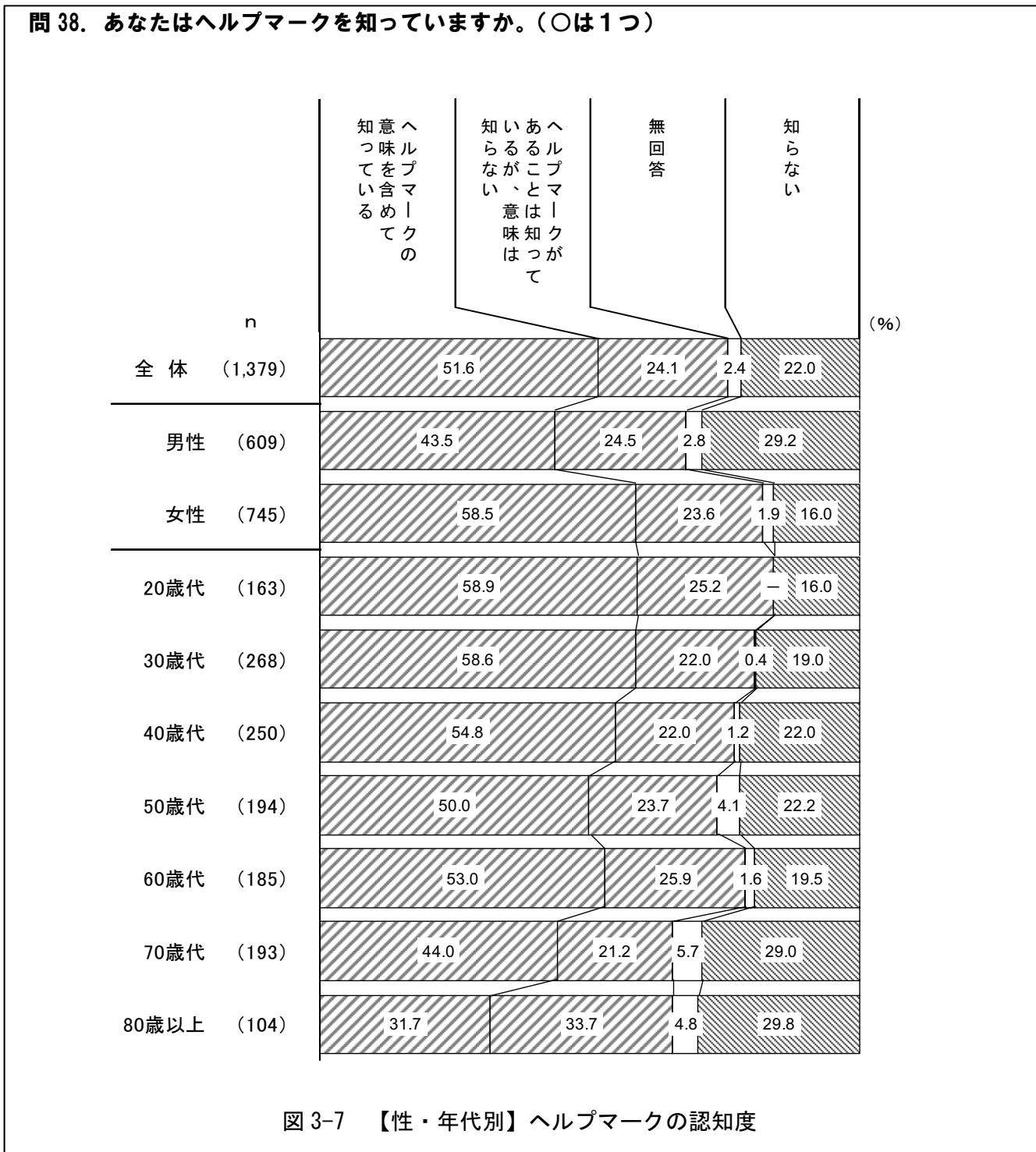
性別にみると、「障害のある人と交流するイベントや行事の開催」は女性（31.9%）が男性（25.3%）を約7ポイント上回っている。年代別にみると、20歳～30歳代では「企業向けの啓発活動」の割合が最も高く、40歳～60歳代では「区民向けの啓発活動」、70歳代以上では「中野区公式ホームページ・区報による啓発」が最も高くなっている。



経年で比較すると、いずれの年も「区民向けの啓発活動」が最も高くなっている。

3.3. ヘルプマークの認知度

◆ヘルプマークについて「意味を含めて知っている」は約5割



ヘルプマークの認知度については、「ヘルプマークの意味を含めて知っている」が51.6%で最も高く、「ヘルプマークがあることは知っているが、意味は知らない」が24.1%、「知らない」は22.0%となっている。性別にみると、「ヘルプマークの意味を含めて知っている」は女性(58.5%)が男性(43.5%)を15ポイント上回っている。年代別にみると、「ヘルプマークの意味を含めて知っている」は20歳～60歳代で5割を超えている。

3.4. 介護保険制度の利用の仕方についての認知度

◆介護保険制度の利用の仕方について<知っている>は約3割

問 39. あなたは、介護保険制度を利用できていますか。または、利用していない方は、必要となった時の利用の仕方を知っていますか。(○は1つ)

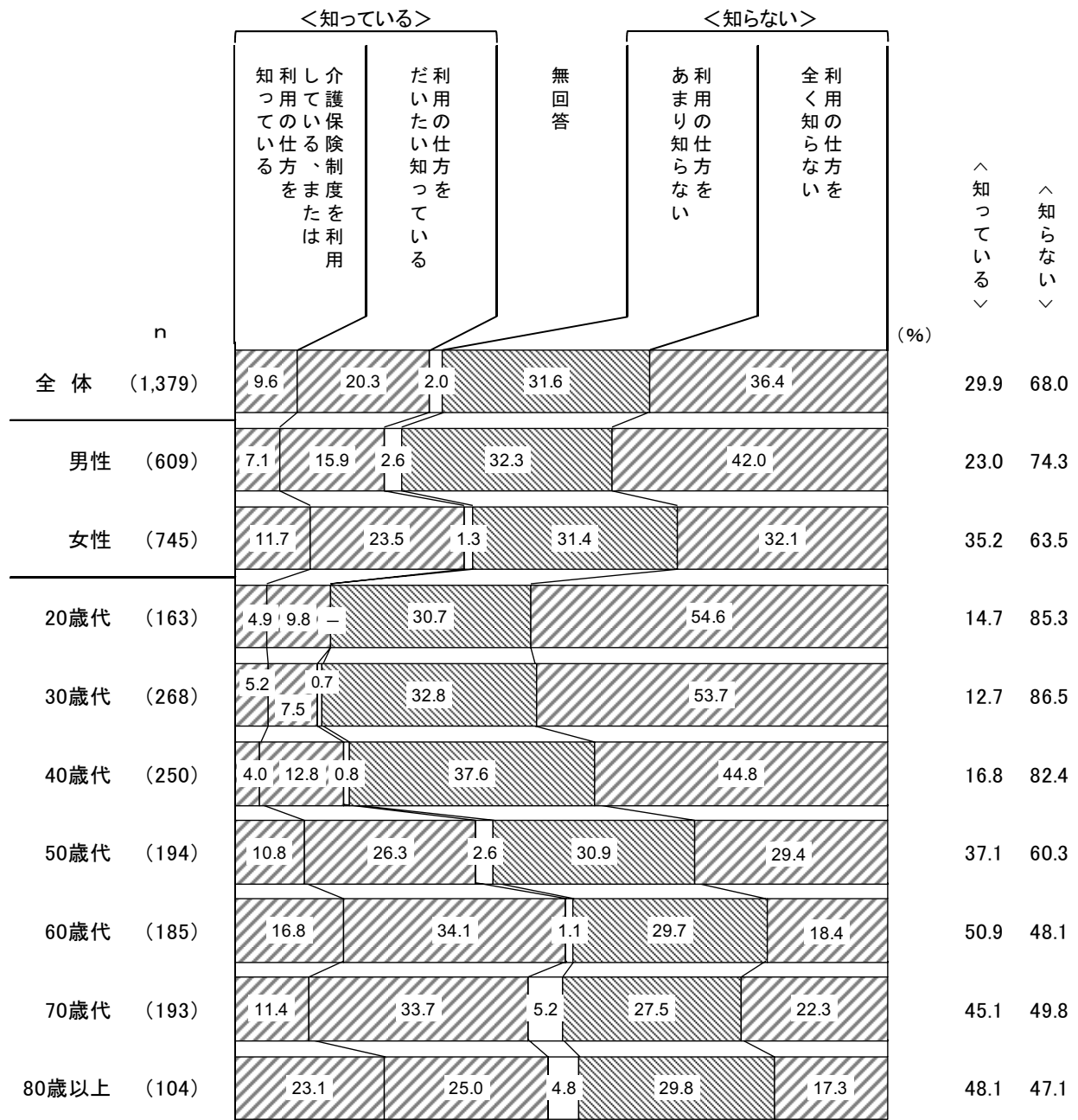


図 3-8 【性・年代別】介護保険制度の利用の仕方についての認知度

介護保険制度を利用できている、または必要となった時の利用の仕方を知っているかについては、「介護保険制度を利用している、または利用の仕方を知っている」(9.6%)と「利用の仕方を知りたい」(20.3%)を合わせた<知っている>は29.9%となっている。性別にみると、<知っている>は女性(35.2%)が男性(23.0%)を約12ポイント上回っている。年代別にみると、60歳代の<知っている>の割合が最も高くなっており、5割を超えている。

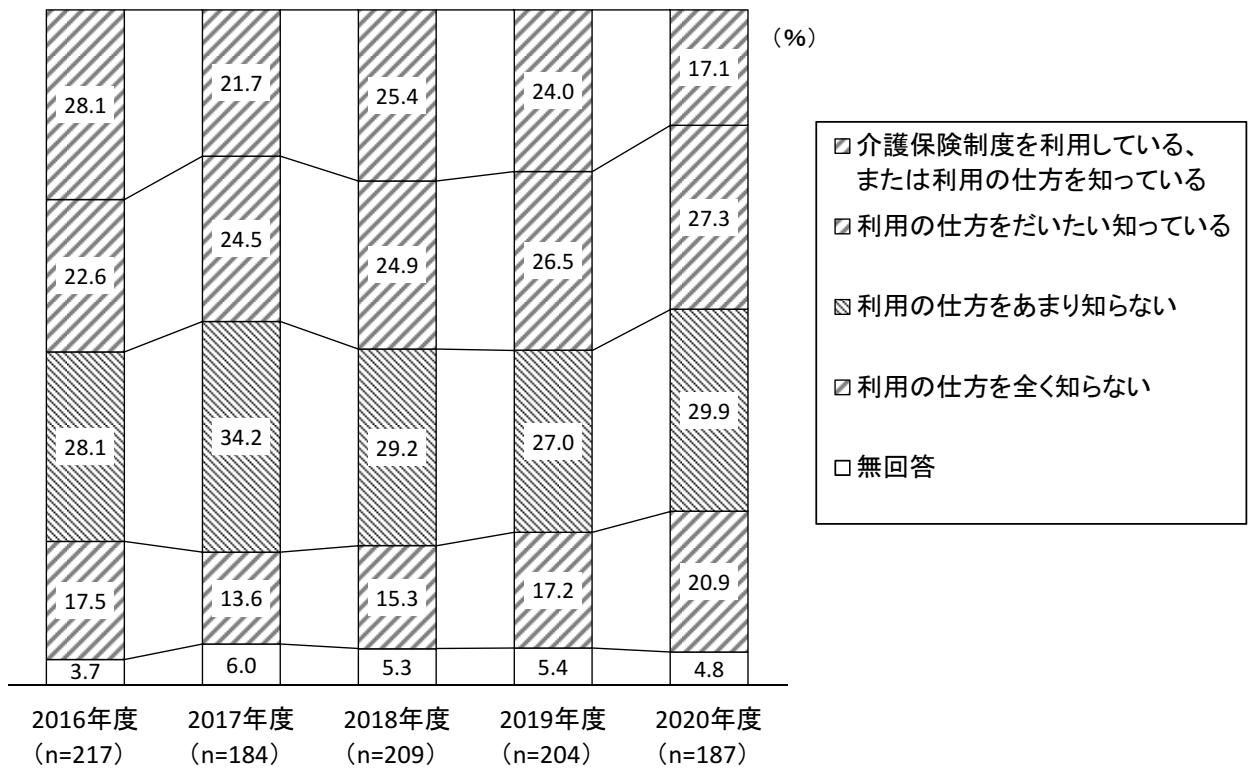


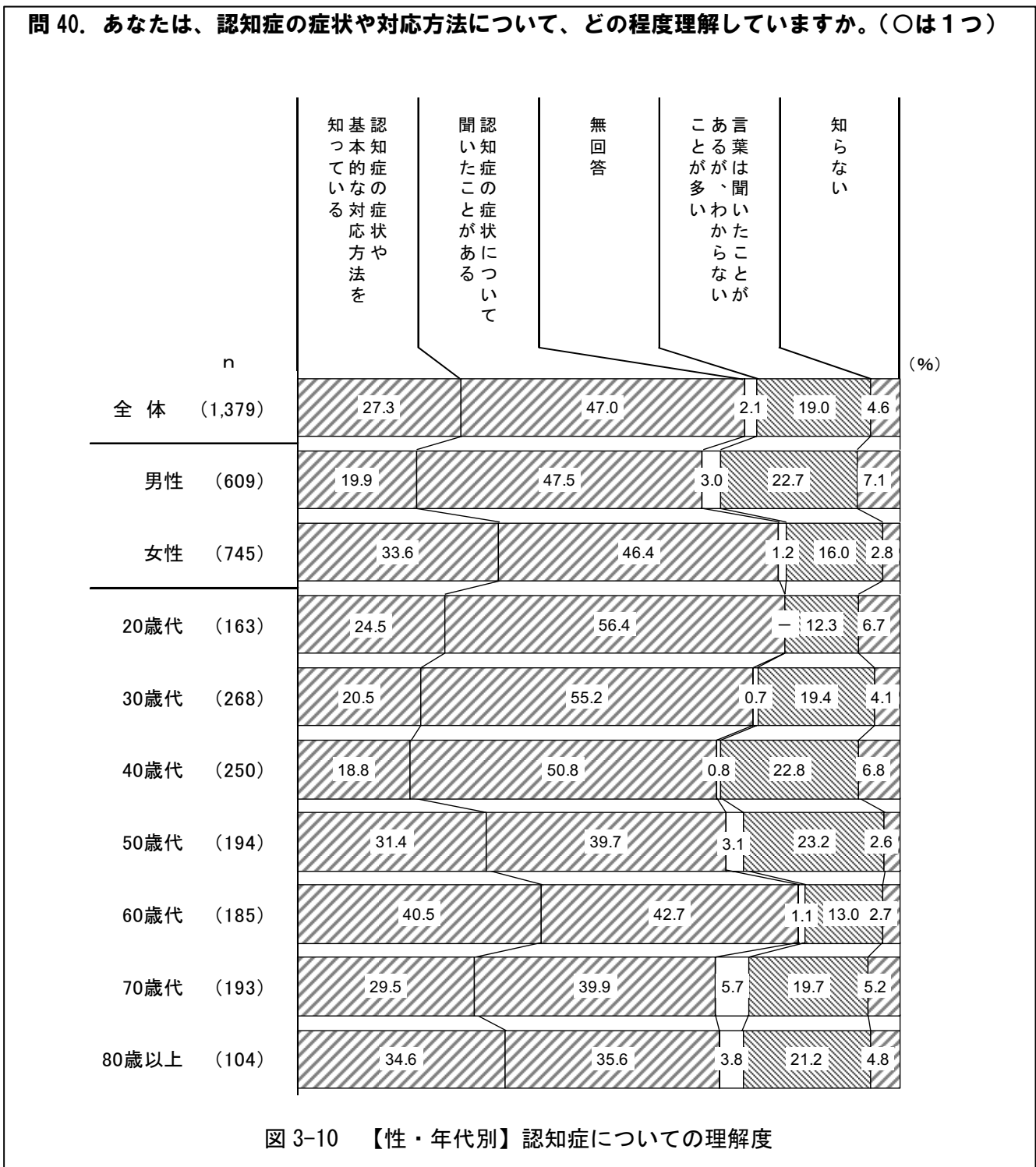
図 3-9 【経年比較】介護保険制度の利用の仕方についての認知度（75 歳以上の方）

75 歳以上の方について経年で比較すると、「利用の仕方をだいたい知っている」が増加しており、「利用の仕方を全く知らない」についても増加傾向にある。



3.5. 認知症についての理解度

◆認知症について「基本的な対応方法を知っている」は2割台後半



認知症の症状や対応方法についての理解度は、「認知症の症状について聞いたことがある」(47.0%)が最も高く、次いで「認知症の症状や基本的な対応方法を知っている」(27.3%)となっている。性別にみると、女性の方が男性より理解度が高くなっており、「認知症の症状や基本的な対応方法を知っている」で女性(33.6%)が男性(19.9%)を約14ポイント上回っている。年代別にみると、60歳代で「認知症の症状や基本的な対応方法を知っている」が約4割と他の年代と比べて高くなっている。

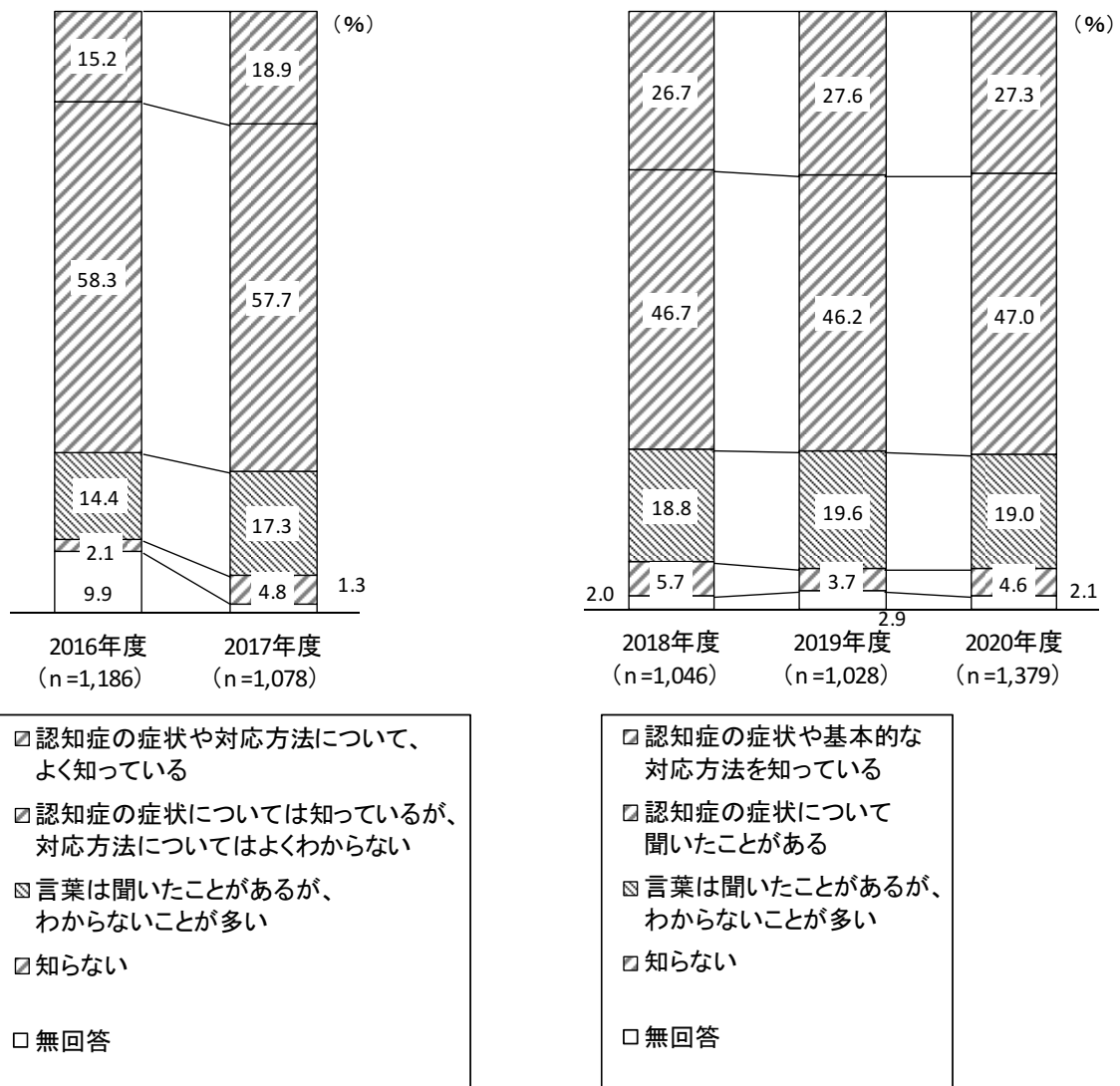
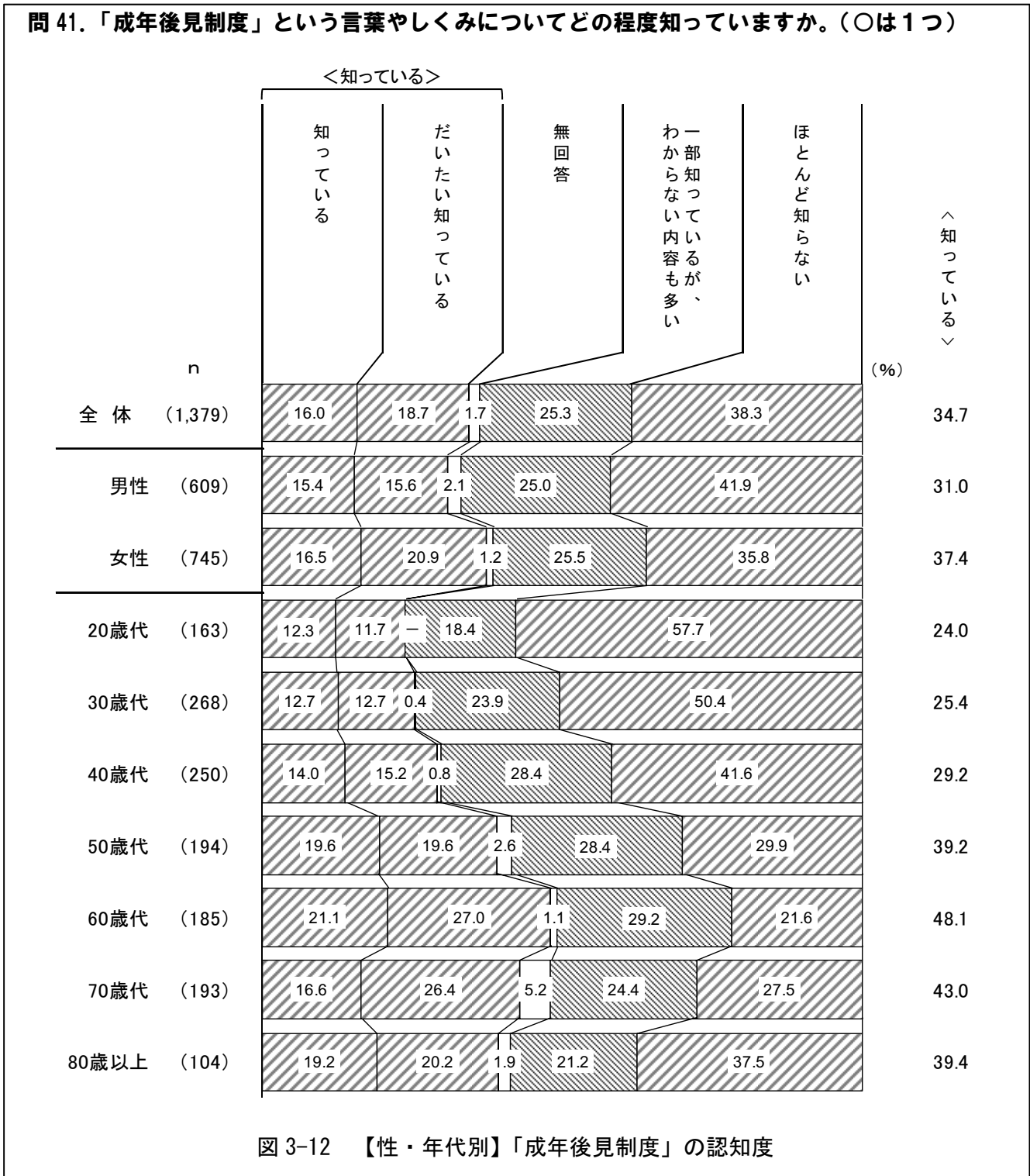


図 3-11 【経年比較】認知症についての理解度

2018年度以降は一部選択肢の内容を変更したため、2016年度から2017年度までの結果は参考として掲載する。2018年度以降は、大きな差異はみられない。

3.6. 「成年後見制度」の認知度

◆「成年後見制度」という言葉やしくみを<知っている>は3割台半ば



「成年後見制度」という言葉やしくみについての認知度は、「知っている」(16.0%)と「だいたい知っている」(18.7%)を合わせた<知っている>で34.7%となっている。一方、「ほとんど知らない」は38.3%となっている。性別にみると、<知っている>は女性(37.4%)が男性(31.0%)を約6ポイント上回っている。年代別にみると、60歳代で<知っている>が4割台後半と最も高くなっている。

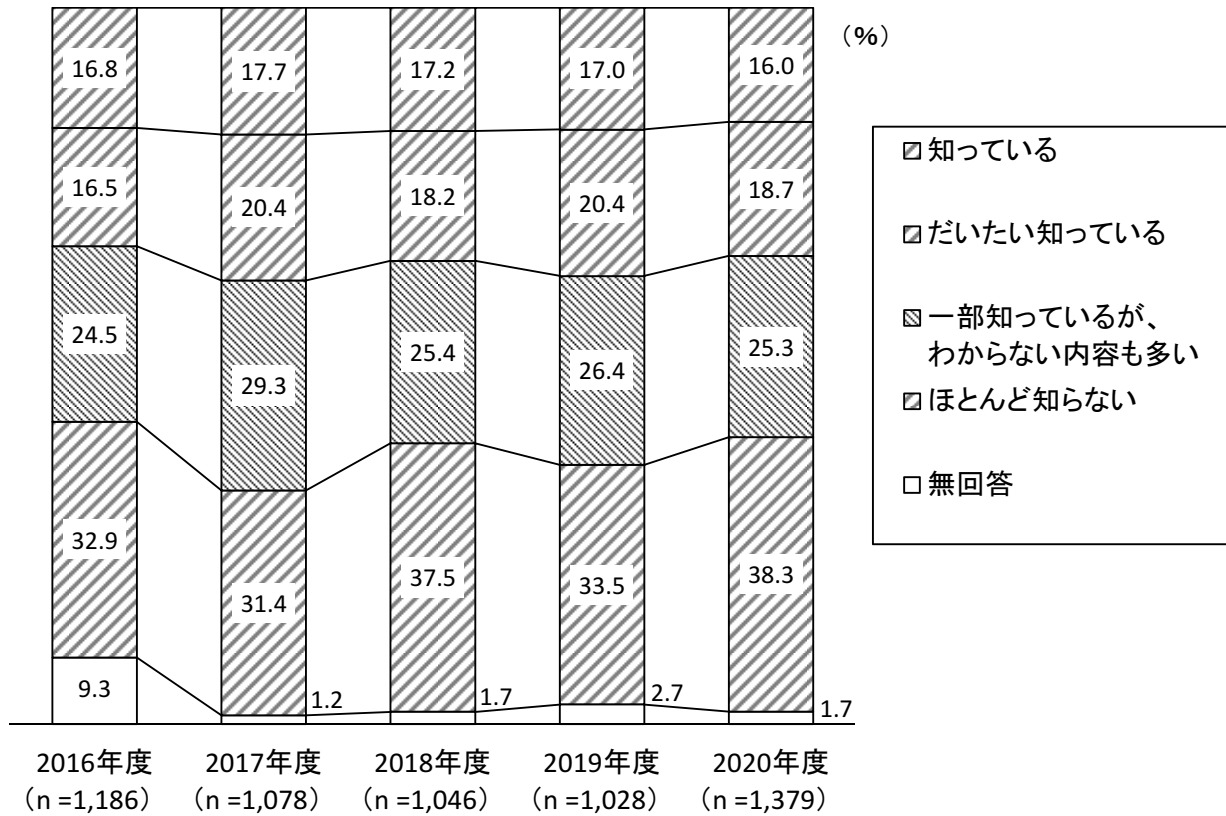


図 3-13 【経年比較】「成年後見制度」の認知度

経年で比較すると、「知っている」と「だいたい知っている」を合わせた<知っている>の割合は横ばいとなっている。

## 4. 相談窓口について

### 4.1. 健康福祉の相談窓口の身近さ

◆地域の健康福祉の相談機関について「身近に感じる」と回答した人の割合は1割台半ば

問 42. あなたは、次の地域の健康福祉の相談機関について、困っているときに相談できる窓口として、身近に感じますか。(それぞれ○は1つ)

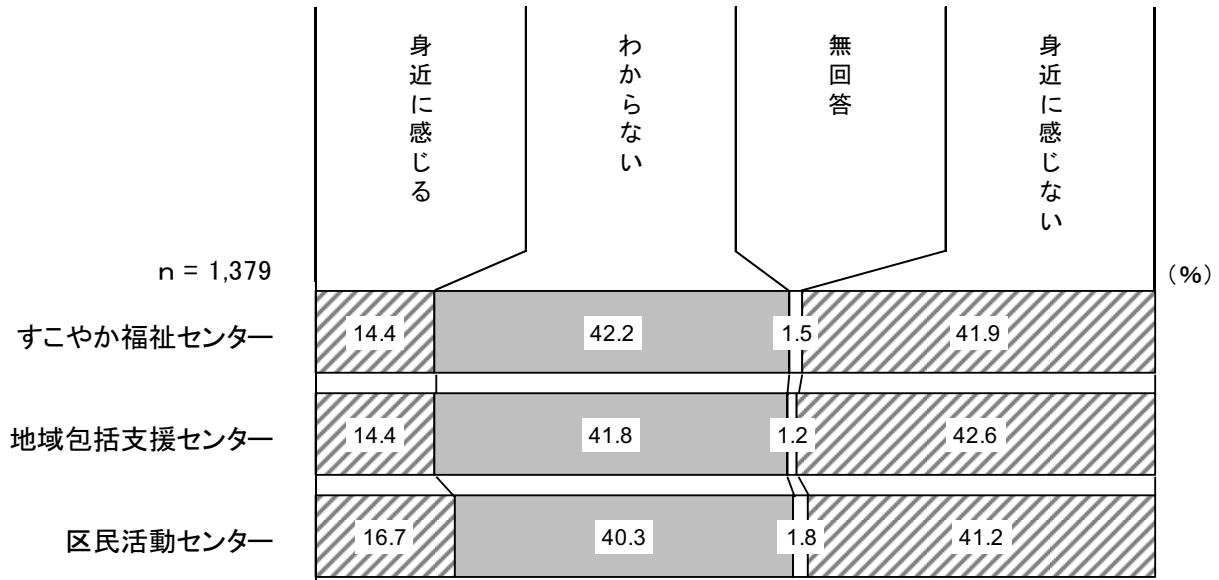


図 4-1 身近に感じるかどうかの割合

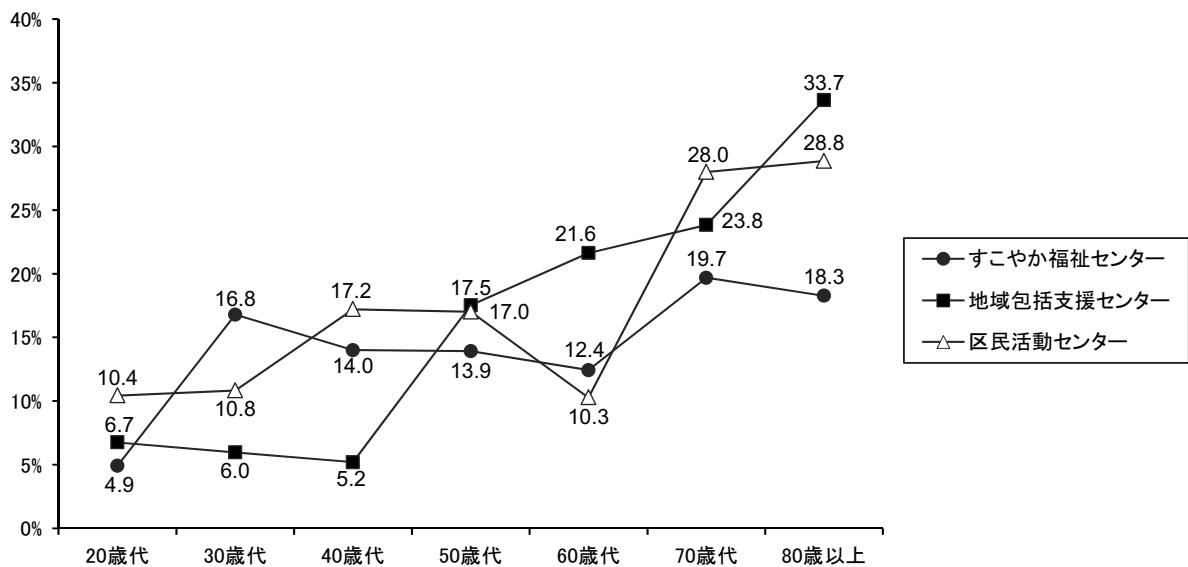


図 4-2 【年代別】身近に感じると回答した人の割合

健康福祉の相談窓口として身近に感じる機関を年代別で見ると、20歳代と40歳代、70歳代では「区民活動センター」、30歳代では「すこやか福祉センター」、50歳～60歳代、80歳以上では「地域包括支援センター」の割合が最も高くなっている。

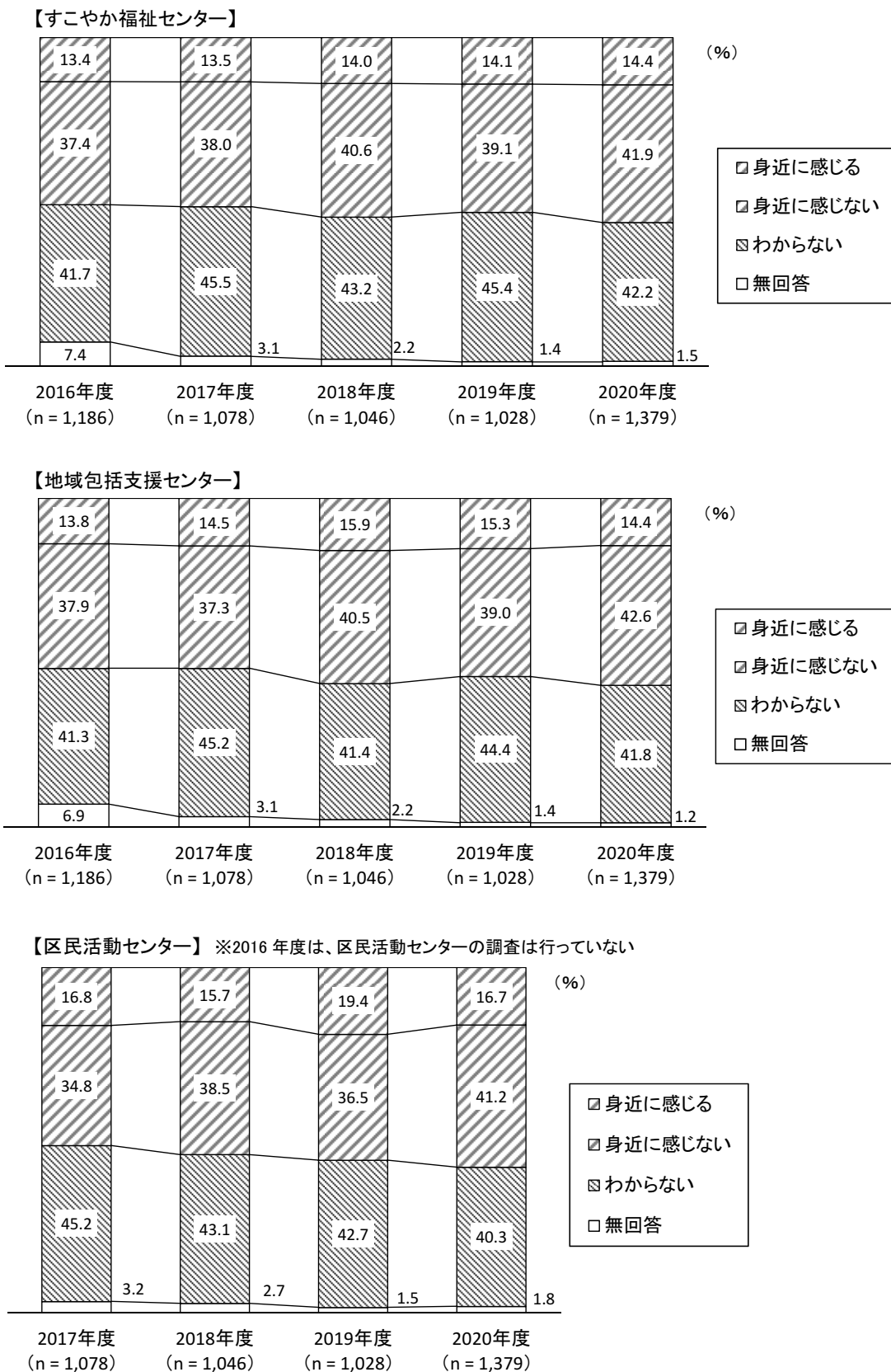
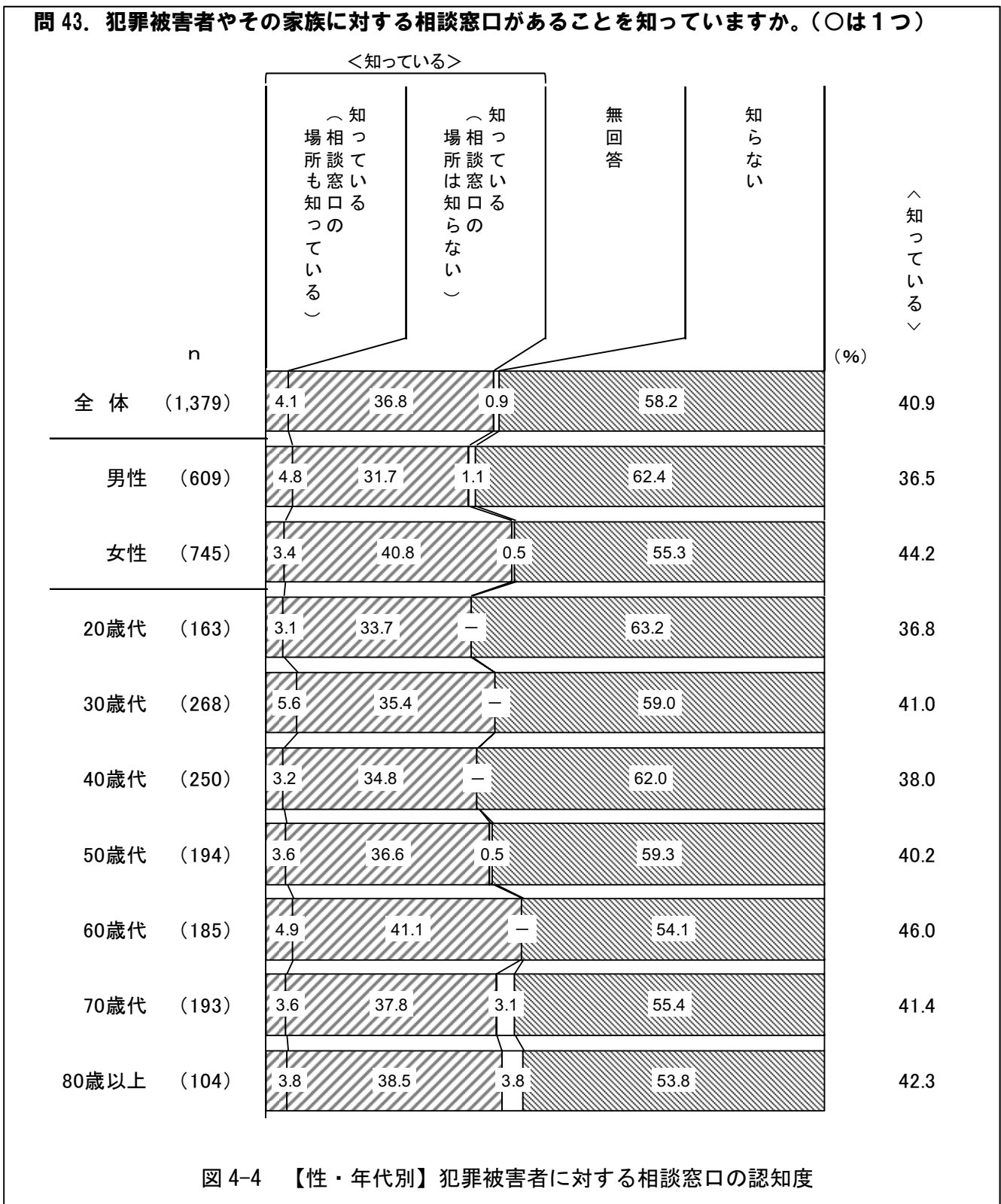


図 4-3 【経年比較】 身近に感じるかどうかの割合

経年で比較すると、いずれの施設も「身近に感じる」割合は、1割台前半～1割台後半となっている。

4.2. 犯罪被害者に対する相談窓口の認知度

◆犯罪被害者やその家族に対する相談窓口を<知っている>は約4割



犯罪被害者やその家族に対する相談窓口の認知度は、「知っている（相談窓口の場所も知っている）」（4.1%）と「知っている（相談窓口の場所は知らない）」（36.8%）を合わせた<知っている>で40.9%となっている。性別にみると、<知っている>で女性（44.2%）が男性（36.5%）を約8ポイント上回っている。年代別にみると、<知っている>は60歳代で4割台半ばと他の年代と比較して高くなっている。

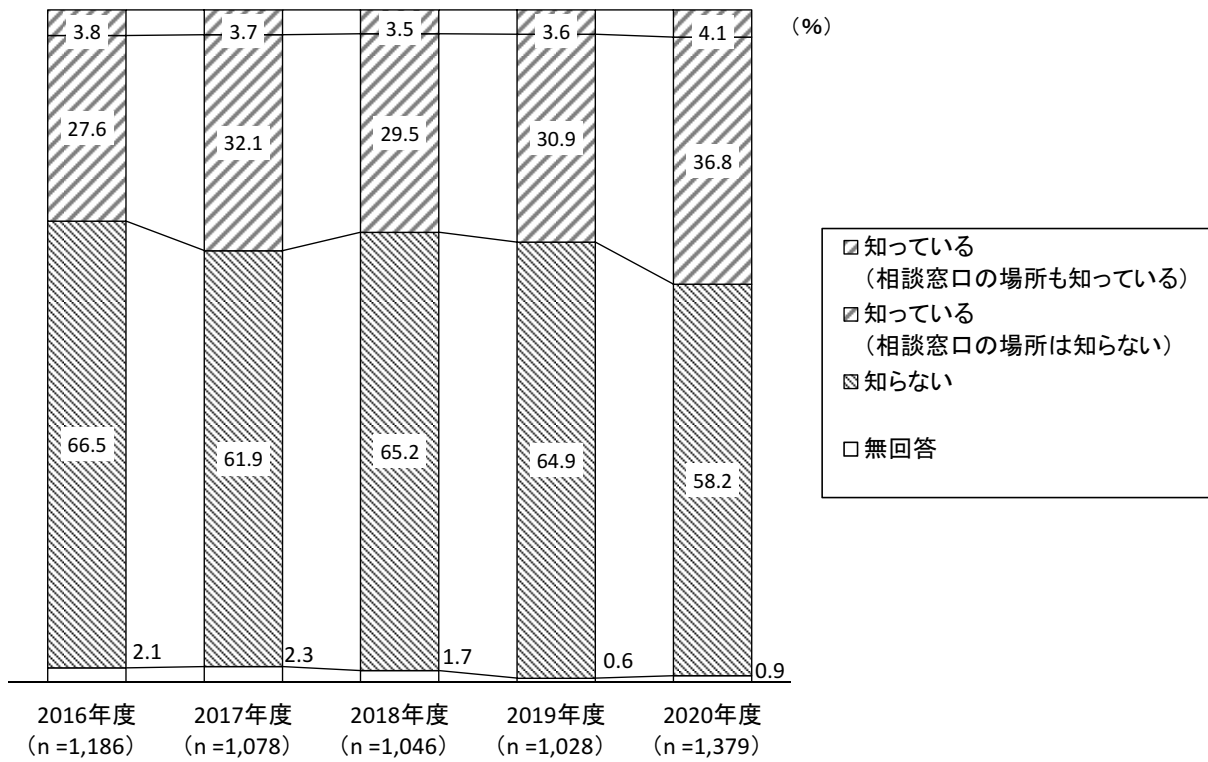


図 4-5 【経年比較】 犯罪被害者に対する相談窓口の認知度

経年で比較すると、＜知っている＞が増加傾向にある。



## 5. その他

### 5.1. 健康福祉行政全体への意見・要望（自由回答）

**問 44. 健康福祉行政全体や今回の調査について、ご要望やご意見等ありましたら、ご自由にお書きください。**

健康福祉行政全体や今回の調査について、要望・意見を自由に記入していただいたところ、296 人の方から回答があった。その中から代表的な意見を掲載する。

#### 本調査について 77 件

- 調査する項目が多すぎる。もっと少なくして、もっと重点を絞った方がいい。(男性/60 歳代)
- 調査の中で知らなかったこと、且つ知りたいこと（介護保険制度、ヘルプマーク等）がいくつかあったので、出てきた制度に関する簡単な説明を同封してもらえたらとても助かります。(女性/30 歳代)
- 紙ベースのみでなく、WEB での回答ができるとよい。(男性/40 歳代)
- 回答していて知らないことが多くあり、これから少しずつ関心を持っていかねければと思いました。(女性/40 歳代)
- 調査で上がった要望等はスピード感を持って取り組んで頂きたい。(男性/60 歳代)
- アンケート結果を基に、それから具体的にどんな政策や活動、予算配分を行ったかを知らせてほしい。(男性/40 歳代)
- 知らない制度もあり自分の無知さを感じました。調査票とあわせてそれぞれ制度が簡単に分かるパンフレットが同封されていたら良かったと思います。(男性/20 歳代)
- せっかくの調査ですから、何らかの形で回収結果なり、区民に周知すれば意識も高まると思います。(男性/70 歳代)

#### 高齢福祉・介護・介護保険について 22 件

- 自分にも障害があり父も高齢者です。将来自分の持病が悪化した時、通院等の時に父をみてる一時的サービスがあるのか、はたまた私が亡くなった時に父だけが残っている事を気が付いてもらえるのか周りへの不安がある。(女性/30 歳代)
- 高齢者、障がい者、介護必要者本人はもちろん、支えている家族への手厚い支援を考えてほしい。(女性/50 歳代)
- 最近アパート・マンションが多くなり、また新しく入居する方には名前もお顔も知らない人が増えています。そして高齢者は一人でぼつんとしている人がいます。みんなでお茶でも飲みおしゃべりができるような場所がもっとほしいと思います。(女性/80 歳以上)
- パートで介護のヘルパーの仕事をしているので認知症の方や車イスの方のお世話をしていますが、いざ自分の事となると知らない、解らない事ばかり。地域の施設を確認し、なるべくお世話にならないよう、健康に気をつけなければと思いました。(女性/60 歳代)
- 住居周辺には介護施設が多くあり、職員の方の努力する様子等が見られるので大変だと思う。待遇改善等を検討してみたらどうでしょうか？中野区の福祉行政について期待しています！（男性/70 歳代）
- 介護保険サービスに関わっている者ですが、在宅で支えることにジレンマを感じています。介護を受けやすい料金体制、必要とされる介護時間の充足、又、介護士不足解消の為賃金の見直しなど、難しい課題だと思うが、検討は必要だと思う。(女性/60 歳代)

**障害福祉について**

15 件

- 障害者の就労支援は力を入れるべきだと思う。区の施設、例えば自転車保管場所等に高齢者の働き口斡旋をするのであれば、何人かに1人は障害者枠があっても良いと思う。公的な施設で働いてもらえることで身近に感じ、差別が減っていくのではないかと。(男性/30 歳代)
- 障害者差別解消法という法律を知れて良かった。どのような方を障害者と呼ぶのか、本人達はどう感じるのか調べてみようと思った。(女性/40 歳代)
- 障害者として特別扱えることが差別であると考え。但し、誰でも障害、病気を抱える可能性があり、その際、当たり前世の中に受け容れられる仕組み、出来ること、得意なこと世の中に関わり、生活が支援保証されること、その様な仕組みが必要ではないかと考える。従って、セミナー、講演会というより、一緒にやってみる、物事を作り上げるアクティビティーの方が良いのではと考える。(男性/40 歳代)
- 病気や障害のある本人はもちろんですが、その周りで看病や介護をしている家族のフォローについてもさらに注力していただきたいです。また、どのような病気・障害も周囲にはまだまだ誤解されているものが多いため、啓蒙活動が重要だと思います。(女性/30 歳代)
- 障害のある人、高齢者の方、心の病と闘っている方々を少しでも理解し、交流する機会を通じて、暖かなふれあいができるよう思いやりの心の育成をこれからも続けていきたいと、アンケートを通じて改めて感じました。(女性/70 歳代)
- 今回の意識調査は重要だと思います。福祉を理解することにより人とのコミュニケーションの大切さを知ると思います。障害のある人達との交流、地域の交流で自殺も減るように思います。(男性/40 歳代)

**医療・健診（検診）について**

16 件

- 医療従事者への補助や支援をもっと充実させてほしい。(男性/20 歳代)
- 日頃あまり医者のお世話になる事がなく（整形は別）かかりつけ医の推進がありますが、決められないでいます。今回の様な感染症の場合もまずはかかりつけ医に相談とありますが、実態としては何件にも見てもらっている感があり、地元に住んでいる人以外は難しいのかなと思いました。(女性/70 歳代)
- 区の健診をもっと充実してほしい。例えば胃や大腸の内視鏡検査を受けられるようにするとか、脳ドックを何年かに一度受けられる等々… (女性/60 歳代)
- 特に今回のコロナの様な感染症の流行の場合など、医療機関に対するサポートや医療体制の早期整備を区主導で積極的に進めていただきたい。都は広すぎるし、対策に小まわりがきかない。地域の実態に応じてきめ細やかな施策を望みます。(女性/50 歳代)
- 乳幼児の集団健診は今後、かかりつけ医で行えるようにして欲しい。あるいはどちらかに（すこやかセンターor かかりつけ医）選択できるようにして欲しい。すこやかセンターは遠くて行きづらいし、待ち時間が長すぎる。(女性/30 歳代)

**地域活動について**

6 件

- 職場の近くでは、地域活動をしているが、住んでいる場所ではしていない。なかなか住んでいる所の情報を知らないことにおどろきました。(男性/50 歳代)
- 地域には色々な人がいます。とんでもない人、普通の人、居て有難い人。日常生活の中で、人と人、人材と人をつなげる工夫、施策を希望します。様々な職種があり、活躍されていると思います。色々な活用の中で、地域の若者のちょっとした参加、専門職では臨床心理士の活用を希望します。(男性/60 歳代)

## 健康づくり・スポーツ施設や公園等について

11 件

- 中野区の新規スポーツ施設の整備、既存のスポーツ施設のメンテナンス、子どもが活用（利用できる教室 etc…）増やしてほしい。子育て世代としては、中野区は他区に比べ、子育て向きではないように思うので、今後頑張ってもらいたいと思っています。（男性／30 歳代）
- 心の健康には、スポーツだけでなく文化的な活動も重要だと思います。スポーツ施設だけでなく文化施設の充実や、区民が使用できるスペースなどの充実と利用が手軽にできる仕組みなども、ぜひ力を入れていただきたいです。（男性／30 歳代）
- コロナの影響で在宅期間が増え運動不足解消のため徒歩で行ける公園にあちこち行っています。平和の森公園など運動に適した公園がたくさんあることを初めて知りました。区報でおすすめの運動スポットなど紹介してほしいです。（女性／30 歳代）

## 区への要望・意見・その他等

149 件

- 今回のような感染症の問題、あるいは障害者の問題に、偏見や差別のない社会を作るためのとりくみを考えてほしい。（女性／70 歳代）
- 私達夫婦は長年、転勤族のため、いくつもの街に住んできました。経験から気付いたことは、きれいに整頓している街に犯罪は少ない、ということ。心にゆとりも生まれます。ゴミ処理、空き家問題、道路整備（地域（道路）整備は、障害者にとっても、健常者にとっても、全てにつながるメリットがあります。心身共に守られると、ゆとりにつながります）、1つ1つが全て犯罪抑止につながっています。まだまだ足りない、行き届いていない点が多々あるので、住民を先導してほしいと思います。（女性／40 歳代）
- 区民が何かあった際に気軽に相談できる連絡体制づくり、公報（わかりやすい広報紙面づくり）、利用者の希望把握継続をぜひお願いしたい。（男性／50 歳代）
- 働く人のためのメンタルヘルス相談の窓口の充実を望みます。公認心理士や臨床心理士等の専門家を積極的に活用した区民の健康の保持、増進のためのシステムを!!（男性／30 歳代）
- 福祉の政策が充実することは大切ですが、財政の赤字が膨らんでいることと、貧富の差の拡大が心配です。富の分配を進める仕組みと赤字を減らして欲しいです。福祉は本当に必要な人に届くようにご配慮頂ければと思います。（女性／40 歳代）
- 点ではなく線になる様な連携を行政には求めたい。（男性／30 歳代）
- 大人になるにつれて、地域にある各センターの利用頻度が減りました。自分が住んでいる区について、もっと興味をもつような施策が必要かと思います。（女性／30 歳代）
- 障害を持った人や、介護を必要とする方、社会的弱者の方達に納めた税金がしっかりと役立てるようにしていただきたいと思っています。現在は非常事態宣言下にあり、巣ごもりの生活になっていますが、地方行政の適切な声が区民に広く届くように心がけていただきたく思います。（女性／60 歳代）
- 若い単身世帯だとどうしても健康、福祉などについて優先度が低い（関心が低い）ため、働く若い世代に基本的なことを教えてもらう機会があればいいなと思います。また、そういった世代は平日は不在にしていることが多く、行政の取組みが見えにくいのも勿体ないと思っています。自らもう少し情報を得て利活用していきたいと思っています。（女性／20 歳代）
- 特に単身高齢者や障害のある方に対して、中野区が実際どのような対応あるいはとりくみをしているのか知りたい。又、更なる充実を望む。（女性／60 歳代）
- 妻が介護福祉士なので知っている事が多かったですが、そうではない人には身近に感じる事が少ない方が多いと思います。区の活動等がもっと行われている事や利用できる事は誰もがわかる方法があるといいと思いました。（男性／40 歳代）
- SNS（特に Twitter）で情報発信されていると助かります。若者が情報を得たりしやすいかなと存じます。制度等を活用したいですが、何があるかいまわかりません。（女性／20 歳代）
- 子供もなく高齢のため、インターネットなどは出来ず色々のお知らせを知るすべがせまく、ホームページを見てください、などで日々不安の事が多々あります。（女性／70 歳代）

- それぞれの家族で各々違った環境での生活があり一概には言えないが、もっとどこでどんな活動をしているのか大々的に広報してもよいと思います。(男性／50 歳代)
- 地域の趣味のサークルに参加しようと思ってもインターネットもないし、どこで何をやっているのかわかりづらいし、情報が分かりません。今の政策は偏りすぎます。区民全体、全員に平均的に暮らしやすい区民政策を希望します。(女性／70 歳代)
- 色々な相談窓口があるのにもかかわらず何も知らなかったのが、困った時にすぐ相談できるよう分かりやすく区民に PR して欲しいです。(女性／30 歳代)
- 福祉施設が若者にとって縁のない場所だと思われがち。ボランティア・スポーツを通じて区民活動センターに人を集客して福祉施設の PR をした方が良いと思う。SNS で拡散できるようなものを作ったり、ベタな所だとインフルエンサーを呼んだり、若者を巻き込む青年団体年齢層を下げていった方が良いと思いました。(男性／20 歳代)
- 中野に住んで 4 年近くですが、不審者ニュースが多くて不安になるときがある。区の制度や施設も知らない部分が多かった。若者にもわかりやすく身近なものに感じれる仕組みやアピールをしてほしい。中野が好きなので、そこの辺りを期待しています。(女性／30 歳代)
- 子供たちの遊び場が少なすぎる。また、習い事などで子供の自由な時間が少なくなっている。健康な人生と地域社会のつながりの為にも、子供達のあそびの確保や重要性の教育、啓発活動を積極的に行ってほしい。(男性／30 歳代)
- 地域に在住しているすべての方が活躍の場を持てる社会作りを心がけて下さい。(男性／30 歳代)
- 健康福祉についてあまり身近に考えたことがなかったが、知らないことがたくさんあり参考になりました。(男性／80 歳以上)
- 困った時の区民の支えとなるようお願いします。(男性／50 歳代)

## IV 調査票と単純集計



令和2年度（2020年度）  
健康福祉に関する意識調査  
調査票  
中野区

【調査のご記入にあたってのお願い】

1. この調査は、できる限りあて名の方ご本人がお答えください。ご本人がお答えに  
なれない場合は、ご家族や介護されている方が、ご本人の立場に立ってお答えく  
ださい。
2. このアンケートは匿名です。名前・住所を書いていただく必要はありません。
3. ご記入は、必ず黒又は青のボールペン又は鉛筆でお願いします。
4. 質問番号に沿って、できるかぎり全部の質問にお答えください。
5. お答えは、あてはまる回答の番号に○印をつけてください。
6. 「その他（ ）」に○印をつけられた方は、お手数ですが具体的にご記入  
ください。
7. ご記入いただきました調査票は、

**令和2年（2020年）5月29日（金曜日）までに**

三つ折りにした上で、同封した返信用封筒（切手不要）に入れて郵送してください。

8. 調査の内容や記入方法等について、ご不明な点がありましたら、下記までお問い  
合わせください。

中野区健康福祉部 福祉推進課 健康福祉企画係  
TEL. 03-3228-5421 FAX. 03-3228-5662  
E-mail fukusisuisin@city.tokyo-nakano.lg.jp

質問の上に（全員の方に）と記載のあるものは全員の方が、（～の方に）とその他の記載があるものはその条件に合う方のみお答えください。

《はじめに、あなたご自身のことについてうかがいます》

（全員の方に）

（1） あなたの性別は、どちらですか。（○は1つ） <回答者数：1,379>

1. 男性 (44.2%)	2. 女性 (54.0%)	3. その他 (0.1%)	無回答 (1.7%)
---------------	---------------	---------------	------------

（全員の方に）

（2） あなたの年齢は、次のどれにあてはまりますか。（○は1つ） <回答者数：1,379>

1. 20歳代 (11.8%)	2. 30歳代 (19.4%)	3. 40歳代 (18.1%)	4. 50歳代 (14.1%)
5. 60~64歳 (5.4%)	6. 65~69歳 (8.0%)	7. 70~74歳 (8.0%)	8. 75~79歳 (6.0%)
9. 80~84歳 (4.2%)	10. 85~89歳 (2.8%)	11. 90歳以上 (0.5%)	無回答 (1.6%)

（全員の方に）

（3） あなたのご職業は、次のどれにあてはまりますか。  
（○は1つ。複数ある方は、主なもの1つに○） <回答者数：1,379>

1. 正規の職員・従業員 (40.2%)	2. 労働者派遣事業所の派遣社員 (2.0%)
3. パート・アルバイト・契約社員・嘱託 (14.8%)	4. 自営業主・家族従事者 (8.6%)
5. 学生 (0.9%)	6. 家事専業 (12.8%)
7. 無職 (16.2%)	8. その他 (2.5%)
	無回答 (2.1%)

（全員の方に）

（4） あなたの世帯構成は、次のどれにあたりますか。（○は1つ） <回答者数：1,379>

1. 単身世帯（一人暮らし） (30.9%)	2. 夫婦のみ世帯 (23.4%)
3. 2世代世帯（親と子） (36.8%)	4. 3世代世帯（親と子と孫） (3.6%)
5. その他の世帯 (3.7%)	無回答 (1.7%)



(4) で、「3. 2世代世帯(親と子)」「4. 3世代世帯(親と子と孫)」「5. その他の世帯」に○をつけた方に)

(5) あなたの世帯に18歳未満の子どもはいますか。(○は1つ) <回答者数: 607>

1. はい (43.0%)	2. いいえ (56.5%)	無回答 (0.5%)
---------------	----------------	------------

(全員の方に)

(6) あなたは日常的に家族の介護をしていますか。(○は1つ) <回答者数: 1,379>

1. はい (5.1%)	2. いいえ (90.3%)	無回答 (4.6%)
--------------	----------------	------------

(全員の方に)

(7) お住まいは、次のどれにあたりますか。(○は1つ) <回答者数: 1,379>

1. 持ち家(一戸建て) (36.4%)	
2. 持ち家(分譲マンション等の集合住宅) (18.3%)	
3. 公営の賃貸住宅(都営・区営住宅、公社等) (3.6%)	
4. 民営の賃貸住宅 (34.4%)	
5. 社宅、社員寮、公務員住宅 (3.1%)	
6. その他 (2.4%)	無回答 (1.7%)

(全員の方に)

(8) あなたは中野区にお住まいになられて何年になりますか。(○は1つ)  
<回答者数: 1,379>

1. 1年未満 (7.0%)	2. 1年以上5年未満 (18.9%)
3. 5年以上10年未満 (14.2%)	4. 10年以上20年未満 (14.4%)
5. 20年以上 (44.0%)	無回答 (1.6%)

(全員の方に)

(9) あなたがお住まいの地域はどこですか。(○は1つ) <回答者数: 1,379>

1. 南台 (4.0%)	2. 弥生町 (6.7%)	3. 本町 (9.8%)	4. 中央 (7.8%)
5. 東中野 (7.3%)	6. 中野 (9.6%)	7. 上高田 (5.9%)	8. 新井 (5.9%)
9. 沼袋 (3.0%)	10. 松が丘 (2.4%)	11. 江原町 (1.9%)	12. 江古田 (4.7%)
13. 丸山 (0.8%)	14. 野方 (5.7%)	15. 大和町 (4.0%)	16. 若宮 (4.4%)
17. 白鷺 (4.3%)	18. 鷺宮 (5.0%)	19. 上鷺宮 (4.9%)	無回答 (1.9%)

《地域活動についておたずねします》

(全員の方に)

問1 あなたは、どのような内容の地域の活動に参加していますか。

(あてはまるものすべてに○)

<回答者数：1,379>

- |                        |                    |
|------------------------|--------------------|
| 1. 町内会・自治会の活動 (11.2%)  | 2. ボランティア活動 (3.5%) |
| 3. スポーツ関係の活動 (5.0%)    | 4. 趣味関係の活動 (3.8%)  |
| 5. 学習・教養サークルの活動 (1.7%) | 6. その他 (1.5%)      |
| 7. 参加していない (79.3%)     | 無回答 (1.1%)         |

(全員の方に)

問2 あなたのご近所とのつきあいはどのようなものですか。(○は1つ)

<回答者数：1,379>

- |   |
|---|
| 1. 困っているときお互いに相談したり助け合ったりする等、親しくおつきあいしている (11.2%) |
| 2. 町会、自治会や隣近所の行事の時だけつきあう (5.4%)                   |
| 3. たまに世間話する程度 (21.5%)                             |
| 4. 顔を合わせたときに会釈する程度 (40.0%)                        |
| 5. つきあいがほとんどない (21.6%)                            |
| 無回答 (0.3%)  |

(全員の方に)

問3 あなたは、地域で生活していくうえで近隣同士の見守り・支えあい活動が必要だと思いますか。(○は1つ)

<回答者数：1,379>

- |                   |                    |                  |
|-------------------|--------------------|------------------|
| 1. 必要だと思う (68.7%) | 2. 必要だと思わない (9.4%) | 3. わからない (21.7%) |
| 無回答 (0.3%)        |                    |                  |

(問3で「1. 必要だと思う」に○をつけた方に)

問3-1 あなたは、どのような見守り・支えあい活動が必要だと思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

<回答者数：947>

- |   |
|---|
| 1. 日常的な声かけ (65.0%)                        |
| 2. 生活の様子気配り (ポストに新聞や手紙がたまっていないか等) (44.6%) |
| 3. 異変を感じた時の区役所等への連絡 (50.1%)               |
| 4. ちょっとしたお手伝い (ごみ捨て等) (31.0%)             |
| 5. わからない (3.0%)                           |
| 無回答 (0.0%)                                |

(問3で「1. 必要だと思う」に○をつけた方に)

問4 あなたは、見守り・支えあい活動をしていますか。(○は1つ) <回答者数：947>

- |                                     |            |
|-------------------------------------|------------|
| 1. 継続的に活動している (10.3%)               |            |
| 2. 活動したことがある (19.9%)                |            |
| 3. 活動していないが、これから活動してみたい (48.4%)     |            |
| 4. 活動していないし、これからも活動したいと思わない (19.6%) | 無回答 (1.8%) |

(問4で「3. 活動していないが、これから活動してみたい」に○をつけた方に)

問4-1 活動をしていない理由はなんですか。(○は1つ) <回答者数：458>

- |                                  |            |
|----------------------------------|------------|
| 1. 忙しくて時間的に余裕がない、時間があわない (46.3%) |            |
| 2. 活動に参加するきっかけがわからない (26.2%)     |            |
| 3. 具体的な活動内容がわからない (20.5%)        |            |
| 4. その他 (6.1%)                    | 無回答 (0.9%) |

(問4-1で「2. 活動に参加するきっかけがわからない」「3. 具体的な活動内容がわからない」に○をつけた方に)

問4-2 どのようなきっかけや情報があれば活動に参加しようと思いますか。  
(あてはまるものすべてに○) <回答者数：214>

- |                                   |            |
|-----------------------------------|------------|
| 1. 見守り・支えあい活動に関する講座等への参加 (31.3%)  |            |
| 2. 活動内容を紹介する情報誌やホームページの閲覧 (64.0%) |            |
| 3. 活動団体のボランティア募集 (30.8%)          |            |
| 4. その他 (8.4%)                     | 無回答 (4.7%) |

(全員の方に)

問5 あなたは、地域の子どもに対する見守り・支えあい活動をしていますか。  
(あてはまるものすべてに○) <回答者数：1,379>

- |   |            |
|---|------------|
| 1. 困っているときに、相談にのったり、子どもを預かったりする等している (2.2%) |            |
| 2. 子どもを対象とした地域の活動にスタッフとして参加している (2.9%)      |            |
| 3. 通学中の子どもに声かけをしている (5.1%)                  |            |
| 4. あいさつをしている (19.9%)                        |            |
| 5. その他 (3.6%)                               |            |
| 6. 特に何もしていない (74.0%)                        | 無回答 (0.9%) |

(全員の方に)

問6 地域には、住民同士の交流の場がありますか。(○は1つ) <回答者数: 1,379>

- |                       |                       |            |
|-----------------------|-----------------------|------------|
| 1. ある (15.5%)         | 2. どちらかといえばある (16.7%) |            |
| 3. どちらかといえばない (21.3%) | 4. ない (44.4%)         | 無回答 (2.1%) |

(全員の方に)

問7 あなたは、最近1年間に、街で困っている人の手助けをしたことがありますか。

(○は1つ)

<回答者数: 1,379>

- |               |               |            |
|---------------|---------------|------------|
| 1. ある (45.0%) | 2. ない (54.0%) | 無回答 (0.9%) |
|---------------|---------------|------------|

(問7で「1. ある」に○をつけた方に)

問7-1 あなたが手助けをしたのはどのような人ですか。(あてはまるものすべてに○)

<回答者数: 621>

- |                     |                   |            |
|---------------------|-------------------|------------|
| 1. 高齢者 (71.0%)      | 2. 障害のある人 (23.0%) |            |
| 3. 乳幼児を連れた人 (26.2%) | 4. その他 (15.0%)    | 無回答 (5.0%) |

問7-2 あなたが行った手助けは、どのようなものですか。(あてはまるものすべてに○)

<回答者数: 621>

- |                                   |            |
|-----------------------------------|------------|
| 1. 荷物を持った (16.7%)                 |            |
| 2. 横断歩道や歩道橋等で誘導した (13.7%)         |            |
| 3. 階段の昇り降りの時に手を貸した (14.2%)        |            |
| 4. 車いすを押したり、持ち上げたりするのを手伝った (9.8%) |            |
| 5. 乗り物等で席を譲った (49.3%)             |            |
| 6. 道を教えた (49.8%)                  |            |
| 7. ドアを開けた (30.8%)                 |            |
| 8. 家族等に連絡をした (4.0%)               |            |
| 9. その他 (14.5%)                    | 無回答 (0.6%) |

(全員の方に)

問8 障害のある人となない人が共に地域社会で暮らしていくために、行政の施策としてどのようなことが重要だと思いますか。特に重要だと思うことを3つまでお選びください。

(○は3つまで)

&lt;回答者数 : 1,379&gt;

- |   |            |
|---|------------|
| 1. 障害のある人への理解を深めるための啓発・広報活動 (24.1%)         |            |
| 2. ボランティア活動の育成・支援 (13.5%)                   |            |
| 3. 障害のある子どもの相談・支援体制や学校教育の充実 (23.6%)         |            |
| 4. 職業訓練の充実、就労の機会の確保 (25.3%)                 |            |
| 5. 保健医療サービス・リハビリテーションの充実 (18.3%)            |            |
| 6. 年金や手当の充実 (20.2%)                         |            |
| 7. 相談員やホームヘルパー等の在宅サービスの充実 (22.6%)           |            |
| 8. 福祉機器や情報機器の開発・普及 (5.9%)                   |            |
| 9. 障害のある人に配慮した公共建築物や公共住宅、交通機関の改善・整備 (34.5%) |            |
| 10. 点字や手話、字幕放送等による情報提供の充実 (5.9%)            |            |
| 11. 民間住宅のバリアフリー化の普及促進 (10.1%)               |            |
| 12. スポーツや文化活動・交流活動の推進 (6.6%)                |            |
| 13. グループホーム等居住の場の整備、入居支援 (12.1%)            |            |
| 14. 災害時の救出・救護体制の整備 (26.8%)                  |            |
| 15. その他 (2.5%)                              |            |
| 16. 特にない (1.7%)                             |            |
| 17. わからない (5.4%)                            | 無回答 (1.8%) |

(全員の方に)

問9 身近な相談相手として、民生委員（児童委員も兼ねます）が地域で活動していることをご存じですか。(○は1つ)

&lt;回答者数 : 1,379&gt;

- |                                     |            |
|-------------------------------------|------------|
| 1. 活動内容を知っている (19.3%)               |            |
| 2. 活動内容は知らないが、委員がいることは知っている (46.7%) |            |
| 3. 知らない (32.9%)                     | 無回答 (1.1%) |

(60歳以上の方に)

問10 高齢者会館を利用したことがありますか。(○は1つ) <回答者数：482>

- |                      |                        |
|----------------------|------------------------|
| 1. よく利用している (4.6%)   | 2. ときどき利用している (7.1%)   |
| 3. あまり利用していない (6.6%) | 4. 全く利用したことがない (80.5%) |
| 無回答 (1.2%)           |                        |

(問10で「3. あまり利用していない」「4. 全く利用したことがない」に○をつけた方に)

問10-1 利用していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○) <回答者数：420>

- |                            |                        |
|----------------------------|------------------------|
| 1. 知らなかったから (20.5%)        | 2. 行く必要を感じないから (52.1%) |
| 3. 行く時間がないから (10.2%)       | 4. 遠いから (2.4%)         |
| 5. 参加したい催しや活動がないから (12.1%) | 6. 知り合いがないから (13.3%)   |
| 7. その他 (5.2%)              | 無回答 (10.0%)            |

《医療・健康についておたずねします》

(全員の方に)

問11 あなたは、現在の健康状態をどのように感じていますか。(○は1つ)

<回答者数：1,379>

- |                         |                          |
|-------------------------|--------------------------|
| 1. 健康である (43.1%)        | 2. どちらかといえば健康である (42.6%) |
| 3. どちらかといえば健康でない (8.7%) | 4. 健康でない (4.3%)          |
| 無回答 (1.2%)              |                          |

(全員の方に)

問12 1回30分以上の連続した運動や身体活動を週1~2回以上行っていますか。

(○は1つ)

<回答者数：1,379>

- |                                |                      |
|--------------------------------|----------------------|
| 1. 継続的に行っている (29.8%)           | 2. ときどき行っている (26.9%) |
| 3. 以前は行っていたが、現在は行っていない (17.8%) | 4. 全く行っていない (24.0%)  |
| 無回答 (1.5%)                     |                      |

(問12で「1. 継続的に行っている」「2. ときどき行っている」に○をつけた方に)

問12-1 あなたは、運動・スポーツを1年以上続けていますか。(○は1つ)

<回答者数: 782>

1. 1年以上 (67.8%)	2. 1年未満 (27.0%)	無回答 (5.2%)
-----------------	-----------------	------------

問12-2 あなたは、運動・スポーツをどこで行っていますか。(あてはまるものすべてに○)

<回答者数: 782>

1. 公園 (24.2%)	2. 遊歩道 (31.2%)
3. 区有施設 (体育館、グラウンド、スポーツ・コミュニティプラザ) (15.1%)	
4. 高齢者施設 (高齢者会館等) (3.3%)	5. 民間スポーツクラブ (22.3%)
6. 屋外で自転車利用 (16.9%)	7. その他 (28.0%)
	無回答 (3.8%)

(問12で「3. 以前は行っていたが、現在は行っていない」「4. 全く行っていない」に○をつけた方に)

問12-3 運動・スポーツを行っていない理由として最もあてはまるものをお選びください。(○は1つ)

<回答者数: 577>

1. 時間がないから (24.3%)	2. 機会がないから (14.0%)
3. 施設や場所の利用時間帯が合わないから (2.3%)	4. 施設や場所が近くにないから (4.2%)
5. お金がかかるから (6.2%)	6. 体力的に難しいから (9.2%)
7. 運動することが好きではないから (9.7%)	8. 一緒に運動する人がいないから (1.4%)
9. 指導してくれる人がいないから (0.3%)	10. 運動する必要を感じないから (4.0%)
11. その他 (16.3%)	無回答 (8.1%)

(全員の方に)

問13 この1年間に、プロ・アマチュアスポーツを問わず、スタジアム・体育館・沿道などで実際にスポーツを観戦したことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

<回答者数: 1,379>

1. 野球 (18.9%)	2. サッカー、フットサル (8.4%)
3. バスケットボール (2.5%)	4. バレーボール (2.4%)
5. 卓球 (1.8%)	6. テニス (2.6%)
7. バドミントン (0.7%)	8. ラグビー (4.7%)
9. 陸上競技 (1.1%)	10. マラソン、駅伝 (3.8%)
11. 水泳 (1.2%)	12. 柔道、剣道、空手 (1.2%)
13. ボクシング、レスリング、その他格闘技 (2.2%)	14. その他 (3.3%)
15. 観戦しなかった (59.7%)	無回答 (5.2%)

(全員の方に)

問 14 あなたは、区のスポーツ施策や区立のスポーツ施設について、何か望むことはありますか。(あてはまるものすべてに○) <回答者数：1,379>

- |  |            |
|--|------------|
| 1. 初心者向けのスポーツ教室やスポーツ行事の充実 (22.8%)                    |            |
| 2. 障害のある人が参加しやすいスポーツ教室やスポーツ行事の充実 (9.2%)              |            |
| 3. 高齢者が参加しやすいスポーツ教室やスポーツ行事の充実 (23.2%)                |            |
| 4. 子育て世代が参加しやすいスポーツ教室やスポーツ行事の充実 (16.3%)              |            |
| 5. 働き盛りの世代が参加しやすいスポーツ教室やスポーツ行事の充実 (17.7%)            |            |
| 6. 民間企業等と連携したスポーツ教室やスポーツ行事の充実 (11.5%)                |            |
| 7. 体力測定等の健康指導 (18.9%)                                |            |
| 8. 地域のスポーツ団体、クラブへの支援 (6.1%)                          |            |
| 9. 指導者の育成・支援 (4.1%)                                  |            |
| 10. スポーツボランティアの育成・支援 (4.4%)                          |            |
| 11. 利用手続きの簡素化や利用時間の拡大(早朝、夜間等)などスポーツ施設の利便性の向上 (29.8%) |            |
| 12. スポーツに関する広報の充実 (8.8%)                             |            |
| 13. 新規スポーツ施設の整備 (13.5%)                              |            |
| 14. 既存スポーツ施設のメンテナンス・リニューアル (13.9%)                   |            |
| 15. 高齢者や障害のある人に配慮した施設・設備の整備 (14.2%)                  |            |
| 16. その他 (4.7%)                                       |            |
| 17. 特にない (22.8%)                                     | 無回答 (3.2%) |

(全員の方に)

問 15 東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を通じて、あなたはどのような効果を期待しますか。(あてはまるものすべてに○) <回答者数：1,379>

- |                                      |            |
|--------------------------------------|------------|
| 1. スポーツ実施者の増加(障害者スポーツを含む) (26.3%)    |            |
| 2. 障害者への理解の向上 (24.4%)                |            |
| 3. 児童・生徒への好影響 (29.4%)                |            |
| 4. 来訪者の増加による地域活性化 (20.5%)            |            |
| 5. バリアフリー化など全ての人に優しいまちづくりの促進 (36.5%) |            |
| 6. 国際交流の推進 (34.2%)                   |            |
| 7. その他 (3.1%)                        |            |
| 8. 特にない (20.4%)                      | 無回答 (2.8%) |



(全員の方に)

問 16 パラリンピックや障害者スポーツ（ユニバーサルスポーツ）を理解し広めるために、区はどのようなことを重点的に行えば良いと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

&lt;回答者数：1,379&gt;

- |   |            |
|---|------------|
| 1. パラリンピック競技種目等の障害者スポーツ体験イベントの実施 (52.0%)      |            |
| 2. パラリンピアンなど、障害者スポーツのアスリート等による講演会等の実施 (24.2%) |            |
| 3. 障害者スポーツに関する展示会等の実施 (10.3%)                 |            |
| 4. 区報やホームページ等に障害者スポーツを紹介するなどの普及・宣伝活動 (43.7%)  |            |
| 5. その他 (7.4%)                                 | 無回答 (8.9%) |

(全員の方に)

問 17 スポーツ・ボランティア活動として関心のある内容はありますか。

(あてはまるものすべてに○)

&lt;回答者数：1,379&gt;

- |   |            |
|---|------------|
| 1. 区内スポーツイベント等の専門ボランティア（審判、通訳、救護など） (7.2%)  |            |
| 2. 区内スポーツイベント等の一般ボランティア（案内、受付、運搬など） (19.0%) |            |
| 3. イベント当日以外のボランティア（広報、データ処理など） (7.6%)       |            |
| 4. 区内スポーツ活動の指導者やコーチ (5.1%)                  |            |
| 5. 区内のスポーツ選手を応援などで支えるボランティア (12.9%)         |            |
| 6. その他 (1.4%)                               |            |
| 7. 特にない (58.7%)                             | 無回答 (5.1%) |

(全員の方に)

問 18 日ごろ、あなたが食べ物や食生活に関して心がけていることや、関心があることは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

&lt;回答者数：1,379&gt;

- |                                   |            |
|-----------------------------------|------------|
| 1. 朝食を毎朝欠かさず食べる (58.2%)           |            |
| 2. 家族そろって食事をする (24.5%)            |            |
| 3. 栄養バランスや規則正しい食生活を心がけている (58.8%) |            |
| 4. 国産品や地場産品の購入に努めている (32.3%)      |            |
| 5. 食べ残しや食材の廃棄を減らすようにしている (56.6%)  |            |
| 6. 食の安全性を重視している (41.2%)           |            |
| 7. 手軽さ・利便性や値段の安さを重視している (28.6%)   |            |
| 8. 間食をしないようにしている (18.6%)          |            |
| 9. その他 (2.8%)                     |            |
| 10. 特にない (4.2%)                   | 無回答 (1.5%) |

(全員の方に)

問 19 生活習慣病の予防や改善のために、あなたは、普段から適正体重の維持や減塩などに気をつけた食生活を実践していますか。(○は1つ) <回答者数 : 1,379>

- |                            |                          |
|----------------------------|--------------------------|
| 1. いつも気をつけて実践している (16.5%)  | 2. 気をつけて実践している (49.3%)   |
| 3. あまり気をつけて実践していない (27.2%) | 4. 全く気をつけて実践していない (4.9%) |
| 5. わからない (1.3%)            | 無回答 (0.7%)               |

(全員の方に)

問 20 あなたは、健康診断を受けていますか。(○は1つ) <回答者数 : 1,379>

- |                       |                      |
|-----------------------|----------------------|
| 1. 毎年受けている (71.8%)    | 2. ときどき受けている (13.7%) |
| 3. ほとんど受けていない (13.8%) | 無回答 (0.7%)           |

(問 20 で「1. 毎年受けている」「2. ときどき受けている」に○をつけた方に)

問 20-1 あなたは、健康診断をどこで受けていますか。(あてはまるものすべてに○) <回答者数 : 1,179>

- |                           |                       |
|---------------------------|-----------------------|
| 1. 職場や健康保険組合の健康診断 (59.7%) | 2. 区が実施する健康診断 (28.8%) |
| 3. 通学先で実施する健康診断 (1.4%)    | 4. 人間ドック (11.1%)      |
| 5. その他 (3.6%)             | 無回答 (4.7%)            |

問 20-2 健康診断の結果をどのように活用しましたか。(あてはまるものすべてに○) <回答者数 : 1,179>

- |                                    |            |
|------------------------------------|------------|
| 1. 前回の結果と比較して健康状態を確かめた (72.3%)     |            |
| 2. 食事や運動等の生活習慣を見直した (24.3%)        |            |
| 3. 特定保健指導※を受けた (4.2%)              |            |
| 4. 医療機関に行って医師に相談した (20.0%)         |            |
| 5. すこやか福祉センターで病気や栄養について相談した (0.2%) |            |
| 6. 家族や友人に結果を見せて相談した (9.8%)         |            |
| 7. 気になることがなかったので何もしなかった (18.3%)    |            |
| 8. 気になることがあったが何もしなかった (4.2%)       |            |
| 9. その他 (1.4%)                      | 無回答 (2.0%) |

※特定保健指導…メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)の早期発見を目的とした健康診査(特定健診)の結果、メタボリックシンドローム、あるいはその予備群とされた人に対して医療保険者が行う保健指導のことです。

(問 20 で「3. ほとんど受けていない」に○をつけた方に)

問 20-3 あなたが、健康診断を受けなかった理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)  
 <回答者数 : 190>

- |                                 |                          |
|---------------------------------|--------------------------|
| 1. 時間がないから (21.6%)              | 2. 費用がかかるから (30.5%)      |
| 3. 面倒だから (21.1%)                | 4. 病気治療を継続しているから (16.3%) |
| 5. 健康診断を行っていることを知らなかったから (5.8%) |                          |
| 6. 健康診断を信用していないから (3.7%)        |                          |
| 7. 悪い結果が出ると不安になるから (12.6%)      |                          |
| 8. 健康なので必要性を感じないから (16.8%)      |                          |
| 9. その他 (14.7%)                  | 無回答 (1.1%)               |

(全員の方に)

問 21 あなたは、自宅の近くで診察や健康相談をするかかりつけの診療所 (医院・クリニック) を決めていますか。(○は1つ)  
 <回答者数 : 1,379>

- |                  |                      |                   |
|------------------|----------------------|-------------------|
| 1. 決めている (40.9%) | 2. だいたい決めている (23.5%) | 3. 決めていない (34.4%) |
| 無回答 (1.2%)       |                      |                   |

(問 21 で「1. 決めている」「2. だいたい決めている」に○をつけた方に)

問 21-1 あなたは、かかりつけの診療所 (医院・クリニック) で、普段から本人や家族等の日常生活を含めた健康についてのアドバイスを受けていますか。(○は1つ)  
 <回答者数 : 888>

- |                  |                   |            |
|------------------|-------------------|------------|
| 1. 受けている (50.8%) | 2. 受けていない (48.8%) | 無回答 (0.5%) |
|------------------|-------------------|------------|

(全員の方に)

問 22 あなたは、この1年間、歯科健診を受けましたか。(○は1つ) <回答者数 : 1,379>

1. 受けた (56.8%)      2. 受けていない (41.3%)      無回答 (1.9%)

(問 22 で「1. 受けた」に○をつけた方に)

問 22-1 あなたは、歯科健診をどこで受けていますか (あてはまるものすべてに○)  
<回答者数 : 783>

1. 職場の歯科健診 (4.3%)      2. 区が実施する歯科健診 (6.3%)  
3. 通学先で実施する健康診断 (0.0%)      4. かかりつけの歯科医 (88.9%)  
5. その他 (2.9%)      無回答 (0.0%)

(問 22 で「2. 受けていない」に○をつけた方に)

問 22-2 あなたが、歯科健診を受診しなかった理由は何ですか (あてはまるものすべてに○)  
<回答者数 : 570>

1. 時間がないから (30.0%)      2. 費用がかかるから (17.0%)  
3. 面倒だから (24.4%)      4. かかりつけの歯科医で治療中だから (9.8%)  
5. 歯科健診を行っていることを知らなかったから (15.3%)  
6. 歯科健診を信用していないから (1.6%)      7. 悪い結果が出ると不安になるから (3.7%)  
8. 必要性を感じないから (20.7%)  
9. その他 (9.8%)      無回答 (2.6%)

(全員の方に)

問 23 あなたは、自宅の近くで診察や健康相談をするかかりつけの歯科診療所を決めていますか。  
(○は1つ) <回答者数 : 1,379>

1. 決めている (45.8%)      2. だいたい決めている (15.9%)      3. 決めていない (35.8%)      無回答 (2.5%)

(問 23 で「1. 決めている」「2. だいたい決めている」に○をつけた方に)

問 23-1 あなたが、かかりつけの歯科診療所で受診している内容は何ですか。  
(あてはまるものすべてに○) <回答者数 : 851>

1. 定期健診 (56.8%)      2. 歯石除去・歯面清掃 (73.0%)  
3. 歯磨き指導 (14.7%)      4. その他 (12.5%)      無回答 (1.6%)

(全員の方に)

問 24 あなたは、自宅の近くで調剤をお願いしたり薬に関する相談をするかかりつけの薬局を決めていますか。(○は1つ) <回答者数：1,379>

- |                   |                      |            |
|-------------------|----------------------|------------|
| 1. 決めている (30.5%)  | 2. だいたい決めている (24.2%) |            |
| 3. 決めていない (40.8%) | 4. その他 (院内処方) (2.4%) | 無回答 (2.0%) |

(全員の方に)

問 25 あなたは、自宅のある地域で救急患者が出た場合に、病状に応じた適切な医療を受けられる環境が整っていると思いますか。(○は1つ) <回答者数：1,379>

- |                     |                       |                        |
|---------------------|-----------------------|------------------------|
| 1. 整っていると思う (19.4%) | 2. ほぼ整っていると思う (55.1%) | 3. 整っているとは思わない (20.6%) |
|                     |                       | 無回答 (4.9%)             |

(全員の方に)

問 26 介護や病気で療養が必要になっても、医療、介護サービスや地域の見守り等を受けながら、身近な地域で暮らし続けられる環境が整っていると思いますか。(○は1つ) <回答者数：1,379>

- |                    |                       |                        |
|--------------------|-----------------------|------------------------|
| 1. 整っていると思う (7.5%) | 2. ほぼ整っていると思う (45.3%) | 3. 整っているとは思わない (40.2%) |
|                    |                       | 無回答 (7.0%)             |

(全員の方に)

問 27 脳卒中の後遺症やがん等で長期の療養が必要となった場合、あなたはこういった生活をお考えですか。(○は1つ) <回答者数：1,379>

- |                             |                             |
|-----------------------------|-----------------------------|
| 1. 可能な限り自宅や実家で過ごしたい (32.7%) | 2. 医療機関や施設に入院・入所したい (41.4%) |
| 3. わからない (22.4%)            | 4. その他 (1.3%) 無回答 (2.2%)    |

(問 27 で「2. 医療機関や施設に入院・入所したい」に○をつけた方に)

問 27-1 あなたが医療機関や施設に入院・入所したいとお考えの理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○) <回答者数：571>

- |  |                          |
|--|--------------------------|
| 1. 医療機関や施設のほうが安心だから (62.5%)                          | 2. 家族に負担をかけるから (70.9%)   |
| 3. 看護・介護してくれる家族がいないから (21.7%)                        | 4. 住宅環境が整っていないから (20.7%) |
| 5. 急に病状が変わったときの対応に不安があるから (43.8%)                    |                          |
| 6. 自宅で受けられる医療サービス (往診してくれる医師や訪問看護等) に不安があるから (13.7%) |                          |
| 7. 自宅や実家での療養は、お金がかかるから (7.7%)                        |                          |
| 8. その他 (3.0%)  | 無回答 (0.2%)               |

(全員の方に)

問 28 「摂食・えん下障害」とはどのようなことか知っていますか。(○は1つ)

<回答者数 : 1,379>

- |                  |                               |
|------------------|-------------------------------|
| 1. 知っている (37.5%) | 2. なんとなくはわかるが、よくは知らない (33.4%) |
| 3. 知らない (27.8%)  | 無回答 (1.4%)                    |

(全員の方に)

問 29 「うつ病」は誰でもかかる可能性があります。あなたもしくはあなたの家族がそういう状態になったとき、あなたが抵抗なく相談できると考えるところはどこですか。

(あてはまるものすべてに○)

<回答者数 : 1,379>

- |  |            |
|--|------------|
| 1. かかりつけの診療所 (医院・クリニック) に相談する (36.9%)    |            |
| 2. 精神科等の専門医療機関に相談 (受診) する (61.8%)        |            |
| 3. 公的な相談窓口を利用する (19.4%)                  |            |
| 4. 職場や学校の健康相談窓口を利用する (7.5%)              |            |
| 5. 友人や地域で活動する自主グループ、サークルの仲間に相談する (10.2%) |            |
| 6. 相談することには抵抗を感じるので、相談はためられる (5.1%)      | 無回答 (2.5%) |

(全員の方に)

問 30 自殺対策は、自分自身に関わることだと思いませんか。(○は1つ) <回答者数 : 1,379>

- |                           |                         |
|---------------------------|-------------------------|
| 1. そう思う (14.0%)           | 2. どちらかといえばそう思う (16.8%) |
| 3. どちらかといえばそう思わない (16.4%) | 4. そう思わない (33.9%)       |
| 5. わからない (17.2%)          | 無回答 (1.8%)              |

(全員の方に)

問 31 今後、どのような自殺対策が必要になるとお考えですか。(あてはまるものすべてに○)

<回答者数 : 1,379>

- |                                  |            |
|----------------------------------|------------|
| 1. 自殺の実態を明らかにする調査・分析 (33.8%)     |            |
| 2. 様々な分野におけるゲートキーパーの養成 (23.4%)   |            |
| 3. 地域やコミュニティを通じた見守り・支え合い (25.6%) |            |
| 4. 様々な悩みに対応した相談窓口の設置 (58.8%)     |            |
| 5. 自殺対策に関わる民間団体の支援 (19.3%)       |            |
| 6. 自殺に関する広報・啓発 (14.3%)           |            |
| 7. 子どもの自殺予防 (38.9%)              |            |
| 8. その他 (6.7%)                    | 無回答 (4.1%) |

(全員の方に)

問 32 あなたが、感染症の予防について考えたり、心がけていることは何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

&lt;回答者数 : 1,379&gt;

- |   |            |
|---|------------|
| 1. 感染症の発生や流行についての情報には目を通すようにしている (78.6%)        |            |
| 2. 感染症の流行に備えて、マスクや消毒薬、食糧・日用品等の備蓄を心がけている (60.1%) |            |
| 3. 感染症の流行時には外出を控えようと考えている (75.3%)               |            |
| 4. 感染症の流行時には手洗い・うがいをするよう心がけている (88.0%)          |            |
| 5. 感染症の流行時には咳エチケットを守るよう心がけている (77.1%)           |            |
| 6. その他 (4.4%)                                   |            |
| 7. 特に考えたり、心がけていることはない (1.2%)                    | 無回答 (1.5%) |

(全員の方に)

問 33 加工食品等のパッケージには、エネルギーやたんぱく質量等の表示がされている場合がありますが、それらの加工食品や調理済みの料理を購入する時に、表示されている栄養成分を参考にしていますか。(○は1つ)

&lt;回答者数 : 1,379&gt;

- |   |            |
|---|------------|
| 1. 基本5項目(エネルギー、たんぱく質、脂質、炭水化物、ナトリウム)を参考にしている (26.6%) |            |
| 2. 基本5項目に加え、他の栄養成分も参考にしている (14.2%)                  |            |
| 3. エネルギーのみを参考にしている (15.9%)                          |            |
| 4. ナトリウムのみを参考にしている (2.9%)                           |            |
| 5. 全く参考にしていない (38.4%)                               | 無回答 (2.0%) |

(全員の方に)

問 34 あなたの食中毒に関する認識に最も近いものはどれですか。(○は1つ)

&lt;回答者数 : 1,379&gt;

- |                                    |            |
|------------------------------------|------------|
| 1. 関心があり、食中毒について十分理解している (13.1%)   |            |
| 2. 関心があり、食中毒についてある程度理解している (50.8%) |            |
| 3. 関心はあるが、食中毒についてよくわかっていない (27.1%) |            |
| 4. 食中毒について、特に気にしていない (8.0%)        | 無回答 (1.0%) |

(全員の方に)

問 35 あなたはたばこを吸いますか。(○は1つ)

<回答者数 : 1,379>

- |                                |                      |
|--------------------------------|----------------------|
| 1. 毎日吸っている (12.3%)             | 2. ときどき吸う日がある (2.5%) |
| 3. 以前吸っていたが、1か月以上吸っていない (7.7%) | 4. 吸わない (75.7%)      |
| 無回答 (1.7%)                     |                      |

(問 35 で「1. 毎日吸っている」「2. ときどき吸う日がある」に○をつけた方に)

問 35-1 今後禁煙したいと考えていますか。(○は1つ)

<回答者数 : 205>

- |                        |                       |
|------------------------|-----------------------|
| 1. 禁煙したい (29.8%)       | 2. 吸う本数を減らしたい (26.8%) |
| 3. 現状通り喫煙を続けたい (32.2%) | 4. わからない (10.7%)      |
| 無回答 (0.5%)             |                       |

### 《制度等についておたずねします》

(全員の方に)

問 36 障害のある人への差別をなくし、障害のある人もない人も共に生きる社会をつくることを目指して、平成 28 年 4 月 1 日に「障害者差別解消法」が施行されましたが、あなたはこの法律について知っていますか。(○は1つ)

<回答者数 : 1,379>

- |                     |                    |                 |
|---------------------|--------------------|-----------------|
| 1. 名前は知っている (17.7%) | 2. 内容も知っている (5.4%) | 3. 知らない (74.5%) |
| 無回答 (2.3%)          |                    |                 |

(問 36 で「1. 名前は知っている」「2. 内容も知っている」に○をつけた方に)

問 36-1 あなたは、「障害者差別解消法」について、どのように知りましたか。

(あてはまるものすべてに○)

<回答者数 : 319>

- |                                    |
|------------------------------------|
| 1. 中野区公式ホームページ・区報で見た (20.1%)       |
| 2. インターネット、新聞、テレビなどを通じて知った (63.3%) |
| 3. 講演会、イベントなどで聞いた (5.3%)           |
| 4. 職場で聞いた (20.1%)                  |
| 5. 友人、知人等から聞いた (4.1%)              |
| 6. その他 (7.5%)                      |
| 7. 覚えていない (5.3%)                   |
| 無回答 (0.9%)                         |



(全員の方に)

問 37 障害者差別の解消に向けて、区民などの理解や関心を深めるため、中野区が特に力を入れるべきことは何だと思えますか。(あてはまるものすべてに○) <回答者数 : 1,379>

- |                                |                                  |
|--------------------------------|----------------------------------|
| 1. 中野区公式ホームページ・区報による啓発 (37.2%) | 2. 区民向けの啓発活動 (45.7%)             |
| 3. 企業向けの啓発活動 (30.5%)           | 4. 障害のある人と交流するイベントや行事の開催 (28.8%) |
| 5. その他 (6.2%)                  | 無回答 (7.3%)                       |

(全員の方に)

問 38 あなたはヘルプマークを知っていますか。(○は1つ) <回答者数 : 1,379>

- |                                       |            |
|---------------------------------------|------------|
| 1. ヘルプマークの意味を含めて知っている (51.6%)         |            |
| 2. ヘルプマークがあることは知っているが、意味は知らない (24.1%) |            |
| 3. 知らない (22.0%)                       | 無回答 (2.4%) |

ヘルプマーク



(全員の方に)

問 39 あなたは、介護保険制度を利用できていますか。または、利用していない方は、必要となった時の利用の仕方を知っていますか。(○は1つ) <回答者数 : 1,379>

- |  |            |
|--|------------|
| 1. 介護保険制度を利用している、または利用の仕方を知っている (9.6%) |            |
| 2. 利用の仕方をだいたい知っている (20.3%)             |            |
| 3. 利用の仕方をあまり知らない (31.6%)               |            |
| 4. 利用の仕方を全く知らない (36.4%)                | 無回答 (2.0%) |

(全員の方に)

問 40 あなたは、認知症の症状や対応方法について、どの程度理解していますか。(○は1つ) <回答者数 : 1,379>

- |                                    |            |
|------------------------------------|------------|
| 1. 認知症の症状や基本的な対応方法を知っている (27.3%)   |            |
| 2. 認知症の症状について聞いたことがある (47.0%)      |            |
| 3. 言葉は聞いたことがあるが、わからないことが多い (19.0%) |            |
| 4. 知らない (4.6%)                     | 無回答 (2.1%) |

(全員の方に)

問 41 「成年後見制度」という言葉やしくみについて、どの程度知っていますか。(○は1つ) <回答者数 : 1,379>

- |                                |                                |
|--------------------------------|--------------------------------|
| 1. 知っている (16.0%)               | 2. だいたい知っている (18.7%)           |
| 3. 一部知っているが、わからない内容も多い (25.3%) | 4. ほとんど知らない (38.3%) 無回答 (1.7%) |

---

---

《相談窓口についておたずねします》

---

---

(全員の方に)

問 42 あなたは、次の地域の健康福祉の相談機関について、困っているときに相談できる窓口として、身近に感じますか。

(1) すこやか福祉センター (○は1つ) <回答者数 : 1,379>

1. 身近を感じる (14.4%) 2. 身近を感じない (41.9%) 3. わからない (42.2%) 無回答 (1.5%)

(2) 地域包括支援センター (○は1つ) <回答者数 : 1,379>

1. 身近を感じる (14.4%) 2. 身近を感じない (42.6%) 3. わからない (41.8%) 無回答 (1.2%)

(3) 区民活動センター (○は1つ) <回答者数 : 1,379>

1. 身近を感じる (16.7%) 2. 身近を感じない (41.2%) 3. わからない (40.3%) 無回答 (1.8%)

(全員の方に)

問 43 犯罪被害者やその家族に対する相談窓口があることを知っていますか。(○は1つ)

<回答者数 : 1,379>

1. 知っている (相談窓口の場所も知っている) (4.1%)

2. 知っている (相談窓口の場所は知らない) (36.8%)

3. 知らない (58.2%) 無回答 (0.9%)

---

---

《その他》

---

---

(全員の方に)

問 44 健康福祉行政全体や今回の調査について、ご要望やご意見等ありましたら、ご自由にお書きください。

-----
-----
-----
-----

ご協力ありがとうございました

令和2年度（2020年度）  
健康福祉に関する意識調査  
報告書

発行日／令和2年（2020年）9月

印刷登録番号／2中健福第973号

発行／中野区健康福祉部福祉推進課 健康福祉企画係

〒164-8501

東京都中野区中野 4-8-1

電話 03-3228-5421（直通）

編集分析／株式会社アイアールエス

〒160-0004

東京都新宿区四谷 3-1-3 第1富澤ビル 7F

電話 03-3357-7181（代表）